

Salesforce Summer '15 リリースノート

Salesforce, Summer '15



目次

Salesforce Summer '15 リリースノート	1
リリースノートの使用法	3
機能の影響	10
全般的な機能強化	39
分析	46
モバイル	62
コミュニティ	83
セールス	108
Work.com	125
Data.com	134
サービス	138
Chatter	183
マーケティング	198
Salesforce1 レポート	199
リリース: Sandbox のパフォーマンス、テスト、移行の機能向上	199
カスタマイズ	205
セキュリティと ID	236
開発	250
重要な更新	322
その他の Salesforce 製品	322

Salesforce Summer '15 リリースノート

Summer '15 では、詳細な活動の追跡と調整されたキャンペーンにより、担当者が自身のマーケティング担当者となります。パーソナライズされた動的なメールを Sales Cloud および Service Cloud から簡単に直接プレビューできます。コールセンターでは、適切なケースを適切な時間に適切なエージェントに転送することで、効率的なサービスを提供できます。他にも多くの機能があります。

このセクションの内容:

リリースノートの使用方法

リリースノートでは、Salesforce の新機能や既存の機能の機能強化について簡潔に説明しています。また、設定情報、開始にあたって役に立つ実装のヒント、継続的な成功のためのベストプラクティスも記載されています。

機能が使用可能になる方法と状況

Summer '15 の一部の機能は、リリースの公開直後にすべてのユーザーに影響を与えます。その変更に対して準備ができるようにリリース前にユーザーに通知してください。その他の機能については、ユーザーが新機能を利用する前にシステム管理者による対応が必要です。

Salesforce 全体: 簡単な設定とデータインポート

新しい設定アシスタントにより、ユーザーは従来よりも簡単に Salesforce を操作できます。さらに、Mac から簡単にデータをインポートできるようになりました。また、リリースノートで必要な情報をより簡単に見つけることができるようになりました。

Analytics: データからすばやくより多くの価値を実現

Salesforce Analytics Cloud の Wave では、組織の誰もが直観的なポイント&クリック操作の視覚的インターフェースを使用してデータに関する強力な洞察にすぐにアクセスできます。デスクトップブラウザや iOS モバイルデバイス、さらには最新の Apple Watch™ を使用して、ビジネスを行うために必要な答えをデータから得ることができます。最新の機能と機能強化で、データからすばやく、さらに容易に価値を実現できるようになりました。

モバイル: 外出先で実行できる操作の増加

Salesforce1 アプリケーションについては、Summer '15 で主として、パフォーマンスおよび信頼性の向上により営業担当のモバイル操作を高めることに焦点が当てられています。他にも、ワークフローを合理化するリッチテキストのメモ取りツール(ベータ)や、評価済みリードを取引先責任者に変換して収益のパイプラインを増加させ、プロセスの一環で新しい取引先を作成する機能(今回正式リリース)を備えるなど、ユーザーにとって嬉しい機能拡張が行われています。さらに、ユーザーが外出先で必要な操作を行えるように、Salesforce1 アクションバーのアクションの選択および配置をカスタマイズできるようになりました。Summer '15 の他の変更点として、Google Play から Chatter Mobile アプリケーションが削除され、Mobile Dashboards for iPad のサポートが終了しました。

コミュニティ: 新しいコミュニティ管理オプション、コミュニティケースフィード

Summer '15 では、コミュニティ分析の機能強化、コミュニティ管理ツールの向上、会話を編集する機能、レコードのグループへの関連付け、Chatter に構築された最新のケースフィードを使用したセルフサービステンプレートの開発などが実現しています。

セールス: エンタープライズテリトリ管理、売上予測、その他

商談にテリトリを簡単に割り当て、営業チームに月別および四半期別の総売上額のより明確な表示を提供できます。最新のメールインテグレーション開発について説明します。

Work.com: 拡張目標、その他の感謝およびスキル機能

営業マネージャやチームがより短期間でスキルを習得し、よりよいパフォーマンスを実現するのに役立つ、パフォーマンス向上のための販売管理およびサービス管理のツールです。拡張フィードバックや拡張パフォーマンスサマリーのパイロット機能と一緒に、その他の感謝およびスキル機能が導入されました。また、拡張目標もすべてのユーザに提供されています。

Data.com

新しいプロスペクティングインサイトを使用して、営業チームの主要なビジネスデータを提示します。

Data.com は、Salesforce 内に主要なビジネスデータを提供するソリューションです。取引先責任者、リード、取引先の最新ビジネスデータを取得します。

サービス: サポートする商談の増加、エージェントの生産性の向上

Summer '15 には、適切なケースを適切な時間に適切なエージェントに転送する高度なサービスが含まれています。また、ライブガイダンス用にモバイルアプリケーションにサポートを埋め込んだり、顧客と動的にやりとりするためにプレーンテキスト以外のことも実行できます。拡張ショートカットや一括マクロによりエージェントの生産性が大幅に向上し、複数のエージェントを1つのチャットセッションに参加させることでケースがさらにすばやく解決されます。

Chatter: レポート作成、質問-to-ケース、グループ内のレコード

Summer '15 では、組織の Chatter 活動に関するレポート作成、グループへのレコード追加、Chatter の質問からのケースの作成が可能になりました。ファイル、フィード、およびリストに記載しないグループ機能にもいくつかの改善が加えられました。

マーケティング

Marketing Cloud は、1 対 1 のカスタマージャーニーで優れた顧客体験を提供するプレミアプラットフォームです。あらゆるソースからの顧客利用データを1か所で表示し、ビジネス目標に基づいて一意のカスタマージャーニーを計画および最適化できます。最適なタイミングですべてのチャネルとデバイスにパーソナライズされたコンテンツを配信し、リアルタイムでアプローチを最適化してより優れた結果をもたらすことができるように、ビジネスにおける各インタラクションの影響を評価します。

Salesforce1 レポート: レポート API からのレポートの保存、コピー、削除

レポート REST API の機能強化により、ダッシュボードの削除、レポートの保存、コピー、削除、および新しいレポートプロパティへのアクセスが可能になりました。Apex の機能強化により、他のレポートプロパティを取得および設定できるようになりました。これらの機能強化は、Salesforce1 モバイルアプリケーションのダッシュボードまたはレポートには適用されません。

リリース: Sandbox のパフォーマンス、テスト、移行の機能向上

変更を組織に新しい方法でリリースできるようになりました。

カスタマイズ: クリックとコードによる Salesforce の適合理化

カスタマイズ機能を使用すると、オブジェクト、データ、項目の機能強化、組織の外観のカスタマイズ、ビジネスプロセスの追加、Web サイトの作成、アプリケーションの作成などで組織を拡張できます。しかもすべてポイント & クリックツールやコードを使用して実行できます。カスタマイズ機能には、組織を管理および保護するツールも含まれます。

セキュリティと ID

セキュリティを使用して、データとアプリケーションの両方を保護します。これらの機能では、ユーザ ID やアクセス管理も提供されます。

開発: 独自の Salesforce アプリケーションの作成

Force.com は、組織で役立たせたり、別の組織に再販したりするための新しいアプリケーションおよびインテグレーションの開発に役立ちます。

重要な更新

このリリースに含まれている更新は、パフォーマンス、ロジック、Salesforce の使い勝手を向上するものですが、既存のカスタマイズが正しく機能しなくなる可能性もあります。

その他の Salesforce 製品

リリースノートの使用方法

リリースノートでは、Salesforce の新機能や既存の機能の機能強化について簡潔に説明しています。また、設定情報、開始にあたって役に立つ実装のヒント、継続的な成功のためのベストプラクティスも記載されています。

PDF 版と HTML 版が用意されています。

-  **メモ:** 本番組織で新しい Salesforce リリースが使用可能になるまで、Salesforce ヘルプ、実装ガイド、開発者ガイド、その他のドキュメントへのリリースノート内のリンクは機能しないか、以前の Salesforce リリースのドキュメントにリダイレクトされます。一部の開発者ガイドには、Salesforce リリースの数週間前に参照できるプレビューバージョンがあります。Salesforce Developers で開発者ガイドのプレビューバージョンにアクセスするには、[ドキュメントバージョン] ドロップダウンリストから [プレビュー] を選択します。

その他のリソース

これらのリリースノートの他にも、すばやく概要を把握するためのリソースが用意されています。

- [Release Readiness Community](#)。Salesforce エキスパートのコミュニティに参加しましょう。
- [リリースデモ](#)。このリリースで導入される機能の概要を動画で簡単に確認できます。

既知の問題

これらのリリースノートは、新機能や変更された機能に関するものであり、既知の問題に関するものではありません。既知の問題についての詳細は、Salesforce の「[既知の問題](#)」のサイトを参照してください。

Twitter を使用した更新

Twitter で @salesforcedocs をフォローすると、新しいドキュメントの公開や、既存のドキュメントへの重要な更新について通知を受けることができます。

フィードバックについて

貴社が成功を収めるために、ドキュメントがいかに重要であることを認識しています。そのため、成功要因と失敗要因を把握したいと考えています。

- **フィードバックフォーム:** Salesforce ヘルプ、リリースノート、Salesforce Developers の開発者ガイドのすべてのドキュメントには、フィードバックフォームと賛成/反対投票があります。必要に応じてコメントを追加できます。
- **Twitter:** @salesforcedocs 宛にツイートしてください。

このセクションの内容:

お客様のご要望

IdeaExchange でご要望があった機能を実現しました。

リリースノートの変更

ここには、リリースノートへの変更が記載されています。

お客様のご要望

IdeaExchange でご要望があった機能を実現しました。

IdeaExchange	実現した機能
全般的な機能強化	
Mac のデータローダ	Mac のデータローダ
モバイル	
SFDC への要望: メモにリッチテキストを含めてください	リッチテキストのミーティングメモによる生産性の向上 (ベータ) (部分的に実現)
複数のレコードへのメモと添付ファイルの追加	
Salesforce1 - リードの取引を開始する機能が必要	取引先責任者へのリードの変換 (正式リリース)
Salesforce1 のレコードアクションバーのカスタマイズ	Salesforce1 のアクションバーのアクションのカスタマイズ
コミュニティ	
トピックのマージと削除の許可	コミュニティのトピックのマージ、名前変更、または削除
Chatter おすすめのカスタマイズの許可	カスタムおすすめの作成
Visualforce メールテンプレートでの {!Community_URL} の使用の許可	コミュニティの Visualforce メールテンプレートの差し込み項目
カスタムコミュニティページを参照する {!Community_URL} 差し込み項目	テキストベースのコミュニティメール内の使用リンクと期限切れリンクの正しいリダイレクト

IdeaExchange**実現した機能**

パートナーコミュニティ向けのキャンペーンの参照・更新アクセス

パートナーユーザがキャンペーンを参照、作成、および編集可能

パートナーポータル - レポートオプション

パートナーおよびカスタマーユーザのレポート管理—レポートの作成と編集

営業

SFDC への要望: メモにリッチテキストを含めてください

Notes (ベータ) (部分的に実現)

Work.com

目標の所有権と目標の共有ルール of 転送
グループの目標の作成

拡張目標へのアップグレード (正式リリース)

Work.com の目標: カスタム項目

コーチングレコードでの目標総計値の検索条件オプションの変更

目的のコピー

チーム目標、すべての目標のリスト

Work.com での「すべての目標の参照」

コメント/ToDo ボックスへの WYSIWYG エディタの追加

目標の割り当て

参照のみの目標の共有

優先度順の主要結果の並び替え

Work.com の入力規則を設定するオプション

Work.com の目標をデフォルトで非公開に設定

Work.com 設定での「目標設定」の名前変更

目標のロック解除

Work.com 内の非公開目標のデフォルト設定

Work.com - 総計値項目でのフィード更新の無効化

「すべての更新」および「更新を減らす」による Chatter での目標の絞り込み

Work.com: 目標および総計値のメモ

目標へのグループの追加

目的作成時の代理アクセス

非公開目標の削除

四半期ごとの目標の参照

IdeaExchange**実現した機能**

Work.com の目標フォルダ

新しい目的の作成時にデフォルト表示を設定する機能

目的のラベル付け

タスクバーの [目標] タブの名前変更

HPD 目標のテキストボックス

サービス

[ケース割り当て] チェックボックス - 非表示でも選択済み ケースの割り当てルールの直観的な有効化

メール-to-ケース: HTML メールでの画像の正しい表示 メールフィード項目の HTML 形式およびインライン画像の表示

メールへの返信での署名 (部分的に実現) メールの返信の直後にユーザ署名を追加

Chatter

投稿後に Chatter 投稿を編集する機能 フィードの投稿とコメントの編集

Chatter グループの「情報」ボックスにおける制限文字数の増加 グループ情報項目での 4,000 文字の許容

Chatter 操作の簡略化 - すべてのコミュニティグループに 1 つのダイジェスト 統合ユーザダイジェスト (ベータ) (部分的に実現)

レコードの Chatter フィードをレポート可能に Chatter ダッシュボードパッケージのレコードフィードのレポート

リリース

Sandbox 更新の進行状況 Full Sandbox の Sandbox コピーエンジンの改善 (正式リリース)

Sandbox を更新せずに機能ライセンスを有効化 更新の必要がない、Sandbox に対する本番ライセンスの照合

Force.com のカスタマイズ

任意のロール、任意のプロファイルとしてログイン ログインアクセスポリシーの変更

プロセス条件での ISNEW 数式関数のサポート 数式の値を比較して返す

数式を使用した選択リスト項目の更新のサポート 数式の値を比較して返す

日付項目更新時の相対日付関数のサポート 数式および日付関数を使用した項目の更新

プロセス削除時の 12 時間待機の排除 プロセスの即時削除

セキュリティと ID

IdeaExchange**実現した機能****ログアウト URL の制御**

Salesforce ユーザのログアウトページの選択

Salesforce ログアウトページではなくログアウト URL のカスタマイズ

アウトバウンド HTTPS コールアウト/暗号化要求の TLS 1.2 サポートの追加 高度なネットワークプロトコルのテストと使用

Force.com 開発

VisualForce での apex:mapMarker のアイコンの指定の許可 カスタムマーカーを使用した Visualforce 地図のカスタマイズ

要求で複数のレコードを受け入れる Apex REST サービスの設定 (POST/PUT) 複合リソース - バッチ

REST API を使用した複数のオブジェクトの作成または更新 複合リソース - バッチ
複合リソース - SObject ツリー

カスタムメタデータ型 カスタムメタデータ型を使用したアプリケーションの設定 (正式リリース)

関連トピック:

機能が使用可能になる方法と状況

リリースノートの変更

ここには、リリースノートへの変更が記載されています。

2015 年 5 月 27 日

1 人のユーザまたはコンピュータを共有するすべてのユーザに対する Salesforce for Outlook のインストール
msi インストーラを使用して Salesforce for Outlook v2.8 をインストールするユーザ向けに重要な注記が追加されました。

最初に以前のバージョンの Salesforce for Outlook をアンインストールせずに v2.8 にアップグレードできるユーザに関する詳細な説明が再編成されました。

このリリースでの Salesforce1 の機能強化

Android デバイス用 Salesforce1 ダウンロード可能アプリケーションバージョン 7.2 のリリースの発表 アプリケーションが Google Play からダウンロード可能になりました。

バージョン 7.2 には次の新機能があります。

- Salesforce1 ナビゲーションメニューから一元管理された承認項目と一時停止しているフローインタビューへのアクセス

- URLスキームのサポート、これによりユーザは外部アプリケーションから Salesforce1 アプリケーションの特定のページにアクセス可能
- パフォーマンス向上とバグ修正

Apple Watch での Salesforce1 通知の取得

Apple Watch に表示される Salesforce1 転送通知に関する情報が追加されました。

iOS 7 デバイスでの Salesforce1 のサポート終了

iOS 用 Salesforce1 ダウンロード可能アプリケーションバージョン 7.3 のリリースの発表に対する、Salesforce は iOS 7 デバイスでの Salesforce1 のサポートを終了するという注記が更新されました。Summer '15 リリース完了の直後に、バージョン 7.3 が App Store で入手可能になります。

Salesforce1 での商談への価格表の関連付け

商談レコードで使用可能になった「価格表」項目を使用して価格表を商談に関連付けるためのクイックアクション作成に関する情報が追加されました。

メタデータ API コール: `deploy()`

`RunLocalTests` テストレベルの説明が明確化されました。

フィードの投稿とコメントの編集

システム管理者が権限セットを使用してフィード投稿編集権限をユーザに割り当てる方法に関する情報が追加されました。

メールの返信の直後にユーザ署名を追加

ユーザ署名設定がケースフィードでのみサポートされていることを明確化するために注記が更新されました。

取引先のプロスペクティングインサイト

D&B 企業統計の財務の詳細と支払遅延リスクに関する重要な注記が追加されました。

Lightning App Builder コンポーネントのデザインファイルへの変更

デザインファイルのサポート対象項目と属性への変更に関する情報が追加されました。

Lightning コンポーネントでのカスタム表示ラベルの使用

`$Label` グローバル値プロバイダを使用して Lightning コンポーネントでカスタム表示ラベルを使用します。

2015 年 5 月 20 日

新たに有効化された組織向けの設定アシスタント

2015 年 6 月後半に設定アシスタントがユーザにリリースされることを明確化するために注記が更新されました。

Tooling API

Tooling API のカスタム項目と User に関する情報が追加されました。

`FullName` および `Metadata` 項目のクエリに関する情報が追加されました。

UserProvisioningRequest オブジェクト

`ManagerId` が新規項目として追加されました。

このリリースでの Salesforce1 の機能強化

プラットフォームの暗号化を使用して暗号化されたデータの Salesforce1 サポートが明確化されました。

2015 年 5 月 13 日

新たに有効化された組織向けの設定アシスタント

設定アシスタントのリリースが 2015 年 6 月または 7 月に予定されていることを明確化した注記が追加されました。

マーケティング

Marketing Cloud のセクションが追加されました。

Apex メソッドパラメータの視認性の向上

『Force.com Apex コード開発者ガイド』の書式の変更について説明するリリースノートが追加されました。

Salesforce Console for Service

強調表示パネルでの納入商品およびサービス契約サポートに関するリリースノートが追加されました。

メタデータ型とメタデータ項目

新しい列挙値 `contentWorkspaceEnableFolders` で `actionType` 項目が更新されました。

2015 年 5 月 6 日

プログラムを使用した Flex キュー内の一括処理ジョブの並び替え

ApexFlex キューメソッドは現在使用できないため、これらのメソッドのリリースノートが削除されました。

サポートされるログインフロー種別

フロー種別ごみのログインフローサポートに関するリリースノートが追加されました。

新しいオブジェクト

新しい `ListViewChartInstance` オブジェクトが追加され、リリースノートが更新されました。

スタンドアロン Lightning アプリケーション (正式リリース)

スタンドアロンアプリケーション (.app リソース) の Lightning コンポーネントが正式リリースされました。Lightning コンポーネントと Salesforce1 との統合は、引き続きベータリリースです。

コミュニティの外部ユーザによるソーシャル投稿の参照

コミュニティの外部ユーザに対するソーシャル投稿へのアクセス権付与に関する情報が追加されました。

ソーシャル人格オブジェクトの新規項目

新規作成されたソーシャル人格オブジェクトの新規項目に関する情報が追加されました。

2015 年 4 月 29 日

with sharing キーワードを使用した Apex クラスのアクセス制限

この変更がいつ組織に影響を与えるかについて、より正確で明確になるように具体的な用語を使用してリリースノートが更新されました。

データレジデンシーオプション (DRO) 機能の廃止

データレジデンシーオプションが 2015 年 8 月 15 日に廃止されることを知らせる通知が追加されました。この日付をもって、新規および既存の DRO インストールのサポートは終了します。

リリースで実行するテストの選択

無効化されたトリガのリリースに関する情報が更新されました。

行動オブジェクトの項目名の変更

JunctionIdList に関連する項目の項目名がより直観的に更新されました。

ToDo オブジェクトの項目名の変更

JunctionIdList に関連する項目の項目名がより直観的に更新されました。

機能が使用可能になる方法と状況

Summer '15 の一部の機能は、リリースの公開直後にすべてのユーザに影響を与えます。その変更に対して準備ができるようにリリース前にユーザに通知してください。その他の機能については、ユーザが新機能を利用する前にシステム管理者による対応が必要です。

Summer '15 の変更をご利用のインスタンスでいつから確認できるかを知るための最適な方法は、trust.salesforce.com/trust/maintenance/ にある Salesforce の Trust サイトで、「メジャーリリース予定」セクションを確認することです。

次の一連の表には、Summer '15 の機能とユーザへの影響がまとめられています。ご使用の Salesforce のエディションに関連する機能の詳細を確認してください。

このセクションの内容:

全般的な機能強化が使用可能になる方法と状況

新しい設定アシスタントにより、ユーザは従来よりも簡単に Salesforce を操作できます。さらに、Mac から簡単にデータをインポートできるようになりました。また、リリースノートで必要な情報をより簡単に見つけることができるようになりました。

Analytics Cloud 機能が使用可能になる方法と状況

Salesforce Analytics Cloud の Wave では、組織の誰もが直観的なポイント&クリック操作の視覚的インターフェースを使用してデータに関する強力な洞察にすぐにアクセスできます。デスクトップブラウザやiOSモバイルデバイス、さらには最新の Apple Watch™ を使用して、ビジネスを行うために必要な答えをデータから得ることができます。最新の機能と機能強化で、データからすばやく、さらに容易に価値を実現できるようになりました。

モバイル機能が使用可能になる方法と状況

Salesforce1 アプリケーションについては、Summer '15 で主として、パフォーマンスおよび信頼性の向上により営業担当のモバイル操作を高めることに焦点が当てられています。他にも、ワークフローを合理化するリッチテキストのメモ取りツール(ベータ)や、評価済みリードを取引先責任者に変換して収益のパイプラインを増加させ、プロセスの一環で新しい取引先を作成する機能(今回正式リリース)を備えるなど、ユーザにとって嬉しい機能拡張が行われています。さらに、ユーザが外出先で必要な操作を行えるように、Salesforce1 アクションバーのアクションの選択および配置をカスタマイズできるようになりました。Summer '15 の他の変更点として、Google Play から Chatter Mobile アプリケーションが削除され、Mobile Dashboards for iPad のサポートが終了しました。

コミュニティ機能が使用可能になる方法と状況

Summer '15 では、コミュニティ分析の機能強化、コミュニティ管理ツールの向上、会話を編集する機能、レコードのグループへの関連付け、Chatter に構築された最新のケースフィードを使用したセルフサービステンプレートの開発などが実現しています。

セールス機能が使用可能になる方法と状況

商談にテリトリを簡単に割り当て、営業チームに月別および四半期別の総売上額のより明確な表示を提供できます。最新のメールインテグレーション開発について説明します。

Work.com 機能が使用可能になる方法と状況

営業マネージャやチームがより短期間でスキルを習得し、よりよいパフォーマンスを実現するのに役立つ、パフォーマンス向上のための販売管理およびサービス管理のツールです。拡張フィードバックや拡張パフォーマンスサマリーのパイロット機能と一緒に、その他の感謝およびスキル機能が導入されました。また、拡張目標もすべてのユーザに提供されています。

Data.com の機能が使用可能になる方法と状況

新しいプロスペクティングインサイトを使用して、営業チームの主要なビジネスデータを提示します。

Data.com は、Salesforce 内に主要なビジネスデータを提供するソリューションです。取引先責任者、リード、取引先の最新ビジネスデータを取得します。

サービス機能が使用可能になる方法と状況

Summer'15 には、適切なケースを適切な時間に適切なエージェントに転送する高度なサービスが含まれています。また、ライブガイダンス用にモバイルアプリケーションにサポートを埋め込んだり、顧客と動的にやりとりするためにプレーンテキスト以外のことも実行できます。拡張ショートカットや一括マクロによりエージェントの生産性が大幅に向上し、複数のエージェントを 1 つのチャットセッションに参加させることでケースがさらにすばやく解決されます。

Chatter 機能が使用可能になる方法と状況

Summer'15 では、組織の Chatter 活動に関するレポート作成、グループへのレコード追加、Chatter の質問からのケースの作成が可能になりました。ファイル、フィード、およびリストに記載しないグループ機能にもいくつかの改善が加えられました。

Salesforce1 レポート機能が使用可能になる方法と状況

レポート REST API の機能強化により、ダッシュボードの削除、レポートの保存、コピー、削除、および新しいレポートプロパティへのアクセスが可能になりました。Apex の機能強化により、他のレポートプロパティを取得および設定できるようになりました。これらの機能強化は、Salesforce1 モバイルアプリケーションのダッシュボードまたはレポートには適用されません。

リリース機能が使用可能になる方法と状況

変更を組織に新しい方法でリリースできるようになりました。

カスタマイズ機能が使用可能になる方法と状況

カスタマイズ機能を使用すると、オブジェクト、データ、項目の機能強化、組織の外観のカスタマイズ、ビジネスプロセスの追加、Web サイトの作成、アプリケーションの作成などで組織を拡張できます。しかもすべてポイント & クリックツールやコードを使用して実行できます。カスタマイズ機能には、組織を管理および保護するツールも含まれます。

セキュリティ機能と ID 機能が使用可能になる方法と状況

開発機能が使用可能になる方法と状況

Force.com は、組織で役立たせたり、別の組織に再販したりするための新しいアプリケーションおよびインテグレーションの開発に役立ちます。

重要な更新が使用可能になる方法と状況

このリリースに含まれている更新は、パフォーマンス、ロジック、Salesforce の使い勝手を向上するものですが、既存のカスタマイズが正しく機能しなくなる可能性もあります。

全般的な機能強化が使用可能になる方法と状況

新しい設定アシスタントにより、ユーザは従来よりも簡単に Salesforce を操作できます。さらに、Mac から簡単にデータをインポートできるようになりました。また、リリースノートで必要な情報をより簡単に見つけることができるようになりました。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連絡 して有効化
データインポートウィザードのユーザインターフェースの改善	✓			
Mac のデータローダ		✓		
新たに有効化された組織向けの設定アシスタント (2015 年 6 月後半に使用可能)		✓		

Analytics Cloud 機能が使用可能になる方法と状況

Salesforce Analytics Cloud の Wave では、組織の誰もが直観的なポイント & クリック操作の視覚的インターフェースを使用してデータに関する強力な洞察にすぐにアクセスできます。デスクトップブラウザや iOS モバイルデバイス、さらには最新の Apple Watch™ を使用して、ビジネスを行うために必要な答えをデータから得ることができます。最新の機能と機能強化で、データからすばやく、さらに容易に価値を実現できるようになりました。

 **メモ:** Wave の機能にアクセスするには、組織に Wave でプロビジョニングされている必要があります。Wave には Analytics Cloud Wave Platform ライセンスが必要です。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連絡 して有効化
モバイル分析				
Wave Mobile Connector によるデータの追加 (v1.3)	✓			
ダッシュボードの作成と編集 (v1.3)	✓			
Apple Watch™ のサポート (v1.2)	✓			
Analytics for iOS のその他の機能強化 (v1.2)	✓			
データの統合				
アプリケーションでのデータセットの作成	✓			

機能	ユーザに対する 有効化	システム管理者/ 開発者に対する 有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連絡 して有効化
メタデータのプレビューによる CSV データの正確な読み込み	✓			
不要なデータセットの削除による アプリケーションのクリーンアッ プ	✓			
augment 変換による複数一致のサ ポート強化	✓			
データの探索				
新しい検索条件の演算子を使用し たディメンションの探索	✓			
新しい検索条件の演算子を使用し た基準の探索	✓			
会計期間 (会計年度、会計四半期、 会計年度-四半期) による日付のグ ループ化	✓			
ダッシュボードによるチームとの協働				
レンズおよびダッシュボードのテー ブルとグラフからのリンク	✓			
ページレイアウトへのダッシュボー ドの追加 (正式リリース)	✓			
Wave REST API (パイロット)				
Wave REST API (パイロット): 新機能の 開発				✓
SAQL (パイロット)				
無制限の日付サポートによる SAQL クエリの機能強化 (パイロット)				✓

モバイル機能が使用可能になる方法と状況

Salesforce1 アプリケーションについては、Summer'15 で主として、パフォーマンスおよび信頼性の向上により営業担当のモバイル操作を高めることに焦点が当てられています。他にも、ワークフローを合理化するリッチテキストのメモ取りツール(ベータ)や、評価済みリードを取引先責任者に変換して収益のパイプラインを増加させ、プロセスの一環で新しい取引先を作成する機能(今回正式リリース)を備えるなど、ユーザにとって嬉しい機能拡張が行われています。さらに、ユーザが外出先で必要な操作を行えるように、Salesforce1 アクションバーのアクションの選択および配置をカスタマイズできるようになりました。Summer '15 の他の変更点として、Google Play から Chatter Mobile アプリケーションが削除され、Mobile Dashboards for iPad のサポートが終了しました。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連絡 して有効化
Salesforce1				
Salesforce1 のアクションバーのアクションのカスタマイズ		✓		
Lightning App Builder を使用したカスタムアプリケーションページの作成 (Summer '15 リリース後 24 時間以内にリリース)		✓		
Visualforce カスタムアクションのアクションヘッダーの非表示		✓		
リッチテキストミーティングメモによる生産性の向上 (ベータ)			✓	
Salesforce1 での商談への価格表の関連付け			✓	
取引先責任者へのリードの変換 (正式リリース)			✓	
スワイプ操作によるメモからのToDoの作成 (ベータ)			✓	
未承認申請一覧を 1 か所で表示	✓			
一時停止中のすべてのフローインタビュを 1 か所で表示			✓	
グループへの投稿に関するアプリケーション内通知の受信			✓	
iOS 7 デバイスでの Salesforce1 のサポート終了	✓			
Salesforce1 のその他の変更				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連絡 して有効化
廃止されたパブリッシャーアイコン項目の [Salesforce1 のブランド設定] ページからの削除		✓		
Apple Watch での Salesforce1 通知の取得	✓			
州選択リストと国選択リストへのアクセス			✓	
Lightning Connect を使用した外部データへのアクセス			✓	
長いリストを表示時のスクロールの簡易化およびコンテキストの向上 (タブレットのみ)	✓			
Salesforce1 ダウンロード可能アプリケーションでさまざまな Salesforce URL を直接開く		✓		
通話または記録アクションの名前変更	✓			
[地図] 生産性アクションの Google マップ画像への置き換え			✓	
[ニュースを閲覧] 生産性アクションの [取引先ニュース] への置き換え			✓	
グローバル検索を使用したフィード投稿の情報の検索	✓			
商談のフェーズの変更時の主な項目の自動更新	✓			
拡張目標を使用した目標および総計値の追跡			✓	
記事のファイル項目の表示	✓			
フィードのおすすめ情報を閉じる	✓			
投稿への複数のトピックの追加	✓			
グループメンバーを関連リストから管理	✓			

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連絡 して有効化
グループリストビューで有益な情報に集中	✓			
コミュニティのレコードの承認関連リストからの承認申請の承認または却下			✓	
コミュニティの Chatter グループへのレコードの追加			✓	
異なる場所からのコミュニティフィードのカスタムおすすめ情報の作成			✓	
ページの読み込み中に表示されるビジュアルフィードバックの改善	✓			
[Salesforce1 の設定] ページのオフライン設定リンクの名前変更		✓		
接続アプリケーションの IP 制限の緩和および IP の継続的な適用		✓		
プラットフォームの暗号化を使用したデータ保護要件への準拠 (正式リリース)				✓
Salesforce1 の追加情報				
Salesforce1 モバイルアプリケーションへのアクセス	✓			
Salesforce1 と Salesforce フルサイトとの違い	✓			
Salesforce1 アプリケーション開発の概要		✓		
追加のモバイル情報				
Summer '15 以降の Chatter Mobile for Android のサポートの終了	✓			
Summer '15 以降の Mobile Dashboards for iPad アプリケーションのサポートの終了	✓			

コミュニティ機能が使用可能になる方法と状況

Summer'15では、コミュニティ分析の機能強化、コミュニティ管理ツールの向上、会話を編集する機能、レコードのグループへの関連付け、Chatterに構築された最新のケースフィードを使用したセルフサービステンプレートの開発などが実現しています。

機能	システム管理者/ 開発者に対する 有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
コミュニティ管理			
合理化された[コミュニティ管理]の概要ページ	✓		
より直観的な[コミュニティ管理]のナビゲーション	✓		
カスタムおすすめの作成		✓	
コミュニティのトピックのマージ、名前変更、または削除		✓	
コミュニティの[パスワードの変更]および[パスワードを忘れた場合]ページのカスタマイズ		✓	
[コミュニティ管理]でのデフォルトコミュニティページの上書き		✓	
認証済みユーザの Visualforce エラーページのカスタマイズ		✓	
Community Builder			
Sandbox からのコミュニティの公開	✓		
コミュニティテンプレート			
コミュニティケースフィードでのケースのすべてのやりとりの表示 (正式リリース) (Summer '15 リリース後 24 時間以内にリリース)		✓	
Napili コミュニティでのカスタムおすすめの表示		✓	
Napili テンプレートでの [知識のあるユーザ] の表示		✓	

機能	ユーザに対する 有効化	システム管理者/ 開発者に対する 有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
質問および回答の投稿でのセルフサービスコミュニティからのファイルの選択	✓			
Napili テンプレートへの連絡先情報表示設定の追加		✓		
Napili テンプレートの [ユーザプロフィールの詳細] からのメール通知オプションの削除		✓		
Napili の「コミュニティに質問する」コンポーネントの名前変更およびページの上部への移動	✓			
コミュニティテンプレートのケースリストビューの新しい外観	✓			
Koa および Kokua テンプレートでユーザプロフィールの詳細とケースリストを使用可能		✓		
セルフサービステンプレートでの新しいフィード詳細ページ		✓		
レポート				
パートナーおよびカスタマーユーザのレポート管理 — レポートの作成と編集			✓	
Communities ダッシュボードパッケージに追加された拡張ダッシュボード、レポート、総計値			✓	
コミュニティのその他の変更				
コミュニティメンバーがグループにレコードを追加可能			✓	
コミュニティの投稿およびコメントの編集			✓	
より多くの連絡先項目へのゲストアクセスが可能	✓			
コミュニティユーザを作成するための新しい Apex メソッド		✓		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
コミュニティの Visualforce メールテンプレートの差し込み項目		✓		
テキストベースのコミュニティメール内の使用リンクと期限切れリンクの正しいリダイレクト	✓			
承認申請、ワークフローアラート、およびケースの送信メールにコミュニティへのリンクを挿入		✓		
外部ユーザがレコードの [承認履歴] 関連リストから直接承認または却下可能			✓	
パートナーユーザがキャンペーンを参照、作成、および編集可能			✓	
パートナーおよびカスタマーユーザがアイデアを参照、作成、および編集可能			✓	
改善された SEO を使用して焦点を絞ったコミュニティ検索結果	✓			
コミュニティメールからのシームレスなリダイレクト	✓			
より直観的なケースおよびリードの割り当てルールの有効化			✓	
Site.com Studio でのコミュニティの [パスワードを忘れた場合] カスタムページの指定		✓		
ナレッジ API へのゲストユーザアクセスの有効化		✓		

セールス機能が使用可能になる方法と状況

商談にテリトリーを簡単に割り当て、営業チームに月別および四半期別の総売上額のより明確な表示を提供できます。最新のメールインテグレーション開発について説明します。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
エンタープライズテリトリー管理				
商談へのテリトリーの割り当ての効率化 (正式リリース)			✓	
商談への任意のテリトリーの割り当て		✓		
Chatterを使用したテリトリーモデルに関するコラボレーション			✓	
テリトリーへの割り当てルールの関連付けの効率化		✓		
テリトリーモデルとテリトリーページで使用可能になったボタンとリンク			✓	
外部システムからのテリトリー ID 情報の統合			✓	
コラボレーション売上予測				
累積売上予測積み上げ集計を使用した営業チームへの Outlook の見やすい表示の提供			✓	
Email Connect				
Exchange Sync での終日行動の同期			✓	
Salesforce for Outlook				
1人のユーザまたはコンピュータを共有するすべてのユーザに対するインストール	✓			
ユーザが理解しやすくなった同期の設定	✓			
デフォルトの同期設定の選択およびユーザによる変更の防止			✓	
活動				
行動および ToDo オブジェクトの JunctionIdList 項目		✓		
メモ				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
ユーザがレコードにリッチテキストのメモを追加可能			✓	
Notes の設定			✓	
Notes の使用に関するガイドライン			✓	
重複管理				
カスタムアプリケーションへの重複管理の実装			✓	
組織が Force.com ライセンスで使用可能な重複管理			✓	
Salesforce コンソール				
Salesforce Console for Sales			✓	

Work.com 機能が使用可能になる方法と状況

営業マネージャやチームがより短期間でスキルを習得し、よりよいパフォーマンスを実現するのに役立つ、パフォーマンス向上のための販売管理およびサービス管理のツールです。拡張フィードバックや拡張パフォーマンスサマリーのパイロット機能と一緒に、その他の感謝およびスキル機能が導入されました。また、拡張目標もすべてのユーザに提供されています。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連絡 して有効化
拡張目標へのアップグレード (正式リリース)			✓	
拡張目標の設定			✓	
組織に合わせたフィードバックのカスタマイズ (パイロット)				✓
新しいツールを使用したパフォーマンスサマリーサイクルの管理 (パイロット)				✓
感謝、報奨、スキルのその他の機能のカスタマイズ		✓		
Work.com のその他の変更				

機能	ユーザに対する 有効化	システム管理者/ 開発者に対する 有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連絡 して有効化
感謝バッジを受け取ったユーザの 表示			✓	
感謝バッジ、ユーザのスキル、支 持への Chatter フィードの追加			✓	

Data.com の機能が使用可能になる方法と状況

新しいプロスペクティングインサイトを使用して、営業チームの主要なビジネスデータを提示します。

Data.com は、Salesforce 内に主要なビジネスデータを提供するソリューションです。取引先責任者、リード、取引先の最新ビジネスデータを取得します。

機能	ユーザに対する 有効化	システム管理者/ 開発者に対する 有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連絡 して有効化
取引先のプロスペクティングイン サイト	✓		✓	
Data.com 検索 API による新規項目を 使用したプロスペクティングイン サイトの迅速な取得		✓		

サービス機能が使用可能になる方法と状況

Summer '15 には、適切なケースを適切な時間に適切なエージェントに転送する高度なサービスが含まれています。また、ライブガイダンス用にモバイルアプリケーションにサポートを埋め込んだり、顧客と動的にやりとりするためにプレーンテキスト以外のことも実行できます。拡張ショートカットや一括マクロによりエージェントの生産性が大幅に向上し、複数のエージェントを1つのチャットセッションに参加させることでケースがさらにすばやく解決されます。

機能	ユーザに対する 有効化	システム管理者/ 開発者に対する 有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連絡 して有効化
オムニチャネル				
オムニチャネルによる適格で対応 可能なサポートエージェントへの 作業の転送 (ベータ)			✓	
SOS				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
オムニチャネルによる適格で対応可能なサポートエージェントへの作業の転送 (ベータ)			✓	
ケースフィードでの外部に表示されるフィード項目の強調表示 (ページ 180)			✓	
メールの返信の直後にユーザ署名を追加			✓	
スレッド ID のメール-to-ケース設定の名前変更	✓			
マクロを使用して Salesforce ナレッジをすばやく検索して記事をケースに添付		✓		
マクロを使用したソーシャルネットワークへの投稿		✓		
マクロを使用したケースの項目値の置換		✓		
マクロを使用したケースへの項目値の挿入	✓			
ユーザが元に戻せないマクロを作成および実行する新しいユーザ権限			✓	
マクロの検索の機能強化	✓			
マクロリストに最近使用したマクロを表示	✓			
ケース				
ケースの割り当てルールの直観的な有効化			✓	
ナレッジ				
記事の詳細ページからケースに記事を添付	✓			
ソーシャルカスタマーサービスでの記事へのリンク	✓			

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
ケースの推奨記事の関連性の向上 (正式リリース)	✓			
プラスまたはマイナス評価(ベータ)			✓	
Salesforce ナレッジのその他の変更	✓			
Live Agent				
チャット転送または会議でのワークスペースの転送	✓			
複数のエージェントとチャットで 会議			✓	
迷惑なチャット訪問者の IP アドレ スに基づくブロック			✓	
Live Agent ブラウザのサポートの更 新	✓			
チャット要求がタイムアウトになっ たときにエージェントの状況を自 動的に [退席中] に設定			✓	
顧客が待機中のチャット要求をキャ ンセルできる新規ボタン	✓			
大刷新: Live Agent Edition	✓			
Salesforce コンソール				
コンソールサイドバーへのレポート グラフの追加		✓		
最後に閉じたタブを再開	✓			
主タブの固定	✓			
主タブのブックマーク	✓			
[最新のタブ] コンポーネントの [履 歴] への名称変更	✓			
コンソールインテグレーションツ ールキットの新しい API メソッド		✓		
強調表示パネルでの納入商品およ びサービス契約項目のサポート		✓		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
サービスコミュニティ				
コミュニティケースフィードでの エージェントのオプションの追加 (正式リリース) (Summer '15 リリース 後 24 時間以内にリリース)			✓	
外部ユーザに対するフィードでの ケースメールの表示			✓	
ソーシャルカスタマーサービス				
基本的なビジネスルール		✓		
Twitter ダイレクトメッセージ環境の 改善	✓			
Starter Pack でのケースの作成オプ ション		✓		
追加のソーシャル投稿項目			✓	
Google+ および Sina Weibo での発信 投稿の削除 (パイロット)	✓			
受信投稿エラーの削除		✓		
ソーシャルカスタマーサービスの その他の変更			✓	
納入商品				
納入商品で可能になった大規模共 有			✓	
組織同期				
組織同期でのメタデータのサポー ト (Summer '15 リリース後 24 時間以 内にリリース)			✓	
組織同期の機能強化			✓	
ドキュメント				
コードを使用した Service Cloud の実 装の向上: Service Cloud Cookbook の概 要		✓		

Chatter 機能が使用可能になる方法と状況

Summer '15 では、組織の Chatter 活動に関するレポート作成、グループへのレコード追加、Chatter の質問からのケースの作成が可能になりました。ファイル、フィード、およびリストに記載しないグループ機能にもいくつかの改善が加えられました。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連絡 して有効化
フィード				
フィードの投稿とコメントの編集	✓			
ユーザプロフィールまたは権限セットのフィード投稿編集の有効化			✓	
すべてのユーザに対するフィード投稿編集の無効化		✓		
Chatter ダッシュボードパッケージのレコードフィードのレポート			✓	
ファイル				
ライブラリとの任意のファイルの共有			✓	
Chatter での非公開コンテンツファイルの共有	✓			
コンテンツファイルの同期	✓			
ファイルからフォルダへの同期	✓			
Salesforce Files Sync の管理バージョンの配布				✓
グループとのファイルの共有時の @メンションの追加	✓			
Google ドライブのコンテンツへの接続			✓	
1つの外部データソースに絞り込んだ検索	✓			
外部システムによる認証の合理化	✓			
特定のユーザへの外部データソースの公開			✓	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連絡 して有効化
外部データソースのカスタム項目へのアクセス			✓	
Files Connect 外部オブジェクトでの参照関係のサポート			✓	
最大 10,000 ファイルの同期	✓			
ファイル共有メッセージ項目の制限の 5,000 文字への増加	✓			
コンテンツ配信のデフォルト帯域幅の 24 時間あたり 10 GB への増加	✓			
個人用ライブラリの非公開ライブラリへの名称変更	✓			
パスワード保護されたコンテンツ配信のユーザエクスペリエンスの向上	✓			
グループ				
グループに追加可能なカスタムオブジェクトレコードの管理			✓	
グループ情報項目での 4,000 文字の許容	✓			
リストに記載しないグループでの一意ではない名前の許容	✓			
グループメールの機能強化	✓			
Salesforce1 レイアウトのグループアクションのカスタマイズ			✓	
メール通知				
統合ユーザダイジェスト (ベータ)				✓
その他の Chatter の変更				
プレビューリンクの追加	✓			
プロフィール写真のアップロード時間の改善	✓			
API の機能強化				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連絡 して有効化
ConnectApi (Chatter in Apex)				
SOAP API				

Salesforce1 レポート機能が使用可能になる方法と状況

レポート REST API の機能強化により、ダッシュボードの削除、レポートの保存、コピー、削除、および新しいレポートプロパティへのアクセスが可能になりました。Apex の機能強化により、他のレポートプロパティを取得および設定できるようになりました。これらの機能強化は、Salesforce1 モバイルアプリケーションのダッシュボードまたはレポートには適用されません。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連絡 して有効化
新しいレポート REST API リソース		✓		
Salesforce1 レポート REST API のリクエストボディとレスポンスボディの変更		✓		
新しい Apex メソッド		✓		

リリース機能が使用可能になる方法と状況

変更を組織に新しい方法でリリースできるようになりました。

機能	ユーザに表示	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連絡 して有効化
Full Sandbox の Sandbox コピーエンジンの改善 (正式リリース) (Summer'15 リリース時にローリング方式でリリース)		✓		
リリースで実行するテストの選択		✓		
Sandbox リリースでのローカルテストの実行		✓		
更新の必要がない、Sandbox に対する本番ライセンスの照合		✓		

機能	ユーザに表示	システム管理者/ 開発者に対する 有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連絡 して有効化
Force.com 移行ツールの機能強化		✓		

カスタマイズ機能が使用可能になる方法と状況

カスタマイズ機能を使用すると、オブジェクト、データ、項目の機能強化、組織の外観のカスタマイズ、ビジネスプロセスの追加、Webサイトの作成、アプリケーションの作成などで組織を拡張できます。しかもすべてポイント&クリックツールやコードを使用して実行できます。カスタマイズ機能には、組織を管理および保護するツールも含まれます。

このセクションの内容:

[全般的な管理](#)

[データのカスタマイズ](#)

[Lightning Connect](#)

[Process Builder](#)

[Visual Workflow](#)

[グローバリゼーション](#)

[監視](#)

[組織間データ共有](#)

全般的な管理

機能	ユーザに表示	システム管理者/ 開発者に対する 有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連絡 して有効化
ログインアクセスポリシーの変更		✓		
カスタムプロファイルの許容数		✓		
距離のルックアップ検索条件の作成			✓	
ナレッジ API へのゲストユーザアクセスの有効化		✓		
HTML エリアホームページコンポーネントでの JavaScript、iFrame、CSS、その他の高度なマークアップのサポート終了		✓		

データのカスタマイズ

機能	ユーザに表示	システム管理者/ 開発者に対する 有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
すべての顧客データを BigObjects に 保管 (パイロット) (ページ 209)				✓
Data Pipeline を使用した顧客データ の管理 (パイロット) (ページ 210)				✓

Lightning Connect

機能	ユーザに表示	システム管理者/ 開発者に対する 有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連絡 して有効化
Lightning Connect の Salesforce コネク タを使用した複数の組織のデータ へのアクセス			✓	
Lightning Apex コネクタフレームワー クで場所を問わずにデータにアク セス			✓	
Lightning Connect の OData 2.0 アダプ タを使用した政府および医療デー タへのアクセス			✓	
Lightning Connect の OData 2.0 アダプ タの制限の緩和		✓		
外部データソースのサーバ駆動パー ジングの有効化			✓	
OData クエリで合計行数を要求する かどうかの制御			✓	
検索レイアウトの外部オブジェク トの名前項目のカスタマイズ		✓		
外部オブジェクトの参照関係項目 に親レコードの名前を表示	✓			
外部データソースの同期の [すべて 選択] チェックボックスの削除		✓		

Process Builder

機能	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
数式の値を比較して返す	✓		
数式および日付関数を使用した項目の更新	✓		
システム指定の値の参照	✓		
複数選択リストを使用できる場所の増加	✓		
レコード更新時の追加条件の定義	✓		
より多くの値型を使用した項目の更新	✓		
プロセスの即時削除	✓		
Process Builder ユーザインターフェースの機能強化	✓		

Visual Workflow

機能	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
フローの選択リスト値の検証	✓		
フローの複数選択リスト値の検証	✓		
フローバージョンの即時の削除	✓		
フローのグローバル変数の参照	✓		
フローインタビューが失敗までに辿ったパスの確認 (ベータ)	✓		

グローバリゼーション

機能	ユーザに表示	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
マルチ通貨組織が1つの通貨のみを使用する場合の通貨記号の表示			✓	
59 の新しいロケールからの選択		✓		

監視

機能	ユーザに表示	システム管理者/ 開発者に対する 有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連絡 して有効化
イベント監視機能の更新		✓		
#freem_moting_logferis_infreem_moting_logferis				✓
#freem_moting_aprbets_infreem_moting_aprbets				✓
#freem_moting_dhagetm_infreem_moting_dhagetm				✓

組織間データ共有

機能	ユーザに表示	システム管理者/ 開発者に対する 有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連絡 して有効化
組織間データ共有パイロットの使用終了		✓		

セキュリティ機能と ID 機能が使用可能になる方法と状況

機能	ユーザに表示	システム管理者/ 開発者に対する 有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連絡 して有効化
暗号化				
プラットフォームの暗号化を使用したデータ保護要件への準拠(正式リリース)			✓	✓
データレジデンシーオプション (DRO) 機能の廃止			✓	
認証				
[ログイン IP アドレスの制限] の IP アドレスの継続的な適用		✓		
ユーザログインの地理的な場所の追跡	✓	✓		
ログイン履歴による ID 別の認証サービスの追跡		✓		

機能	ユーザに表示	システム管理者/ 開発者に対する 有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連絡 して有効化
外部データソースおよび指定ログイン情報の簡略化された OAuth フロー	✓			
OpenID Connect を使用する並行アプリケーションへの 1 回だけのログイン	✓	✓		
ファイルまたは URL からのシングルサインオン設定の作成		✓		
コミュニティまたはカスタムドメインの SAML メタデータ URL へのアクセス		✓		
Google および LinkedIn の認証プロバイダのエンドポイントの編集		✓		
Salesforce ユーザのログアウトページの選択		✓		
高度なネットワークプロトコルのテストと使用		✓		
[セッションの設定]で名前が変更された [ID 確認] の SMS		✓		
最小パスワード長を 15 文字に設定することによる FedRAMP 標準への準拠		✓		
サポートされるログインフロー種別		✓		
ID				
接続アプリケーションのユーザプロビジョニング (正式リリース)		✓		
詳細な制御および簡単な管理を可能にするための接続アプリケーションの改善		✓		
System for Cross-domain Identity Management (SCIM) を使用した代理承認者の取得		✓		
私のドメイン				

機能	ユーザに表示	システム管理者/ 開発者に対する 有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連絡 して有効化
ドメインを全ユーザにリリースする前に行う [私のドメイン] ログインページの設定テスト		✓		
私のドメイン名の伝達における更新のすばやい取得		✓		

開発機能が使用可能になる方法と状況

Force.com は、組織で役立たせたり、別の組織に再販したりするための新しいアプリケーションおよびインテグレーションの開発に役立ちます。

このセクションの内容:

[開発者コンソール](#)

[Visualforce](#)

[Apex コード](#)

[Lightning コンポーネント](#)

[API](#)

[ISVForce](#)

[カスタムメタデータ機能の影響](#)

開発者コンソール

機能	ユーザに表示	システム管理者/ 開発者に対する 有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連絡 して有効化
より正確な数字および場所の使用		✓		
クエリプランのメモの表示		✓		
レポートおよびリストビューのクエリプランの取得		✓		

Visualforce

機能	ユーザに表示	システム管理者/ 開発者に対する 有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連絡 して有効化
Visualforce 開発				
カスタムマーカを使用した Visualforce 地図のカスタマイズ		✓		
情報ウィンドウを使用した Visualforce 地図の強化		✓		
Visualforce のその他の変更				
新しい <liveAgent:clientChatCancelButton> コン ポーネント		✓		
<liveAgent:clientChatAlertMessage> の新 しい属性		✓		
アクセシビリティ: 必須項目の表示 ラベルの「*」 アノテーションの復 元	✓			
リモートアクション応答のエンコー ドに含まれる単一引用符		✓		
ヘッダーが無効化されている場合 の Visualforce ページのクリック ジャック保護の有効化			✓	
with sharing キーワードを使用した Apex クラスのアクセス制限			✓	
Visualforce ドメインからの静的リソー スの提供			✓	
PageReference getContent() および getContentAsPDF() メソッドがコール アウトとして動作			✓	

Apex コード

機能	ユーザに表示	システム管理者/ 開発者に対する 有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連絡 して有効化
複数行のステートメントの新しい コードカバレッジ計算		✓		
予測可能な対応付けとセットの反 復順序		✓		
デバッグログの予測可能な受信		✓		
Apex の SOQL および SOSL クエリで許 可される場所および距離変数		✓		
with sharing キーワードを使用した Apex クラスのアクセス制限			✓	
Apex メソッドパラメータの視認性 の向上	✓	✓		
新規および変更された Apex クラス		✓		
ConnectApi (Chatter in Apex)		✓		

Lightning コンポーネント

機能	ユーザに表示	システム管理者/ 開発者に対する 有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連絡 して有効化
Lightning コンポーネントの開発				
スタンドアロン Lightning アプリケー ション (正式リリース)		✓		
Lightning コンポーネント		✓		
Lightning イベント		✓		
Lightning コンポーネントのその他の変更				
Lightning コンポーネントでの [私の ドメイン] の使用		✓		
Lightning コンポーネントでのカスタ ム表示ラベルの使用		✓		
新しい empty() 式の関数		✓		

機能	ユーザに表示	システム管理者/ 開発者に対する 有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連絡 して有効化
Lightning App Builder コンポーネント の選択リストの作成		✓		
Lightning App Builder コンポーネント のデザインファイルへの変更		✓		
参照整合性の検証の拡張		✓		
デフォルトの名前空間を使用可能 なコンテキストの増加		✓		

API

機能	ユーザに表示	システム管理者/ 開発者に対する 有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連絡 して有効化
新しいオブジェクト		✓		
変更されたオブジェクト		✓		
SOQL				
TopicAssignment のネストされた準結 合		✓		
API				
SOAP API		✓		
REST API		✓		
Chatter REST API		✓		
Salesforce1 レポート REST API		✓		
Data.com API		✓		
Tooling API		✓		
メタデータ API		✓		
Salesforce コンソール API (インテグ レーションツールキット)		✓		

ISVForce

機能	ユーザに表示	システム管理者/ 開発者に対する 有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連絡 して有効化
Professional Edition のメタデータ API アクセスの要求				✓
未使用のコンポーネントの削除による管理パッケージの合理化		✓		
組織の制限にカウントされるアプリケーション、タブ、オブジェクトの確認		✓		

カスタムメタデータ機能の影響

機能	すべてのユーザ に自動的に表示 されます。設定 は不要です。	すべての管理者 に自動的に表示 されます。設定 は不要です。	自動的に表示 されません。機 能は有効化され ていますが、い くつかの設定が 必要です。	この機能を有効 にするには、 Salesforce に連絡 してください。
カスタムメタデータ型を使用したアプリケーションの設定 (正式リリース) (Summer '15 リリース後 24 時間以内にリリース)		✓		

重要な更新が使用可能になる方法と状況

このリリースに含まれている更新は、パフォーマンス、ロジック、Salesforce の使い勝手を向上するものですが、既存のカスタマイズが正しく機能しなくなる可能性もあります。

機能	ユーザに表示	システム管理者/ 開発者に対する 有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連絡 して有効化
Visualforce ドメインからの静的リソースの提供			✓	
PageReference getContent() および getContentAsPDF() メソッドがコールアウトとして動作			✓	
拡張目標の設定			✓	

Salesforce 全体: 簡単な設定とデータインポート

新しい設定アシスタントにより、ユーザは従来よりも簡単に Salesforce を操作できます。さらに、Mac から簡単にデータをインポートできるようになりました。また、リリースノートで必要な情報をより簡単に見つけることができるようになりました。

このセクションの内容:

[リリースノートの使いやすさの向上](#)

最も関心のあるニュースに焦点を絞ることができるように、リリースノートに検索条件を追加しました。複数の画面間をスクロールする代わりに、該当するリリースノートに直接アクセスできます。

[新たに有効化された組織向けの設定アシスタント](#)

実装パートナーに相談せずに Salesforce を設定する場合は、設定アシスタントが役立ちます。このウィザードと目的を絞ったサポートにより、基本設定を完了し、重要な販売データを Salesforce に取り込んで、営業チームを即座に稼働させることができます。

[データインポートウィザードのユーザインターフェースの改善](#)

データインポートウィザードのユーザインターフェースが改善され、データのインポートの操作性がシームレスになり、かつてないほど向上しています。

[Mac のデータローダ](#)

Salesforce データを簡単にインポート、エクスポート、更新、削除できるグラフィカルツールのデータローダを Mac OS X でも使用できるようになりました。

[サポートされるブラウザ](#)

Microsoft® Internet Explorer® バージョン 7 および 8 のサポートは Summer '15 をもって終了します。このリリース日以降、Salesforce カスタマーサポートでは Internet Explorer 7 および 8 に関する問題の調査は行いません。

関連トピック:

[全般的な機能強化が使用可能になる方法と状況](#)

リリースノートの使いやすさの向上

最も関心のあるニュースに焦点を絞ることができるように、リリースノートに検索条件を追加しました。複数の画面間をスクロールする代わりに、該当するリリースノートに直接アクセスできます。

このセクションの内容:

[リリースノートの検索条件で適切な情報に集中 \(正式リリース\)](#)

この新しい検索条件は、画面の右側にあるリリースノートのリストを絞り込むもので、左側の内容を絞り込むものではありません。セクション全体に目を通すのではなく目的を絞った検索をする場合は、この新しい検索条件を使用して検索結果を絞り込みます。

[HTML 版のリリースノートのビジュアル面の改善](#)

HTML 版のリリースノートにいくつかの変更が行われています。デザインが刷新され、表示している言語を変更できるようになりました。

リリースノートの検索条件で適切な情報に集中 (正式リリース)

この新しい検索条件は、画面の右側にあるリリースノートのリストを絞り込むもので、左側の内容を絞り込むものではありません。セクション全体に目を通すのではなく的を絞った検索をする場合は、この新しい検索条件を使用して検索結果を絞り込みます。

エディション

Summer'15でリリースされる機能強化は、エディションごとに異なります。リリースノートのリストを絞り込んで、ご使用のエディションでリリースされる機能強化のみを表示します。

機能の影響

すべてのリリースには、ユーザがその効果を得る前に有効にしたり設定したりする必要がある機能がいくつかあります。システム管理者は、それらの機能に焦点を当てたり非表示にしたりするためにリリースノートを絞り込むことができるようになりました。また、ユーザに対して自動的に有効になる機能のみを表示することもできます。

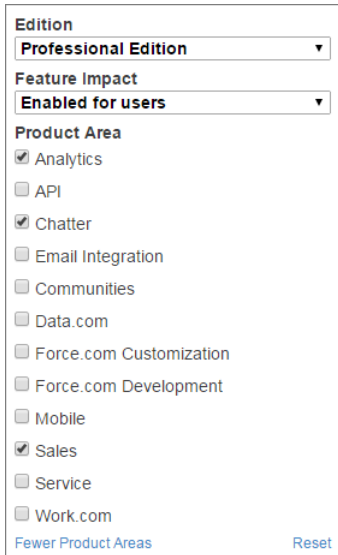
製品エリア

リリースノートのリストを絞り込んで、組織で使用している製品のみを表示します。組織がセールスを行いサポートは行わない場合、セールス関連のニュースのみが表示されるようにリリースノートを設定します。

リリースノートのリストを絞り込むには、画面の右側にある [条件を表示] をクリックします。

The screenshot shows the Salesforce Summer '15 Release Notes page. At the top, there's a search bar and a 'Download this PDF' button. Below the header, the main content area is titled 'Salesforce Summer '15 Release Notes'. On the right side, there's a 'Show Filters' button (highlighted with a red box) and a list of filters. The filters include 'Salesforce Summer '15 Release Notes', 'How to Use the Release Notes', 'Feature Impact', 'General Enhancements', 'Analytics', 'Mobile', 'Communities', 'Sales', 'Work.com', 'Data.com', 'Service', and 'Chatter'. Each filter has a plus sign next to it, indicating it can be expanded or collapsed.

 **例:** Professional Edition 組織で、Sales Cloud、Chatter、Analytics Cloud を使用しています。最初に、Summer '15 のリリース時にユーザがすぐにアクセスできるものに関するリリースノートがすべて表示されるようにする場合、次の検索条件を設定します。



検索条件を選択したら、リリースノートの絞り込まれたリストを他のユーザと共有できます。検索条件を選択した後、単に URL をコピーして、その URL を任意の方法で配信します。上記の例に対応する URL は、
`http://releasenotes.docs.salesforce.com/en-us/summer15/release-notes/salesforce_release_notes.htm?edition=pe&impact=autouser&cloud%5B%5D=analytics&cloud%5B%5D=chatter&cloud%5B%5D=sales`です。

HTML 版のリリースノートのビジュアル面の改善

HTML 版のリリースノートにいくつかの変更が行われています。デザインが刷新され、表示している言語を変更できるようになりました。

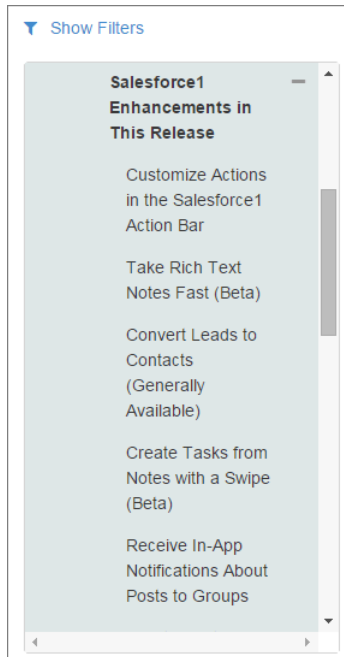
スキンの更新

Salesforce のデザインの更新に伴い HTML 版のリリースノートも更新されました。

リリースノートのリストの移動およびコンテキスト化

リリースノートのリストが画面の左側から右側に移動されたため、リリースノートの内容に集中できます。

リリースノートのリストの囲みが縮小され、リスト内の現在の位置を常に把握できます。現在表示しているリリースノートは、多くの場合リストの上部に表示され、いつでも確認できます。



表示する言語の選択

デフォルトで、HTML版のリリースノートに表示される言語はブラウザの言語設定によって決まります。リリースノートを表示している言語を簡単に変更できるようになりました。ページの下部にあるフッターまでスクロールして[言語を変更]をクリックし、言語を選択します。

Summer '15 以前は、リリースノートを他の言語で表示する唯一の方法は、URL の言語キーを手動で変更することでした。たとえば、リリースノートをドイツ語で表示している場合に英語で表示するときは、URL の de-de を en-us に変更していました。

新たに有効化された組織向けの設定アシスタント

実装パートナーに相談せずに Salesforce を設定する場合は、設定アシスタントが役立ちます。このウィザードと的を絞ったサポートにより、基本設定を完了し、重要な販売データを Salesforce に取り込んで、営業チームを即座に稼働させることができます。

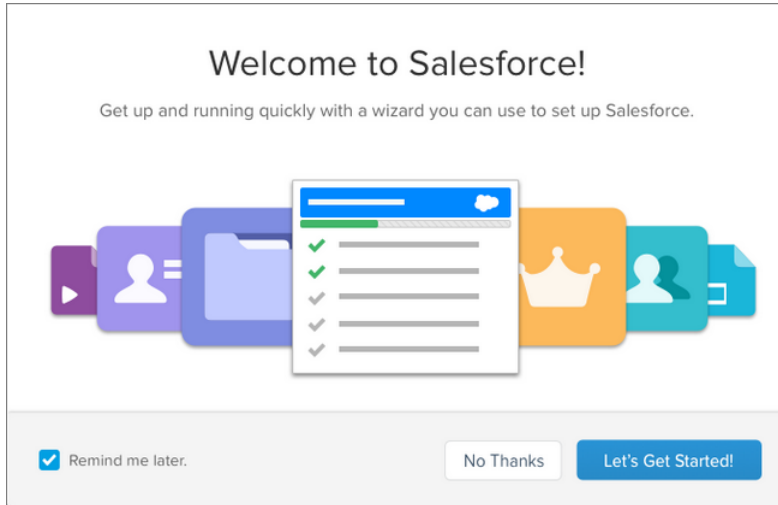
 **メモ:** 設定アシスタントは、2015 年 6 月後半にリリースされる予定です。

設定アシスタントを使用すると、データのインポートおよび販売フェーズのカスタマイズをすべて使いやすいウィザードで行うことができます。さらに、ご自身およびそのチームの Salesforce での売上増大を軌道に乗せるために役に立つ動画も用意されています。

エディション

使用可能なエディション:

Group Edition、
Professional Edition、
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition



Salesforce 組織を初めて有効にしてから 90 日間は、このアシスタントを開始するためのプロンプトが表示されます。準備が整っていない場合は、Salesforce の [設定] からいつでも設定アシスタントにアクセスできます。

データインポートウィザードのユーザインターフェースの改善

データインポートウィザードのユーザインターフェースが改善され、データのインポートの操作性がシームレスになり、かつてないほど向上しています。

データインポートウィザードについては、[設定] ページの上部にある [開始] および [このページのヘルプ] のリンク先を参照してください。インポートでサポートが必要な場合は、更新された [FAQ] セクションを使用して、最新のオンラインヘルプや動画コンテンツにアクセスしてください。

エディション

使用可能なエディション:
Database.com Edition を除くすべてのエディション

Mac のデータローダ

Salesforce データを簡単にインポート、エクスポート、更新、削除できるグラフィカルツールのデータローダを Mac OS X でも使用できるようになりました。

Mac バージョンをダウンロードするには、[設定] から [データの管理] > [データローダ] をクリックします。

エディション

使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Professional Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition



 **メモ:** データローダのコマンドラインインターフェースは、Windows でのみサポートされています。

これまで LexiLoader を使用してデータをインポートおよびエクスポートしていた場合、Salesforce では、LexiLoader をアンインストールしてからデータローダをインストールすることをお勧めします。

サポートされるブラウザ

Microsoft® Internet Explorer® バージョン 7 および 8 のサポートは Summer '15 をもって終了します。このリリース日以降、Salesforce カスタマーサポートでは Internet Explorer 7 および 8 に関する問題の調査は行いません。

モバイルブラウザでのフルサイトへのアクセスはサポートされていません。モバイルデバイスで作業をする場合は、代わりに Salesforce1 アプリケーションを使用することをお勧めします。Salesforce1 でサポートされるモバイルブラウザについては、Salesforce ヘルプの「Salesforce1 モバイルアプリケーションの要件」を参照してください。

Microsoft® Internet Explorer® バージョン 9、10、11

Internet Explorer を使用する場合は、Salesforce でサポートされている最新バージョンを使用することをお勧めします。すべての Microsoft ソフトウェア更新を適用してください。次の制限があります。

- Salesforce フルサイトは、Windows 向けタッチ対応デバイスの Internet Explorer ではサポートされていません。代わりに Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションを使用してください。
- [Salesforce1 の設定] ページと Salesforce1 ウィザードを使用するには Internet Explorer 9 以降が必要です。
- Internet Explorer 11 の HTML ソリューションエディタは、Salesforce ナレッジではサポートされていません。
- Internet Explorer の互換表示機能はサポートされていません。
- Internet Explorer 10 の Metro バージョンはサポートされません。
- Internet Explorer 11 は、開発者コンソールではサポートされていません。
- Internet Explorer 11 は、CTI Toolkit バージョン 4.0 以降を使用して作成された Salesforce CRM Call Center ではサポートされていません。
- セルフサービスのコミュニティテンプレートでは、Internet Explorer 9 以降でデスクトップユーザが、Internet Explorer 11 以降でモバイルユーザがサポートされています。
- Internet Explorer 9 は、Salesforce Analytics Cloud ではサポートされていません。

- Internet Explorer 9 および 10 は、Lightning App Builder ではサポートされていません。

設定の推奨事項については、Salesforce ヘルプの「Internet Explorer の設定」を参照してください。

Mozilla Firefox の最新の安定バージョン

Salesforce は Firefox の最新バージョンのテストおよびサポートに努めています。

- Mozilla Firefox は、セルフサービスのコミュニティテンプレートのデスクトップユーザに対してのみサポートされています。

設定の推奨事項については、Salesforce ヘルプの「Firefox の設定」を参照してください。

Google Chrome の最新の安定バージョン

Google Chrome は自動的に更新を適用するため、Salesforce は最新バージョンのテストおよびサポートに努めています。Chrome の設定に関する推奨事項はありません。

Chrome は、以下ではサポートされていません。

- [Google ドキュメントを Salesforce に追加] ブラウザボタン。
- [コンソール] タブ (Salesforce コンソールはサポート対象)

Mac OS X での Apple Safari バージョン 5.x、6.x、および 7.x

Safari の設定に関する推奨事項はありません。iOS の Apple Safari は、Salesforce フルサイトではサポートされていません。

Safari は、以下ではサポートされていません。

- Salesforce コンソール
- バージョン 4.0 より前の CTI Toolkit を使用して作成された Salesforce CRM Call Center
- Salesforce Analytics Cloud

Analytics Cloud でサポートされるブラウザ

ブラウザサポートは、Microsoft Internet Explorer バージョン 10 および 11、Mozilla Firefox (最新の安定バージョン)、および Google Chrome (最新の安定バージョン) で使用できます。

すべてのブラウザに関する推奨事項と要件

- すべてのブラウザに対して、JavaScript、Cookie、TLS 1.0 を有効にする必要があります。
- すべての Salesforce 機能をサポートするために必要な最小画面解像度は 1024×768 です。画面解像度が 1024×768 未満である場合、レポートビルダーやページレイアウトエディタなどの Salesforce 機能が正しく表示されない可能性があります。
- Apple Safari または Google Chrome を使用している Mac OS ユーザは、システム設定の [スクロールバーを表示] が [常に] に設定されていることを確認してください。
- 一部のサードパーティ Web ブラウザプラグインと拡張は、Chatter の機能に干渉する可能性があります。Chatter が正常に機能しなかったり、整合性のない動作をする場合は、すべての Web ブラウザのプラグインと拡張を無効にしてから、もう一度試してみてください。

Salesforce の特定の機能には、一部のデスクトップクライアント、ツールキット、およびアダプタと同様に、独自のブラウザ要件があります。次に例を示します。

- Internet Explorer は、次の機能を唯一サポートしているブラウザです。

- 標準差し込み印刷
- Windows Mobile デバイスへの Salesforce Classic のインストール
- Connect Offline
- 高度なページレイアウトエディタには、Firefox をお勧めします。
- Salesforce コンソールには、8 GB の RAM が搭載されたマシンで Chrome を使用することをお勧めします。
- Chatter で複数のファイルをアップロードする場合には、ブラウザ要件も適用されます。

Analytics: データからすばやくより多くの価値を実現

Salesforce Analytics Cloud の Wave では、組織の誰もが直観的なポイント＆クリック操作の視覚的インターフェースを使用してデータに関する強力な洞察にすぐにアクセスできます。デスクトップブラウザやiOSモバイルデバイス、さらには最新のApple Watch™を使用して、ビジネスを行うために必要な答えをデータから得ることができます。最新の機能と機能強化で、データからすばやく、さらに容易に価値を実現できるようになりました。

エディション

有料オプションで使用可能なエディション:

Enterprise Edition、**Performance Edition**、および **Unlimited Edition**



このセクションの内容:

[Analytics for iOS: データの追加、ダッシュボードの作成と編集、Apple Watch™ サポート](#)

すでに外出先でのデータの探索はできます。さらに、場所を問わず、新しいデータファイルのインポート、ダッシュボードの作成と編集、Apple Watch でデータのチェックを行うこともできるようになりました。

データの統合: メタデータのプレビューとデータセットの削除

CSVファイルのアップロード前にメタデータ設定をプレビューできます。また、データセットを削除してアプリケーションをクリーンアップできます。

データの探索: ディメンション、基準、および会計期間のグループ化と絞り込み

ディメンション、基準、および会計期間用の新しい検索条件の演算子で視覚化の焦点をすばやく絞り込むことができます。

データの選定: ページレイアウトへのダッシュボードの追加、テーブルおよびグラフからのリンク

完全な対話型の Analytics Cloud ダッシュボードをページレイアウトに追加したり、ダッシュボードから Salesforce レコードや外部レコードに直接リンクしたりすることで、利用を促進することができます。

Wave REST API (パイロット): 新機能の開発

Wave REST API を使用して、Analytics Cloud のデータセットとレンズにプログラムでアクセスできるようになりました。

SAQL の機能強化 (パイロット): より強力なクエリの作成

Salesforce Analytics Query Language (SAQL) を使用して、探しているデータをレンズが的確に返すようにすることができます。SAQL は、データセットに保存されているデータのアドホック分析を可能にするリアルタイムのクエリ言語です。

関連トピック:

[Analytics Cloud 機能が使用可能になる方法と状況](#)

Analytics for iOS: データの追加、ダッシュボードの作成と編集、Apple Watch™ サポート

すでに外出先でのデータの探索はできます。さらに、場所を問わず、新しいデータファイルのインポート、ダッシュボードの作成と編集、Apple Watch でデータのチェックを行うこともできるようになりました。

Analytics for iOS を今すぐダウンロード

[Salesforce Analytics for iOS](#) は App Store からダウンロードできます。Analytics for iOS は、iOS 7 以降を実行する Apple iPhone 4 以降のモデルで使用できます。



ユーザ権限

Analytics for iOS から Salesforce にログインする

- 「Analytics Cloud の使用」

このセクションの内容:

[Wave Mobile Connector によるデータの追加 \(v1.3\)](#)

モバイルデバイス上の既存のデータをデータセットとしてインポートすることで、すばやくデータを探索できます。

[ダッシュボードの作成と編集 \(v1.3\)](#)

モバイルデバイスでデータセットからダッシュボードの作成や編集ができます。

Apple Watch™ のサポート (v1.2)

手首に装着した Apple Watch でデータを確認できます。

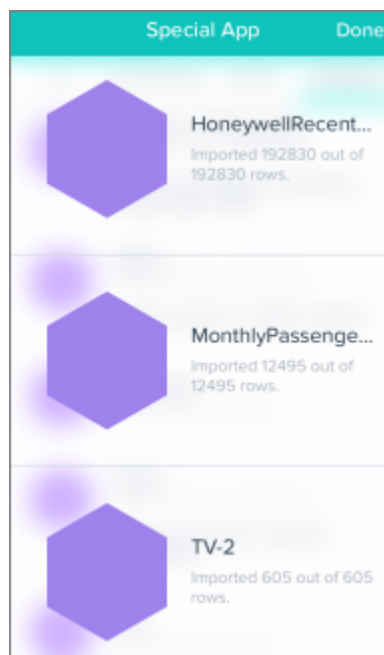
Analytics for iOS のその他の機能強化 (v1.2)

次のようなその他の更新によってモバイル分析の操作性が向上しています。

Wave Mobile Connector によるデータの追加 (v1.3)

モバイルデバイス上の既存のデータをデータセットとしてインポートすることで、すばやくデータを探索できます。

iOS では、メールアプリケーションや Web ブラウザなど、さまざまな場所から CSV データファイルをインポートできます。どこから CSV データファイルをインポートするかによって、ファイルへのアクセス方法は異なります。[開く...]のプロンプトまたは共有アイコン(📎)を探します。次のプロンプトとアイコンを使用すると、Analytics for iOS でデータインポートプロセスを起動し、CSV データファイルを開くことができます。



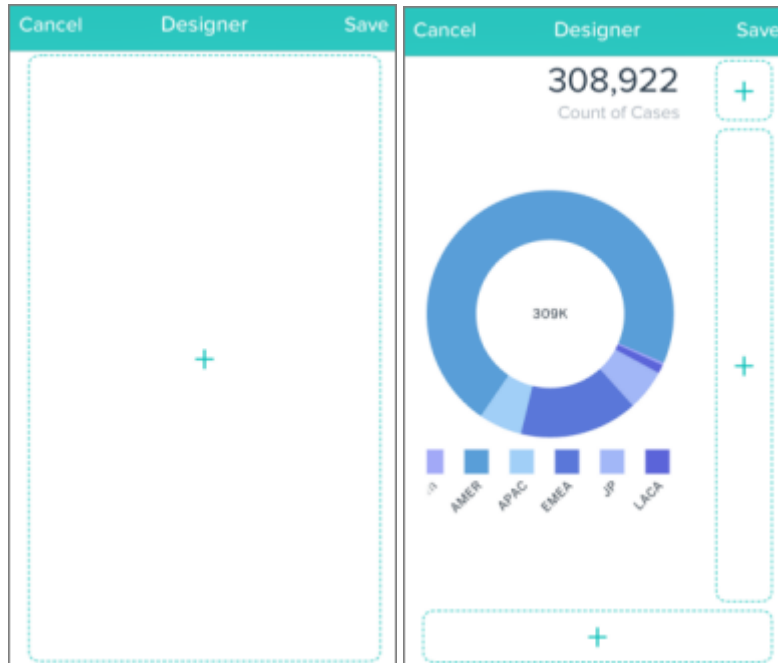
データのインポートの準備をするときには、次の制限とヒントに留意してください。

- データセットとしてインポートできるのは、CSV ファイルと CSV ファイルが含まれる zip ファイルのみです。
- インポートされたデータセットは、Web の Analytics Cloud では使用できません。ローカルデバイスのプレイグラウンドでのみ使用できます。
- インポートされたデータセットは暗号化されていません。

ダッシュボードの作成と編集 (v1.3)

モバイルデバイスでデータセットからダッシュボードの作成や編集ができます。

ダッシュボードデザイナを起動するには、データセットまたはダッシュボードで右から左にスワイプして、[作成]または[編集]をタップします。または、データセットまたはダッシュボードをタッチして保持します。



ダッシュボードの作成および編集の準備をするときには、次の制限とヒントに留意してください。

- iPhone では、作成するダッシュボードの幅は 2 列までに制限されます。
- iPad では、作成するダッシュボードの幅は 6 列までに制限されます。
- Analytics for iOS でユーザインターフェースを使用して作成された場合、ダッシュボードで利用できるデータセットは 1 つのみです。データセットを追加するには、ダッシュボードの JSON ファイルを編集する必要があります。
- モバイルプレイグラウンドで作成された場合、ダッシュボードは Analytics for iOS で編集できます。
Salesforce 組織で作成された場合、ダッシュボードは、Web の Analytics Cloud でのみ編集できます。
- [未加工データテーブル]、[ボックス]、および [リンク] ウィジェットは使用できません。

Apple Watch™ のサポート (v1.2)

手首に装着した Apple Watch でデータを確認できます。



Salesforce Analytics for iOS には Handoff™ との互換性があります。

Salesforce Analytics for iOS を一目見ると、最後に開いていたダッシュボードまたはレンズが表示されているのがわかります。ダッシュボードが表示される場合、ダッシュボードの最初の数値ウィジェットを示す数値が表示されます。ダッシュボードに数値ウィジェットがない場合、数値は表示されません。

データを「装着」して外出する前に、Apple Watch 固有の制限と注意事項を確認してください。

Apple Watch の制限事項

機能	制限事項
接続	Apple Watch の Salesforce Analytics for iOS は常に、ペアとなる iPhone アプリケーションの接続先組織と同じ組織に接続されます。組織を切り替えるには、iPhone から操作してください。
リスト	- 最近開いた 10 個のダッシュボードのみがリストされます。 - 最近開いた 10 個のレンズのみがリストされます。  メモ: リストにないものも含め、どのダッシュボードおよびレンズも、Siri® を使用して名前を検索すると開くことができます。
ダッシュボード	ダッシュボードでサポートされるのは 1 ページ、1 列のみです。行のセルは 1 つのみです。  メモ: Apple Watch でダッシュボードにウィジェットが足りない場合、たいていは 2 つの理由のいずれかが当てはまります。ダッシュボードにグリッドレイアウトが設定されていないか、足りないウィジェットがサポートされていないためです。
ダッシュボードデザイン	ダッシュボードデザインは使用できません。

機能	制限事項
ウィジェット	サポートされるウィジェットは、グラフ、テーブル、数値、切り替え、リスト、テキスト、範囲のみです。 - グラフには 10 要素 (棒、スライスなど) が表示されます。 - テーブルには 10 行が表示されます。 - リストには 10 個の値が表示されますが、Siri® を使用すれば他の項目を名前で検索できます。
データセット	データセットは開けず、リストビューでは使用できません。
Wave Data Connector	Wave Data Connector は Apple Watch では使用できません。

Analytics for iOS のその他の機能強化 (v1.2)

次のようなその他の更新によってモバイル分析の操作性が向上しています。

新しいグラフの種類: 積み上げ棒グラフ

データを横または縦の積み上げ棒グラフとして視覚化できます。

標準の棒グラフで最大 2 つのグルーピングを表示

標準の棒グラフで可能なグルーピング数が増えることで、より詳細な情報を表示できます。

日付ウィジェットのサポート開始

ダッシュボードの参照時に日付でデータを探索できるようになりました。

Salesforce1 への容易な復帰

Salesforce1 のリンクから Analytics for iOS を開いた後、[戻る] をタップすると Salesforce1 に戻ります。

折れ線グラフでデータが収まるように軸の目盛りを調整

ダッシュボードの JSON ファイルで、グラフウィジェットに `fit` パラメータを追加できます。詳細は、『Analytics Cloud Dashboard JSON Reference』(Analytics Cloud Dashboard JSON リファレンス) ガイドの『[Widget Parameters Property Reference](#)』を参照してください。

複合検索条件のサポート開始

検索条件を組み合わせデータに絞り込めます。

切り替えおよびリストウィジェットで短縮数値形式をサポート

設定すると、1,043 が 1k と表示されます。

ダッシュボードバインドで `field()` 操作をサポート

詳細は、『Analytics Cloud Dashboard JSON Reference』(Analytics Cloud Dashboard JSON リファレンス) ガイドの『[Bindings](#)』を参照してください。

Analytics for iOS がさらに高速化

パフォーマンス向上のため、複数ページダッシュボードでは現在のページに対してのみクエリを実行します。

バグ修正

さまざまなバグが修正され、Analytics for iOS の実行時の信頼性がさらに向上しました。

データの統合: メタデータのプレビューとデータセットの削除

CSV ファイルのアップロード前にメタデータ設定をプレビューできます。また、データセットを削除してアプリケーションをクリーンアップできます。

このセクションの内容:

[アプリケーション]でのデータセットの作成

Analytics Cloud の [アプリケーション] ページからデータセット作成オプションにアクセスできます。

メタデータのプレビューによる CSV データの正確な読み込み

インターフェースを使用して、CSV のアップロード時に生成されたファイル内の必須メタデータ属性を表示して変更できます。

不要なデータセットの削除によるアプリケーションのクリーンアップ

少なくともエディタアクセス権があれば、[私の非公開アプリケーション] または共有アプリケーションから不要なデータセットを削除できます。データセットを削除することで使用していないデータを減らし、組織の登録済みデータセット全体の行制限への到達を回避できます。

augment 変換による複数一致のサポート強化

複数一致が返された場合、新しい方法で augment 変換の動作を制御できます。これまで、Analytics Cloud ではすべての一致行から結果を返していました。augment 変換では、いずれかの一致行 (新しいデフォルトの動作) またはすべての一致行から結果を返せるようになりました。

[アプリケーション]でのデータセットの作成

Analytics Cloud の [アプリケーション] ページからデータセット作成オプションにアクセスできます。

従来よりも簡単にデータセットをアプリケーションに関連付けられるようになりました。[アプリケーション] ページの新しい [作成] ボタンを使用して、カスタマイズしたデータを直接アプリケーションに統合できます。

ユーザ権限

[アプリケーション] ページからデータセットを作成する

- 「Analytics Cloud データフローの編集」

メタデータのプレビューによる CSV データの正確な読み込み

インターフェースを使用して、CSV のアップロード時に生成されたファイル内の必須メタデータ属性を表示して変更できます。

1. CSV ファイルをアップロードしてデータセットを作成または編集するとき、[データをプレビュー] ボタンが表示されます。

ユーザ権限

外部データのアップロード時にメタデータをプレビューする

- 「外部データを Analytics Cloud にアップロード」

メモ: 独自のメタデータファイルをアップロードする場合、[データをプレビュー]ボタンは無効になります。

2. 必須メタデータ属性を表示して変更するには、[データをプレビュー]をクリックします。
省略可能なメタデータ属性は後で変更できます。

AccountOwner	Region	Target	TargetDate
Tony Santos	Midwest	10000	1/1/2011
Lucy Timmer	Northeast	50000	1/1/2011
Lucy Timmer	Northeast	0	12/1/2013
Bill Rolley	Midwest	15000	1/1/2011
Keith Laz	Southwest	35000	1/1/2011
Lucy Timmer	Southeast	40000	1/1/2011

3. 列ごとに、次の手順を実行します。
 - a. 列名を変更するには、列名をクリックします。
列名は、データセット内での表示名です。
 - b. 他の必須メタデータ属性を変更するには、列ヘッダーをクリックします。
日付と基準の属性を変更できます。

メモ: ディメンションにはメタデータは不要です。

4. プレビューページでのメタデータの変更をメタデータファイルに適用するには、[実行]をクリックします。

メモ: エラーがある場合、[実行] ボタンはグレー表示されます。

5. [OK] をクリックして確認メッセージを閉じます。
6. プレビューページには表示されない省略可能なメタデータ属性を変更するには、 をクリックしてメタデータファイルをダウンロードし、ファイルを編集してからアップロードします。
7. [データセットを更新] をクリックします。
8. [次へ] をクリックして確認メッセージを消します。

不要なデータセットの削除によるアプリケーションのクリーンアップ

少なくともエディタアクセス権があれば、[私の非公開アプリケーション]または共有アプリケーションから不要なデータセットを削除できます。データセットを削除することで使用していないデータを減らし、組織の登録済みデータセット全体の行制限への到達を回避できます。

データフローで作成されたデータセットを削除するには、事前にすべてのデータフローでデータセットへの参照をすべて削除する必要があります。

警告: 削除されたデータセットは元に戻せません。

1. ホームページまたはアプリケーションページで、[データセット] タブをクリックします。
2. 削除するデータセットにマウスポインタを置いて、[編集] をクリックします。
3. [データセットを削除] をクリックします。

該当する場合は、Analytics Cloud に、そのデータセットを参照し、ユーザに参照アクセス権のあるすべてのレンズとダッシュボードのリストが表示されます。データセットの削除後、そのデータセットを参照するレンズまたはダッシュボードは使用できなくなります。

ユーザ権限

データセットを削除する

- 「Analytics Cloud データフローの編集」

4. [完全に削除] をクリックして確認します。

augment 変換による複数一致のサポート強化

複数一致が返された場合、新しい方法で augment 変換の動作を制御できます。これまで、Analytics Cloud ではすべての一致行から結果を返していました。augment 変換では、いずれかの一致行 (新しいデフォルトの動作) またはすべての一致行から結果を返せるようになりました。

augment 変換では、左のデータセットのレコードごとにルックアップを実行して右のデータセットから一致するレコードを見つけます。左のデータセットが右のデータセットと1対多のリレーションにある場合、Analytics Cloud で左のレコードに対して複数一致が見つかることがあります。Analytics Cloud が複数一致を処理する方法は、指定された augment 操作に応じて異なります。augment 変換では `LookupSingleValue` または `LookupMultiValue` 操作を指定できます。操作を指定しないと、Analytics Cloud では `LookupSingleValue` 操作が指定されたかのように augment を処理します。

 **メモ:** このリリースではデフォルトの動作が変更されました。Analytics Cloud では、新しいデフォルトの動作に基づいて異なる結果が作成される可能性があります。前のリリースのデフォルトの動作に戻すには、操作を `LookupMultiValue` に設定します。

LookupSingleValue 操作

複数一致が見つかった場合、augment 変換で強制的に1行から結果を返すには、`LookupSingleValue` 操作を使用します。Analytics Cloud は、一致行のリストからランダムに1行を選択します。

 **メモ:** データフローを実行するたびに、返された行に応じて Analytics Cloud が異なる結果を返す可能性があります。

たとえば、augment 変換を次のデータセットに適用し、リレーションを「Price」に設定して、Id および ProdId 項目に基づいて照合したとします。

Product		Price		
Id	Name	ProdId	Pricebook	UnitPrice
Prod1	Table	Prod1	Standard	1000
Prod2	Chair	Prod2	Standard	450
Prod3	Bench	Prod3	Custom	800
		Prod3	Standard	700

Prod3 の行は複数ありますが、Analytics Cloud はランダムにいずれかの一致行を選択し、その行に基づいて値を返します。Analytics Cloud が最初の Prod3 行を選択した場合、augment 後に作成されたデータセットは次のようになります。

```
{ "id": "Prod1", "Name": "Table", "Price.Pricebook": "Standard", "Price.UnitPrice": 1000 },
{ "id": "Prod2", "Name": "Chair", "Price.Pricebook": "Standard", "Price.UnitPrice": 450 },
{ "id": "Prod3", "Name": "Bench", "Price.Pricebook": "Custom", "Price.UnitPrice": 800 }
```

LookupMultiValue 操作

複数の一致が見つかった場合、強制的に augment 変換ですべての一致行から結果を返すには、`LookupMultiValue` 操作を使用します。複数の一致が見つかった場合、Analytics Cloud は複数のディメンション値を作成し、作成さ

れたデータセットレコードで基準値の合計が計算されます。たとえば、augment 変換を次のデータセットに適用し、リレーションを「Price」に設定して、Id および ProdId 項目に基づいて照合したとします。

Product		Price		
Id	Name	ProdId	Pricebook	UnitPrice
Prod1	Table	Prod1	Standard	1000
Prod2	Chair	Prod2	Standard	450
Prod3	Bench	Prod3	Custom	800
		Prod3	Standard	700

ルックアップでは複数の Prod3 行を返すため、作成されるデータセット内の Price.Pricebook 項目は、一致ごとに 1 回、併せて 2 回出現します。基準項目 Price.UnitPrice には、1500 (800 と 700 の合計) が含まれます。augment 後に作成されるデータセットは次のようになります。

```
{ "id": "Prod1", "Name": "Table", "Price.Pricebook": "Standard", "Price.UnitPrice": 1000 },
{ "id": "Prod2", "Name": "Chair", "Price.Pricebook": "Standard", "Price.UnitPrice": 450 },
{ "id": "Prod3", "Name": "Bench", "Price.Pricebook": "Custom", "Price.Pricebook": "Standard", "Price.UnitPrice": 1500 }
```

操作の例

augment 変換の操作は、次のデータフロースニペットのように指定します。

```
"Augment_OpportunitiesWithAccountDetails": {
  "action": "augment",
  "parameters": {
    "operation": "LookupSingleValue",
    "left": "Extract_Opportunity",
    "left_key": [ "AccountId" ],
    "relationship": "OpptyAcct",
    "right": "Extract_AccountDetails",
    "right_key": [ "Id" ],
    "right_select": [
      "Name",
      "BillingAddress"
    ]
  }
}
```

データの探索: デイメンション、基準、および会計期間のグループ化と絞り込み

デイメンション、基準、および会計期間用の新しい検索条件の演算子で視覚化の焦点をすばやく絞り込むことができます。

ユーザ権限

データを探索する

- 「Analytics Cloud の使用」

このセクションの内容:

新しい検索条件の演算子を使用したディメンションの探索

ディメンション用の新しい検索条件の演算子(次の文字列と一致する、次の文字列と一致しない、次の文字列を含む)で、より簡単にレンズの焦点を絞り込み、データ視覚化をカスタマイズできます。

新しい検索条件の演算子を使用した基準の探索

新しい比較演算子(次の値の間、より大きい、以上、未満、以下、次の文字列と一致する、次の文字列と一致しない)を使用し、関連する基準でより簡単にデータを視覚的に並び替えることができます。

会計期間 (会計年度、会計四半期、会計年度-四半期) による日付のグループ化

会計日および日付範囲によるグループ化や絞り込みが可能になりました。

新しい検索条件の演算子を使用したディメンションの探索

ディメンション用の新しい検索条件の演算子(次の文字列と一致する、次の文字列と一致しない、次の文字列を含む)で、より簡単にレンズの焦点を絞り込み、データ視覚化をカスタマイズできます。

ディメンションは、地域、製品名、モデル番号など、定性的な値です。ディメンションは、データのグループ化や絞り込みに便利です。新しいドロップダウンリストからディメンション用の検索条件の演算子を選択できるようになりました。

新しい検索条件の演算子を使用した基準の探索

新しい比較演算子(次の値の間、より大きい、以上、未満、以下、次の文字列と一致する、次の文字列と一致しない)を使用し、関連する基準でより簡単にデータを視覚的に並び替えることができます。

基準は、収益や換算レートなど、定量的な値です。基準に基づいた算術処理や数値比較による絞り込みができます。新しいドロップダウンリストから基準用の比較演算子を選択できるようになりました。

会計期間 (会計年度、会計四半期、会計年度-四半期) による日付のグループ化

会計日および日付範囲によるグループ化や絞り込みが可能になりました。

[グループ] ボタンを使用し、会計日オプションをクリックして、目盛り選択 ([会計年度]、[会計四半期]、[会計年度-四半期]) にアクセスできます。グループを選択すると、レンズによってデータが絞り込まれ、選択範囲のみが表示されます。

次の制限に注意してください。

- [会計月] および [会計年度-月] 検索条件は使用できません。
- タイムラインをクリックおよびドラッグして範囲選択することはできません。

データの選定: ページレイアウトへのダッシュボードの追加、テーブルおよびグラフからのリンク

完全な対話型の Analytics Cloud ダッシュボードをページレイアウトに追加したり、ダッシュボードから Salesforce レコードや外部レコードに直接リンクしたりすることで、利用を促進することができます。

このセクションの内容:

レンズおよびダッシュボードのテーブルとグラフからのリンク

レンズまたはダッシュボードにデータが表示されたので、次は詳細が必要です。チームは、Analytics Cloud レンズおよびダッシュボードのテーブルやグラフから、対応する Salesforce のレコード (取引先、ケース、商談など) や外部 Web サイトへのカスタムリンクを作成できます。

ページレイアウトへのダッシュボードの追加 (正式リリース)

Analytics Cloud ダッシュボードを詳細ページレイアウトに追加できるようになりました。たとえば、取引先の詳細ページで、取引先に関連付けられたサービスの問題に関するダッシュボードをユーザに表示できます。ユーザは、Analytics Cloud ウィンドウで表示しているかのように、ダッシュボードでドリルイン、検索条件の適用、探索ができます。

ユーザ権限

ダッシュボードを設計する

- 「Analytics Cloud ダッシュボードの作成および編集」

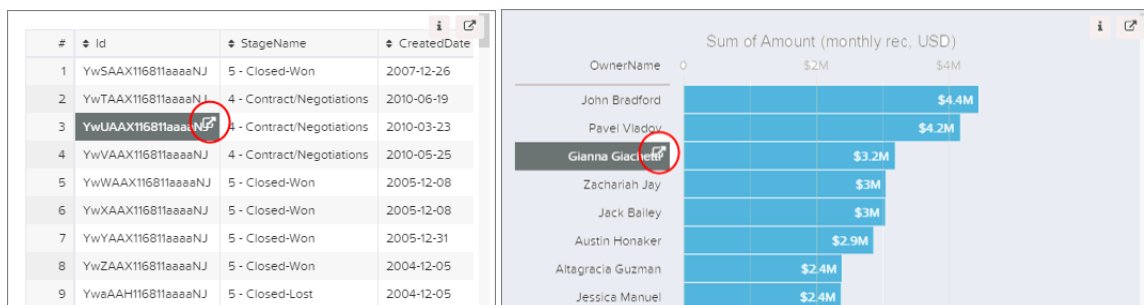
ダッシュボードを参照する

- 「Analytics Cloud の使用」

レンズおよびダッシュボードのテーブルとグラフからのリンク

レンズまたはダッシュボードにデータが表示されたので、次は詳細が必要です。チームは、Analytics Cloud レンズおよびダッシュボードのテーブルやグラフから、対応する Salesforce のレコード (取引先、ケース、商談など) や外部 Web サイトへのカスタムリンクを作成できます。

リンクでは、特定のデータ (Salesforce 取引先 ID など) をレンズまたはダッシュボードからそれらを含むレコードに渡すことができます。たとえば、ダッシュボードの取引先名からのリンクを設定して、ユーザがリンクをクリックしたら、関連取引先 ID を Salesforce に渡し、該当する取引先レコードを新しいタブで開くことができます。カスタムリンクでは、Workday® の従業員や Concur® の経費レポートをルックアップすることもできます。Web サイトは、http または https プロトコルを使用していればリンクできます。



ダッシュボードからのリンクを設定する方法についての詳細は、Analytics Cloud ヘルプの「Link to Salesforce Records or External Websites」 (Salesforce レコードまたは外部 Web サイトへのリンク) を参照してください。

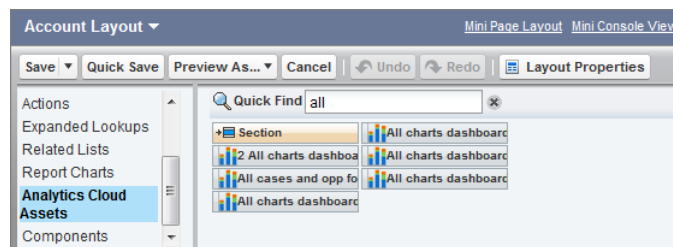
ページレイアウトへのダッシュボードの追加 (正式リリース)

Analytics Cloud ダッシュボードを詳細ページレイアウトに追加できるようになりました。たとえば、取引先の詳細ページで、取引先に関連付けられたサービスの問題に関するダッシュボードをユーザに表示できます。ユーザは、Analytics Cloud ウィンドウで表示しているかのように、ダッシュボードでドリルイン、検索条件の適用、探索ができます。

次の機能強化は、Spring '15 パイロットリリース以降に追加されています。

- [タイトルを表示] チェックボックスでは、ダッシュボードタイトルの表示を制御できます。
- [エラー時に非表示] チェックボックスでは、エラーがある場合 (ダッシュボードが見つからないなど) に、Analytics Cloud アセットを表示するかどうかを制御できます。
- ダッシュボードに、最終更新日時が追加されました。

高度なページレイアウトエディタのパレットの左列で、[Analytics Cloud アセット] というユーザインターフェース要素の新規カテゴリを探します。



[Analytics Cloud アセット] カテゴリを選択し、選択可能なダッシュボードのリストから項目をページレイアウトの詳細セクションにドラッグします。レイアウトでダッシュボードの位置を決めたら、要素をダブルクリックするか、要素の横にあるレンチアイコン (🔧) をクリックして、高さや幅などのプロパティを変更できます。

項目の対応付けや高度なページレイアウトエディタの使用方法についての詳細は、「[高度なページレイアウトエディタを使用したページレイアウトのカスタマイズ](#)」を参照してください。

次の制限に注意してください。

- 追加できるダッシュボードはページレイアウトごとに1つです。
- Analytics Cloud ダッシュボードは、従来のページレイアウトエディタではサポートされません。従来のページレイアウトエディタを使用して高度なページレイアウトエディタで作成したページレイアウトを開くと、従来のページレイアウトエディタでのレイアウト保存後すぐに、すべてのダッシュボード要素が削除されます。
- Visualforce ページでは、Analytics Cloud ダッシュボードが含まれる詳細ページコンポーネントの追加はサポートされません。

ユーザ権限

ページレイアウトをカスタマイズする

- 「アプリケーションのカスタマイズ」

Wave REST API (パイロット): 新機能の開発

Wave REST API を使用して、Analytics Cloud のデータセットとレンズにプログラムでアクセスできるようになりました。

 **メモ:** この機能は、特定の契約条件への同意が必要なパイロットプログラムを通じて一部のお客様に提供されています。このプログラムに参加する方法については、Salesforceにお問い合わせください。パイロットプログラムは変更される可能性があるため、参加は保証されません。このドキュメント、プレスリリース、または公式声明で参照されているこのパイロット機能は正式リリースされていません。特定期間内の正式リリースや、正式リリース自体が保証されるわけではありません。現在正式にリリースされている機能に基づいて購入をご決定ください。Wave REST API で提供されるサービスは変更される可能性があります。サポートは提供されません。

Wave REST API を使用して、次の機能を実行できます。

- Wave Platform に直接クエリを送信する。
- Wave Platform にインポートされたデータセットにアクセスする。
- Analytics Cloud のレンズを取得する。

Wave REST API には、次のリソースがあります。

リソース	説明	サポートされている HTTP メソッド	リソース URL
Wave	最上位の Analytics Cloud リソースをリストします。	GET	/services/data/v34.0/wave
Query	Salesforce Analytics Query Language (SAQL) で記述されたクエリを実行します。	POST	/services/data/v34.0/wave/query
Datasets List	Analytics Cloud データセットのリストを返します。	GET	/services/data/v34.0/wave/datasets
Dataset	指定された ID を持つ Analytics Cloud データセットを返します。	GET	/services/data/v34.0/wave/datasets/<dataset ID>
Version	Analytics Cloud データセットのバージョンを返す (GET) か、述語を更新 (PATCH) します。	GET、PATCH	/services/data/v34.0/wave/datasets/<dataset ID>/versions/<version ID>
File	データセットを構成するファイルへのアクセスを提供します。	GET	/services/data/v34.0/wave/datasets/<dataset ID>/versions/<version ID>/files/<file ID>
Lenses List	Analytics Cloud レンズのリストを返す (GET) か、レンズを作成 (POST) します。	GET、POST	/services/data/v34.0/wave/lenses
Lens	指定された ID を持つ Analytics Cloud レンズを返す (GET) か、レンズを削除 (DELETE) します。	GET、DELETE	/services/data/v34.0/wave/lenses/<lens ID>

これらのリソースについての詳細は、『Wave REST API Developer's Guide』(Wave REST API 開発者ガイド)を参照してください。

SAQL の機能強化 (パイロット): より強力なクエリの作成

Salesforce Analytics Query Language (SAQL) を使用して、探しているデータをレンズが的確に返すようにすることができます。SAQL は、データセットに保存されているデータのアドホック分析を可能にするリアルタイムのクエリ言語です。

SAQL は複合的です。各ステートメントに結果があり、ステートメントをまとめてチェーニングできます。Analytics Cloud は、レンズ、ダッシュボード、およびエクスプローラのバックグラウンドで SAQL を使用して視覚化のためのデータを収集します。

 **メモ:** SAQL は現在、パイロットプログラムで使用できます。プレスリリースや公式声明で参照されている未リリースのサービスまたは機能は、現在利用できず、提供が遅れたり中止されたりする可能性があります。サービスのご購入をご検討中のお客様は、現在利用可能な機能に基づいて購入をご決定ください。

このセクションの内容:

[無制限の日付サポートによる SAQL クエリの機能強化 \(パイロット\)](#)

SAQL で、絶対および相対日付検索条件として無制限の範囲がサポートされるようになりました。

関連トピック:

http://www.salesforce.com/us/developer/docs/bi_dev_guide_eql/bi_dev_guide_eql.pdf

無制限の日付サポートによる SAQL クエリの機能強化 (パイロット)

SAQL で、絶対および相対日付検索条件として無制限の範囲がサポートされるようになりました。

無制限の日付範囲により、Salesforce Analytics Query Language (SAQL) で、「List all opportunities closed after 12/23/2014 (2014 年 12 月 23 日より後に成立したすべての商談をリストする)」や「Get a list of marketing campaigns from before 04/2/2015 (2015 年 4 月 2 日より前のマーケティングキャンペーンのリストを取得する)」のようなクエリを作成できるようになりました。

無制限の相対日付検索条件は、次のようになります。

```
a = filter a by date('year','month','day')in[.."current month"]
```

このリリースの新しい SAQL 日付関数は次のとおりです。

- **now()**: UTC (GMT カレンダー) で現在の日時を返します。
- **toDate (dateStr, [formatStr])**: 文字列を日付に変換します。形式文字列が指定されない場合は、デフォルトの形式 `yyyy-MM-dd HH:mm:ss` を使用します。
- **toDate (epoch_sec)**: UNIX のエポック秒を日付に変換します。注意: エポック秒が 0 の場合、`toDate(epoch_sec)` は「1970-01-01 00:00:00」を返します。
- **daysBetween (date1, date2b)**: 2つの日付間の日数を整数で返します。
- **toString (date, formatStr)**: 日付を文字列に変換します。

モバイル: 外出先で実行できる操作の増加

Salesforce1 アプリケーションについては、Summer'15 で主として、パフォーマンスおよび信頼性の向上により営業担当のモバイル操作を高めることに焦点が当てられています。他にも、ワークフローを合理化するリッチテキストのメモ取りツール(ベータ)や、評価済みリードを取引先責任者に変換して収益のパイプラインを増加させ、プロセスの一環で新しい取引先を作成する機能(今回正式リリース)を備えるなど、ユーザにとって嬉しい機能拡張が行われています。さらに、ユーザが外出先で必要な操作を行えるように、Salesforce1 アクションバーのアクションの選択および配置をカスタマイズできるようになりました。Summer '15 の他の変更点として、Google Play から Chatter Mobile アプリケーションが削除され、Mobile Dashboards for iPad のサポートが終了しました。

このセクションの内容:

[Salesforce1](#)

Salesforce1 モバイルアプリケーションにより、ユーザはどこにいても、特に重要なレコード、活動、会話、ダッシュボード、レポートの最新情報を知ることができます。Summer'15 では、パフォーマンスおよび信頼性の向上を中心に、外出先の営業担当の操作性がさらに改善されています。

[Summer '15 以降の Chatter Mobile for Android のサポートの終了](#)

Summer '15 リリース直後、Chatter Mobile for Android バージョン 3.4 が Google Play から削除され、Salesforce でサポートされなくなります。引き続き Salesforce データへのモバイルアクセスが必要なユーザは、できる限り早く Salesforce1 for Android ダウンロード可能アプリケーションに切り替えることをお勧めします。

[Summer '15 以降の Mobile Dashboards for iPad アプリケーションのサポートの終了](#)

Summer '15 リリース以降、Mobile Dashboards for iPad アプリケーションが App Store から削除され、Salesforce でサポートされなくなります。現在 Mobile Dashboards for iPad アプリケーションを使用しているお客様には、Salesforce1 モバイルアプリケーションに切り替えることをお勧めします。

関連トピック:

[モバイル機能が使用可能になる方法と状況](#)

Salesforce1

Salesforce1 モバイルアプリケーションにより、ユーザはどこにいても、特に重要なレコード、活動、会話、ダッシュボード、レポートの最新情報を知ることができます。Summer '15 では、パフォーマンスおよび信頼性の向上を中心に、外出先の営業担当の操作性がさらに改善されています。

このセクションの内容:

[Salesforce1 モバイルアプリケーションへのアクセス](#)

モバイルデバイスで Salesforce1 にアクセスする方法は複数あります。

[このリリースでの Salesforce1 の機能強化](#)

Salesforce1 の一連の新機能と改善された機能により、外出先でさらに簡単に Salesforce にアクセスできるようになります。

Salesforce1 と Salesforce フルサイトとの違い

Salesforce1 アプリケーションには Salesforce フルサイトのすべての機能はありません。また、フルサイトでは使用できない機能がいくつかあります。

Salesforce1 アプリケーション開発の概要

Force.com プラットフォームの次の機能強化は、Salesforce1 の開発をサポートします。

Salesforce1 モバイルアプリケーションへのアクセス

モバイルデバイスで Salesforce1 にアクセスする方法は複数あります。

- Salesforce1 ダウンロード可能アプリケーションを Android™ および Apple® モバイルデバイスにインストールします。ユーザは App Store または Google Play™ からアプリケーションをダウンロードできます。
- Android、Apple、および Windows 8.1 端末およびタブレットを含む、サポート対象デバイスでサポートされているモバイルブラウザから Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションにアクセスします。この方法では、何もインストールする必要はありません。

サポートされているデバイスおよびブラウザについての詳細は、Salesforce ヘルプの「Salesforce1 アプリケーションの使用の要件」を参照してください。

このリリースでの Salesforce1 の機能強化

Salesforce1 の一連の新機能と改善された機能により、外出先でさらに簡単に Salesforce にアクセスできるようになります。

Salesforce1 は、追加ライセンスなしで、すべてのエディション (Database.com Edition を除く) で使用できます。ただし、Salesforce1 で使用できる Salesforce のデータや機能は、組織の Salesforce エディションとライセンス、およびユーザに割り当てられているプロファイルと権限セットによって決まります。

 **メモ:** お気づきのとおり、一部の新機能は Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションでのみ使用できます。これらの機能強化の多くは、Android および iOS デバイス用の Salesforce1 ダウンロード可能アプリケーション向けに今後更新されるため心配いりません。ダウンロード可能アプリケーションの新しいバージョンが Google Play および App Store でリリースされる時期についての詳細は、改めてご連絡させていただきます。

Salesforce1 for Android のバージョン 7.2 の機能強化についてのリストは、「[最新の Salesforce1 ダウンロード可能アプリケーションの新機能](#)」を参照してください。

Salesforce1 の機能強化	Android ダウンロード可能アプリケーション	iOS ダウンロード可能アプリケーション	モバイルブラウザアプリケーション	フルサイトの [設定]
設定・定義の機能強化				
Salesforce1 アクションバーおよびリスト項目のアクションの選択および配置をカスタマイズする。	✓ (バージョン 7.0 以降)	✓ (バージョン 7.0 以降)	✓	✓

Salesforce1 の機能強化	Android ダウンロード可能アプリケーション	iOS ダウンロード可能アプリケーション	モバイルブラウザアプリケーション	フルサイトの [設定]
ポイント & クリックツールの Lightning App Builder を使用して、カスタムアプリケーションのホームページを作成し、Salesforce1 ナビゲーションメニューでユーザに公開できるようにする。(正式リリース)	✓	✓	✓	✓
廃止された [パブリッシャーアイコン] 項目が [設定] の [Salesforce1 のブランド設定] ページから削除される。				✓
デバイスおよびブラウザのサポート				
iOS 7 デバイスでの Salesforce1 のサポートが終了する。 Salesforce1 ダウンロード可能アプリケーションの今後のバージョンでは、iOS 8 以降が必要です。		✓	✓	
Apple Watch で Salesforce1 転送通知を取得する。		✓		
サポートされるデータの機能拡張				
レコードを作成または編集時に州選択リストと国選択リストを使用する。	✓	✓	✓	✓
Lightning Connect を使用してより多くの外部データにアクセスする。		✓	✓	✓
ナビゲーションおよびアクションの機能強化				
タブレットを操作時にオブジェクトのホームページ、リストビュー、検索結果を使用して容易にナビゲーションする。			✓	
さまざまな Salesforce URL を Salesforce1 で直接開く。	✓ (バージョン 7.2 以降)	✓ (バージョン 7.0 以降)		
カスタムアクションとして使用する Visualforce ページを作成する場合にアクションヘッダーを非表示にして、標準ボタンがページに指定されたボタンと競合しないようにする。	✓	✓	✓	✓
[電話] という新しい名前に変更された旧名称 [通話または記録] 生産性アクションにアクセスする。	✓ (バージョン 7.0 以降)	✓ (バージョン 7.0 以降)	✓	

Salesforce1 の機能強化	Android ダウンロード可能アプリケーション	iOS ダウンロード可能アプリケーション	モバイルブラウザアプリケーション	フルサイトの [設定]
標準住所項目の Google マップ画像が [地図] 生産性アクションに置き換えられ、Salesforce1 のアクションバーで使用できなくなる。	✓	✓	✓	✓
取引先ニュースが [ニュースを閲覧] 生産性アクションに置き換えられ、Salesforce1 のアクションバーで使用できなくなる。	✓	✓	✓	✓
検索の機能強化				
グローバル検索を使用して [すべての会社] フィードの投稿を検索する。			✓	
営業の生産性の機能強化				
ワークフローを合理化し、すばやく作成できる他のレコードに簡単に関連付けられるリッチテキストのミーティングメモを使用して生産性を高める。(ベータ)	✓	✓	✓	
商談のフェーズの変更時に主な関連項目を自動的に更新する。	✓	✓	✓	
価格表を商品に関連付ける。	✓	✓	✓	✓
評価済みリードを取引先責任者に変換し、その取引先を作成する。変換時にリードソースを選択して、重複する取引先責任者または取引先の作成を回避する。(正式リリース)	✓	✓	✓	✓
活動の機能強化				
指でスワイプして、メモの項目から ToDo を直接作成する。(ベータ)	✓	✓	✓	
Work.com の機能強化				
拡張目標を使用して作業に関連する目標や総計値を的確に追跡する。(正式リリース)	✓	✓	✓	✓
カスタマーサービスツールの機能強化				
記事の参照時にファイル項目の内容を確認する。			✓	
Chatter の機能強化				
おすすめを閉じて、フィードに表示されなくする。			✓	
投稿に複数のトピックを追加する。			✓	

Salesforce1 の機能強化	Android ダウンロード可能アプリケーション	iOS ダウンロード可能アプリケーション	モバイルブラウザアプリケーション	フルサイトの [設定]
[メンバー] 関連リストから直接グループメンバーを管理する。	✓	✓	✓	
グループリストビューに的を絞った情報を表示する。	✓	✓	✓	
Salesforce Communities の機能強化				
コミュニティのレコードの承認関連リストから承認申請を承認または却下する。	✓	✓	✓	✓
コミュニティの Chatter グループにレコードを追加する。	✓	✓	✓	
異なる場所からのコミュニティフィードのカスタムおすすめ情報の作成			✓	✓
ビジネスロジックおよびプロセスの自動化の機能強化				
すべてが一元管理されている場所から、未承認の状況を表示したり、承認申請を承認または却下したりする。	✓ (バージョン 7.2 以降)	✓ (バージョン 6.0 以降)	✓	✓
一時停止中のフローインタビューを再開または削除する。	✓ (バージョン 7.2 以降)		✓	✓
通知の機能強化				
グループへの投稿に関するアプリケーション内通知を受信する。	✓	✓	✓	✓
その他の機能強化				
ページの読み込み中に改善されたビジュアルフィードバックを表示する。	✓	✓	✓	
[Salesforce1 の設定] ページで[オフラインキャッシュ]という新しい名前に変更された旧名称[オフライン同期]リンクにアクセスする。				✓
セキュリティの機能強化				
継続的な新しい IP 適用設定が Salesforce1 ダウンロード可能アプリケーションユーザの現在のセキュリティポリシーとどのように連動するするかを学習する。	✓	✓		✓

Salesforce1 の機能強化	Android ダウンロード可能アプリケーション	iOS ダウンロード可能アプリケーション	モバイルブラウザアプリケーション	フルサイトの [設定]
プラットフォームの暗号化機能で暗号化された機密データを表示する。	✓	✓	✓	✓

最新の Salesforce1 ダウンロード可能アプリケーションの新機能

Salesforce1 for Android ダウンロード可能アプリケーションのバージョン 7.2 の新機能の概要は次のとおりです。

- ナビゲーションメニューから [承認] アプリケーションにアクセスし、未承認の状況を表示したり、承認申請を承認または却下したりする
- ナビゲーションメニューの [一時停止中のフローインタビュー] 項目を使用して、一時停止中のフローインタビューを再開または削除する
- URL スキームを使用して、外部アプリケーションからの Salesforce1 の特定ページへのアクセスをユーザに許可する

Salesforce1 for Android バージョン 7.2 は、Google Play からダウンロードできます。

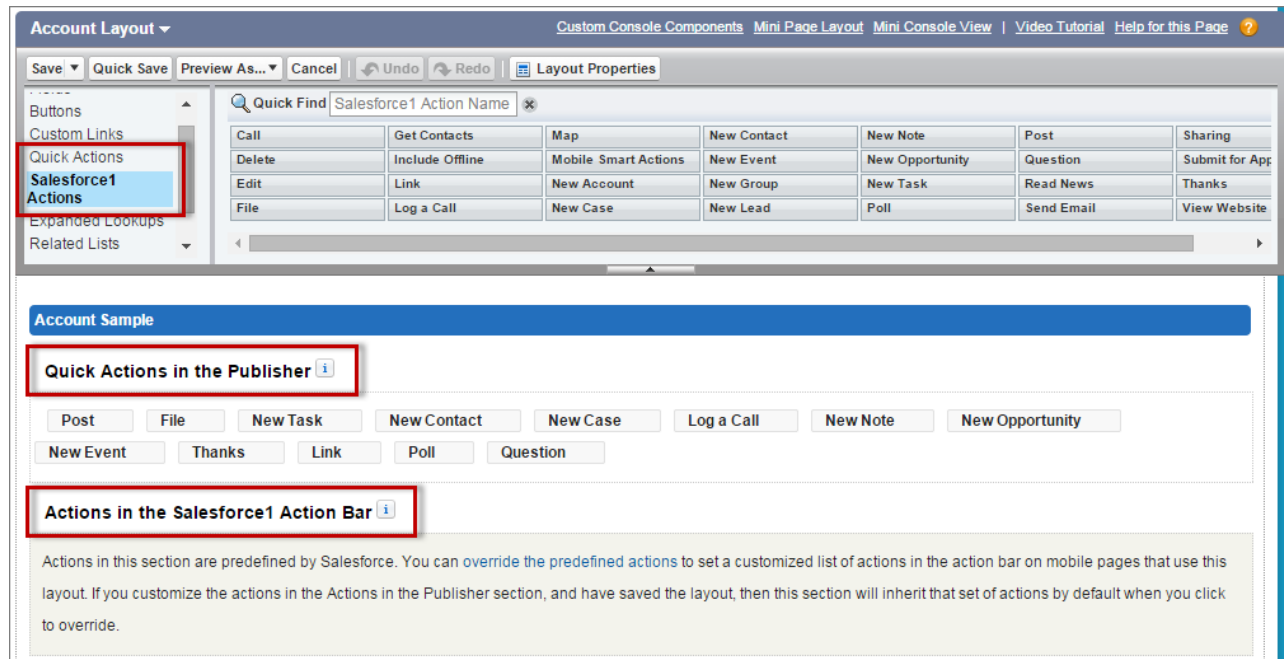
Salesforce1 のアクションバーのアクションのカスタマイズ

Salesforce1 モバイルアプリケーションに Salesforce とは異なる一連のアクションを割り当てて、モバイルユーザが外出先で必要な業務に集中できるようにします。Salesforce1 のすべてのアプリケーションでは、オブジェクトごとに、アクションバーおよびリスト項目アクションのクイックアクション、生産性アクション、標準およびカスタムボタンの選択や順序をカスタマイズできます。

このカスタマイズを有効にするために、グローバルパブリッシャーレイアウトおよびオブジェクトページレイアウトに新しいセクションが追加され、既存のアクションセクションの名前が変更されました。パレットの [アクション] カテゴリが [クイックアクション] という名前になり、[Salesforce1 アクション] という新しいカテゴリが追加されました。

エディション

カスタマイズしたアクションを使用可能なエディション: **Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、**Contact Manager** Edition、および **Developer** Edition



アクションを次のセクションに追加できるようになりました。

パブリッシャーのクイックアクション

このセクションには、パレットの[クイックアクション]カテゴリのアクションのみを含めることができます。このセクションのアクションは、Salesforce フルサイトの Chatter パブリッシャーに表示されます。

Salesforce1 のアクションバーのアクション

このセクションには、パレットの[Salesforce1 アクション]カテゴリのアクションのみを含めることができます。オブジェクトページレイアウトでは、[Salesforce1 アクション] カテゴリに、クイックアクション、生産性アクション、標準およびカスタムボタンをはじめ、オブジェクトに使用可能な全種類のアクションが含まれます。このセクションのアクションは、Salesforce1 のアクションバーおよびアクションメニューに表示されます。

[パブリッシャーのクイックアクション]セクションをカスタマイズし、アクションバーセクションはカスタマイズしなかった場合、Salesforce1 アクションバーには、[パブリッシャーのクイックアクション]セクションからクイックアクションが継承されます。

重要: グローバルパブリッシャーレイアウトおよびオブジェクトレイアウトの古い[パブリッシャーのアクション]セクションに加えたカスタマイズは、新しい[Salesforce1 のアクションバーのアクション]セクションのカスタマイズを選択するまで、Salesforce1 のアクションバーに引き続き入力されます。

どちらのセクションのアクションもカスタマイズしない場合は、Salesforce で定義済みのデフォルトのアクションセットがアクションバーに継承されます。この一連のアクションは、各オブジェクトに必要な最も一般的または典型的な活動に基づいて、オブジェクトごとに異なります。Salesforce1 のアクションバーのデフォルトのアクションの順序についての詳細は、Salesforce ヘルプの「Salesforce1 のアクションバーおよびリスト項目アクションでのアクションの順序」を参照してください。

レイアウトの[Salesforce1 のアクションバーのアクション]セクションをカスタマイズした場合は、Salesforce1 ユーザーが Salesforce1 のオブジェクトまたはページで作業するときに、選択したアクションのみが追加した順序で表示されます。

Lightning App Builder を使用したカスタムアプリケーションページの作成 (正式リリース)

Lightning App Builder は、Salesforce1 のカスタムアプリケーションページを簡単に作成するためのポイント & クリックツールです。Lightning App Builder では、さまざまなコンポーネントを1つのアプリケーションホームページにまとめて、Salesforce1 ユーザに必要な操作をすべて1か所で行うことができます。カスタムモバイルアプリケーションの [アプリケーションホーム] ページを作成して、Salesforce1 ナビゲーションメニューに追加すると、ユーザがアプリケーションの特に重要なオブジェクトや項目にすばやくアクセスできるようになります。カスタムの [アプリケーションホーム] ページをはじめ Lightning ページは、すべての Salesforce1 アプリケーションでサポートされます。

Lightning App Builder を使用して、次のような [アプリケーションホーム] ページを作成できます。

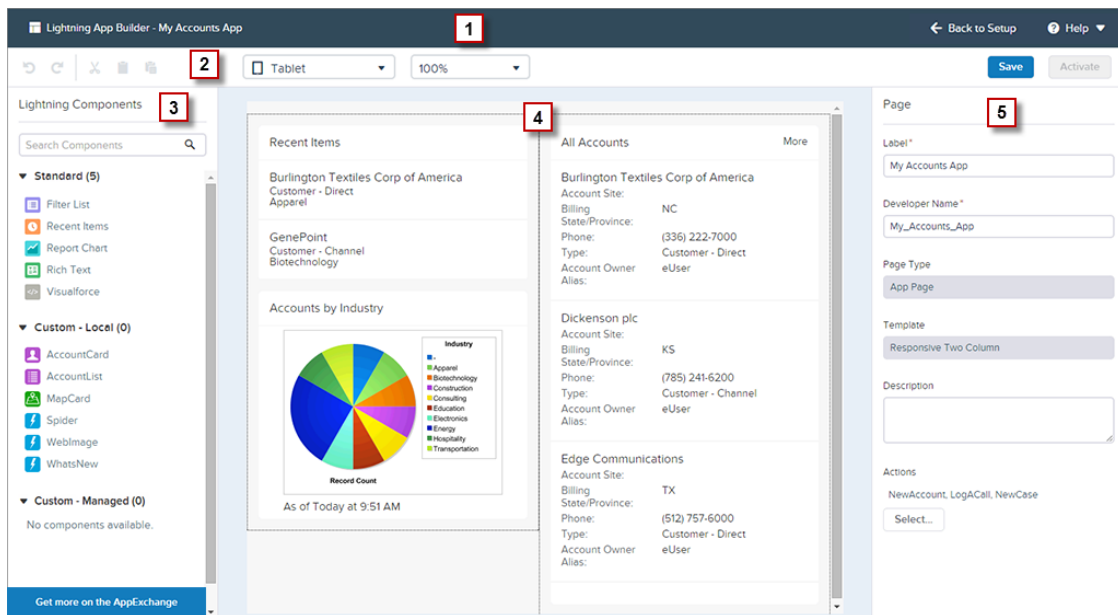
- 標準ページにドリルダウンする単一ページアプリケーション
- 四半期の上位の販売見込み客や主要なリードを追跡するアプリケーションなど、ダッシュボードスタイルのアプリケーション
- ユーザが経費を入力して監視する経費アプリケーションなど、特定の作業に対処する「ポイント」アプリケーション

Lightning App Builder には、[設定] の [ビルド] セクションからアクセスします。Lightning App Builder のユーザーインターフェースを使用すると、Salesforce1 のアプリケーションページを簡単に作成できます。このツールの各部の詳細を次に示します。

エディション

Lightning App Builder を使用可能なエディション:

Group Edition、
Professional Edition、
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition



ヘッダー (1)

ヘッダーには Lightning ページの表示ラベルが示されます。このヘッダーから、保存せずに [設定] に戻ることや詳細ヘルプを表示することができます。

ツールバー (2)

ツールバーのボタンを使用して、ページコンテンツの切り取り()、コピー()、貼り付け()を行うことができます。また、元に戻す()、やり直し()、保存、[アプリケーションホーム]ページの有効化も実行できます。さらに、ページを異なる形式で表示したり、ビューに合わせてキャンバスのサイズを調整したりすることもできます。

Lightning コンポーネントペイン (3)

コンポーネントペインには、[アプリケーションホーム] ページでサポートされている標準およびカスタムの Lightning コンポーネントがすべて含まれます。コンポーネントをクリックして、追加するページまでドラッグします。

ペインの下部のボタンを使用して、AppExchange にあるサードパーティのカスタムコンポーネントにもアクセスできます。

キャンバス (4)

キャンバスはページを作成するエリアです。

プロパティペイン (5)

プロパティペインにはページで選択している内容に応じて、ページ全体のプロパティまたは選択したコンポーネントのプロパティのいずれかが表示されます。

Lightning ページは、Lightning App Builder の基盤となる技術です。Lightning ページは、Lightning コンポーネントを使用して作成されます。これらのコンポーネントは設定および再利用が可能なコンパクトな要素で、Lightning App Builder にドラッグアンドドロップできます。

Lightning App Builder では、標準、カスタム、サードパーティのコンポーネントを使用できます。

標準コンポーネント

標準コンポーネントとは、Salesforce が作成した Lightning コンポーネントです。Lightning App Builder は、次の標準 Lightning コンポーネントをサポートします。

- リストの絞り込み (リストビュー)
- 最近使ったデータ
- レポートグラフ
- リッチテキスト
- Visualforce ページ

カスタムコンポーネント

カスタムコンポーネントとは、各自が作成した Lightning コンポーネントです。一部の変更を加え、カスタム Lightning コンポーネントは、Lightning App Builder で機能できます。詳細は、[『Lightning コンポーネント開発者ガイド』](#)を参照してください。

AppExchange のサードパーティコンポーネント

AppExchange には、Lightning コンポーネントのマーケットプレイスがあります。設定済みのコンポーネントが含まれ、Lightning App Builder ですぐに使用できるパッケージが見つかります。

アクションはアプリケーションにインタラクティブに追加されます。Lightning App Builder の [アプリケーションホーム] ページにはグローバルアクションを追加できます。ユーザが Salesforce1 のページにアクセスすると、ページのアクションバーに割り当てられたグローバルアクションが表示されます。

Lightning App Builder の使用方法についての詳細は、Salesforce ヘルプを参照してください。

Visualforce カスタムアクションのアクションヘッダーの非表示

カスタムアクションとして使用する Visualforce ページを作成するときに、アクションヘッダーを非表示にするように選択できます。アクションヘッダーを非表示にすると、特に Visualforce ページに独自のボタンを指定している場合など、ユーザが困惑するのを防止できます。

ヘッダーを非表示にするには、`showQuickActionVfHeader` 属性をカスタム Visualforce アクションに追加し、値を `false` に設定します。Visualforce カスタムアクションが Salesforce1 で表示される場合、ヘッダーと [キャンセル] および [保存] ボタンは表示されません。この属性を使用しても、Salesforce フルサイトでのアクションの表示方法に影響はありません。

`showQuickActionVfHeader` を指定しないと、値はデフォルトの `true` になります。

エディション

使用可能なエディション:

Group Edition、
Professional Edition、
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、**Contact Manager** Edition、
Database.com Edition、および **Developer** Edition

リッチテキストミーティングメモによる生産性の向上 (ベータ)

モバイルユーザワークフローの合理化は、組織の生産性を向上し Salesforce1 を最大限に活用するための最重要の処理の1つです。そのため、Salesforce のメモ取りツールの拡張バージョンとして Notes が導入され、より適切なメモをすばやく取れるようになりました。Notes は、Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーション (BlackBerry デバイスを除く)、Android デバイス向けの Salesforce1 ダウンロード可能アプリケーションのバージョン 6.0 以降、iOS デバイス向けの Salesforce1 ダウンロード可能アプリケーションのバージョン 6.0.2 以降で使用できます。

 **メモ:** このリリースには、メモのベータバージョンが含まれています。本番品質ではありますが、既知の制限があります。フィードバックと提案は、[Salesforce Success コミュニティ](#)からお寄せください。

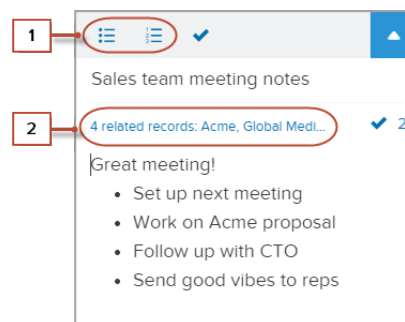
Notes では、次の操作を簡単に行えます。

- アクションバーの  をタップしてメモを作成する。
- Notes のツールバーにあるアイコン (1) を使用して、箇条書きや番号付きリストをメモに追加する。
- [レコードに関連付ける] をタップして、メモを他のレコードに関連付ける。関連レコードを変更するには、関連レコードの名前をタップします (2)。
- ToDo を作成し、メモから関連 ToDo を直接操作する。
- Salesforce1 ナビゲーションメニューの [メモ] を選択して、メモを表示および検索する。

エディション

メモを使用可能なエディション:

Group Edition、
Professional Edition、
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、**Contact Manager** Edition、および **Developer** Edition



Notes で可能な操作についての詳細は、動画をご覧ください。 [Notes の使用方法](#) (1 分 34 秒)。

Notes を Salesforce1 で使用できるように有効化および設定する方法は、「[Notes の設定](#)」(ページ 122)を参照してください。

Salesforce1 での商談への価格表の関連付け

営業担当者は、外出中に商談の価格表を追加または変更できるようになりました。[価格表] 項目が商談で使用できるようになったため、ユーザが任意のバージョンの Salesforce1 モバイルアプリケーションを使用してこの情報を追加可能なクイックアクションを作成できます。

Salesforce1 から価格表を関連付けるオプションを追加する手順は、次のとおりです。

1. クイックアクションを作成し、アクション種別として[レコードを更新]を選択します。Salesforce ヘルプの「オブジェクト固有のアクションの作成」を参照してください。
2. アクションレイアウトに[価格表]項目を追加します。アクションの焦点を価格表に絞るため、不適切なその他の項目を削除します。Salesforce ヘルプの「アクションレイアウトエディタを使用したパブリッシャーアクションのカスタマイズ」を参照してください。
3. 新しいアクションを商談ページレイアウトの Salesforce1 アクションバーに追加します。Salesforce ヘルプの「高度なページレイアウトエディタを使用したアクションのカスタマイズ」を参照してください。

エディション

価格表を使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

取引先責任者へのリードの変換 (正式リリース)

外出中の営業担当は、評価済みリードを取引先責任者に変換することができるほか、取引先や商談を作成することもできます。このオプションは、Salesforce1 の全バージョンで使用できます。

営業担当は変換しようとするリードの重複する取引先責任者を特定するだけでなく、リードの変換プロセス中に取引先を作成することもできます。このため、営業チームがリードを取引先責任者に変換するときに選択する対象が、Salesforce の既存の取引先に限定されません。

このオプションを営業担当が使用できるようにする手順は簡単です。Salesforce フルサイトの [設定] から、[カスタマイズ] > [リード] > [設定] をクリックして、Salesforce1 アプリケーションでの変換を有効にするオプションを選択します。

リードの変換時のリードソースの選択

営業担当が Salesforce1 を使用してリードを既存の取引先責任者に変換する場合、既存の取引先責任者のリードソースを維持するか、変換されたリードのリードソースに置換するかを選択できます。

リードの変換時のリードソースの重複の回避

重複管理に設定した重複ルールに応じて、Salesforce1 を使用する営業担当が、リードの変換時に取引先および取引先責任者の重複の可能性についてのアラートを受信できるようになりました。営業担当は、重複が生じる可能性のあるレコードを保存するか、一切の重複を回避するために他のレコードを選択するかを決定できます。詳細は、Salesforce ヘルプの「重複管理の概要 (ベータ)」を参照してください。

エディション

リードの変換を使用可能なエディション: **Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

スワイプ操作によるメモからの ToDo の作成 (ベータ)

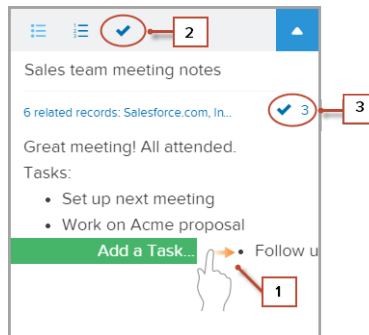
Salesforce1 モバイルアプリケーションの新しいメモ取りツールである Notes を使用して、ユーザは簡単なスワイプ操作でリスト項目を ToDo にすばやく変えることができます。Notes は、Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーション (BlackBerry デバイスを除く)、Android 向けの Salesforce1 ダウンロード可能アプリケーションのバージョン 6.0 以降、iOS 向けの Salesforce1 ダウンロード可能アプリケーションのバージョン 6.0.2 以降で使用できます。

-  **メモ:** このリリースには、メモのベータバージョンが含まれています。本番品質ではありませんが、既知の制限があります。フィードバックと提案は、[Salesforce Success コミュニティ](#)からお寄せください。

ユーザは、メモから ToDo をすぐに作成できます。

- メモの任意の行、箇条書き項目、または番号付き項目 (1) をスワイプする。
- または行をタップするか一部のテキストを強調表示してから、ツールバーの  (2) をタップする。

行、項目、または強調表示されたテキストが自動的に新しい ToDo の件名になり、ToDo がメモに関連付けられます。関連レコード領域の  (3) をクリックすると、関連 ToDo が表示され、それらの ToDo が完了とマークされます。ToDo をユーザの ToDo リストから操作することもできます。



Notes の設定についての詳細は、「[Notes の設定](#)」(ページ 122)を参照してください。

未承認申請一覧を 1 か所で表示

Salesforce1 では、未承認申請一覧が一元管理され、外出中の未承認の追跡や申請への応答が容易になります。この機能が、Android デバイス用のバージョン 7.2 の Salesforce1 ダウンロード可能アプリケーションで使用できるようになりました。以前はこの機能が、iOS デバイス用のバージョン 6.0 の Salesforce1 ダウンロード可能アプリケーションおよび Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションでリリースされていました。

承認申請を表示するには、Salesforce1 ナビゲーションメニューを開き、[承認] (または iOS ダウンロード可能アプリケーションの [承認申請]) をタップします。現在のユーザの未承認のリストが表示されます。具体的な承認申請をタップして申請の詳細を表示してから、[承認] または [却下] をタップします。承認者は、通知をタップして、承認申請の表示、申請の詳細の表示、申請の承認または却下も実行できます。

エディション

Notes を使用可能なエディション: **Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、**Contact Manager** Edition、および **Developer** Edition

エディション

承認を使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

この項目は、デフォルトでナビゲーションメニューに表示されます。レイアウトは、フルサイトで [設定] メニューを使用して設定できます。

詳細は、Salesforce ヘルプの「Salesforce1 での承認: 制限と Salesforce フルサイトとの違い」を参照してください。

一時停止中のすべてのフローインタビューを1か所で表示

フローを操作するユーザの場合、一時停止中のすべてのフローインタビューが Salesforce1 で一元的に表示され、外出中にインタビューを再開しやすくなりました。この機能が、Android デバイス用のバージョン 7.2 の Salesforce1 ダウンロード可能アプリケーションで使用できるようになりました。この機能は Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションでも使用できます。

フローは、ロジックの実行、Salesforce データベースの操作、Apex クラスのコール、ユーザからのデータの収集を行えるアプリケーションです。CloudFlowDesigner を使用して、フローを作成できます。たとえば、フローにより、ユーザが以前に携帯電話で行った選択内容に基づいて異なる質問を示すコールスクリプトをサポート担当に順を追って説明できます。これにより、サポート担当は、顧客がすでに所有している製品を販売することがなくなります。フローインタビューは、フローの実行中のインスタンスです。

一時停止中のインタビューを Salesforce1 で表示するには、ナビゲーションメニューから [一時停止中のフローインタビュー] を選択します。現在のユーザが一時停止したフローインタビューが、リストに表示されます。特定のインタビューをタップして詳細を表示してから、[再開] または [削除] をタップできます。ユーザが一時停止する前に入力した有効な値はインタビューにすべて保存されるため、再開するときにその情報を再入力する必要はありません。

デフォルトでは、[一時停止中のフローインタビュー] 項目が Salesforce1 ナビゲーションメニューに表示されます。この項目をナビゲーションメニューで表示する場所をカスタマイズできます。Salesforce フルサイトの [設定] から、[Salesforce1 の設定] > [モバイルナビゲーション] をクリックします。

エディション

フローを使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

グループへの投稿に関するアプリケーション内通知の受信

モバイルユーザは、Salesforce1 の全バージョンを対象とする新しいアプリケーション内通知種別で、自分が属するグループの新しい投稿を (自分が特にメンションされていなくても) 知ることができます。グループフィードのメンションや新規コメントによって通知がトリガされることはありません。グループ通知は、組織で Salesforce1 のアプリケーション内通知が有効になっている場合にのみ使用できます。

グループ通知には、投稿した同僚の名前と投稿したグループが示されます。同日に複数のユーザがグループに投稿した場合は、新しい通知ごとにその時点までの投稿の総数が示されます。

ユーザがグループ通知を使用できるようにするには、Salesforce1 のアプリケーション内通知が有効になっている必要があります。Salesforce フルサイトの [設定] から、[Salesforce1 の設定] > [通知オプション] をクリックします。

ユーザは、Salesforce フルサイトの目的とする各グループのページで [すべての投稿にメールを送信] オプションを選択して、各自のグループ通知を有効にします。このオプションが、標準のメール通知に加え、Salesforce1 のグループのアプリケーション内通知種別でも有効になりました。

エディション

グループを使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

 **メモ:** 現在、グループへの投稿に関する転送通知は使用できません。

グループのアプリケーション内通知は、コミュニティではサポートされていません。

iOS 7 デバイスでの Salesforce1 のサポート終了

Summer '15 のリリース直後に、Salesforce1 for iOS ダウンロード可能アプリケーションのバージョン 7.3 が App Store からダウンロードできるようになります。このバージョンは、iOS 8 以降が稼動している iOS デバイスにのみインストールできます。バージョン 7.3 リリースの iOS 7 における Salesforce1 のサポート、およびそれ以前のバージョンの Salesforce1 for iOS ダウンロード可能アプリケーションのサポートは、正式に終了となります。組織が円滑に移行できるように、バージョン 7.3 のインストールを開始する前に、ユーザのデバイスを iOS 8 に更新することをお勧めします。

iOS 8 は、Salesforce1 の使用がサポートされているすべての iOS デバイスに無料でインストールできます。デバイスのアップグレードについてのヘルプは、Apple サポートサイトの「[Update the iOS software on your iPhone, iPad, and iPod touch](#)」を参照してください。Salesforce1 がサポートされている iOS デバイスの完全なリストは、Salesforce ヘルプの「Salesforce1 アプリケーションの使用の要件」を参照してください。

ユーザは以前にインストールされた旧バージョンの Salesforce1 を iOS 7 が稼動しているデバイスで引き続き使用できますが、発生した問題の Salesforce によるサポートは行われません。

Summer '15 では、Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションは iOS 8 以降が稼動しているデバイスでサポートされます。ユーザは引き続き iOS 7 デバイスでモバイルブラウザアプリケーションにアクセスできますが、Salesforce が対応しないパフォーマンス上の問題やその他の問題が発生する可能性があります。

Salesforce1 のその他の変更

Salesforce1 アプリケーションのその他の変更

Salesforce1 の設定およびロールアウトのその他の機能強化

廃止されたパブリッシャーアイコン項目の [Salesforce1 のブランド設定] ページからの削除

[パブリッシャーアイコン] 項目が [Salesforce1 のブランド設定] ページから削除されました。このページには、[設定] で [Salesforce1 の設定] > [ブランド] をクリックするとアクセスできます。パブリッシャーアイコンは、Winter '15 に Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションから削除され、ダウンロード可能アプリケーションではバージョン 7.0 以降から削除されています。さらに古いバージョンのダウンロード可能アプリケーションはすでにサポートされていないため、これで [パブリッシャーアイコン] 項目は廃止となりました。

デバイスおよびブラウザのサポートのその他の機能強化

Apple Watch での Salesforce1 通知の取得

iPhone デバイスで使用する場合、Salesforce1 for iOS アプリケーションはすべての Salesforce1 転送通知を Apple Watch に配信するため、モバイルユーザは手首を返すだけでアラートと重要な更新を確認できます。

サポートされているデータのその他の機能強化

州選択リストと国選択リストへのアクセス

州選択リストと国選択リストを、Salesforce1の全バージョンで使えるようになりました。州選択リストと国選択リストを使用すると、ユーザが州および国のデータをテキスト項目に直接入力する代わりに、事前定義された標準リストから州および国を選択できます。最初に組織で州選択リストと国選択リストを有効にする必要があります。詳細は、Salesforceヘルプの「[州選択リストと国選択リストの有効化/無効化](#)」を参照してください。

Lightning Connect を使用した外部データへのアクセス

Lightning Connect を使用すると、Salesforce1 for iOS ダウンロード可能アプリケーションと Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションのユーザが組織外に保存されているデータを表示および検索できます。Lightning Connect は、Web サービスコールアウト経由で外部データにリアルタイムにアクセスし、Salesforce 外部オブジェクトにそのデータを表示します (Lightning Connect を使用可能なエディションは Developer Edition で、追加購入で使用可能なエディションは Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition です)。

以前は、外部システムのデータを公開する Open Data Protocol にしかアクセスできませんでした。今回のリリースで、より多くの種類の外部システムにアクセスできるようになったため、Salesforce1 ユーザを含むすべてのユーザがビジネスの全体像を把握しやすくなります。詳細は、「[Lightning Connect](#)」(ページ 210)を参照してください。

ナビゲーションおよびアクションのその他の機能強化

長いリストを表示時のスクロールの簡易化およびコンテキストの向上(タブレットのみ)

タブレットでSalesforce1 モバイルブラウザアプリケーションを使用すると、オブジェクトのホームページおよびリストビューや検索結果に表示される情報を簡単に操作できます。ユーザは、ナビゲーションボタンを使用して複数のページを切り替える代わりに、レコードの長いリストをシームレスにスクロールできます。さらに、スクロール時も列のヘッダーがページの上部に表示されるため、ユーザは常に参照しているデータのカテゴリを識別できます。

Salesforce1 ダウンロード可能アプリケーションでさまざまな Salesforce URL を直接開く

Salesforce1 for Android ダウンロード可能アプリケーションのバージョン 7.2 では、Salesforce1 for iOS アプリケーションと同様に URL スキームがサポートされるようになりました。ユーザがモバイルデバイスで Salesforce URL ハイパーリンクをタップするか、ブラウザアドレスバーに Salesforce URL を入力すると、Salesforce1 で直接そのページが表示されます。ユーザはアプリケーションの目的の情報に手動で移動する必要がなくなります。

たとえば、ユーザが取引先の Salesforce URL を同僚にメールで送信できます。Salesforce1 ダウンロード可能アプリケーションを使用している同僚がメール内のリンクをタップすると、アプリケーションで取引先レコードが自動的に開かれます。

システム管理者または開発者は、URL スキームをカスタマイズして Salesforce1 の起動時に特定のアクションを実行できます。詳細は、「[Salesforce1 Mobile URL Schemes](#)」を参照してください。

通話または記録アクションの名前変更

[通話または記録]  生産性アクションの名前が[電話]に変更されました。この変更の理由は、このアクションの主たる用途を明確にし、[活動の記録]クイックアクションと区別するためです。[電話]アクションの機能に変わりはなく、引き続き[電話]を使用して、最初に電話をかけなくてもレコードにメモを記録できます。ただし、この種の活動は通常、[活動の記録]アクションを使用したほうが迅速です。この変更は、

Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションおよびダウンロード可能アプリケーションのバージョン 7.0 以降で使用できます。

[地図] 生産性アクションの Google マップ画像への置き換え

標準住所項目に地図が表示されるようになったため、ユーザは直接レコード詳細ページで取引先または取引先責任者の場所を確認できます (地図を表示するには、住所に町名・番地および市区郡に加え、都道府県、郵便番号、または国のいずれかが含まれている必要があります)。

[地図]  生産性アクションは、Spring '15 でリリースされた Google マップ画像機能に置き換えられています。標準住所項目にマップ画像が表示されるようになったため、ユーザは直接レコード詳細ページで取引先または取引先責任者の場所を確認できます (地図を表示するには、住所に町名・番地および市区郡に加え、都道府県、郵便番号、または国のいずれかが含まれている必要があります)。マップ画像をタップすると、マップアプリケーションで住所が開き、詳細を確認したり、道順を取得したりできます。詳細は、Salesforce ヘルプの「地図およびロケーションサービス」を参照してください。

以前の  アクションは、取引先、取引先責任者、または個人取引先の Salesforce1 アクションバーに表示されなくなりました。

[ニュースを閲覧] 生産性アクションの [取引先ニュース] への置き換え

[ニュースを閲覧]  生産性アクションは、Spring '15 でリリースされた取引先ニュース機能に置き換えられています。営業担当者は、取引先の関連情報ページから取引先に関するパーソナライズされた最新ニュースを直接閲覧できます。[設定] で [Salesforce1 の設定] > [取引先ニュース] をクリックし、取引先ニュースが有効になっていることを確認してください。詳細は、Salesforce ヘルプの「Salesforce1 モバイルアプリケーションの取引先ニュースの有効化」を参照してください。

 **メモ:** 取引先ニュースは、Data.com で提供される技術を使用して選定されます。取引先ニュースは英語のみで、米国内のユーザのみ利用できます。

ほとんどの取引先の場合、サードパーティのニュースプロバイダからニュースを収集する、Salesforce 独自のニュース処理プラットフォームから記事が提供されます。一致する記事がデータベースで見つからない場合は、Salesforce に登録した取引先名を使用して、取引先固有のニュースをサードパーティのニュースプロバイダから検索できます。Salesforce で実行されるクエリは、セキュリティ保護されたプロトコルを使用して実行され、個々の Salesforce ユーザにリンクされることはありません。

以前の  アクションは、取引先または個人取引先の Salesforce1 アクションバーに表示されなくなりました。

検索のその他の機能強化

グローバル検索を使用したフィード投稿の情報の検索

Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションユーザが、ヘッダーでグローバル検索を使用して ()、[すべての会社] Chatter フィードの投稿を検索できるようになりました。検索範囲バーの端までスワイプして、[フィード] をタップします。

グローバル検索を使用したフィードの検索は、他のオブジェクトの検索とは若干異なります。検索ページに最近参照した投稿のリストが表示されません。ユーザが検索ボックスにキーワードを入力している間にアプリケーションは一致する投稿の検索を開始しません。また、検索結果ページの下部にアクションバーが表示されません。

営業の生産性のその他の機能強化

商談のフェーズの変更時の主な項目の自動更新

商談レコードとセールスパスのいずれかで販売フェーズが更新されると、売上予測分類と確度(%)が自動的に更新されます。以前は、これらの項目を更新するためにはユーザが手動でページを更新する必要がありました。この機能強化は、すべての Salesforce1 アプリケーションで使用できます (商談を使用可能なエディションは、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition です)。

Work.com その他の機能強化

拡張目標を使用した目標および総計値の追跡

営業チームが拡張目標を使用して各自の作業に関連する目標や総計値を的確に追跡できるようにします。Salesforce1 ユーザは、外出中に目標や総計値を確認、編集、作成できます。拡張目標の設定についての詳細は、「[拡張目標へのアップグレード \(正式リリース\)](#)」(ページ 126)を参照してください (拡張目標を使用可能なエディションは、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition です)。

カスタマーサービスツールのその他の機能強化

記事のファイル項目の表示

エージェントおよび顧客が、Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションで記事を参照しているときに、ファイル項目の内容を確認できるようになりました。この点は、記事が、ファイルにアクセスしなければ十分に理解できない添付ファイルの内容を参照している場合に特に役立ちます (Salesforce ナレッジを使用可能なエディションは Developer Edition で、追加購入で使用可能なエディションは Enterprise Edition および Unlimited Edition です)。

Chatter その他の機能強化

フィードのおすすめ情報を閉じる

Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションのユーザは、おすすめを閉じてコミュニティフィードなどのフィードで非表示にできるようになりました。これは、カスタムおすすめや Salesforce Today のおすすめを含む、すべてのおすすめ種別に適用されます。

投稿への複数のトピックの追加

投稿にトピックを追加するときに、Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションユーザは、複数のトピック名をカンマまたはタブキーを使用してすばやく区切ることができます (トピックを使用可能なエディションは、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Contact Manager Edition、および Developer Edition です)。

グループメンバーを関連リストから管理

Salesforce1 を使用して、グループ所有者およびマネージャが [メンバー] 関連リストから直接グループメンバーを管理するために実行できる操作が増えました。名前を左にスワイプすると、メンバーが削除、またはロールがメンバーからマネージャに変更されます (グループを使用可能なエディションは、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition です)。

グループリストビューで有益な情報に集中

モバイルユーザが関連性の高い情報に集中できるように、Salesforce1 では、フィードの最後の活動の日付が表示されてグループリストビューが雑然となることがなくなりました。さらに、アーカイブ済みの状況項

目が表示されなくなりました。これまでは、タブレットでグループリストビューにアクセスしたときにこの情報が含まれていました (グループを使用可能なエディションは、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition です)。

Salesforce Communities のその他の機能強化

Salesforce Communities を使用可能なエディションは、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition です。

コミュニティのレコードの承認関連リストからの承認申請の承認または却下

レコードの承認者にロールベースの外部ユーザを割り当てられるようになりました。すべての Salesforce1 アプリケーションで、これらのユーザは、[私の承認] および [承認履歴] 関連リスト経由でレコードを確認してアクションを実行できます。カスタマーコミュニティ、カスタマーコミュニティプラス、パートナーコミュニティのライセンスを持つロールベースの外部ユーザ、および Salesforce コミュニティのメンバーであるポータルユーザが Salesforce1 を使用できます。大規模カスタマーポータルや認証 Web サイトなどの大規模ライセンスを持つユーザは、レコードを承認できません。

外部ユーザは、Salesforce1 で承認を申請できません。

詳細は、「[外部ユーザがレコードの \[承認履歴\] 関連リストから直接承認または却下可能](#)」(ページ 105)を参照してください。

コミュニティの Chatter グループへのレコードの追加

コミュニティメンバーがレコードをグループに追加できるようにして、外出中のコラボレーションを増大させます。このオプションは、Salesforce1 の全バージョンで使用できます。詳細は、「[コミュニティメンバーがグループにレコードを追加可能](#)」(ページ 103)を参照してください。

異なる場所からのコミュニティフィードのカスタムおすすめ情報の作成

コミュニティフィードにカスタムおすすめを追加することで、モバイルコミュニティユーザのエンゲージメントを促進できます。カスタムおすすめは、Salesforce タブ + Visualforce テンプレートを使用するすべてのコミュニティの Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションでサポートされています。[おすすめ]>[おすすめ]をクリックして、[コミュニティ管理]で異なる場所からコミュニティのカスタムおすすめを作成できるようになりました。

『Salesforce Spring '15 リリースノート』の一部に誤った情報がありましたが、Napili テンプレートを使用するコミュニティでは Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションのカスタムおすすめはサポートされていません。Napili またはその他の Community Builder テンプレートを使用するコミュニティにはモバイルアプリケーションでは表示されないスタイルが含まれているため、これらのコミュニティへのアクセスに Salesforce1 は使用しないことをお勧めします。詳細は、Salesforce ヘルプの「[Access to Communities Using Salesforce1](#)」を参照してください。

オフラインのその他の機能強化

ページの読み込み中に表示されるビジュアルフィードバックの改善

すべての Salesforce1 ユーザにとってページの読み込み中の移動が円滑になりました。ページ間の移動を改善し、アプリケーションの全体的な応答性を高めるために、プレースホルダ画像と活動バーが追加されました。

[Salesforce1 の設定] ページのオフライン設定リンクの名前変更

フルサイトの [設定] の [Salesforce1 の設定] ページで、[オフライン同期] リンクの名前が、[Salesforce1 オフライン設定] ページで使われる用語に合わせて [オフラインキャッシュ] に変更されました。

セキュリティのその他の機能強化

接続アプリケーションの IP 制限の緩和および IP の継続的な適用

Salesforce1 ダウンロード可能アプリケーションなどの接続アプリケーションからのログイン要求を含む、Salesforce へのアクセスを継続的に [ログイン IP アドレス] で定義した IP アドレスのみに制限する、新しいセキュリティ設定があります。以前にダウンロード可能アプリケーションの IP 制限を緩和しており、[すべての要求でログイン IP アドレスの制限を適用] オプションをオンにすると、モバイルアプリケーションへのユーザのアクセス権が変更される可能性があります。この新しい設定についての詳細は、「[\[ログイン IP アドレスの制限\] の IP アドレスの継続的な適用](#)」(ページ 241)を参照してください。接続アプリケーションの IP 緩和設定と継続的 IP 適用の相互関係については、「[接続アプリケーションの IP 緩和と継続的 IP 適用](#)」を参照してください。

接続アプリケーションのその他の機能強化については、「[詳細な制御および簡単な管理を可能にするための接続アプリケーションの改善](#)」(ページ 249)を参照してください。

プラットフォームの暗号化を使用したデータ保護要件への準拠(正式リリース)

プラットフォームの暗号化を使用して暗号化されたデータは、すべてのバージョンの Salesforce1 でサポートされます。詳細は、「[プラットフォームの暗号化を使用したデータ保護要件への準拠\(正式リリース\)](#)」(ページ 238)を参照してください。

Salesforce1 ユーザが暗号化されたデータを操作する場合、次の点に留意してください。

- 検索では暗号化項目のデータは検索できません。
- 取引先と取引先責任者の関連リストは、[名前] 項目が暗号化されている場合は空になります。
- ファイルの暗号化インジケータはアプリケーションに表示されません。
- 「暗号化されたデータの参照」権限がないユーザによってコピーされたレコードの暗号化項目では、データがマスクされます。

Salesforce1 と Salesforce フルサイトとの違い

Salesforce1 アプリケーションには Salesforce フルサイトのすべての機能はありません。また、フルサイトでは使えない機能がいくつかあります。

Summer '15 で導入または更新された機能については、次の相違点があります。

サポートされる Salesforce データ

Salesforce1 ユーザは、商談に収益または数量スケジュールが設定された商品を追加できません。追加しようとすると、商談に商品は表示されますが、スケジュールが作成されません。ユーザが商談から商品スケジュールを再確立することもできません。

Work.com 拡張目標

Salesforce1 で拡張目標を使用する場合、ユーザは次のことができません。

- 目標および総計値の共有
- レポートへの総計値のリンク

- レポートにリンクされている総計値の更新
- 親目標とサブ目標のリンク
- 目標画像の追加

Salesforce Communities

ロールベースの外部ユーザは、コミュニティのレコードの [承認] 関連リストから承認申請を承認または却下できます。ただし、Salesforce1 を使用して承認を申請することはできません。

Chatter フィード

Salesforce1 ユーザは、フィードの投稿やコメントを編集できません。フルサイトで編集されたフィード項目は、Salesforce1 に表示されます。

メモ (ベータ)

- Salesforce1 ユーザは、Salesforce1 ナビゲーションメニューの [メモ] 項目から自分のすべてのメモにアクセスできます。フルサイトには [メモ] タブは含まれません。代わりに、[ファイル] タブからメモにアクセスできます。
- フルサイトでは、複数のレコードにメモを関連付けることはできません。

Salesforce1 レポート

条件付き強調表示を使用するサマリーレポートとマトリックスレポートは、Salesforce1 に表示できません。

セキュリティ

Salesforce1 ユーザがプラットフォームの暗号化を使用して暗号化されたデータを操作する場合、次の点に留意してください。

- 検索では暗号化項目のデータは検索できません。
- 取引先と取引先責任者の関連リストは、[名前] 項目が暗号化されている場合は空になります。
- ファイルの暗号化インジケータはアプリケーションに表示されません。
- 「暗号化されたデータの参照」権限がないユーザによってコピーされたレコードの暗号化項目では、データがマスクされます。

Salesforce1 とは異なる Salesforce の機能についての詳細は、Salesforce オンラインヘルプのSalesforce ヘルプの「Salesforce1 の制限と Salesforce フルサイトとの違い」を参照してください。

Salesforce1 アプリケーション開発の概要

Force.com プラットフォームの次の機能強化は、Salesforce1 の開発をサポートします。

- [Lightning コンポーネント](#)
- [Visualforce](#)
- [API のサポート](#)

Lightning コンポーネント

Lightning App Builder 向けに設定したカスタム Lightning コンポーネントで、文字列項目を選択リストとして表示できるようになりました。詳細は、「[Lightning App Builder コンポーネントの選択リストの作成](#)」(ページ 281)を参照してください。

Lightning コンポーネントフレームワークへのその他の機能強化については、「[Lightning コンポーネント](#)」(ページ 278)を参照してください。

Visualforce

カスタムマーカーアイコンにより、地図にスタイルやブランド設定を追加できます。また、カスタムマーカーを使用して、同一の地図上に異なる種類の場所を表示できます。詳細は、「[カスタムマーカーを使用した Visualforce 地図のカスタマイズ](#)」(ページ 256)を参照してください。

場所に関連する情報を Visualforce 地図に追加して情報ウィンドウに表示できます。情報ウィンドウは、ユーザが地図のマーカーをクリックまたはタップすると表示されます。詳細は、「[情報ウィンドウを使用した Visualforce 地図の強化](#)」(ページ 256)を参照してください。

API のサポート

Force.com API では、Salesforce1 の開発がサポートされています。別途記載がない限り、Salesforce1 開発のこれらの機能強化は、API バージョン 34.0 で使用できます。

Chatter REST API

おすすめがスケジュールされているかどうかを示すために、`/connect/scheduled-recommendations` および `/connect/scheduled-recommendations/scheduledRecommendationId` リソースに新しい `enabled` パラメータがあります。

おすすめの表示ラベルをカスタマイズするために、`/connect/recommendation-definitions` および `/connect/recommendation-definitions/recommendationDefinitionId` リソースに新しい `actionUrlName` パラメータがあります。

これらのおすすめは、Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションの使用時に直接フィードに表示されます。詳細は、「[新しいリソースと変更されたリソース](#)」(ページ 296)を参照してください。

メタデータ API

FlexiPage 型およびレイアウトメタデータ型に `platformActionList` という新しい項目が追加されました。PlatformActionList は、それぞれのコンテキスト (Lightning ページまたはページレイアウト) の Salesforce1 アクションバーに表示するアクションのリストとその順序を表します。詳細は、「[メタデータ型とメタデータ項目](#)」(ページ 311)を参照してください。

Summer '15 以降の Chatter Mobile for Android のサポートの終了

Summer '15 リリース直後、Chatter Mobile for Android バージョン 3.4 が Google Play から削除され、Salesforce でサポートされなくなります。引き続き Salesforce データへのモバイルアクセスが必要なユーザは、できる限り早く Salesforce1 for Android ダウンロード可能アプリケーションに切り替えることをお勧めします。

すでに Chatter Mobile をインストール済みのユーザは、Salesforce サポートの終了後も引き続きアプリケーションを利用できます。ただし、Salesforce からは、発生する問題に対する機能強化、調査、またはバグ修正といった形でのサポートは提供されなくなります。Chatter Mobile が Google Play から削除された後は、Android デバイスへのアプリケーションの再インストールや新規インストールはできなくなります。

Salesforce1 for Android ダウンロード可能アプリケーションへの移行を強くお勧めします。弊社では、お客様のニーズに最適な Salesforce1 のモバイル環境の提供に努めています。Salesforce1 には、Chatter Mobile アプリケーションの機能に加えて、Salesforce オブジェクトおよびレコードへのアクセス、ToDo、メモ、行動を使用した活動の

管理、ダッシュボードとレポートでの進行状況の監視など、幅広い生産性機能と CRM 機能が含まれています。さらに、モバイル向けに最適化された Visualforce ページ、カスタムクイックアクション、カスタムまたはサードパーティアプリケーションで Salesforce1 をカスタマイズできます。

Salesforce1 for Android ダウンロード可能アプリケーションでは、現在 Android 4.2 以降の Android 端末がサポートされています。詳細は、Salesforce ヘルプの「Salesforce1 アプリケーションの使用の要件」を参照してください。

Summer '15 以降の Mobile Dashboards for iPad アプリケーションのサポートの終了

Summer '15 リリース以降、Mobile Dashboards for iPad アプリケーションが App Store から削除され、Salesforce でサポートされなくなります。現在 Mobile Dashboards for iPad アプリケーションを使用しているお客様には、Salesforce1 モバイルアプリケーションに切り替えることをお勧めします。

iPad デバイスにこのアプリケーションをインストールしているユーザは引き続き使用できますが、このアプリケーションを削除すると再インストールすることができません。さらに、新しい iPad デバイスにこのアプリケーションをインストールすることもできません。

弊社では、Salesforce1 モバイルアプリケーションのモバイル開発リソースの拡充に努めています。Salesforce1 は iPad デバイスで使用でき、Mobile Dashboards for iPad アプリケーションと機能が同様なうえ、他の拡張分析機能も備えています。Salesforce1 では、条件設定済みダッシュボードおよび動的ダッシュボードの表示、レポートへのドリルダウン、フィードでのダッシュボードスナップショットの共有を行うことができます。

コミュニティ:新しいコミュニティ管理オプション、コミュニティケースフィード

Summer '15 では、コミュニティ分析の機能強化、コミュニティ管理ツールの向上、会話を編集する機能、レコードのグループへの関連付け、Chatter に構築された最新のケースフィードを使用したセルフサービステンプレートの開発などが実現しています。

このセクションの内容:

コミュニティ管理

コミュニティの管理がさらに簡単になりました。コミュニティマネージャは、カスタムおすす​​めを作成してエンゲージメントを促進し、トピックをより簡単に管理し、コミュニティページを1か所でカスタマイズできるようになりました。[コミュニティ管理]のリソースのリストで、成功に必要なものが揃っていることを直接確認できます。

Community Builder

Community Builder は、Sandbox から公開できるようになりました。

エディション

使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

コミュニティテンプレート

Summer'15でのすべてのセルフサービステンプレートでは、ユーザが質問および回答の投稿にコミュニティファイルを添付し、便利なケースリストビューを表示できます。新しいコミュニティケースフィードでは、統合された Chatter ベースの設計でコミュニティユーザとサポートエージェントがすべてのケースのやりとりを参照できます。さらに、Napiliテンプレートではトピックのエキスパートが強調表示され、ユーザがプロフィールを公開できるようになりました。

コミュニティレポート

コミュニティレポートが改善されました。パートナーおよびカスタマーユーザにレポートの作成および編集権限を付与できるようになりました。さらに、Summer'15 リリースの直後に、更新バージョンのCommunitiesダッシュボードパッケージをAppExchangeからインストールできるようになります。このパッケージには、更新されたライセンスダッシュボード、ユーザのレポート検索条件の追加、およびフィード編集権限のレポートが含まれます。

コミュニティのその他の変更

コミュニティに行われたその他の重要な変更には、コミュニティメンバーによるグループのレコードへのアクセス、ゲストとより多くの連絡先情報を共有する機能、コミュニティユーザを作成する新しい Apex メソッド、検索の的を絞るための SEO の改善、メールのリダイレクト機能の改善などが挙げられます。

関連トピック:

[コミュニティ機能が使用可能になる方法と状況](#)

コミュニティ管理

コミュニティの管理がさらに簡単になりました。コミュニティマネージャは、カスタムおすすめを作成してエンゲージメントを促進し、トピックをより簡単に管理し、コミュニティページを1か所でカスタマイズできるようになりました。[コミュニティ管理]のリソースのリストで、成功に必要なものが揃っていることを直接確認できます。

このセクションの内容:

合理化された [コミュニティ管理] の概要ページ

[コミュニティ管理] の概要ページには、最も重要な関連情報のみが表示されます。Success コミュニティのベストプラクティス、リリース情報、およびグループへのリンクによって、コミュニティマネージャが成功に必要なものを確認できます。

より直観的な [コミュニティ管理] のナビゲーション

[コミュニティ管理] の管理ノードとリンクは、名前が変更されたものと移動されたものがあります。

カスタムおすすめの作成

おすすめを作成して、コミュニティのエンゲージメントを促進し、ユーザに動画の閲覧やトレーニングの受講などを促します。これらのおすすめは [コミュニティ管理] で編集します。Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーション、および Summer '15 以降のバージョンの Napili テンプレートを使用したコミュニティのフィードでサポートされています。

コミュニティのトピックのマージ、名前変更、または削除

コミュニティのトピック数が増えるにつれ、使いやすいように効率的にまとめます。[コミュニティ管理]で、トピックを任意の1か所でマージ、名前変更、および削除できます。Summer'15では、トピックのマージの全機能が搭載され、トピックのフォローや支持データが含まれるようになりました。

コミュニティの [パスワードの変更] および [パスワードを忘れた場合] ページのカスタマイズ

デフォルトの [パスワードの変更] および [パスワードを忘れた場合] ページの代わりに、カスタム Community Builder (Site.com Studio) または Visualforce ページを使用します。

[コミュニティ管理] でのデフォルトコミュニティページの上書き

[コミュニティ管理]で、標準のコミュニティホームページと[サービスは利用できません]ページを会社のブランド情報入りのページに直接置き換えることができます。

認証済みユーザの Visualforce エラーページのカスタマイズ

認証済みユーザに対して、デフォルトの Visualforce エラーページの代わりにカスタム Visualforce エラーページを使用できます。

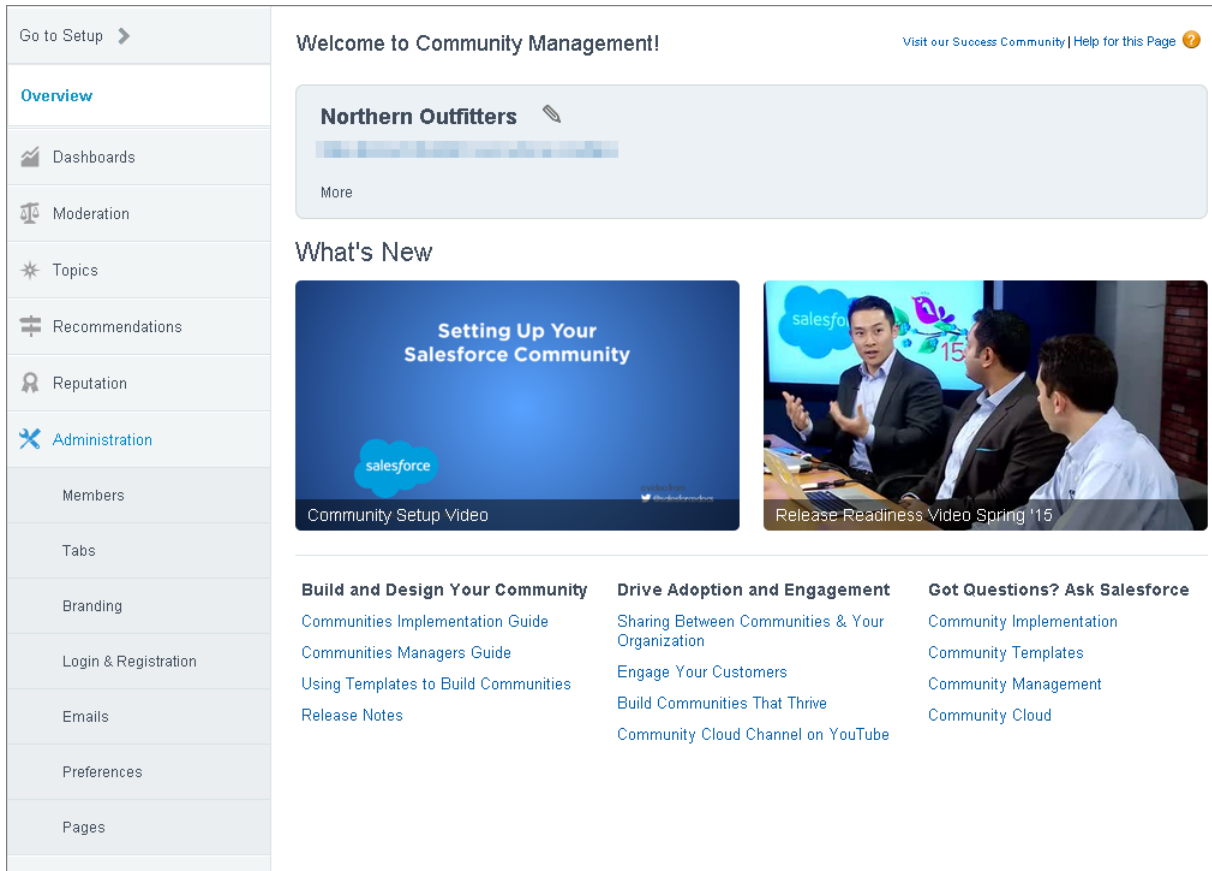
コミュニティ管理のその他の変更

[コミュニティ管理]のその他の重要な変更として、コミュニティテンプレートを変更した場合の動作、およびファイルにフラグを設定できる場所の変更があります。

合理化された [コミュニティ管理] の概要ページ

[コミュニティ管理]の概要ページには、最も重要な関連情報のみが表示されます。Success コミュニティのベストプラクティス、リリース情報、およびグループへのリンクによって、コミュニティマネージャが成功に必要なものを確認できます。

- コミュニティリソースのリストで、Success コミュニティのドキュメント、プレイブック、およびグループにすばやくアクセスできます。
- 関連リリース情報を動画ですぐに確認できます。
- [詳細表示]をクリックすると、コミュニティの状況およびテンプレートオプションにアクセスできます。
- クイックリンクは削除されました。
- [高度なカスタマイズ]の Force.com および Site.com Studio リンクは[管理]>[ページ]ノードに表示されるようになりました。



より直観的な [コミュニティ管理] のナビゲーション

[コミュニティ管理] の管理ノードとリンクは、名前が変更されたものと移動されたものがあります。

次の変更が加えられました。

- [管理] > [その他] ノードは [個人設定] という名前に変更されました。
- Force.com および Site.com Studio に対する [高度なカスタマイズ] リンクは、[管理] > [ページ] ノードに表示されるようになりました。以前は、これらのリンクは [概要] ページに表示されていました。

カスタムおすすめの作成

おすすめを作成して、コミュニティのエンゲージメントを促進し、ユーザに動画の閲覧やトレーニングの受講などを促します。これらのおすすめは [コミュニティ管理] で編集します。Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーション、および Summer '15 以降のバージョンの Napili テンプレートを使用したコミュニティのフィードでサポートされています。

[コミュニティ管理] で、[おすすめ] > [おすすめ] を選択します。おすすめの作成方法は、Salesforce ヘルプの「[コミュニティのおすすめ情報のカスタマイズ](#)」を参照してください。

Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションでは、おすすめはフィードに直接表示されます。Summer'15 以降のバージョンの Napili テンプレートを使用したコミュニティでは、おすすめはデフォルトでホームページの右側に表示されます。その他のコミュニティではおすすめは表示されません。

Chatter REST API および Apex の Chatter でもカスタムおすすめがサポートされています。

コミュニティのトピックのマージ、名前変更、または削除

ユーザ権限

[コミュニティ管理] ページにアクセスする	「コミュニティの管理」 または 「コミュニティの作成および設定」
トピックを作成する	「トピックの作成」
トピックをマージする	「トピックのマージ」
トピックを削除する	「トピックの削除」
トピックの名前を変更する	「トピックの編集」

コミュニティのトピック数が増えるにつれ、使いやすいように効率的にまとめます。[コミュニティ管理]で、トピックを任意の1か所でマージ、名前変更、および削除できます。Summer '15 では、トピックのマージの全機能が搭載され、トピックのフォローや支持データが含まれるようになりました。

1. コミュニティから、グローバルヘッダーの  をクリックします。
2. 左側の[トピック]>[トピック管理]をクリックします。
3. 次のいずれかの操作を実行します。
 - トピックを作成するには(多くの場合、既存のトピックのマージ計画を伴う)、[新規]をクリックする。
 - 既存のトピックを結合するには、[マージ]をクリックする。トピックをマージすると、自動的に投稿の既存のハッシュタグがリダイレクトされます。
 - トピック名の変更またはトピックの削除を行うには、 をクリックする。

 **ヒント:** 名前を変更するトピックまたは削除するトピックが見つからない場合は、そのトピックを検索するか、リストの下[表示件数を増やす]をクリックします。

コミュニティの[パスワードの変更]および[パスワードを忘れた場合]ページのカスタマイズ

デフォルトの[パスワードの変更]および[パスワードを忘れた場合]ページの代わりに、カスタム Community Builder (Site.com Studio) または Visualforce ページを使用します。

[コミュニティ管理]で、[管理]>[ログイン&登録]に移動してページの割り当てを変更します。カスタム Community Builder (Site.com Studio) または Visualforce ページを使用して、デフォルトページを上書きできます。

[パスワードを忘れた場合] ページは、コミュニティビルダーまたは Visualforce でカスタマイズできます。コミュニティビルダーでカスタマイズした [パスワードを忘れた場合] ページを使用する場合は、最初にコミュニティビルダーでページを公開します。

[パスワードの変更] ページは、Visualforce でのみカスタマイズできます。

Site.com および Force.com サイトの設定で指定された以前のページは、[コミュニティ管理] で選択したページで上書きされます。詳細は、Salesforce ヘルプの「コミュニティでの [パスワードの変更] および [パスワードを忘れた場合] カスタムページの使用」を参照してください。

[コミュニティ管理] でのデフォルトコミュニティページの上書き

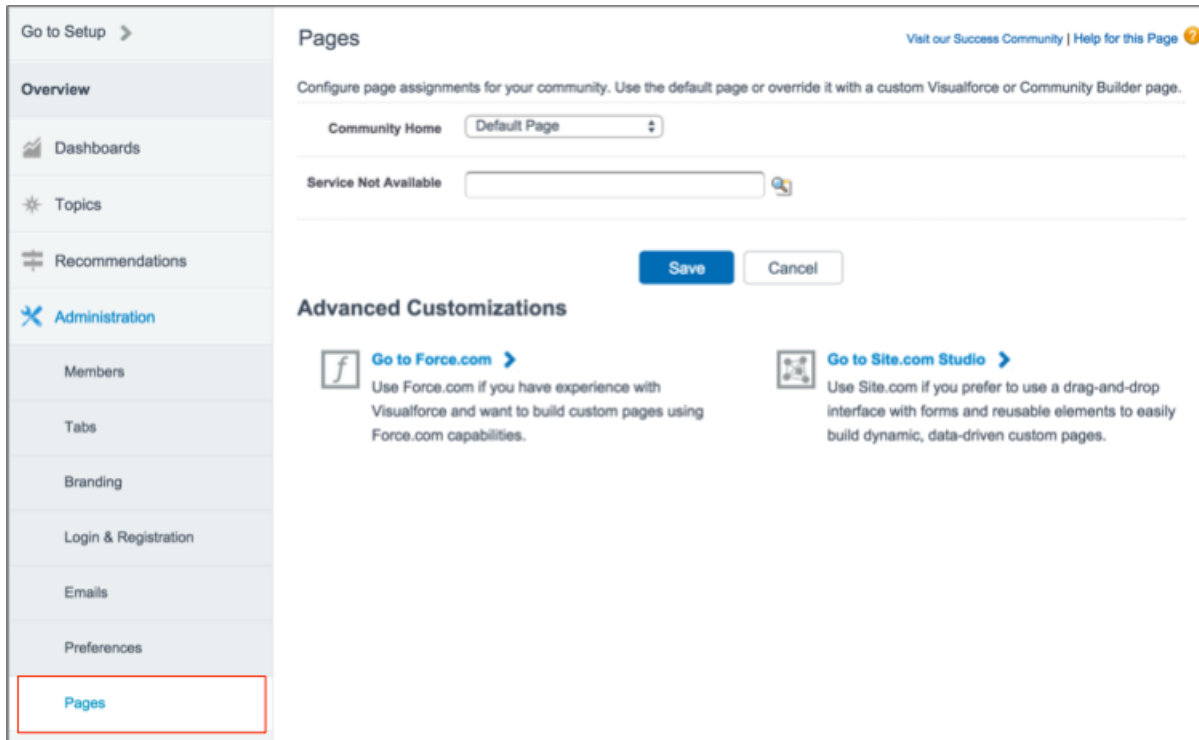
[コミュニティ管理] で、標準のコミュニティホームページと [サービスは利用できません] ページを会社のブランド情報入りのページに直接置き換えることができます。

コミュニティホームページは、公開コミュニティで認証されていないユーザに表示され、リダイレクトを設定することなくゲストユーザのランディングページを指定できます。以前は、コミュニティホームページは Visualforce で設定するか、URL リダイレクトを作成して Site.com ページを指定する必要がありました。

[サービスは利用できません] ページは、サービスが停止しているためコミュニティを利用できない場合に表示されます。以前は、[サービスは利用できません] ページは Force.com で設定していました。[サービスは利用できません] ページを上書きするには、静的リソースファイルを使用します。

[コミュニティ管理] で、[管理] > [ページ] に移動してコミュニティページの割り当てをカスタマイズします。Community Builder (Site.com Studio) または Visualforce ページを選択して、コミュニティホームページを上書きします。

Site.com および Force.com サイトのプロパティで指定された以前のページは、[コミュニティ管理] で選択したページで上書きされます。詳細は、Salesforce ヘルプの「カスタムページによるコミュニティのデフォルトページの上書き」を参照してください。



認証済みユーザの Visualforce エラーページのカスタマイズ

認証済みユーザに対して、デフォルトの Visualforce エラーページの代わりにカスタム Visualforce エラーページを使用できます。

[コミュニティ管理] で [管理] > [個人設定] を選択してから、[カスタム Visualforce エラーページを使用] を選択します。次に、[管理] > [ページ] で、[Force.com に移動] をクリックしてカスタムページを指定します。

[カスタム Visualforce エラーページを使用] を選択した場合、コミュニティにログインしたユーザのみにカスタム Visualforce エラーページが表示されます。[カスタム Visualforce エラーページを使用] を選択しない場合、コミュニティにログインしたユーザにはデフォルトの Visualforce エラーページが表示されます。コミュニティにログインしていないゲストユーザには、[カスタム Visualforce エラーページを使用] オプションを選択しているかどうかに関わらず、常にカスタム Visualforce エラーページが表示されます。

コミュニティ管理のその他の変更

[コミュニティ管理] のその他の重要な変更として、コミュニティテンプレートを変更した場合の動作、およびファイルにフラグを設定できる場所の変更があります。

コミュニティテンプレートを変更してもコミュニティページは変更されない

コミュニティテンプレートを変更する場合は、更新したコミュニティテンプレートでもコミュニティページが最適な選択であることを確認します。

たとえば、Salesforce タブ + Visualforce テンプレートから Community Builder ベースのテンプレートに切り替えた場合は、Visualforce ページの代わりに Community Builder ページを使用するようにページを更新することを検討します。必要に応じて、Community Builder でコミュニティをカスタマイズし、変更を公開します。

ファイルへのフラグ設定は **Community Builder** ベースのテンプレートで作成したコミュニティの UI では使用できない

Community Builder ベースのテンプレートで作成したコミュニティのユーザーインターフェースでは、ファイルにフラグを設定することはできません。代わりに、APIを使用する必要があります。[メンバーにコンテンツのフラグの設定を許可] が有効な場合でも、[コミュニティ管理] に [フラグ付きファイル] ノードは表示されません。

Community Builder

Community Builder は、Sandbox から公開できるようになりました。

このセクションの内容:

Sandbox からのコミュニティの公開

3つのセルフサービステンプレート (Koa、Kokua、または Napili) のいずれかを使用して作成されたコミュニティをユーザが使用できるようにするには、公開する必要があります。以前は、本番組織のみでこれらのコミュニティを公開できました。今回のリリースで、本番に移行する前に Sandbox を使用して変更をテストできるようになりました。

Sandbox からのコミュニティの公開

3つのセルフサービステンプレート (Koa、Kokua、または Napili) のいずれかを使用して作成されたコミュニティをユーザが使用できるようにするには、公開する必要があります。以前は、本番組織のみでこれらのコミュニティを公開できました。今回のリリースで、本番に移行する前に Sandbox を使用して変更をテストできるようになりました。

Sandbox からコミュニティを公開するには、その URL の基盤として Force.com ドメインが使用されている必要があります。セルフサービステンプレートを使用して構築されたコミュニティは、元のドメインに関係なくテスト目的で公開できるようになりました。

Sandbox からコミュニティを公開するには、Community Builder ツールバーの [公開] ボタンをクリックします。



コミュニティテンプレート

Summer'15でのすべてのセルフサービステンプレートでは、ユーザが質問および回答の投稿にコミュニティファイルを添付し、便利なケースリストビューを表示できます。新しいコミュニティケースフィードでは、統合された Chatter ベースの設計でコミュニティユーザとサポートエージェントがすべてのケースのやりとりを参照できます。さらに、Napili テンプレートではトピックのエキスパートが強調表示され、ユーザがプロフィールを公開できるようになりました。

このセクションの内容:

コミュニティケースフィードでのケースのすべてのやりとりの表示 (正式リリース)

Summer'15 では、コミュニティケースフィードでエージェントとコミュニティユーザが開始から完了までのケースのライフサイクルを確認できます。すべてのケースのやりとりは、統合された時系列の Chatter ケースフィードに表示されます。コミュニティユーザはこの Chatter の追加機能を有効活用できる一方で、エージェントはサポート側の新機能によってより効率的な個人サポートを簡単に提供できるようになります。

Napili コミュニティでのカスタムおすすめの表示

おすすめはコミュニティのエンゲージメントを促進し、ユーザに動画の閲覧やトレーニングの受講などを促します。

Napili テンプレートでの [知識のあるユーザ] の表示

コミュニティで直接エキスパートに質問できるように、トピックのエキスパートを強調表示します。[知識のあるユーザ] コンポーネントには、質問および投稿に対する最良の回答、メンション、いいね!などの要素に基づいて選択された、最大5名のエキスパートが表示されます。

質問および回答の投稿でのセルフサービスコミュニティからのファイルの選択

Napili テンプレートで構築されたセルフサービスコミュニティでの質問および回答の投稿にファイルを添付するときに、ユーザはコミュニティからファイルを選択するか、コンピュータまたはモバイルデバイスからファイルをアップロードするかを選択できるようになりました。

Napili テンプレートへの連絡先情報表示設定の追加

ユーザは、コミュニティにログインしていないゲストユーザに連絡先情報の詳細を表示できるようになりました。

Napili テンプレートの [ユーザプロフィールの詳細] からのメール通知オプションの削除

[メール通知を受信] コンポーネントが [ユーザプロフィールの詳細] ビューから削除されました。

Napili の「コミュニティに質問する」コンポーネントの名前変更およびページの上部への移動

お客様のフィードバックに基づいて、「コミュニティに質問する」コンポーネントの表示ラベルと位置が変更されました。

コミュニティテンプレートのケースリストビューの新しい外観

セルフサービステンプレートで構築されたコミュニティのユーザは、非常に見やすいケースのコンパクトリストビューを使用できるようになりました。

Koa および Kokua テンプレートでユーザプロフィールの詳細とケースリストを使用可能

Koa および Kokua テンプレートの [私のケース] ページにある [プロフィールホーム] コンポーネントは、[ユーザプロフィールヘッダー]、[ユーザプロフィールの詳細]、および [私のケース] コンポーネントに置き換えられました。これらのテンプレートで作成されたコミュニティのユーザには、プロフィールの参照時にプロフィールの詳細とケースのリストが表示されるようになりました。

セルフサービステンプレートでの新しいフィード詳細ページ

コミュニティケースフィードが有効になっているセルフサービスコミュニティのユーザは、個々のケースフィード項目とそれに対するコメントが表示されるフィード詳細ページにアクセスできます。ページを表示するには、フィード項目のタイムスタンプをクリックします。

コミュニティケースフィードでのケースのすべてのやりとりの表示(正式リリース)

Summer '15 では、コミュニティケースフィードでエージェントとコミュニティユーザが開始から完了までのケースのライフサイクルを確認できます。すべてのケースのやりとりは、統合された時系列の Chatter ケースフィードに表示されます。コミュニティユーザはこの Chatter の追加機能を有効活用できる一方で、エージェントはサポート側の新機能によってより効率的な個人サポートを簡単に提供できるようになります。

コミュニティケースフィードでは、セルフサービステンプレートで構築されたコミュニティのユーザに、ケースを管理できる直観的で汎用性のある環境が提供されます。ユーザは次の操作を実行できます。

- Chatter 投稿、ケースに関連する質問、ケースメールを含めたケースのすべてのやりとりを統一されたフィードに表示する
- Chatter 投稿を作成し、ケースにファイルを添付する (1)
- 投稿にブックマーク、いいね!、およびコメントをしたり、他のユーザをメンションする
- 画像やコメントをインラインで表示し、詳細を取得するためのフィードのスキャンをやすくする (2)
- [添付ファイル] サイドバーにすべてのケース添付ファイルを表示する (3)

エディション

使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

一方、コンソール側にはサポートエージェントにいくつかの新機能による利点があります。エージェントは次の操作を実行できます。

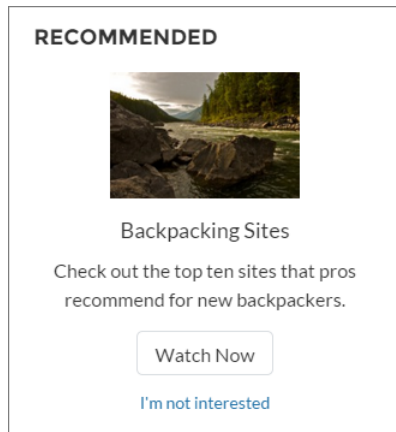
- ケースのすべてのやりとりをコンソールケースフィードに表示する
- ケースフィードで[コミュニティ]アクションを使用して、顧客のケースに関する Chatter 投稿を作成し、コミュニティの質問に回答する
- 公開済みケースの投稿の表示を編集する

コミュニティケースフィードは、セルフサービスコミュニティテンプレートで構築されたすべてのコミュニティ、および Salesforce タブ + Visualforce テンプレートで構築されたコミュニティで使用できます。Summer '15 リリース以降に作成された新規コミュニティ、および Summer '15 テンプレートにアップグレードされているコミュニティに追加できます。詳細は、「[コミュニティケースフィードでのエージェントのオプションの追加 \(正式リリース\)](#)」を参照してください。

Napili コミュニティでのカスタムおすすめの表示

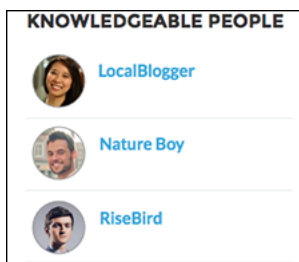
おすすめはコミュニティのエンゲージメントを促進し、ユーザに動画の閲覧やトレーニングの受講などを促します。

コミュニティのおすすめが作成されていない場合は、[おすすめ]コンポーネントを設定できます。ただし、このコンポーネントはおすすめが作成されるまでホームページには表示されません。[コミュニティ管理]を使用しておすすめを作成します。



Napili テンプレートでの [知識のあるユーザ] の表示

コミュニティで直接エキスパートに質問できるように、トピックのエキスパートを強調表示します。[知識のあるユーザ]コンポーネントには、質問および投稿に対する最良の回答、メンション、いいね!などの要素に基づいて選択された、最大5名のエキスパートが表示されます。



Summer'15以降で作成されたコミュニティでは、[知識のあるユーザ]コンポーネントが自動的に表示されます。それより前のコミュニティでは、次の手順を実行してコンポーネントを追加します。

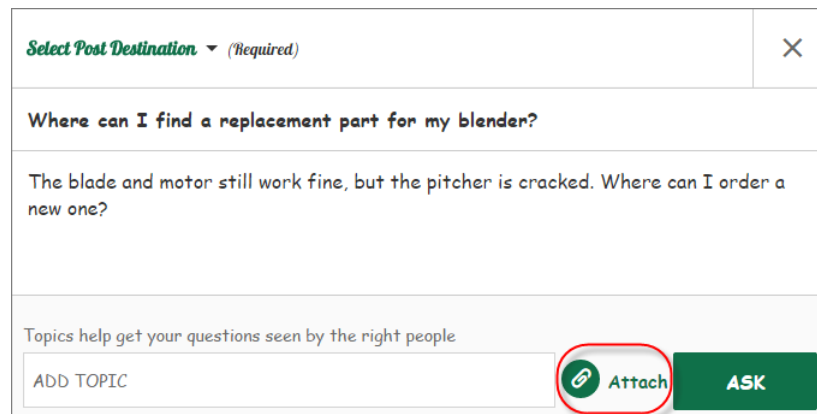
1. コミュニティから、グローバルヘッダーの  をクリックします。
2. [管理]>[個人設定]をクリックして[トピックに関する知識のあるユーザを有効にする]を選択します。
3. [管理]>[ページ]をクリックして Site.com Studio に移動します。
4. [サイトページ]セクションで、[メイン]ページをダブルクリックします。
5. 左側の[ビュー]タブで、[Napili トピックビュー]をダブルクリックします。
6. [ページ要素]タブ  をクリックして、[知識のあるユーザ]コンポーネントを検索します。
7. コンポーネントを右クリックして、div.cSecondaryContent セクションに配置します。

詳細は、『*Community Templates for Self-Service Implementation Guide*』を検索してください。

質問および回答の投稿でのセルフサービスコミュニティからのファイルの選択

Napili テンプレートで構築されたセルフサービスコミュニティでの質問および回答の投稿にファイルを添付するときに、ユーザはコミュニティからファイルを選択するか、コンピュータまたはモバイルデバイスからファイルをアップロードするかを選択できるようになりました。

質問または回答の投稿にファイルを添付するときに、ユーザは[ファイルを選択]を選択して共有するファイルを参照または検索できます。



Napili テンプレートへの連絡先情報表示設定の追加

ユーザは、コミュニティにログインしていないゲストユーザに連絡先情報の詳細を表示できるようになりました。

[私の設定] ページには、[プロフィールを公開] チェックボックスを含む新しい [プロフィール表示] セクションがあります。このチェックボックスをオンにすると、コミュニティのゲストユーザに連絡先情報の詳細が表示されます。オフにした場合、内部コミュニティメンバーのみに詳細が表示されます。[名前] または [ニックネーム] および [自己紹介] 項目は、この設定に関係なく常にゲストユーザに表示されます。

MY SETTINGS

CANCEL **SAVE**

LOCATION

Language: English

Locale: English (United States)

Time Zone: (GMT-07:00) Pacific Daylight Time (Ar)

PROFILE VISIBILITY

Choose to show profile details to guest users who aren't logged into the community.

☐ Make profile public [?](#)

EMAIL NOTIFICATIONS

Choose to receive emails so that you don't miss important updates.

☒ Receive emails

Email me when someone...

- ☒ Follows me
- ☐ Likes a post or a comment I made
- ☒ Consents on my status or a change I made
- ☒ Comments on a post on my profile
- ☒ Consents after me
- ☒ Consents on an item I bookmarked
- ☒ Consents on an item I like
- ☒ Mentions me in a post
- ☒ Mentions me in a comment
- ☒ Posts on one of my cases

CANCEL **SAVE**

Napili テンプレートの [ユーザプロフィールの詳細] からのメール通知オプションの削除

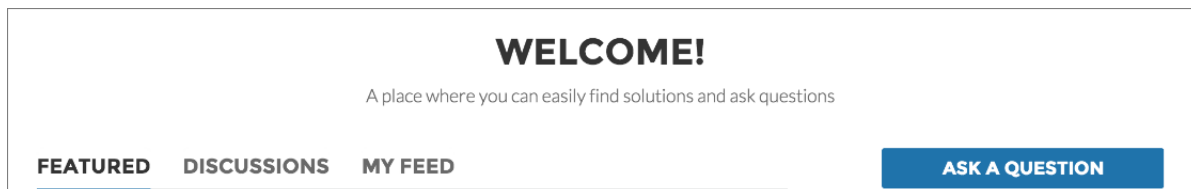
[メール通知を受信] コンポーネントが [ユーザプロフィールの詳細] ビューから削除されました。

ユーザは、[私の設定] メニューでメール通知設定を簡単に更新できます。このメニューは、[プロフィールヘッダー] プロパティで [ユーザ設定をメニューに表示] チェックボックスがオンになっていれば [プロフィールヘッダー] で使用できます。詳細は、[『Community Templates for Self-Service Implementation Guide』](#) を参照してください。

Napili の「コミュニティに質問する」コンポーネントの名前変更およびページの上部への移動

お客様のフィードバックに基づいて、「コミュニティに質問する」コンポーネントの表示ラベルと位置が変更されました。

Napili テンプレートで構築されたコミュニティのユーザには、ホームページおよび[トピック参照]ページの右上に[質問する]ボタンが表示されるようになりました。



このボタンは、使いやすいように引き続きページの下部に表示されます。

コミュニティテンプレートのケースリストビューの新しい外観

セルフサービステンプレートで構築されたコミュニティのユーザは、非常に見やすいケースのコンパクトリストビューを使用できるようになりました。

ACTIVITY

CASES

MY CASES

Create Case

Case Number	Contact Name	Subject	Status	Priority	Date/Time Opened	Case Owner Alias
00001256	Pete White	Rain fly coming loose	New	Medium	3/27/2015 9:26 AM	NUser
00001255	Pete White	The new mountaineering sy...	New	Medium	3/26/2015 10:33 PM	NUser
00001254	Pete White	What do you recommend fo...	New	Medium	3/26/2015 3:56 PM	NUser
00001253	Pete White	Down leak from sleeping ba...	New	Medium	3/26/2015 3:20 PM	NUser

Napili テンプレートコミュニティのユーザは、プロフィールの[ケース]タブをクリックすることでケースリストビューにアクセスできます。Koa および Kokuia コミュニティユーザの場合、ケースリストビューはプロフィールページに表示されます。

ユーザはケース番号をクリックしてケースの詳細を確認し、列ヘッダーをクリックして列を並び替えることができます。

 **メモ:** Napili ケースリストビューでは、ケース番号とケース所有者名のみがクリック可能です。Koa および Kokuia ケースリストビューでは、ケース番号のみがクリック可能です。

ケースリストビューの変更は、デスクトップとタブレットのみに適用されます。

ケースリストビューのカスタマイズ

ケースリストビューの列の順序とデータ型は、そのコンポーネントに割り当てられたリストビューで公開される項目によって決まります。

- Napili テンプレートでは、ケースリストビューは[プロフィール]ページの[ユーザプロフィールタブ]コンポーネントに含まれます。
- Koa および Kokua テンプレートでは、ケースリストビューは[私のケース]ページの[私のケース]コンポーネントに含まれます。

ケースリストビューに表示される列をカスタマイズするには、割り当てられたリストビューを編集するか、カスタムリストビューを割り当てます。デフォルトでは、テンプレートは AllOpenCases ビューを使用します。

Koa および Kokua テンプレートでユーザプロフィールの詳細とケースリストを使用可能

Koa および Kokua テンプレートの [私のケース] ページにある [プロフィールホーム] コンポーネントは、[ユーザプロフィールヘッダー]、[ユーザプロフィールの詳細]、および [私のケース] コンポーネントに置き換えられました。これらのテンプレートで作成されたコミュニティのユーザには、プロフィールの参照時にプロフィールの詳細とケースのリストが表示されるようになりました。

[ユーザプロフィールヘッダー] コンポーネント (1) では、プロフィール写真をアップロードできます。[ユーザプロフィールの詳細] コンポーネント (2) では、プロフィールの詳細を編集できます。[私のケース] コンポーネント (3) では、ケースのリストを参照して、新しいケースを作成できます。

Jon Amos

Name Jon Amos

Title

Manager

Company Name

About Me

E-mail smarovich@salesforce.com

Phone (415) 555-5555

Cell

Fax (415) 555-5555

Address 1 Market Street
San Francisco, CA 94105 USA

MY CASES [Create Case](#)

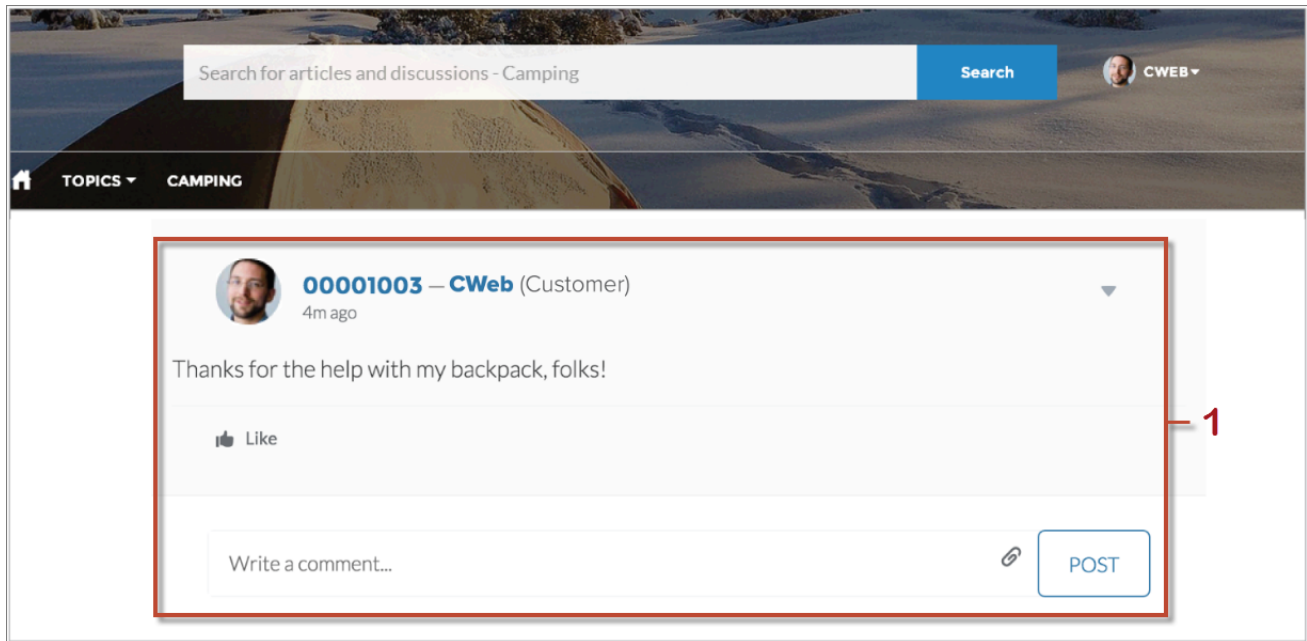
Case Number	Contact Name	Subject	Status	Priority	Date/Time Opened	Case Owner Alias
00001003	Jon Amos	Where are the Christ...	New	Medium	3/25/2015 2:27 PM	jamos
00001004	Jon Amos	Test	New	Medium	3/25/2015 2:27 PM	jamos
00001005	Jon Amos	Can't find informatio...	New	Medium	3/25/2015 2:28 PM	jamos

ケースリストビューについての詳細は、「[コミュニティテンプレートのケースリストビューの新しい外観](#)」を参照してください。

セルフサービステンプレートでの新しいフィード詳細ページ

コミュニティケースフィードが有効になっているセルフサービスコミュニティのユーザは、個々のケースフィード項目とそれに対するコメントが表示されるフィード詳細ページにアクセスできます。ページを表示するには、フィード項目のタイムスタンプをクリックします。

フィード詳細ページには、フィード項目の詳細コンポーネント⁽¹⁾が表示されます。コンポーネントには、ケースフィードの個々の投稿またはコメントの詳細ビューが表示され、設定は不可能です。



コミュニティレポート

コミュニティレポートが改善されました。パートナーおよびカスタマーユーザにレポートの作成および編集権限を付与できるようになりました。さらに、Summer'15 リリースの直後に、更新バージョンの Communities ダッシュボードパッケージを AppExchange からインストールできるようになります。このパッケージには、更新されたライセンスダッシュボード、ユーザのレポート検索条件の追加、およびフィード編集権限のレポートが含まれます。

このセクションの内容:

パートナーおよびカスタマーユーザのレポート管理 — レポートの作成と編集

コミュニティパートナーおよびカスタマーユーザは、自分の個人フォルダで、または十分な権限がある場合は非公開の共有フォルダで、レポートを作成および編集できるようになりました。ユーザのプロファイルまたは権限セットを使用して、パートナーおよびカスタマーユーザにレポートの作成および編集権限を付与できます。必要な権限を付与したユーザは、ドラッグアンドドロップ型のレポートビルダーツールを使用できます。

Communities ダッシュボードパッケージに追加された拡張ダッシュボード、レポート、総計値

Summer'15 リリースの直後に、更新バージョンの Salesforce Communities ダッシュボードパッケージが AppExchange から入手できるようになります。改善されたライセンスダッシュボード、ユーザの詳細によるレポートの絞り込み、およびレコードフィードのレポートを使用できます。

パートナーおよびカスタマーユーザのレポート管理 — レポートの作成と編集

コミュニティパートナーおよびカスタマーユーザは、自分の個人フォルダで、または十分な権限がある場合は非公開の共有フォルダで、レポートを作成および編集できるようになりました。ユーザのプロファイルまたは権限セットを使用して、パートナーおよびカスタマーユーザにレポートの作成および編集権限を付与できます。必要な権限を付与したユーザは、ドラッグアンドドロップ型のレポートビルダーツールを使用できます。

パートナーおよびカスタマーユーザにレポートの作成および編集を許可するには、カスタムプロファイルまたは権限セットから「レポートの作成とカスタマイズ」、「レポートビルダー」、および「私のレポートを編集」権限を有効にします。これらの権限は、すでに「レポート実行」権限が含まれる次の外部ユーザライセンスに追加されました。

- カスタマーコミュニティプラス
- カスタマーコミュニティプラスログイン
- パートナーコミュニティ
- パートナーコミュニティログイン
- Gold Partner
- Silver Partner
- カスタマーポータルマネージャ
- カスタマーポータルマネージャカスタム

 **メモ:** レポートの作成および編集権限は、カスタマーコミュニティや大規模カスタマーポータルなどの大規模ライセンスでは使用できません。

考慮事項と制限

- Summer '13 より前のリリースから存在する組織の場合は、ロールベースのユーザ権限を付与する前に、レポートとダッシュボードの拡張共有を有効にする必要があります。「[Analytics Folder Sharing](#)」を参照してください。
- データ表示は、パートナーまたはカスタマーが属する取引先ロールと組織の共有ルール of 2 つに基づきます。組織の項目レベルセキュリティが適用されます。つまり、項目が外部ユーザに対して非表示になっている場合、パートナーおよびカスタマーユーザのレポートビルダーにその項目は表示されません。
- 外部ユーザに非公開の共有フォルダにあるレポートの作成または編集を許可するには、そのフォルダの「閲覧者」アクセス権を付与します。
- 外部ユーザにレポートデータのエクスポートを許可するには、「レポートのエクスポート」権限を付与します。
- 外部ユーザは、統合公開レポートフォルダにあるレポートの作成、編集、参照はできません。
- 外部ユーザがアクセスできるオブジェクト、項目、およびカテゴリによっては、新規レポートの作成時に UI にカスタムレポートタイプが表示されることがあります。カスタムレポートタイプに含まれる項目また

はオブジェクトへの参照アクセス権がユーザに付与されている場合、そのカスタムレポートタイプが表示されます。

外部ユーザのレポート管理の設定についての詳細は、Salesforce ヘルプの「[外部ユーザのレポート管理の設定—レポートの作成と編集](#)」を参照してください。

Communities ダッシュボードパッケージに追加された拡張ダッシュボード、レポート、総計値

Summer'15 リリースの直後に、更新バージョンの Salesforce Communities ダッシュボードパッケージが AppExchange から入手できるようになります。改善されたライセンスダッシュボード、ユーザの詳細によるレポートの絞り込み、およびレコードフィードのレポートを使用できます。

更新パッケージには、次の機能が含まれます。

改善されたライセンスダッシュボード

ライセンスダッシュボードでは、ライセンス利用状況の日次追跡、および使用ライセンス数と割り当てライセンス数の高度な視覚化が可能になりました。ログインベースのコミュニティライセンスの場合は、割り当てられた月次ログイン回数と比較した当月のログイン利用状況を追跡できます。月次トレンドレポートを使用して、ログイン利用状況にトレンドがあるかどうかを判断たり、過剰なログイン回数がないかを確認したりできます。複数のコミュニティのメンバーであるユーザ数を簡単に追跡できるようになりました。この改善されたダッシュボードを使用するには、コミュニティライセンスの制限を指定する必要があります。詳細は、『*Communities Managers Guide*』を参照してください。

レコードフィードのレポート

Object > ObjectFeeds でカスタムレポートタイプを作成することで、標準またはカスタムオブジェクトに対するレコードフィードエンゲージメントを監視できます。このカスタムレポートタイプを使用すると、取引先、ケース、リード、商談、カスタムオブジェクトなど、フィード追跡が有効なすべての標準オブジェクトに対するフィード活動についてレポートできます。フィード編集数を追跡して、フィードを編集しているユーザの種別を確認することもできます。このパッケージでは [取引先フィード] ダッシュボードが提供され、独自のカスタマイズしたダッシュボードを作成するための例として使用できます。

ユーザの詳細による絞り込み

[ネットワークメンバー] カスタムレポートタイプは、lastLoginDate、Department、Country、Role、および Profile 参照項目にアクセスできます。これらの参照項目は、データをさらに深く理解するために役立ちます。これらの追加項目をレポートに表示するには、カスタムレポートタイプレイアウトを編集し、[参照先の項目を追加] をクリックします。

ユーザの詳細にアクセスすることで、メンバーレポートを再設定し、取引先などのその他の情報をレポートに含めることができます。たとえば、メンバーレポートのコピーを作成してから、[ネットワークメンバー]参照項目を使用して User.Account 項目を追加できます。この方法を使用することで、Top 10 Members By Contribution レポートから Top 10 Accounts by Contributor という新しいレポートを作成できます。次のデータを表示するようにレポートをカスタマイズできます。

- 種別(カスタマーまたはパートナー) ごとの取引先数
- 特定時間範囲のログイン回数順の上位取引先
- 上位無効取引先

コミュニティのその他の変更

コミュニティに行われたその他の重要な変更には、コミュニティメンバーによるグループのレコードへのアクセス、ゲストとより多くの連絡先情報を共有する機能、コミュニティユーザを作成する新しい Apex メソッド、検索の的を絞るための SEO の改善、メールのリダイレクト機能の改善などが挙げられます。

このセクションの内容:

コミュニティメンバーがグループにレコードを追加可能

コミュニティメンバーは、コミュニティの Chatter グループにレコードを追加することで、そのレコードに対してチームでコラボレーションできるようになりました。

コミュニティの投稿およびコメントの編集

Salesforce タブ + Visualforce テンプレートまたは Napili テンプレートで作成されたコミュニティのユーザは、投稿とコメントを編集できるようになりました。システム管理者は 2 つの新しいプロファイル権限および Chatter 設定を使用して、投稿を編集できるユーザを決定します。

より多くの連絡先項目へのゲストアクセスが可能

より多くの連絡先情報をコミュニティのゲストユーザと共有できるようになりました。[メール]、[Fax]、[マネージャ]、[携帯電話]、[住所]、[勤務先電話番号] 項目を [公開] に設定し、コミュニティの参照にログインが不要なゲストユーザと情報を共有できます。

コミュニティユーザを作成するための新しい Apex メソッド

コミュニティユーザを作成するには、新しい `Site.createExternalUser()` Apex メソッドを使用します。このメソッドは、`Site.createPortalUser()` メソッドと比べると例外処理とエラーメッセージが改善されています。

コミュニティの Visualforce メールテンプレートの差し込み項目

コミュニティの Visualforce メールテンプレートでは、新しいグローバル差し込み項目の種別 `$Network` とそのプロパティを使用します。Visualforce メールテンプレートでは、充実した会社のブランド情報でメールをカスタマイズできます。

テキストベースのコミュニティメール内の使用リンクと期限切れリンクの正しいリダイレクト

メール内の使用リンクと期限切れリンクは、標準の Salesforce ログインページではなくコミュニティログインページに正しくリダイレクトされるようになりました。これらのメールでは、各コミュニティで作成されたデフォルトのテキストベースのメールテンプレートが使用されます。

承認申請、ワークフローアラート、およびケースの送信メールにコミュニティへのリンクを挿入

`{!<any_object>.Link}` 差し込み項目を使用するメールテンプレートで作成されたメールは、外部ユーザに送信されるときにコミュニティへのリンクが含まれるようになりました。以前は、このリンクは内部組織に外部ユーザを移動していました。

外部ユーザがレコードの [承認履歴] 関連リストから直接承認または却下可能

レコードの承認者として、カスタマーコミュニティプラスまたはパートナーコミュニティライセンスのユーザなど、ロールベースの外部ユーザを割り当てることができるようになりました。承認を個々のユーザに直接割り当てずに、キューにすべてのロールベースの外部ユーザを直接追加し、キューを使用して承認を割り当ててもできます。

パートナーユーザがキャンペーンを参照、作成、および編集可能

パートナーコミュニティライセンスを持つユーザにキャンペーンの参照、作成、および編集権限を割り当てることができるようになりました。以前は、パートナーユーザはキャンペーンの参照のみが可能でした。

パートナーおよびカスタマーユーザがアイデアを参照、作成、および編集可能

カスタマーコミュニティ、カスタマーコミュニティプラス、およびパートナーコミュニティライセンスを持つユーザにアイデアの参照、作成、および編集権限を割り当てることができるようになりました。以前は、パートナーおよびカスタマーユーザはアイデアの参照および作成のみが可能でした。

改善された SEO を使用して焦点を絞ったコミュニティ検索結果

検索結果のクロールと生成が改善され、コミュニティで高度な検索機能と高いパフォーマンスが提供されるようになりました。検索関連のクロールは自動的にコミュニティで有効化されるようになったため、利用するために Visualforce ソリューションを構築する必要はありません。

コミュニティメールからのシームレスなダイレクト

セルフサービステンプレート (Koa、Kokua、または Napili) に基づくコミュニティでは、コミュニティで生成されたメールが直接関連するページにリンクされるようになりました。

より直観的なケースおよびリードの割り当てルールの有効化

[ケース割り当て] チェックボックスおよび [リード割り当て] チェックボックスで使用可能なオプションの、[デフォルト] 設定および [編集ページを表示] チェックボックスが個別に適用されるようになりました。以前は、これらのオプションが相互に連動していました。

Site.com Studio でのコミュニティの [パスワードを忘れた場合] カスタムページの指定

コミュニティの Site.com サイト設定からカスタム Community Builder (Site.com Studio) ページを使用するようにコミュニティを設定できるようになりました。[パスワードを忘れた場合] ページでは、ユーザが忘れてしまったコミュニティパスワードを復元またはリセットできます。

ナレッジ API へのゲストユーザアクセスの有効化

Force.com サイトおよび Salesforce Communities Force.com サイトに新しいオプションが追加されました。[ナレッジ API へのゲストアクセス] チェックボックスがオンになっていると、認証されていないユーザによるナレッジ API へのアクセスが許可されます。

コミュニティメンバーがグループにレコードを追加可能

コミュニティメンバーは、コミュニティの Chatter グループにレコードを追加することで、そのレコードに対してチームでコラボレーションできるようになりました。

コミュニティメンバーは、少なくともレコードへの参照アクセス権と、レコードを追加するグループへのアクセス権が必要です。たとえば、非公開グループにレコードを追加できるのは「すべてのデータの編集」などの特別な権限を持つグループメンバーまたはユーザのみですが、公開グループへのレコードの追加は全員が行うことができます。

-  **メモ:** コミュニティでのレコード表示は、ユーザライセンス、プロファイル、および共有アクセス権によって異なります。レコードがグループに追加されると、必要なアクセス権のあるグループの全員がそのレコードを参照できますが、Chatter Free ユーザはレコードを参照できません。

この機能はデフォルトですべての組織で有効になっていますが、いくつかの追加設定が必要です。

- グループパブリッシャーレイアウトに [レコードの追加] アクションを追加して、ユーザがレコードを追加できるようにする。

- 必要に応じて、組織のレコードレイアウトに [グループ] 関連リストを追加する。

この設定により、この機能が内部組織とすべてのコミュニティの両方で使用できるようになります。

設定についての詳細は、Salesforce ヘルプの「[ユーザによる Chatter グループへのレコードの追加を許可する](#)」を参照してください。

コミュニティの投稿およびコメントの編集

Salesforce タブ + Visualforce テンプレートまたは Napili テンプレートで作成されたコミュニティのユーザは、投稿とコメントを編集できるようになりました。システム管理者は2つの新しいプロファイル権限および Chatter 設定を使用して、投稿を編集できるユーザを決定します。

必要なユーザプロファイル権限を持つユーザは、テキストの投稿とコメント、質問、および回答の右上隅にある  メニューから編集を実行できます。Napili テンプレートでは、このメニューは [フィード項目の詳細] コンポーネントで使用できます。

詳細は、「[フィードの投稿とコメントの編集](#)」および「[ユーザプロファイルまたは権限セットのフィード投稿編集の有効化](#)」を参照してください。

より多くの連絡先項目へのゲストアクセスが可能

より多くの連絡先情報をコミュニティのゲストユーザと共有できるようになりました。[メール]、[Fax]、[マネージャ]、[携帯電話]、[住所]、[勤務先電話番号]項目を[公開]に設定し、コミュニティの参照にログインが不要なゲストユーザと情報を共有できます。

連絡先項目の表示についての詳細は、Salesforce ヘルプの「[コミュニティ内での個人連絡先情報の共有](#)」を参照してください。

コミュニティユーザを作成するための新しい Apex メソッド

コミュニティユーザを作成するには、新しい `Site.createExternalUser()` Apex メソッドを使用します。このメソッドは、`Site.createPortalUser()` メソッドと比べると例外処理とエラーメッセージが改善されています。

詳細は、[『Force.com Apex コード開発者ガイド』](#)を参照してください。

コミュニティの Visualforce メールテンプレートの差し込み項目

コミュニティの Visualforce メールテンプレートでは、新しいグローバル差し込み項目の種別 `$Network` とそのプロパティを使用します。Visualforce メールテンプレートでは、充実した会社のブランド情報でメールをカスタマイズできます。

たとえば、コミュニティにメンバーを追加するときに、Visualforce を使用してメンバーが受信するお知らせメールの外観をカスタマイズできます。以前は、コミュニティでは Visualforce メールテンプレートの差し込み項目はサポートされていませんでした。詳細は、Salesforce ヘルプの「[グローバル変数とは](#)」および「[コミュニティの差し込み項目](#)」を参照してください。

テキストベースのコミュニティメール内の使用リンクと期限切れリンクの正しいリダイレクト

メール内の使用リンクと期限切れリンクは、標準の Salesforce ログインページではなくコミュニティログインページに正しくリダイレクトされるようになりました。これらのメールでは、各コミュニティで作成されたデフォルトのテキストベースのメールテンプレートが使用されます。

承認申請、ワークフローアラート、およびケースの送信メールにコミュニティへのリンクを挿入

{!<any_object>.Link} 差し込み項目を使用するメールテンプレートで作成されたメールは、外部ユーザに送信されるときにコミュニティへのリンクが含まれるようになりました。以前は、このリンクは内部組織に外部ユーザを移動していました。

コミュニティへのリンクが含まれるのは、次のシナリオの場合のみです。

- {!<any_object>.Link} 差し込み項目を使用した承認申請 (承認者および代理承認者に送信)
- {!<any_object>.Link} 差し込み項目を使用したワークフローメールアラート
- {!Case.Link} 差し込み項目を使用した取引先責任者および所有者へのケースコメント通知
- {!Case.Link} 差し込み項目を使用した取引先責任者へのケースの作成および更新通知 これらのメールは、[設定] の [ケース] > [サポート設定] で [取引先責任者通知メールを送信] が選択されている場合に送信されます。

メールテンプレートがこれらの差し込み項目を使用しているかどうかを確認するには、[設定] の [コミュニケーションテンプレート] > [メールテンプレート] をクリックし、メールテンプレートの横にある [編集] をクリックします。

メールを受信するユーザが複数の有効なコミュニティのメンバーである場合、このリンクは最も古い有効なコミュニティにユーザを移動します。ユーザがコミュニティのコンテキスト内にいる場合、このリンクはそのコミュニティにユーザを移動します。ユーザがコミュニティのメンバーではない場合、このリンクは内部組織にユーザを移動します。

 **例:** コミュニティのメンバーである外部ユーザが承認申請通知のメールを受信する場合、メール内のリンクはコミュニティ内の承認申請への直接リンクになります。このリンクは、メールテンプレート内の {!<any_object>.Link} 差し込み項目で制御します。

外部ユーザがレコードの [承認履歴] 関連リストから直接承認または却下可能

レコードの承認者として、カスタマーコミュニティプラスまたはパートナーコミュニティライセンスのユーザなど、ロールベースの外部ユーザを割り当てることができるようになりました。承認を個々のユーザに直接割り当てずに、キューにすべてのロールベースの外部ユーザを直接追加し、キューを使用して承認を割り当てることもできます。

ロールベースの外部ユーザは、レコードの [私の承認] および [承認履歴] 関連リストを参照してそこからアクションを実行できます。承認を Chatter フィードから直接トリガすることもできます。以前は、ロールベースの外部ユーザは承認者として割り当てられることができず、レコードの [私の承認] 関連リストは参照できませんでした。レコードを承認するには、そのレコードが割り当てられたキューのメンバーである必要がありました。

 **メモ:** 大規模カスタマーポータルや認証Webサイトなど、大規模ライセンスのユーザは承認できません。

承認ワークフローでメール通知を設定した場合、メールで提供されるリンクは、コミュニティ内の承認にユーザを直接移動します。

Salesforce1 では、ユーザが [承認履歴] 関連リストを参照してそこからアクションを実行できますが、承認申請は送信できません。承認申請を送信するには、Salesforce フルサイトから実行する必要があります。

パートナーユーザがキャンペーンを参照、作成、および編集可能

パートナーコミュニティライセンスを持つユーザにキャンペーンの参照、作成、および編集権限を割り当てることができるようになりました。以前は、パートナーユーザはキャンペーンの参照のみが可能でした。

従来のパートナーポータルライセンスに権限を割り当てることもできますが、ポータルではなくコミュニティでキャンペーンを作成または編集することのみ可能です。

デフォルトでは、作成および編集権限は無効になっています。パートナーユーザの権限は、そのユーザのプロファイルまたは権限セットを使用して管理します。共有ルールが適用されます。

パートナーユーザが UI でキャンペーンを操作するには、キャンペーンを参照、作成、および編集する「マーケティングユーザ」権限が必要です。「マーケティングユーザ」権限および作成と編集権限を持つパートナーユーザは、次の操作を実行できます。

- キャンペーンメンバーとしての取引先責任者またはリードの検索と追加
- キャンペーンのレポートへのアクセス
- キャンペーンの取引先責任者およびリードへの一括メール送信と一括割り当て

パートナーおよびカスタマーユーザがアイデアを参照、作成、および編集可能

カスタマーコミュニティ、カスタマーコミュニティプラス、およびパートナーコミュニティライセンスを持つユーザにアイデアの参照、作成、および編集権限を割り当てることができるようになりました。以前は、パートナーおよびカスタマーユーザはアイデアの参照および作成のみが可能でした。

従来のポータルライセンスに権限を割り当てることもできます。デフォルトでは、編集権限は無効になっています。パートナーおよびカスタマーユーザの権限は、そのユーザのプロファイルまたは権限セットを使用して管理します。共有ルールが適用されます。

改善された SEO を使用して焦点を絞ったコミュニティ検索結果

検索結果のクロールと生成が改善され、コミュニティで高度な検索機能と高いパフォーマンスが提供されるようになりました。検索関連のクロールは自動的にコミュニティで有効化されるようになったため、利用するために Visualforce ソリューションを構築する必要はありません。

この変更で検索結果が改良され、特に記事に関するトピックにおいて、トピックとの関連性がより高い URL が検索されるようになりました。特定のコンテンツを検索する場合、ユーザは焦点を絞った完全な検索結果を得ることができます。

各コミュニティには、すべてのコミュニティで共有される robots.txt ファイルとの一意の関連付けがあります。以前は、ロボットクロールを有効にするには Visualforce が必要でした。今回のリリースで、robots.txt がデフォルト

トで有効化されるようになりました。このファイルは、検索エンジンにコミュニティページに関する情報を提供する、拡張性の高い sitemap.xml ファイルと連動します。

引き続き Visualforce を使用して、コミュニティの検索をさらに最適化できます。

コミュニティメールからのシームレスなリダイレクト

セルフサービステンプレート (Koa、Kokua、または Napili) に基づくコミュニティでは、コミュニティで生成されたメールが直接関連するページにリンクされるようになりました。

メールは、コミュニティの Chatter 活動、およびケース (たとえば、Salesforce コンソール内) から生成できます。メールと同時に生成される URL は、ユーザをメールのソースに移動するように動的に設定されます。コミュニティユーザは、メールメッセージ内のリンクをクリックするだけで、参照されているコンテンツを表示できます。

このリダイレクトは、すべてのコミュニティテンプレートで機能します。ユーザの移動先は、コミュニティのテンプレートを変更しても指定どおりのコミュニティコンテンツに設定されます。

 **メモ:** Aloha テンプレートに基づくコミュニティから生成されたメールは、ユーザを組織の Aloha ポータルに移動するように設定されます。

より直観的なケースおよびリードの割り当てルールの有効化

[ケース割り当て] チェックボックス および [リード割り当て] チェックボックスで使用可能なオプションの、[デフォルト] 設定および [編集ページを表示] チェックボックスが個別に適用されるようになりました。以前は、これらのオプションが相互に連動していました。

[ケース割り当て] チェックボックスを更新するには、ケースページレイアウトの [レイアウトのプロパティ] を編集します。

 **例:** ケースの割り当てルールを強制的に適用するには、[ケース割り当て] チェックボックスの下にある [デフォルト] を選択します。つまり、エンドユーザがケースを編集するときに、ケース割り当てを無効にするオプションは表示されなくなります。[編集ページを表示] を選択して、[有効な割り当てルールにより割り当てる] チェックボックスを表示するかどうかも指定できます。両方のオプションを選択した場合は、割り当てチェックボックスが表示され、さらにそのチェックボックスはデフォルトでオンになります。デフォルト設定では、チェックボックスも表示するように設定されており、ユーザが手動でチェックボックスをオフにしない限り、割り当てルールが強制的に実行されます。

Site.com Studio でのコミュニティの [パスワードを忘れた場合] カスタムページの指定

コミュニティの Site.com サイト設定からカスタム Community Builder (Site.com Studio) ページを使用するようにコミュニティを設定できるようになりました。[パスワードを忘れた場合] ページでは、ユーザが忘れてしまったコミュニティパスワードを復元またはリセットできます。

[管理] > [ログイン & 登録] の [コミュニティ管理] でも [パスワードを忘れた場合] ページを指定できます。この指定により、Site.com での [パスワードを忘れた場合] ページの選択が自動的に上書きされ、更新されます。

ナレッジ API へのゲストユーザアクセスの有効化

Force.com サイトおよび Salesforce Communities Force.com サイトに新しいオプションが追加されました。[ナレッジ API へのゲストアクセス] チェックボックスがオンになっていると、認証されていないユーザによるナレッジAPIへのアクセスが許可されます。

エディション

使用可能なエディション:
Developer Edition、
Enterprise Edition、
Performance Edition、および
Unlimited Edition

セールス: エンタープライズテリトリー管理、売上予測、その他

商談にテリトリーを簡単に割り当て、営業チームに月別および四半期別の総売上額のより明確な表示を提供できます。最新のメールインテグレーション開発について説明します。

このセクションの内容:

エンタープライズテリトリー管理

エンタープライズテリトリー管理には商談にテリトリーを割り当てるための多くのオプションがあり、検索条件に基づく割り当てジョブによって処理が容易になります。さらに、チームメンバーが Chatter を使用してテリトリーモデル開発に関するコラボレーションを行えるようになっただけでなく、テリトリーレコードを拡張してより豊富なデータを提供する、有益なカスタマイズを追加できるようになりました。次のとおりです。

コラボレーション売上予測

コラボレーション売上予測を使用して、パイプラインから商談成立までの販売サイクルを予測および計画し、組織全体で販売予想を管理します。

Email Connect

新しい製品エリアとなる Email Connect の開発が続けられています。Email Connect には、Exchange ベースのメールシステムと Salesforce 間でユーザの取引先責任者および行動を同期する、最新のメールインテグレーション機能が含まれます。営業チームは Microsoft® Outlook Web App (OWA) Outlook® 2013 から直接 Salesforce の取引先責任者を作成または参照したり、その他の営業関連のレコードを参照したりできます。

Salesforce for Outlook

設定をさらに効率的に管理できる機能を備えた合理的な Salesforce for Outlook 環境を営業担当者に提供することで、ユーザは販売に焦点を絞ることができるようになります。ユーザのワークステーションでの Salesforce for Outlook のインストール方法を管理し、Microsoft® Outlook® 項目と Salesforce の同期方法を決定します。

Connect for Outlook

Connect for Outlook は、Winter '16 をもって終了します。お早めに最新のメールインテグレーション機能に移行してください。

活動

行動と ToDo は、営業の生産性に不可欠な要素です。パフォーマンスと使い勝手を向上する更新に加えて、競合他社に対する営業チームの競争力を高める機能強化を行いました。

メモ (ベータ)

Salesforce のメモ取りツールの拡張バージョンとして「メモ」が導入され、より適切なメモをすばやく取れるようになりました。

重複管理

クリーンで正確なデータの保持は、組織で Salesforce を最大限に活用するための最重要の処理の 1 つです。Data.com 重複管理を使用して、Salesforce 内で重複レコードの作成をユーザに許可するかどうか、いつ許可するかの制御、重複レコードの特定に使用するロジックのカスタマイズ、ユーザに保存を許可する重複レコードに関するレポートの作成ができます。

Salesforce Console for Sales

Salesforce Console for Sales では、セールスインテリジェンスに簡単にアクセスできます。ダッシュボードを使用して、より少ないクリックとスクロールでコンテキストデータを取得できます。

Sales Cloud のその他の変更

使い勝手を向上するために加えられたその他の変更について説明します。

関連トピック:

[セールス機能が使用可能になる方法と状況](#)

エンタープライズテリトリー管理

エンタープライズテリトリー管理には商談にテリトリーを割り当てるための多くのオプションがあり、検索条件に基づく割り当てジョブによって処理が容易になります。さらに、チームメンバーが Chatter を使用してテリトリーモデル開発に関するコラボレーションを行えるようになっただけでなく、テリトリーレコードを拡張してより豊富なデータを提供する、有益なカスタマイズを追加できるようになりました。次のとおりです。

これらの新機能の設定方法を含む、エンタープライズテリトリー管理の詳細な実装手順は、[『Enterprise Territory Management Implementation Guide』](#) を参照してください。

エディション

使用可能なエディション:

Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

このセクションの内容:

商談へのテリトリーの割り当ての効率化 (正式リリース)

検索条件に基づく商談テリトリー割り当てでは、単純なジョブを使用して商談にテリトリーを割り当てることができます。そのまま使用したり、必要に応じてガイドラインに基づいて変更したりできる、Apex クラスのコードが用意されています。クラスを作成してリリースしたら、割り当てプロセスを完了するジョブを実行します。ジョブのオプションには、日付範囲内の割り当て、および進行中の商談のみへのテリトリーの割り当てが含まれます。商談が作成されるたびにジョブを実行するように設定することもできます。

商談への任意のテリトリの割り当て

組織で、有効なテリトリモデルの任意のテリトリを商談に割り当てることができるようになりました。手動(商談レコードから)、自動(検索条件に基づく商談テリトリ割り当てを使用)、またはプログラミング(APIを使用)のいずれかの方法で割り当てることができます。商談の取引先にも割り当てられたテリトリのみを割り当てるという制限はなくなりました。ユーザが手動で行う割り当ては、商談の割り当て済み(親取引先へのユーザの共有アクセス権によって制御されます。

Chatterを使用したテリトリモデルに関するコラボレーション

組織で Chatter を使用している場合、チームは Chatter を使用してテリトリモデル開発に関してコラボレーションできるようになります。

テリトリへの割り当てルールに関連付けの効率化

テリトリに割り当てる割り当てルールを簡単に選択できるようになりました。ルールを割り当てるページでルール名にマウスポインタを置くと、その条件が表示されます。

テリトリモデルとテリトリページで使用可能になったボタンとリンク

ボタンとリンクを定義し、それらをテリトリモデルおよびテリトリページレイアウトに追加することで、チームが Salesforce 内でテリトリ関連の機能、ツール、およびデータに簡単にアクセスできるようにします。

外部システムからのテリトリ ID 情報の統合

外部システムで管理するテリトリ ID を保存、検索、およびレポートできます。

商談へのテリトリの割り当ての効率化 (正式リリース)

検索条件に基づく商談テリトリ割り当てでは、単純なジョブを使用して商談にテリトリを割り当てることができます。そのまま使用したり、必要に応じてガイドラインに基づいて変更したりできる、Apex クラスのコードが用意されています。クラスを作成してリリースしたら、割り当てプロセスを完了するジョブを実行します。ジョブのオプションには、日付範囲内の割り当て、および進行中の商談のみへのテリトリの割り当てが含まれます。商談が作成されるたびにジョブを実行するように設定することもできます。

商談テリトリ割り当ては、条件を満たした組織ではデフォルトで有効になっています。

Salesforce が提供する Apex クラスコードは、多数の要素に基づいて商談にテリトリを割り当てます。

- 検索条件に基づくテリトリ割り当てから商談が除外されている場合、テリトリは割り当てられません。
- 商談に取引先が割り当てられていて、その取引先に有効なテリトリモデルから割り当てられたテリトリがある場合、その取引先のテリトリが商談に割り当てられます。それ以外の場合、テリトリは割り当てられません。
- 商談の割り当てられた取引先に、有効な割り当てられたモデルからの複数のテリトリがある場合、ジョブで Territory2type オブジェクトの優先度値または他の条件を使用して、商談に割り当てるテリトリ (存在する場合) を決定できます。

検索条件に基づく商談テリトリ割り当ての設定とリリースの完全な手順は、[『Enterprise Territory Management Implementation Guide』](#)を参照してください。作成してリリースする必要がある Apex クラスについての詳細は、「[新規および変更された Apex クラス](#)」(ページ 267)を参照してください。

商談への任意のテリトリーの割り当て

組織で、有効なテリトリーモデルの任意のテリトリーを商談に割り当てることができるようになりました。手動 (商談レコードから)、自動 (検索条件に基づく商談テリトリー割り当てを使用)、またはプログラミング (APIを使用) のいずれかの方法で割り当てることができます。商談の取引先にも割り当てられたテリトリーのみを割り当てるという制限はなくなりました。ユーザーが手動で行う割り当ては、商談の割り当て済み (親) 取引先へのユーザーの共有アクセス権によって制御されます。

テリトリーが商談に割り当てられていると、テリトリーモデルの階層でそのテリトリーより上位のテリトリーに割り当てられているすべての Salesforce ユーザにその商談が共有されます。

手動によるテリトリーの割り当て (商談レコードの「テリトリー」項目から) の場合、テリトリーの割り当ては商談の取引先へのユーザーの共有アクセス権に基づきます。その取引先への共有アクセス権を持つユーザは、有効な任意のテリトリーを商談に割り当てることができます。その取引先への共有アクセス権を持たないユーザは、商談の取引先にも割り当てられたテリトリーのみを割り当てることができます。

手動によるテリトリーの割り当ての場合でも、商談をテリトリーの取引先に割り当ててをお勧めします。共有アクセス権を持つユーザは、有効なテリトリーモデルの任意のテリトリーを検索および割り当てできます。

 **例:** Utel.com に 6 件の商談と、East Coast (東海岸) と West Coast (西海岸) という 2 つのテリトリーがあるとします。この場合、6 件の商談のいずれかまたはすべてに、East Coast (東海岸)、West Coast (西海岸)、または有効なモデル内の他の任意のテリトリーを割り当てることができます。1 人の営業担当は 1 件の商談に割り当てられた取引先への共有アクセス権を持つため、任意のテリトリーをその商談に割り当てることができます。他の 5 件の商談については、割り当て済みの取引先への共有アクセス権がありません。そのため、これらの商談については、商談の割り当て済みの取引先にすでに割り当てられたテリトリーのみを割り当てることができます。

Chatter を使用したテリトリーモデルに関するコラボレーション

組織で Chatter を使用している場合、チームは Chatter を使用してテリトリーモデル開発に関してコラボレーションできるようになります。

Chatter フィード追跡を有効にして設定すると、テリトリーモデルレコードへのアクセス権がある全員が Chatter を使用してそのモデルに関してコラボレーションできます。レコードをフォローしているユーザは、モデルの状態が変更されて追跡項目が更新されたときに、各自の Chatter フィードで通知されます。テリトリーモデルを管理する他のユーザに、Chatter を使用してモデルレコードから直接テリトリーモデルをフォローし、コラボレーションできるようになったことを伝えてください。

テリトリーモデルオブジェクトの Chatter フィードの有効化についての詳細は、[『Enterprise Territory Management Implementation Guide』](#) を参照してください。

テリトリーへの割り当てルールの関連付けの効率化

テリトリーに割り当てる割り当てルールを簡単に選択できるようになりました。ルールを割り当てるページでルール名にマウスポインタを置くと、その条件が表示されます。

Manually Assign Object Territory Assignment Rules to California - North [Help for this Page](#)

Select the checkbox next to each object territory assignment rule you want to add to this territory, and then click Assign to save your selections.

Hierarchy: [Universal Telco US](#) » [California - North](#)

View: [All](#) [Create New View](#)

A | B | C | D | E | F | G | H | I | J | K | L | M | N | O | P | Q | R | S | T | U | V | W | X | Y | Z | Other | **All**

Available	
☒	Rule Name ↑
☒	California State - North

California State - North Details

Rule Criteria

(Account: Billing State/Province equals California) AND (Account: Billing City equals San Francisco) AND (Account: Billing City equals Sacramento)

Selected	
☒	Rule Name
☒	California State - North

Apply to Child Territories ☐

[Assign](#) [Cancel](#)

テリトリーモデルとテリトリーページで使用可能になったボタンとリンク

ボタンとリンクを定義し、それらをテリトリーモデルおよびテリトリーページレイアウトに追加することで、チームが Salesforce 内でテリトリー関連の機能、ツール、およびデータに簡単にアクセスできるようになります。

その他の例を含む、ボタンとリンクの操作についての詳細は、Salesforce ヘルプの「アクション、ボタン、およびリンクの概要」を参照してください。ボタンまたはリンクを作成したら、該当するテリトリーモデルまたはテリトリーページレイアウトにそのボタンまたはリンクを追加します。ユーザにその場所と使用方法を伝えます。

Territory
California - North
Hierarchy: [Universal Telco US](#) » California - North

[Assigned Users \[0\]](#) | [Manually Assigned Accounts \[1\]](#) | [Inherited Assignment Rules \[0\]](#) | [Assignment Rules Assigned to This Territory \[0\]](#) | [Child Territories \[2\]](#)

Territory Detail [Edit](#) [Delete](#) [Clone](#) [View Accounts](#)

Label	California - North	Territory Name	California_North
Territory Type	US Geo-Based	Territory Model	Universal Telco US
Parent Territory	(Universal Telco US)		
Description			
Territory ID from External System	MS-0001		

▼ System Information

Last Modified By	Linda Valero , 3/27/2015 1:44 PM	Last Modified Date	3/27/2015 1:44 PM
------------------	--	--------------------	-------------------

▼ Territory Access Levels

Account Access Level	Users in this territory can view and edit accounts assigned to this territory.
Opportunity Access Level	Users in this territory can view all opportunities associated with accounts in the territory, regardless of who owns the opportunities.

Custom Links

[Link to ZIP Report](#)

[Assigned Users](#) [Manage Users](#)

例: Utel.com の有効なテリトリーモデルには、地域ベース、指定取引先、およびオーバーレイテリトリーが含まれています。取引先が割り当てられているテリトリーが取引先オブジェクトの「郵便番号 (請求先)」項目でグループ化されて表示される、カスタムレポートがあります。システム管理者がそのレポートへのカスタムリンクを作成し、そのリンクをテリトリーページレイアウトに追加しました。これで、テリトリーの管理者がレポートにすばやくアクセスし、テリトリーの次元に関係なく、特定の郵便番号内のすべてのテリトリーのリストを取得できます。

外部システムからのテリトリー ID 情報の統合

外部システムで管理するテリトリー ID を保存、検索、およびレポートできます。

エンタープライズテリトリー管理では、Territory2 オブジェクトで ExternalID 型のカスタム項目がサポートされるようになりました。これにより、テリトリーレコードに表示されるカスタム項目を作成し、その項目を使用して外部 ID を保存できます。Salesforce 内でその項目を使用してクエリおよびレポートできます。

カスタム項目の作成についての詳細は、Salesforce ヘルプの「カスタム項目の作成」および「カスタム項目の属性」を参照してください。必ずカスタム項目をテリトリーレコードページレイアウトに追加し、チームにその使用方法を伝えてください。

Territory
California - North
Hierarchy: [Universal Telco US](#) » California - North

[Assigned Users \[0\]](#) | [Manually Assigned Accounts \[1\]](#) | [Inherited Assignment Rules \[0\]](#) | [Assignment Rules Assigned to This Territory \[0\]](#) | [Child Territories \[2\]](#)

Territory Detail [Edit](#) [Delete](#) [Clone](#) [View Accounts](#)

Label	California - North	Territory Name	California_North
Territory Type	US Geo-Based	Territory Model	Universal Telco US
Parent Territory	(Universal Telco US)		
Description			
Territory ID from External System	MS-0001		

▼ System Information

Last Modified By	Linda Valero , 3/27/2015 1:44 PM	Last Modified Date	3/27/2015 1:44 PM
------------------	--	--------------------	-------------------

-  **例:** テリトリーモデル化の目的で、Utel.comは外部システムで一部のテリトリーデータを管理しています。カスタム外部 ID 項目を作成し、Salesforce テリトリーレコード内でそのデータを対応付けて追跡できるようにしました。

コラボレーション売上予測

コラボレーション売上予測を使用して、パイプラインから商談成立までの販売サイクルを予測および計画し、組織全体で販売予想を管理します。

エディション

使用可能なエディション:
Professional Edition、
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

累積売上予測積み上げ集計を使用した営業チームへの Outlook の見やすい表示の提供

[売上予測] タブの累積売上予測積み上げ集計金額は、複数の売上予測分類の商談の積み上げ集計金額を合計しています。このような積み上げ集計により、毎月または毎四半期の合計営業数値が見やすくなります。

商談を営業チームの売上予測に積み上げ集計する場合に、次の2つの方法から選択できるようになりました。

- 売上予測分類ごとの商談を、分類ごとに **個別**の売上予測金額に積み上げ集計する従来の方法。
- 複数の売上予測分類の商談を、**累積**売上予測金額に積み上げ集計する新しい方法。

[設定] で [累積売上予測積み上げ集計] を選択すると、商談が売上予測金額に積み上げ集計される方法と [売上予測] タブの列名が変わります。違いをご自身で確認してみてください。

売上予測分類の積み上げ集計方法	[売上予測] タブでの列名	積み上げ集計される商談
個別	パイプライン	パイプライン
	最善達成予測	最善達成予測
	達成予測	達成予測
	完了	完了
累積	進行中のパイプライン	- パイプライン - 最善達成予測 - 達成予測
	最善達成予測の売上予測	- 最善達成予測 - 達成予測 - 完了
	達成予測の売上予測	- 達成予測 - 完了
	完了のみ	完了

累積売上予測積み上げ集計の利点

売上予測分類ごとの積み上げ集計では、それぞれの合計と小計は、1つの売上予測分類のみの商談を表します。この種類の積み上げ集計では、売上予測ユーザが1か月または1四半期の実際の合計を求める場合に、最善達成予測、達成予測、完了の売上予測金額を自分で合計する必要があります。

例: 個別の売上予測積み上げ集計				
売上予測金額	完了	達成予測	最善達成予測	パイプライン
	\$50	\$100	\$150	\$200
商談	完了	達成予測	最善達成予測	パイプライン
	\$50	\$50 \$50	\$50 \$50 \$50	\$50 \$50 \$50 \$50

累積売上予測積み上げ集計では、指定された売上予測分類および販売段階の以降の売上予測分類の商談から累積金額が売上予測列に表示されます。この表示により、営業チームが求める合計金額が見やすくなり、分類合計を自分で計算する必要がなくなります。

たとえば、次の表に、4つのパイプライン、3つの最善達成予測、2つの達成予測、1つの完了商談があり、それぞれが\$50の場合の累積売上予測積み上げ集計金額を示します。

例: 累積売上予測積み上げ集計				
売上予測金額	完了のみ	達成予測の売上予測	最善達成予測の売上予測	進行中のパイプライン
	\$50	\$150	\$300	\$450
商談	完了	達成予測	最善達成予測	パイプライン
	\$50	\$50 \$50	\$50 \$50 \$50	\$50 \$50 \$50 \$50



メモ: 累積売上予測積み上げ集計を使用する組織では、売上予測の履歴トレンドを使用できません。

営業担当および営業マネージャの累積売上予測積み上げ集計の有効化

組織で、累積売上予測積み上げ集計列または個別の売上予測分類列を使用できます。

売上予測列の表示を変更すると、[達成予測]および[最善達成予測]の売上予測金額へのすべての調整が消去されますが、目標データは消去されません。

1. [設定] で、[カスタマイズ] > [売上予測] > [設定] をクリックします。
2. [累積売上予測積み上げ集計] を有効にします。

ユーザ権限

売上予測設定を参照する

- 「設定・定義を参照する」

売上予測設定を編集する

- 「アプリケーションのカスタマイズ」

売上予測金額のソースの特定

売上予測金額の発生元を営業チームに示します。レポートビルダーで、ForecastingItemCategory 項目を含むカスタムレポートタイプ (CRT) を作成します。

売上予測データ、売上予測調整、所有者による売上予測調整に基づいて CRT を作成するときに、ForecastingItemCategory 項目を追加します。この項目は、各売上予測金額が累積売上予測積み上げ集計または個別の売上予測分類の積み上げ集計のどちらであることを示します。

ForecastingItemCategory に使用できる値		
個別の売上予測分類の積み上げ集計を使用している組織の場合	PipelineOnly	パイプライン商談のみの積み上げ集計。
	BestCaseOnly	最善達成予測商談のみの積み上げ集計。
	CommitOnly	達成予測商談のみの積み上げ集計。
	ClosedOnly	完了商談のみの積み上げ集計。
累積売上予測積み上げ集計を使用している組織の場合	OpenPipeline	パイプライン商談 + 最善達成予測商談 + 達成予測商談の積み上げ集計。
	BestCaseForecast	最善達成予測商談 + 達成予測商談 + 完了商談の積み上げ集計。
	CommitForecast	達成予測商談 + 完了商談の積み上げ集計。
	ClosedOnly	完了商談のみの積み上げ集計。

ForecastingItemCategory 項目についての詳細は、「[累積売上予測積み上げ集計の API の変更](#)」を参照してください。

累積売上予測積み上げ集計の API の変更

API を使用する場合は、各売上予測金額と売上予測調整が属する売上予測積み上げ集計の種別を理解する必要があります。

API

API バージョン 34.0 以降、各 ForecastingItem、ForecastingAdjustment、および

ForecastingOwnerAdjustment オブジェクトに新しい ForecastingItemCategory 項目が含まれます。この項目は、売上予測データまたは売上予測調整が属する売上予測積み上げ集計の種別を示します。累積売上予測積み上げ集計機能の追加により、ForecastingItemCategory 項目に次の値を使用できるようになりました。

売上予測積み上げ集計方法	値	説明
個々の売上予測分類積み上げ集計	PipelineOnly	パイプライン商談のみの積み上げ集計。
	BestCaseOnly	最善達成予測商談のみの積み上げ集計。調整可能。
	CommitOnly	達成予測商談のみの積み上げ集計。調整可能。
累積売上予測積み上げ集計	OpenPipeline	パイプライン商談 + 最善達成予測商談 + 達成予測商談の積み上げ集計。
	BestCaseForecast	最善達成予測商談 + 達成予測商談 + 完了商談の積み上げ集計。調整可能。
	CommitForecast	達成予測商談 + 完了商談の積み上げ集計。調整可能。
累積または個々の売上予測分類積み上げ集計	ClosedOnly	完了商談のみの積み上げ集計。

ForecastingItemCategory 項目は既存の ForecastCategoryName 項目とは異なります。

- ForecastCategoryName 項目は、売上予測金額に積み上げ集計される基盤となる商談の売上予測分類を表します。累積売上予測積み上げ集計を使用する組織では、累積売上予測金額に複数の売上予測分類の商談が含まれるため、ForecastCategoryName 項目に null を指定できます。
- 新しい ForecastingItemCategory 項目は、売上予測金額または売上予測調整を取得する積み上げ集計の種別を表します。個々の売上予測分類列を使用する組織では、個々の売上予測積み上げ集計分類が含まれます。累積売上予測積み上げ集計を使用する組織では、累積積み上げ集計分類が含まれます。

マネージャまたは所有者による調整を挿入する場合、ForecastCategoryName と ForecastingItemCategory に挿入する値は相互に互換性がある必要があります。累積売上予測積み上げ集計を使用する組織では、ForecastCategoryName に null を指定できます。有効なペアは次のとおりです。

売上予測積み上げ集計方法	ForecastCategoryName	ForecastingItemCategory
個々の売上予測分類積み上げ集計	BestCase	BestCaseOnly
	Commit	CommitOnly
累積売上予測積み上げ集計	null	BestCaseForecast
	null	CommitForecast

メタデータ API

累積売上予測積み上げ集計のメタデータ API の変更についての詳細は、「[メタデータ型とメタデータ項目](#)」の `ForecastingSettings` エントリを参照してください。

Email Connect

新しい製品エリアとなる Email Connect の開発が続けられています。Email Connect には、Exchange ベースのメールシステムと Salesforce 間でユーザの取引先責任者および行動を同期する、最新のメールインテグレーション機能が含まれます。営業チームは Microsoft® Outlook Web App (OWA) Outlook® 2013 から直接 Salesforce の取引先責任者を作成または参照したり、その他の営業関連のレコードを参照したりできます。

Exchange Sync (ベータ)

ユーザの Exchange ベースのメールシステム内の取引先責任者や行動が、Salesforce 内の取引先責任者や行動と同期した状態で維持されます。ユーザが各自のワークステーションにソフトウェアをインストールして保守する必要がありません。

 **メモ:** Exchange Sync は現在ベータ機能として使用可能で、機能の品質は高いですが、既知の制限があります。会社でこの機能を設定するには、『[Exchange Sync Implementation Guide](#)』を参照してください。

Exchange Sync での終日行動の同期

最新のクラウドベースのメールインテグレーション機能である Exchange Sync では終日行動が同期されるため、ユーザは Salesforce と Microsoft® Exchange ベースのメールシステム間の同期でより多くのレコードを保持できるようになりました。

ユーザの行動の同期をすでに設定している場合は、何も有効にする必要はありません。終日行動の同期は、Summer'15 へのアップグレード後 24 時間以内に開始されます。ユーザの行動の同期を設定するには、『[Exchange Sync Implementation Guide](#)』の「Define Sync Settings for Exchange Sync Users」を参照してください。

Salesforce for Outlook

設定をさらに効率的に管理できる機能を備えた合理的な Salesforce for Outlook 環境を営業担当者に提供することで、ユーザは販売に焦点を絞ることができるようになります。ユーザのワークステーションでの Salesforce for Outlook のインストール方法を管理し、Microsoft® Outlook® 項目と Salesforce の同期方法を決定します。

最新の機能強化について説明する前に、Connect for Outlook をまだ使用しているチームメンバーがいる場合は、Salesforce for Outlook または Email Connect (ベータ) にアップグレードすることを強くお勧めします。現時点でアップグレードしておけば、Winter '16 での Connect for Outlook のサポート終了前に慌ててチームを移行させる必要がなくなります。その時点で、Salesforce は機能のサポートを終了し、Connect for Outlook で取引先責任者、行動、ToDo が Salesforce と同期されなくなります。

では、Salesforce for Outlook に加えられた最新の機能強化を見てみましょう。

エディション

使用可能なエディション:
すべてのエディション

このセクションの内容:

1人のユーザまたはコンピュータを共有するすべてのユーザに対するインストール

ユーザが Salesforce for Outlook バージョン 2.8 をインストールする場合、ユーザ自身またはそのコンピュータにログインできる全ユーザのどちらを対象にしてインストールするかを指定するよう求められます。

ユーザが理解しやすくなった同期の設定

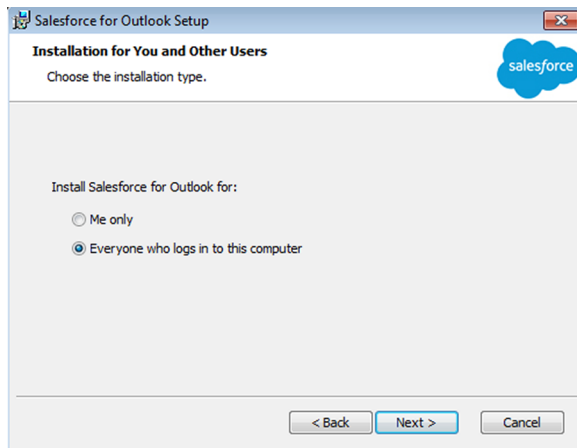
ユーザの Salesforce for Outlook 設定で 2 つの主要な設定の名前が変更され、Outlook 項目をユーザが同期しやすくなりました。[自動] は [すべての Outlook 項目を同期する] になり、[手動] は [選択した Outlook 項目のみを同期する] になりました。

デフォルトの同期設定の選択およびユーザによる変更の防止

ユーザが自分の Microsoft® Outlook® 項目を Salesforce と同期する方法をさらに効率的に管理できるようにするため、2 つの設定が追加されました。

1人のユーザまたはコンピュータを共有するすべてのユーザに対するインストール

ユーザが Salesforce for Outlook バージョン 2.8 をインストールする場合、ユーザ自身またはそのコンピュータにログインできる全ユーザのどちらを対象にしてインストールするかを指定するよう求められます。



ユーザが以前のバージョンの Salesforce for Outlook ですでに作業している場合は、バージョン 2.8 をインストールする前に以前のバージョンをアンインストールする必要があるかどうかを確認します。

アップグレード元のバージョン	バージョン 2.8 のインストール対象	以前のバージョンのアンインストールが必要
バージョン 2.5 以降	ユーザ自身	
	コンピュータにログインできる全ユーザ	✓
バージョン 2.4.2 以前	ユーザ自身	✓
	コンピュータにログインできる全ユーザ	

.msi インストーラの使用に関するインストールの種類指定

❗ 重要: ユーザをアップグレードする前に、アップグレード仕様に基づいて以前のバージョンのアンインストールが必要となる場合があります。アンインストールしないと、システムに2つのバージョンが存在する危険性があります。

デフォルトの .msi インストーラでは、コンピュータにログインできる全ユーザに対してバージョン2.8がインストールされます。個々のユーザのみを対象としてバージョン2.8がインストールされるようにデフォルトを変更する場合は、次のコマンドラインをまず実行する必要があります。

```
msiexec /i SalesforceForOutlook.msi /log SalesforceForOutlook.log /quiet  
MSIINSTALLPERUSER=1
```

ユーザが理解しやすくなった同期の設定

ユーザの Salesforce for Outlook 設定で2つの主要な設定の名前が変更され、Outlook 項目をユーザが同期しやすくなりました。[自動] は [すべての Outlook 項目を同期する] になり、[手動] は [選択した Outlook 項目のみを同期する] になりました。

ユーザがインストールまたはアップグレードする場合、または Salesforce for Outlook ロゴ (📧) を右クリックしてから [設定] をクリックして Microsoft® Windows® システムトレイから設定を確認する場合に、ユーザの同期設定を確認するよう求められます。ユーザはこれらの同期設定を使用して、Microsoft® Outlook® 項目を Salesforce と同期する方法を選択できます。

[すべての Outlook 項目を同期する] では、Outlook のユーザに対して [Salesforce と同期しない] カテゴリが作成されます。ユーザはこのカテゴリを個々の Outlook 項目に追加して、これらの項目を Salesforce と同期できないようにすることができます。この操作を行わないと、Outlook 設定で行われた同期設定の対象となるすべての Outlook 項目が Salesforce for Outlook により自動的に同期されます。

[選択した Outlook 項目のみを同期する] では、Outlook のユーザに対して [Salesforce と同期する] カテゴリが作成されます。ユーザはこのカテゴリを個々の Outlook 項目に追加して、これらの項目を Salesforce と同期できます。

Salesforce for Outlook バージョン2.8にアップグレードしているユーザ、および以前のバージョンの Salesforce for Outlook で作業しているユーザのどちらにも、新しい設定名が表示されます。

デフォルトの同期設定の選択およびユーザによる変更の防止

ユーザが自分の Microsoft® Outlook® 項目を Salesforce と同期する方法をさらに効率的に管理できるようにするため、2つの設定が追加されました。

ユーザがインストールまたはアップグレードする場合、デフォルトでは Salesforce for Outlook 設定で [選択した Outlook 項目のみを同期する] が選択されています。

デフォルトの同期設定を [すべての Outlook 項目を同期する] に変更して、ユーザがこの同期設定を後から変更できないようにしました。これらの設定は、ユーザの Outlook 設定で行います。

1. Salesforce の [設定] で、[デスクトップ管理者] > [Outlook 設定] をクリックします。
2. ユーザがデフォルト設定を変更する Outlook 設定を編集します。
3. [デフォルトの同期設定を [すべての Outlook 項目を同期] に設定する] を選択します。

4. ユーザによるデフォルト設定の変更を防止するには、「同期設定の変更をユーザに許可しない」を選択します。「ユーザが行った設定変更を上書き」が選択されている場合でも、ユーザは引き続きデフォルトの同期設定を変更できます。
5. [保存] をクリックします。

ユーザがアップグレードするたびに、ユーザの Salesforce for Outlook 同期設定はデフォルトに戻ります。ユーザによる同期設定の変更を引き続き許可する場合は、アップグレードするたびに希望する同期設定を設定する必要がありますことをユーザに知らせます。

Connect for Outlook

Connect for Outlook は、Winter '16 をもって終了します。お早めに最新のメールインテグレーション機能に移行してください。

Connect for Outlook は、Winter '16 をもって終了

Connect for Outlook ユーザは、最新のメールインテグレーション機能である Salesforce for Outlook または Email Connect (ベータ) のいずれかに移行すると生産性が向上します。

最も堅牢な Salesforce と Microsoft® のメールインテグレーション機能を提供するため、Connect for Outlook は終了し、Salesforce for Outlook および Email Connect の新機能の開発に専念します。

したがって、Winter '16 で Salesforce は Connect for Outlook のサポートを終了し、このアプリケーションでは Outlook と Salesforce 間で取引先責任者、行動、および ToDo を同期できなくなります。現在 Connect for Outlook を使用していてサポートが必要な場合は、Salesforce にお問い合わせください。

次のリソースを確認し、ニーズに最適な製品への移行の準備をしてください。

- [Connect for Outlook のサポート終了に関するよくある質問 \(FAQ\)](#)
- [適切な Microsoft® メールインテグレーション機能の選択](#)

活動

行動と ToDo は、営業の生産性に不可欠な要素です。パフォーマンスと使い勝手を向上する更新に加えて、競合他社に対する営業チームの競争力を高める機能強化を行いました。

行動および ToDo オブジェクトの JunctionIdList 項目

JunctionIdList 項目種別を使用して、連結リレーションを簡単かつ安全に作成できます。この項目種別では、基盤となる連結エンティティレコードを操作する代わりに、直接エンティティの多対多リレーションを操作できます。JunctionIdList 項目種別では、データの整合性を保ちながら、1つの API コールのみで多対多の単純な連結リレーションを作成または更新できます。JunctionIdList 項目は行動および ToDo オブジェクトに実装されています。API で、行動または ToDo オブジェクトの取引先責任者、リード、またはユーザとの多対多リレーションを作成します。使用方法の詳細は、「ToDo の使用方法」または「行動の使用方法」を参照してください。

重要: Shared Activities 機能が有効化されている場合は、一部の JunctionIdList 項目のみが存在します。

エディション

使用可能なエディション:

Personal Edition、**Contact Manager** Edition、**Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、および **Unlimited** Edition

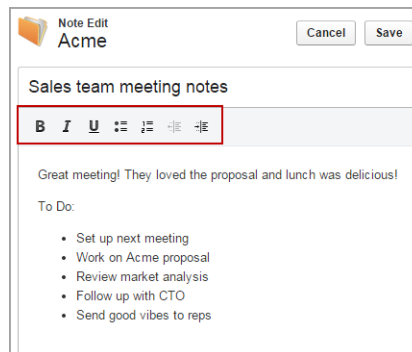
メモ (ベータ)

Salesforce のメモ取りツールの拡張バージョンとして「メモ」が導入され、より適切なメモをすばやく取れるようになりました。

-  **メモ:** このリリースには、メモのベータバージョンが含まれています。本番品質ではありますが、既知の制限があります。フィードバックと提案は、[Salesforce Success コミュニティ](#)からお寄せください。

ユーザがレコードにリッチテキストのメモを追加可能

メモ取りツールの拡張バージョンである Notes では、ユーザは箇条書き、番号付き箇条書き、テキストの書式設定をメモに追加できます。ツールバーのボタンを使用するだけで追加できます。



Notes の設定

ユーザがリッチテキストメモを取得できるようにするには、組織に Notes を設定する必要があります。

Notes を設定する前に、次の点を考慮してください。

- 組織でメモを有効にすると、新しいすべてのメモが「メモ」を使用して作成されます。
 - パートナーポータルおよびカスタマーポータルライセンスを持つユーザは、Notes を使用できません。
 - 従来のメモ取りツールで作成されたメモは、その従来のツールで開きます。
1. Chatter が有効になっていることを確認します。[設定] から、[カスタマイズ] > [Chatter] > [設定] をクリックします。次に、[Chatter 設定] で [有効化] が選択されていることを確認します。
 2. Notes が有効になっていることを確認します。[設定] から、[カスタマイズ] > [メモ] > [設定] をクリックします。次に、[メモを有効化] が選択されていることを確認します。
 3. ユーザが Chatter パブリッシャーと Salesforce1 のアクションバーからメモを取得できるようにするため、[メモ] クイックアクション ([新規メモ] クイックアクションではない) がグローバルパブリッシャーレイアウト

エディション

使用可能なエディション:
Contact Manager Edition、
Group Edition、
Professional Edition、
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

ユーザ権限

ページレイアウトを参照する

- 「設定を参照」

ページレイアウトを編集する

- 「アプリケーションのカスタマイズ」

アクションレイアウトとページレイアウトをカスタマイズする

- 「アプリケーションのカスタマイズ」

の [パブリッシャーのクイックアクション] および [Salesforce1 のアクションバーのアクション] セクションに追加されていることを確認します。

4. いずれかのオブジェクトページレイアウトでグローバルパブリッシャーレイアウトを上書きした場合は、[メモ] クイックアクションをカスタムレイアウトにも追加します。
5. ユーザが Salesforce1 で簡単にメモを取れるようにするためのいくつかの追加手順を実行します。
 - a. ユーザが Salesforce1 のメモから ToDo を作成できることを確認します。[設定] から、[設定] > [カスタマイズ] > [活動] > [活動設定] をクリックし、[メモからの ToDo の作成を可能にする] を選択します。
 - b. 組織の Salesforce1 ナビゲーションメニューに [メモ] が表示されることを確認します。[設定] から、[モバイル管理] > [モバイルナビゲーション] をクリックし、[メモ] を [選択可能] リストから [選択済み] リストに移動します。[スマート検索項目] の上に配置することをお勧めします。

Notes の使用に関するガイドライン

ユーザが Notes を最大限に活用するため、次のガイドラインに注意してください。

- Chatter パブリッシャーを使用してすばやくメモを取ります。
- 使い慣れた方法で、メモをレコードに追加します。[メモ&添付ファイル] 関連リストで [新規メモ] をクリックするだけで十分です。
- [メモ&添付ファイル] 関連リストからレコードのメモを管理します。
- [ファイル] タブに移動して、自分が作成したメモに対するアクセスと検索を行います。
- 非公開のスタンドアロンメモは、[ファイル] タブから作成します。[ファイル] メニューの [すべてのメモ] をクリックしてから、[新規メモ] をクリックします。
- [ファイル] タブから作成した関連のないメモのみが非公開になります。メモをレコードに関連付けると、メモにレコードと同じレベルのアクセス権が設定されます。
- Notes は Files 上に構築されているため、ファイルに関するレポートにはメモが含まれます。レポートには従来のメモ取りツールで作成されたメモは含まれません。

メモ:

- メモからの ToDo の作成は、Salesforce1 アプリケーションでのみ行います。詳細は、「[スワイプ操作によるメモからの ToDo の作成 \(ベータ\)](#)」を参照してください。
- 複数のレコードへのメモの関連付けは、Salesforce1 アプリケーションでのみ行います。詳細は、「[リッチテキストミーティングメモによる生産性の向上 \(ベータ\)](#)」を参照してください。

重複管理

クリーンで正確なデータの保持は、組織で Salesforce を最大限に活用するための最重要の処理の 1 つです。Data.com 重複管理を使用して、Salesforce 内で重複レコードの作成をユーザに許可するかどうか、いつ許可するかの制御、重複レコードの特定に使用するロジックのカスタマイズ、ユーザに保存を許可する重複レコードに関するレポートの作成ができます。

 **メモ:** 重複管理では Data.com テクノLOGYを使用していますが、Data.com ライセンスは必要ありません。

制限事項および一致ルールと重複ルールの作成方法を含む、重複管理についての詳細は、「[Managing Duplicate Records in Salesforce](#)」を参照してください。

このセクションの内容:

カスタムアプリケーションへの重複管理の実装

カスタムアプリケーションに重複管理機能を実装できる、多数の Apex クラスとメソッドがこれまでに追加されました。今回のリリースで、SOAP API を使用して同様の作業を行うことができる、新しいデータ型が導入されました。

組織が Force.com ライセンスで使用可能な重複管理

組織がユーザに Force.com ライセンスを割り当てている場合、ユーザが重複レコードを作成できるかどうかを制御できるようになりました。

カスタムアプリケーションへの重複管理の実装

カスタムアプリケーションに重複管理機能を実装できる、多数の Apex クラスとメソッドがこれまでに追加されました。今回のリリースで、SOAP API を使用して同様の作業を行うことができる、新しいデータ型が導入されました。

たとえば、ユーザがリードを追加できるカスタムアプリケーションがあるとします。ユーザがリードを保存しようとするときに、Salesforce にレコードがすでに存在するかどうかを検出します。重複している場合は、重複のリストを含むアラートを表示できます。

新しい重複管理データ型についての詳細は、「[新しいデータ型](#)」を参照してください。

組織が Force.com ライセンスで使用可能な重複管理

組織がユーザに Force.com ライセンスを割り当てている場合、ユーザが重複レコードを作成できるかどうかを制御できるようになりました。

取引先、取引先責任者、およびカスタムオブジェクトに対する一致ルールと重複ルールを設定する必要があります。

開始時に役立ついくつかのリソースを次に示します。

- 制限事項および一致ルールと重複ルールの作成方法を含む一般情報は、「[Managing Duplicate Records in Salesforce](#)」を参照してください。

エディション

使用可能なエディション:
Professional Edition、
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

- SOAP APIを使用したカスタムアプリケーションの重複管理についての詳細は、「[新しいデータ型](#)」を参照してください。
- Apexを使用したカスタムアプリケーションの重複管理についての詳細は、『[Force.com Apex コード開発者ガイド](#)』を参照してください。

Salesforce Console for Sales

Salesforce Console for Sales では、セールスインテリジェンスに簡単にアクセスできます。ダッシュボードを使用して、より少ないクリックとスクロールでコンテンツデータを取得できます。

Salesforce Console for Sales および Salesforce Console for Service に、コンソールの機能を高め、操作を簡単にする共通の新機能が追加されました。詳細は、「[Salesforce Console for Service](#)」を参照してください。

Sales Cloud のその他の変更

使い勝手を向上するために加えられたその他の変更について説明します。

リードの割り当てルールの直観的な有効化

リードの編集または作成時に、割り当てルールを使用してリードを自動的に割り当てかどうかと、ユーザがルールの有効化/無効化を切り替えられるようにするかどうかを別途選択できます。以前は、これらのオプションが相互に連動していました。

リードのページレイアウトに「有効な割り当てルールにより割り当てる」チェックボックスを含めるには、[[リード割り当て]チェックボックス]で「デフォルト」または「編集ページを表示」をオンにします。詳細は、Salesforce ヘルプの「[高度なページレイアウトエディタの使用に関するメモ](#)」を参照してください。

エンタープライズテリトリ管理の新しい Apex インターフェース

TerritoryMgmt.OpportunityTerritory2AssignmentFilter インターフェースでは、テリトリを商談に割り当てるときの検索条件ロジックを定義できます。独自のクラスを作成して、このインターフェースでメソッドを実装します。実装されたメソッドは、商談テリトリ割り当てジョブでコールされ、テリトリを商談に割り当てます。

Work.com: 拡張目標、その他の感謝およびスキル機能

営業マネージャやチームがより短期間でスキルを習得し、よりよいパフォーマンスを実現するのに役立つ、パフォーマンス向上のための販売管理およびサービス管理のツールです。拡張フィードバックや拡張パフォーマンスサマリーのパイロット機能と一緒に、その他の感謝およびスキル機能が導入されました。また、拡張目標もすべてのユーザに提供されています。

エディション

使用可能なエディション:

Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition (Service Cloud 付属)

使用可能なエディション:

Performance Edition および
Developer Edition (Sales Cloud 付属)

有料オプションで使用可能なエディション:

Enterprise Edition および
Unlimited Edition (Sales Cloud の有料オプション)

エディション

使用可能なエディション:

Professional Edition、
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

このセクションの内容:

拡張目標へのアップグレード (正式リリース)

拡張目標は、営業チームの作業に関連する目標や総計値を正確に追跡するのに役立ちます。新しい目標がすばやく表示され、他のオブジェクトと同様にカスタマイズできます。また、Salesforce1 を使用して、営業チームの目標を外出中に管理することもできます。目標を使用するすべての組織は、Summer'15 リリースで拡張目標にアップグレードする必要があります。

拡張目標の設定

Work.com 目標を使用するすべての組織は、8 月 21 日 (金) に拡張目標に自動的にアップグレードされます。リリースの新機能が使用可能になった時点ですぐにアップグレードすることも、組織で独自の目標のカスタマイズを移行するために時間を掛けることも選択できます。

組織に合わせたフィードバックのカスタマイズ (パイロット)

営業チームが、フィードバックの送信、フィードバック要求、パフォーマンスサマリーに関連するフィードバックをすべて 1 か所で管理できるようになりました。拡張フィードバック機能では、フィードバック要求に関連するカスタム項目やレイアウトの作成を含め、フィードバックを組織でカスタマイズできます。

新しいツールを使用したパフォーマンスサマリーサイクルの管理 (パイロット)

[パフォーマンス] タブで、パフォーマンスサマリーサイクルを一元的に作成および管理できるようになりました。拡張パフォーマンスサマリー機能では、カスタム質問表を使用して社内のユーザに関する洞察を簡単に収集でき、CSV ファイルを使用したユーザの一括アップロードなどの新機能をさらに簡単に使用できます。

感謝、報奨、スキルのその他の機能のカスタマイズ

カスタマイズ可能な項目セットや入力規則など、感謝、報奨、スキルのその他の機能を使用します。

Work.com のその他の変更

Work.com では、他にも重要な変更が行われています。

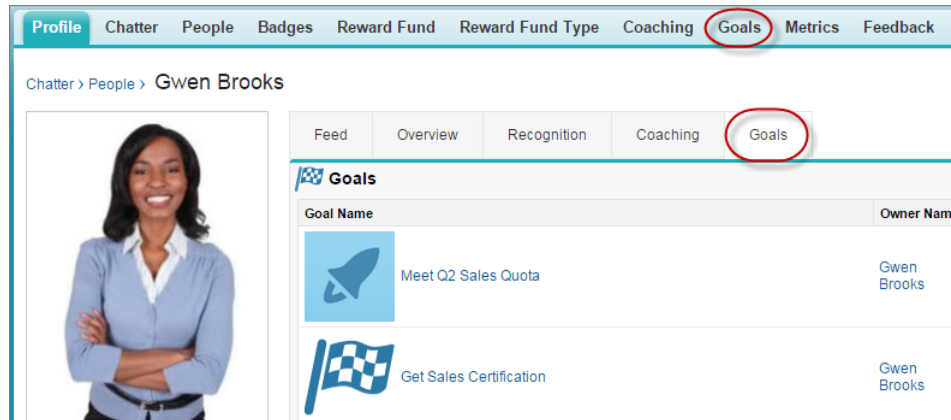
関連トピック:

[Work.com 機能が使用可能になる方法と状況](#)

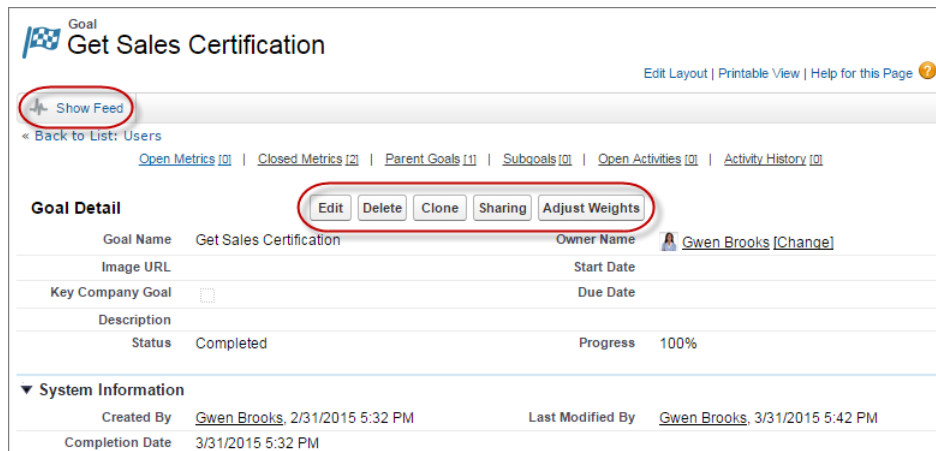
拡張目標へのアップグレード (正式リリース)

拡張目標は、営業チームの作業に関連する目標や総計値を正確に追跡するのに役立ちます。新しい目標がすばやく表示され、他のオブジェクトと同様にカスタマイズできます。また、Salesforce1 を使用して、営業チームの目標を外出中に管理することもできます。目標を使用するすべての組織は、Summer'15 リリースで拡張目標にアップグレードする必要があります。

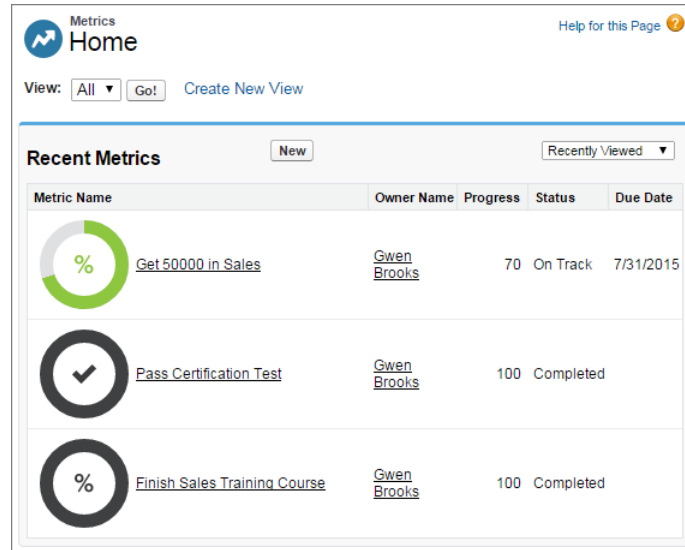
Chatter プロファイルの [目標] タブまたは [目標] サブタブから、新しい目標にアクセスします。拡張目標の外観、デザイン、動作は他の Salesforce オブジェクトに似ており、ユーザは他の Salesforce 機能を活用できます。たとえば、システム管理者は、目標に関係するカスタマイズ可能な項目、レイアウト、アクション、リストビューを作成できます。



目標の詳細ページには、特定の目標に関連する総計値、活動、および他の情報が表示されます。自分の目標を親目標またはサブ目標とリンクすることで、別のユーザの目標に適合させます。共有設定に対する制御が、以前よりさらに強化されました。たとえば、「参照のみ」権限または「参照・更新」権限を選択して、コラボレーション方法を適切に管理できるようになりました。



ユーザは、スタンドアロン総計値の作成、個々の目標への総計値の関連付け、総計値の共有、個々の総計値のアクティビティの作成を行うことができます。総計値に対して「参照・更新」権限を持つすべてのユーザは、総計値を更新できるようになりました。総計値は、関連するコーチングスペースとパフォーマンスサマリーにも表示され、組織のニーズに合わせてカスタマイズできます。



目標と総計値は、目標と総計値を確認、編集、作成できる Salesforce1 でも使用できます。

次の制限に注意してください。

- デフォルトのリストビューは定義されません。組織に適した検索条件 (主要な会社目標、私の目標など) を作成します。
- [パーセント]総計値種別は、パーセントなどの数値による進行状況をユーザが追跡できる[進行状況]総計値に置き換えられました。

拡張目標の設定

Work.com 目標を使用するすべての組織は、8月21日(金)に拡張目標に自動的にアップグレードされます。リリースの新機能が使用可能になった時点ですぐにアップグレードすることも、組織で独自の目標のカスタマイズを移行するために時間を掛けることも選択できます。

- ☑ **メモ:** アップグレードの後半では、既存の目標機能が参照のみになります。このことと新しい目標機能の他の変更について、ユーザに事前に知らせてください。

Summer'15 では、新しい目標機能に移行するための新しい[重要な更新]タスクがシステム管理者に表示されます。

ユーザ権限

重要な更新を参照する

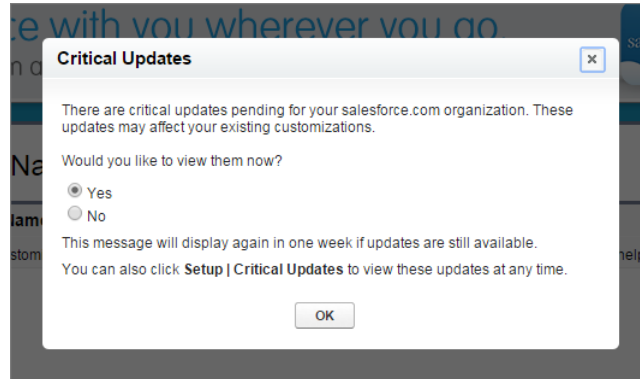
- 「設定・定義を参照する」

重要な更新を有効化する

- 「すべてのデータの編集」

および

「アプリケーションのカスタマイズ」



1. [設定] で、[重要な更新] をクリックします。[重要な更新] ポップアップからページに移動することもできます。
2. [目標の更新 1/2] の [有効化] をクリックします。
これにより、新しい目標機能が参照のみモードで有効になります。既存の目標機能はまだ完全に使用可能であり、カスタム項目 (数式項目を除く) が新しい目標用に自動的に作成されます。
-  **メモ:** これ以降に古い目標オブジェクトに加えた新しいカスタマイズは、新しい目標オブジェクトにコピーされません。
3. 既存の Apex、Visualforce ページ、トリガ、外部コード、レポート、パッケージを、既存の目標から新しい目標に移行します。
4. [目標の更新 2/2] の [有効化] をクリックします。
これにより、既存の目標から新しい目標にデータが移行されます。この時点では、既存の目標と新しい目標はどちらも参照のみです。データの移行が完了すると、新しい目標機能が完全に使用可能になり、既存の目標機能と置き換えられます。

組織に合わせたフィードバックのカスタマイズ (パイロット)

営業チームが、フィードバックの送信、フィードバック要求、パフォーマンスサマリーに関連するフィードバックをすべて1か所で管理できるようになりました。拡張フィードバック機能では、フィードバック要求に関連するカスタム項目やレイアウトの作成を含め、フィードバックを組織でカスタマイズできます。

-  **メモ:** 拡張フィードバックと拡張パフォーマンスサマリーは現在、1つのパイロットプログラムで利用できます。これらの機能の有効化についての詳細は、Salesforce にお問い合わせください。

[フィードバック] タブには、ユーザが参照した最近のフィードバックが表示され、フィードバックの異なるレコードタイプを表示するように絞り込むことができます。たとえば、[新しいフィードバック要求] を選択すると、ユーザ入力を必要とするフィードバックレコードを表示できます。また、異なる検索条件オプションを使用してカスタムリストビューを作成することもできます。

Feedback Request Name	Feedback About	Feedback Type	Due Date	Feedback From	Created Date	Request State
Feedback about Dan Perkins Unsolicited feedback Personal	Perkins, Dan	Personal		Blue, Sue	2/19/2015 11:44 AM	Submitted
Feedback about John Green Quarterly Performance Review Manager Summary	Green, John	Manager Summary	12/31/2015	Perkins, Dan	3/13/2015 1:51 PM	Draft
Feedback about John Green Mid-Year Perf Summaries Manager Summary	Green, John	Manager Summary	7/31/2015	Perkins, Dan	3/9/2015 12:38 PM	Draft
Feedback about Sue Blue Q1 Review Manager Summary	Blue, Sue	Manager Summary	4/15/2015	Perkins, Dan	3/19/2015 6:11 PM	Submitted

共有は、Salesforceの他のオブジェクトと同様に機能します。必要に応じて、フィードバックレコードの外観をカスタマイズし、カスタム項目やレイアウトを表示することもできます。

次の制限に注意してください。

- パイロットは Sandbox 組織のみに制限されています。
- Salesforce1 は現在サポートされていません。
- 拡張フィードバックと拡張パフォーマンスサマリー機能は、1つのパイロットプログラムで利用できます。パフォーマンスサマリーの他の制限については、「[新しいツールを使用したパフォーマンスサマリーサイクルの管理 \(パイロット\)](#)」を参照してください。

新しいツールを使用したパフォーマンスサマリーサイクルの管理 (パイロット)

[パフォーマンス] タブで、パフォーマンスサマリーサイクルを一元的に作成および管理できるようになりました。拡張パフォーマンスサマリー機能では、カスタム質問表を使用して社内のユーザに関する洞察を簡単に収集でき、CSV ファイルを使用したユーザの一括アップロードなどの新機能をさらに簡単に使用できます。

 **メモ:** 拡張フィードバックと拡張パフォーマンスサマリーは現在、1つのパイロットプログラムで利用できます。これらの機能の有効化についての詳細は、Salesforce にお問い合わせください。

パフォーマンスサイクルの詳細ページには、パフォーマンスサイクルに関連する質問セット、個々のパフォーマンスサマリー要求、および他の情報が表示されます。システム管理者は、ユーザ ID やユーザ名が含まれた CSV ファイルを簡単にアップロードできるようになりました。また、[ジョブトラッカー] では、サイクルのリリース、CSV のアップロード、すべて共有などのプロセスが追跡および表示されます。

Performance Cycle
Quarterly Performance Review

« Back to List: Users [Feedback Question Sets \[2\]](#) | [Feedback Requests \[4\]](#) | [Job Tracker \[2\]](#)

Performance Cycle Detail [Clone](#) [Share All](#) [Finish](#)

▼ Information

Performance Cycle Name	Quarterly Performance Review	Owner Name	Dan Perkins
Activity From	10/1/2014	Activity To	1/31/2015
State	In Progress	Current Task	
Last Shared Date	3/13/2015 1:57 PM		

[Clone](#) [Share All](#) [Finish](#)

Feedback Question Sets

Action	Question Set Name	Feedback Type	Due Date
Self Review		Self Summary	12/31/2015
Manager Set		Manager Summary	12/31/2015

Feedback Requests [Add Subject to Cycle](#) [Upload Subject CSV](#)

Action	Feedback Request Name	Feedback About	Feedback From	Request State
	Feedback about John Green Quarterly Performance Review Manager Summary	John Green	Dan Perkins	Draft
	Feedback about John Green Quarterly Performance Review Self Summary	John Green	John Green	Draft
	Feedback about Sue Blue Quarterly Performance Review Manager Summary	Sue Blue	John Green	Submitted
	Feedback about Sue Blue Quarterly Performance Review Self Summary	Sue Blue	Sue Blue	Submitted

Job Tracker

Action	Job Name	Status	Start Date	End Date	Message
Deploy Performance Cycle		Completed	3/13/2015 1:52 PM	3/13/2015 1:52 PM	
Share Performance Summaries		Completed	3/13/2015 1:57 PM	3/13/2015 1:57 PM	

拡張パフォーマンスサマリーの外観、デザイン、動作は他の Salesforce オブジェクトに似ており、組織に合わせて追加のカスタマイズを行うことができます。たとえば、異なるパフォーマンスサマリー用にカスタム項目、レイアウト、リストビューを作成できます。

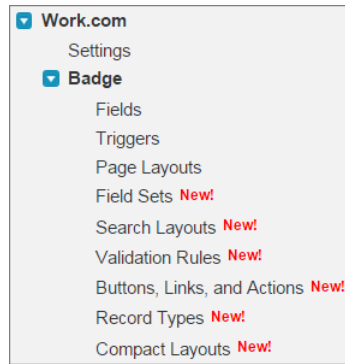
次の制限に注意してください。

- パイロットは Sandbox 組織のみに制限されています。
- Salesforce1 は現在サポートされていません。
- 最近の作業 (感謝、コーチング、フィードバックなど) の取り込みは、現在サポートされていません。
- 拡張フィードバックと拡張パフォーマンスサマリー機能は、1つのパイロットプログラムで利用できます。

感謝、報奨、スキルのその他の機能のカスタマイズ

カスタマイズ可能な項目セットや入力規則など、感謝、報奨、スキルのその他の機能を使用します。

新機能は、[設定] の [Work.com] で見つけることができます。



以下のその他のプラットフォーム機能を使用できるようになりました。

- **項目セット** — コードを変更せずに、関連項目のグループをさまざまな方法で Visualforce ページに表示します。
- **検索レイアウト** — 検索結果でユーザに表示される項目を変更します。
- **入力規則** — レコードを保存する前に、入力したデータが指定した基準に合っているかどうかを確認します。
- **ボタン、リンク、およびアクション** — カスタムボタンとカスタムリンクを使用して、Salesforce データを外部 Web サイトおよび外部サービスと統合します。アクションを使用して、Chatter パブリッシャーと Salesforce1 に機能を追加します。
- **レコードタイプ** — 異なるレコードタイプを作成して、さまざまなビジネスプロセス、選択リストの値、およびページレイアウトを、さまざまなユーザに提供します。
- **コンパクトレイアウト** — Salesforce1 で、レコードの主要項目を一目でわかるように表示します。

オブジェクト	新機能
バッジ	項目セット 検索レイアウト 入力規則 ボタン、リンク、およびアクション レコードタイプ コンパクトレイアウト
受け取ったバッジ	項目セット ボタンとリンク
支持	項目セット レコードタイプ 検索レイアウト
報奨	項目セット 入力規則

オブジェクト	新機能
	ボタン、リンク、およびアクション レコードタイプ コンパクトレイアウト
報奨資金	項目セット 検索レイアウト 入力規則 ボタン、リンク、およびアクション レコードタイプ コンパクトレイアウト
報奨資金種別	項目セット 検索レイアウト 入力規則 ボタン、リンク、およびアクション レコードタイプ コンパクトレイアウト
スキル	項目セット レコードタイプ
スキルユーザ	項目セット レコードタイプ 検索レイアウト
感謝	項目セット ボタンとリンク

Work.com のその他の変更

Work.com では、他にも重要な変更が行われています。

感謝バッジを受け取ったユーザの表示

特定の感謝バッジを受け取ったすべてのユーザをバッジの詳細ページから表示できるようになりました。受け取ったバッジをバッジの詳細ページに表示するには、[設定]で[カスタマイズ]>[Work.com]>[バッジ]>[ページレイアウト]をクリックし、[レコグニション]関連リストを追加します。

感謝バッジ、ユーザのスキル、支持への Chatter フィードの追加

バッジ、ユーザのスキル、支持で Chatter フィードを有効化できるようになりました。フィードを有効化するには、[設定] で [カスタマイズ] > [Chatter] > [フィード追跡] をクリックし、[バッジ]、[ユーザのスキル]、[支持] で [フィード追跡の有効化] を選択します。

Data.com

新しいプロスペクティングインサイトを使用して、営業チームの主要なビジネスデータを提示します。

Data.com は、Salesforce 内に主要なビジネスデータを提供するソリューションです。取引先責任者、リード、取引先の最新ビジネスデータを取得します。

 **メモ:** Data.com データベースには、Salesforce を使用するすべての国のデータが含まれているとは限りません。Data.com ドキュメントは、Data.com データベースにデータがない国で使用される言語に翻訳されている場合があります。

このセクションの内容:

取引先のプロスペクティングインサイト

営業担当が見込み客に電話して関係を築くことよりも、見込み客情報を調べ出すことに時間を取られていませんか? そうした状況を改善します。Data.com プロスペクティングインサイトにより、担当者が Data.com の既存および新規の項目にアクセスできます。D&B 企業の詳細と業界インテリジェンスが 1 ページにまとめられ、担当者が見込み客や顧客と効率的に会話を始めることができます。

Data.com 検索 API による新規項目を使用したプロスペクティングインサイトの迅速な取得

DatacloudCompany および DatacloudDandBCompany オブジェクトに「企業統計」に関する項目が新規追加され、Data.com 検索 API でアクセスできるようになりました。これらの新規項目により、組織が見込み客をセグメント化して割り当てる機能がさらに向上します。

取引先のプロスペクティングインサイト

営業担当が見込み客に電話して関係を築くことよりも、見込み客情報を調べ出すことに時間を取られていませんか? そうした状況を改善します。Data.com プロスペクティングインサイトにより、担当者が Data.com の既存および新規の項目にアクセスできます。D&B 企業の詳細と業界インテリジェンスが 1 ページにまとめられ、担当者が見込み客や顧客と効率的に会話を始めることができます。

担当者は、プロスペクティングインサイトのスナップショットから、Sales Cloud にまとめて統合されている企業のビジネス、財務、競合、業界に関する詳細をすばやく把握できます。プロスペクティングインサイトを有効にするには、取引先詳細ページレイアウトに [プロスペクティングインサイト] ボタンを追加します。営業担当がこのボタンをクリックすると、新しい D&B 項目をはじめとする取引先レコードの主なビジネスの詳細を確認できます。

プロスペクティングインサイトを使用できるのは、Data.com からインポート、または Data.com でクリーンアップしたレコードのみです。担当者がインサイトを使用できない取引先の [プロスペクティングインサイト] をクリックすると、レコードのクリーンアップを推奨するメッセージが表示されます。

The screenshot shows the Salesforce interface for the 'Microsoft Corporation' account. The top navigation bar includes Groups, Files, Leads, Accounts, Contacts, Opportunities, Reports, Dashboards, Products, Forecasts, and Data.com. The left sidebar shows a feed with options like Post, File, New Task, and More. The main content area displays account details, including the account owner (Admin User), data.com key (210353), account name (Microsoft Corporation), and SIC description (Prepackaged Software). The 'Prospecting Insights' button is highlighted with a red circle.

プロスペクティングインサイトには主なビジネスおよび財務の詳細が示され、担当者が企業の取引先責任者に直接連絡できます。

The screenshot shows the 'Prospecting Insights from Data.com' page for Microsoft Corporation. The page is divided into several sections: Business Details, Financial Details, and Contacts from Data.com. The Business Details section includes a description of Microsoft's products and services, as well as key information like address, phone, website, and location. The Financial Details section provides a comprehensive overview of the company's financial performance, including annual revenue, net income, and employee counts. The Contacts from Data.com section shows a breakdown of contacts by department.

Business Details	
Address	1 Microsoft Way Redmond, WA 98052-8300, United States
Phone	+1.425.882.8080
Website	http://www.microsoft.com
Location Size	10,000,000 square feet (Actual)
Location Type	Headquarters
Tradestyle	Microsoft
Year of Founding	1975
Location Ownership Indicator	Own

Financial Details										
Fiscal Year End	June									
S&P 500	Yes									
Delinquency Risk	Low									
Exchange	NASDAQ: MSFT									
Fortune 1000 Rank	34									
Ownership	Public									
Annual Revenue	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Year</th> <th>Revenue</th> <th>Growth %</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Prior Year</td> <td>\$62.71B</td> <td></td> </tr> <tr> <td>Most Recent Year</td> <td>\$69.94B</td> <td>+11.54</td> </tr> </tbody> </table>	Year	Revenue	Growth %	Prior Year	\$62.71B		Most Recent Year	\$69.94B	+11.54
Year	Revenue	Growth %								
Prior Year	\$62.71B									
Most Recent Year	\$69.94B	+11.54								
Net Income	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Year</th> <th>Net Income</th> <th>Annual Revenue</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Most Recent Year</td> <td>\$22.07B</td> <td>\$69.94B</td> </tr> </tbody> </table>	Year	Net Income	Annual Revenue	Most Recent Year	\$22.07B	\$69.94B			
Year	Net Income	Annual Revenue								
Most Recent Year	\$22.07B	\$69.94B								
Employees	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Year</th> <th>Count</th> <th>Growth %</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Prior Year</td> <td>69,663</td> <td></td> </tr> <tr> <td>Most Recent Year</td> <td>90,070</td> <td>+29.29</td> </tr> </tbody> </table>	Year	Count	Growth %	Prior Year	69,663		Most Recent Year	90,070	+29.29
Year	Count	Growth %								
Prior Year	69,663									
Most Recent Year	90,070	+29.29								

DEPARTMENT	CONTACTS
Human Resources	257
Sales	1,157
Marketing	1,282
Finance & Administration	1,362

プロスペクティングインサイトに業界の詳細が示され、動向や機会が特定されるため、担当者が見込み客に効果的な電話をするために必要な取引先情報や業界情報を把握できます。

Industry Details

NAICS Primary 511210: Software Publishers SIC Primary 7372: Prepackaged Software

Select a related industry

Call Preparation Questions

- 1/ How dependent is the company on its largest contracts?
Companies rely on demand for enterprise software and businesses' willingness to spend money on information technology.
- 2/ What strategies have helped the company keep pace with rapidly changing technology?
The lifecycle of products is hard to estimate and sometimes can be very short as technology advances rapidly.
- 3/ How does the company ensure security of customer data?
Software applications involve the storage and transmission of sensitive and proprietary customer data, such as company financial and payroll information.
- 4/ What opportunities does the company see to offer industry-specific functionality?
Software developers are creating more industry-specific features to meet the needs of users in a variety of industries.
- 5/ What new products and services does the company offer as it works to diversify its product base?
Interest in business intelligence gives accounting and finance software vendors the opportunity to offer tools that can help customers collect and organize data and use it to improve their businesses.

Competitive Landscape

- 1/ Demand is driven by corporate spending. The profitability of individual companies depends on technical expertise and effective marketing. Large companies have advantages in being able to fund new product development or acquisitions. Small software companies can compete by targeting niche markets or developing new technology.
- 2/ Finance and accounting software is sold not only on its own, but also as part of enterprise resource planning (ERP) and customer relationship management (CRM) suites of applications. Companies may also compete with the IT organizations of their larger customers, which may have the resources to develop custom software.

Industry Trends

- 1/ **Cloud-Based Accounting Software**
More companies are offering cloud-based software – storage of applications and documents on remote servers rather than on local computers. This is often called software as a service (SaaS). The SaaS trend is increasing in popularity as customers realize the advantages of lower up-front costs and quicker implementation. Some accounting software companies offer SaaS only.
- 2/ **Mobile Applications**
As customers demand mobile capabilities, companies are developing applications that are optimized for use on tablets and smartphones. These mobile apps can improve productivity by allowing users to create invoices and manage expenses while away from the office.

Opportunities

取引先レコードページの[プロスペクティングインサイト]ボタンをクリックすると、Data.com プロスペクタコーポレートおよびプレミアムライセンスのある担当者に参照のみのインサイトが表示されます。[プロスペクティングインサイト]ページには、Data.com からリアルタイムで取得した情報が示されます。

企業の詳細	- 住所、電話、Web サイト - 立地面積⁽¹⁾、場所種別、場所所有者 - 取引形態 (該当する場合) - 設立年
財務の詳細	- 決算期⁽¹⁾ - 証券取引および銘柄記号 - S&P 500 のフラグ⁽¹⁾ - Fortune 1000 の順位⁽¹⁾ - 支払遅延リスク (今後 12 か月間にこの企業の支払いが 90 日以上遅れる可能性を予測)⁽¹⁾  重要: この情報は、マーケティングの事前スクリーニング目的にのみ使用してください。信用度の判断に使用しないでください。 - 直近年度とその前年度の年間売上、および成長率⁽¹⁾ - 直近年度の純利益^(1、2) - 直近年度とその前年度の従業員数、および増加率⁽¹⁾
業種の詳細	- NAICS および SIC の大分類 - 企業の NAICS および SIC の大分類に基づく関連業種にアクセスするための業種セレクト - 担当者が会話に沿って話題を調整するための電話質問集⁽¹⁾

	- 競合状況分析^(1、2) - 業界の動向^(1、2) - 業界の機会^(1、2) - 業界の Web サイト⁽¹⁾
Data.com から取得する取引先責任者	取引先責任者の直接連絡先 (部門別)
トップクラスの競合他社	収益順にリストされた最大 8 社の競合他社の Web サイトへのリンク⁽¹⁾

⁽¹⁾新規 ⁽²⁾プレミアムライセンスがある場合のみ使用可能

このセクションの内容:

プロスペクティングインサイトの設定

[取引先] ページレイアウトに [プロスペクティングインサイト] ボタンを追加すると、営業担当が最新データをすぐに利用できます。

プロスペクティングインサイトの設定

[取引先] ページレイアウトに [プロスペクティングインサイト] ボタンを追加すると、営業担当が最新データをすぐに利用できます。

1. [設定] から、[カスタマイズ] > [取引先] > [ページレイアウト] をクリックします。
2. ページレイアウトのリストから、Data.com プロスペクタのある担当者が使用するレイアウトの横にある [編集] をクリックします。
3. [ボタン] をクリックします。
4. [プロスペクティングインサイト] ボタンを [取引先の詳細] セクションにドラッグします。
5. 変更を保存して、プロスペクティングインサイトが使用可能になったことを営業担当に通知します。

Data.com 検索 API による新規項目を使用したプロスペクティングインサイトの迅速な取得

DatacloudCompany および DatacloudDandBCompany オブジェクトに「企業統計」に関する項目が新規追加され、Data.com 検索 API でアクセスできるようになりました。これらの新規項目により、組織が見込み客をセグメント化して割り当てる機能がさらに向上します。

新規項目には次の情報が含まれます。

- Fortune® 1000 の順位
- S&P 500® 銘柄かどうか
- 立地面積
- 従業員増加率

- 売上増加率

新規項目は、Data.com プロスペクタコーポレートおよびプレミアムライセンスに含まれています。

Data.com API および新規項目についての詳細は、『[Data.com API Developer's Guide](#)』を参照してください。

サービス: サポートする商談の増加、エージェントの生産性の向上

Summer '15 には、適切なケースを適切な時間に適切なエージェントに転送する高度なサービスが含まれています。また、ライブガイダンス用にモバイルアプリケーションにサポートを埋め込んだり、顧客と動的にやりとりするためにプレーンテキスト以外のことも実行できます。拡張ショートカットや一括マクロによりエージェントの生産性が大幅に向上し、複数のエージェントを1つのチャットセッションに参加させることでケースがさらにすばやく解決されます。

このセクションの内容:

オムニチャネルによる適格で対応可能なサポートエージェントへの作業の転送 (ベータ)

オムニチャネルは、Salesforce コンソールから作業をエージェントにリアルタイムで転送する、Service Cloud の包括的なカスタマーサービスソリューションです。

SOS ビデオチャットおよび画面共有を使用するモバイルアプリケーションへのアプリケーション内サポートの追加 (ベータ)

まったく新しい方法で顧客とのやりとりを希望される場合、Service Cloud のモバイルサポートソリューションである SOS を使用できるようになりました。SOS では、iOS または Android のネイティブモバイルアプリケーションにヘルプボタンを追加して、一方向ビデオまたは双方向音声チャットにより顧客がエージェントとやりとりできます。

ケースフィード

ケースフィードは、ケースの作成、管理、および表示をより合理的に行う方法をサポートエージェントに提供します。ケースフィードにはパブリッシャーが含まれています。パブリッシャーでは、エージェントがケースメモの作成、活動の記録、ケースの状況の変更、および顧客とのやりとりを Chatter のようなフィードで行えます。

メール-to-ケース

メール-to-ケースを使用すると、会社はメールでケースを効率的に受信して解決できます。

マクロによる効率性の向上

ケースフィードを使用するサポートエージェントは、マクロを使用して、反復作業(メールテンプレートの選択、顧客へのメールの送信、ケース状況の更新など)をすべて1回のクリックで完了できます。マクロにより、時間が節約され、エージェントの作業をサポートするうえで一貫性が確保されます。

ケースの割り当てルールの直観的な有効化

ケースの編集または作成時に、ケースの割り当てルールを強制的に適用するか、エンドユーザがルールの有効化/無効化を切り替えられるようにするかを別途選択できるようになりました。以前は、これらのオプションが相互に連動していました。

エンタイトルメント管理

エンタイトルメント管理を使用して、ユーザおよびサポートエージェントは顧客のサポート契約を確認および実行できます。

ナレッジ

Salesforce ナレッジは、ナレッジセンターサポート (KCS) 認定済みの知識ベースです。

Live Agent

Live Agent により、サービス組織は、Web ベースのテキストのみの Live Chat を使用して顧客または Web サイトの訪問者とリアルタイムに接続できます。

Salesforce Console for Service

Salesforce Console for Service は、顧客をサポートするためにレコードの検索、更新、作成をすばやく行う必要のある、変化の速い環境にあるユーザ向けに設計されているアプリケーションです。

サービスコミュニティ

Summer'15 では、コミュニティケースフィードを使用するサポートエージェントに新機能が提供され、セルフサービスコミュニティのエージェントとユーザが、ケースのすべてのやりとり (ケースメールを含む) を統一された Chatter ベースのフィードに包括的に表示できるようになりました。

ソーシャルカスタマーサービス

ソーシャルカスタマーサービスは、Social Studio (Radian6) と Salesforce Service Cloud 間の次世代のインテグレーションです。カスタマーサービスエージェントは、Twitter および Facebook から作成されたケースに対応することで、顧客との関係を構築できます。Salesforce システム管理者は、Apex クラスを使用して受信ソーシャルコンテンツの処理方法をカスタマイズすることや、組織内のどのユーザがソーシャル取引先を使用して応答する権限を持つようにするかを設定することができます。

納入商品

納入商品オブジェクトで、顧客が所有する商品を追跡します。納入商品には、自社や競合他社の商品などがあります。

組織同期

組織同期により、プライマリ組織がメンテナンス中にユーザがアクセスできる、同期済みのセカンダリ Salesforce 組織を設定できます。Summer'15 では組織同期が改善され、自動公開項目、メタデータを同期するオプション、組織の同期ログのレポートおよびトリガの作成機能、新しい動画「How Organization Sync Works」(組織同期の仕組み) が追加されました。

コードを使用した Service Cloud の実装の向上: Service Cloud Cookbook の概要

Service Cloud の実装をさらに発展させることを求める開発者や、簡単なコードを使用して Service Cloud の実装を向上しようとする経験のあるシステム管理者の場合、組織に追加できる単純で影響力の強いコードサンプルのコレクションである新しい *Service Cloud Cookbook* を参照してください。

関連トピック:

[サービス機能が使用可能になる方法と状況](#)

オムニチャネルによる適格で対応可能なサポートエージェントへの作業の転送 (ベータ)

オムニチャネルは、Salesforce コンソールから作業をエージェントにリアルタイムで転送する、ServiceCloudの包括的なカスタマーサービスソリューションです。

最初にいくつかの法的事項について説明します。このリリースには、オムニチャネルのベータバージョンが含まれています。本番品質ではありませんが、既知の制限があります。オムニチャネルについてフィードバックやご提案がある場合は、IdeaExchangeからお寄せください。組織でのこの機能の有効化については、Salesforceにお問い合わせください。では、本題に入りましょう。

オムニチャネルを使用して、Salesforce レコードから作業項目を作成し、それを組織の最も適格で対応可能なエージェントに転送します。つまり、ケース、リード、商談、チャット、SOS ビデオ通話など、Salesforce キューの任意のSalesforce オブジェクトをエージェントに自動的に転送できます。

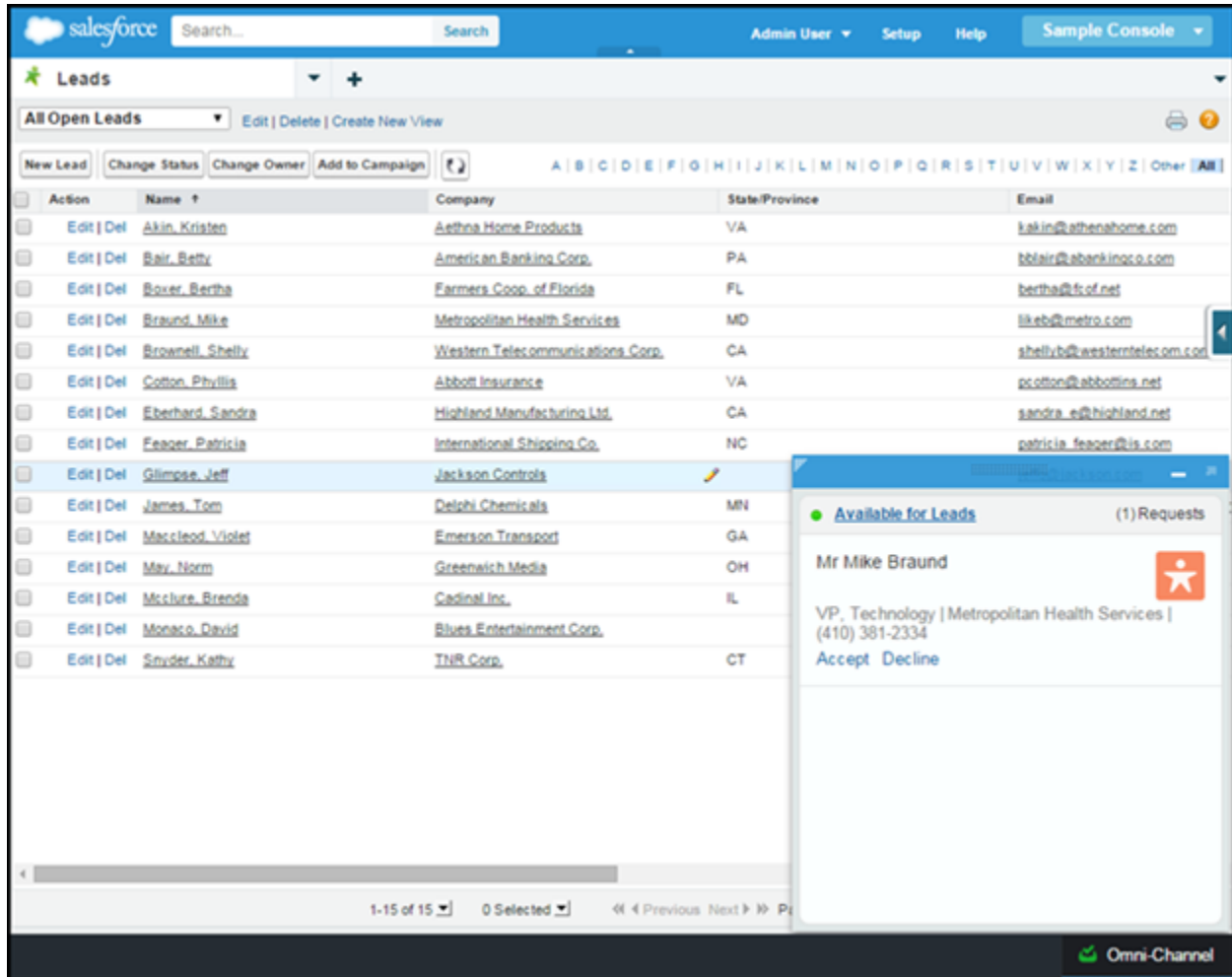
オムニチャネルでは、重要な割り当て作業にすばやく対応できるようにするため、作業項目の優先度を設定できます。エージェントが処理できる数の作業のみが割り当てられるように、エージェントの業務量と対応可能状況を管理できます。また、異なる種類の割り当て作業にどのエージェントが対応できるかも定義できます。さらに、エージェントは作業項目をキューから手動で選択する必要がなくなり、マネージャは作業に優先順位を付けてエージェントに割り当てる必要がなくなります。作業は、最も適格なエージェントにリアルタイムで転送されます。

オムニチャネルはSalesforce コンソールにシームレスに統合されるため、サポートエージェントは簡単に使用できます。エージェントは、コンソールのオムニチャネルウィジェットから直接割り当て作業を受け入れることができます。

エディション

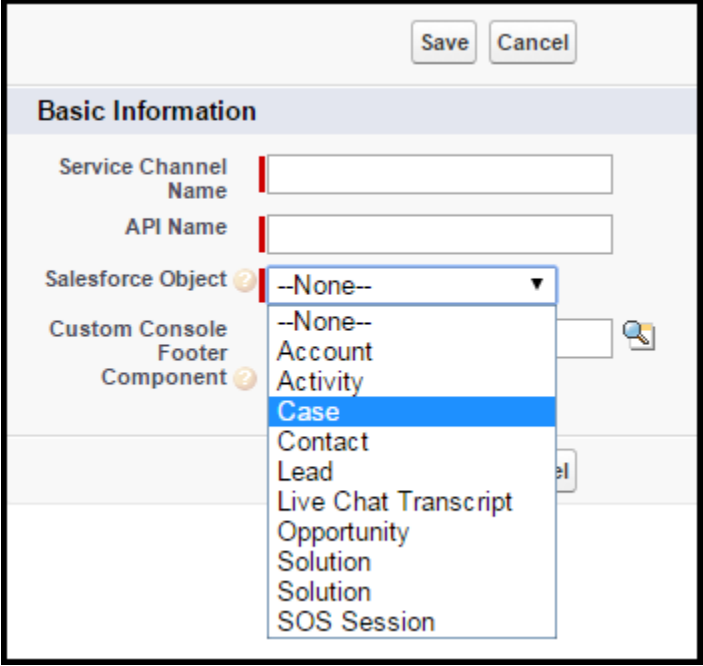
オムニチャネルを使用可能なエディション:

Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition



サービスチャネルによる Salesforce レコードの作業項目への変換

サービスチャネルでは、ケース、リード、SOS セッション、カスタムオブジェクトなど、どの Salesforce オブジェクトでも作業項目に変換できます。オムニチャネルでは、(エージェント生産性という庭園から花を抜くように) これらの作業項目がキューから引き出され、エージェントにリアルタイムで転送されます。



Save Cancel

Basic Information

Service Channel Name

API Name

Salesforce Object

Custom Console Footer Component

- None--
- Account
- Activity
- Case
- Contact
- Lead
- Live Chat Transcript
- Opportunity
- Solution
- SOS Session

ルーティング設定による作業項目のエージェントへの転送方法の定義

ルーティング設定により、作業項目をエージェントに転送する方法が決まります。ルーティング設定では、オムニチャネルキュー全体で作業項目の相対的な重要性和サイズの優先度を付けることができます。すべての作業項目が同じ労力を必要とするわけではないため、ルーティング設定を使用してキューの項目の相対サイズを制御することで、エージェントは作業に適度な労力を費やすことができるようになります。このようにすることで、最も重要な作業項目がすばやく処理され、作業がエージェントに均等に分散されます。

Routing Settings

The routing priority determines the order in which work items across your Omni-Channel queues get pushed to your agents. Work items with a lower priority number get pushed to your agents first.

The routing model determines how to evenly distribute work items to your agents and acts as a tiebreaker if two or more agents feasibly qualify to take on the same work item. If you choose "Least Active" as your routing model, the agent who has the fewest number of open work items will be the lucky winner. If you choose the "Most Available" routing model, new work will be routed to the agent who has the greatest difference between the work item capacity they can handle (as determined by the capacity they're assigned in their Presence Configuration) and the capacity of the items they're actually working on.

Routing Priority

Routing Model

Work Item Size

Specify the size of the work items in the queues that are associated with this configuration. You can size them by the units of capacity or percentage of capacity that a work item takes up, but not both.

Units of capacity determine how many units are subtracted from an agent's overall capacity when an agent is assigned a work item. For example, a case might take up 2 units of capacity. An agent with an overall capacity of 4 would be able to take on 2 of those cases at a time.

Percentage of capacity determines what percentage of an agent's capacity is taken up by the work item. For example, a high-priority case might take up 100% of an agent's capacity, making them unavailable to receive other work items while the agent works on an urgent issue.

Units of Capacity

Percentage of Capacity

Save Cancel

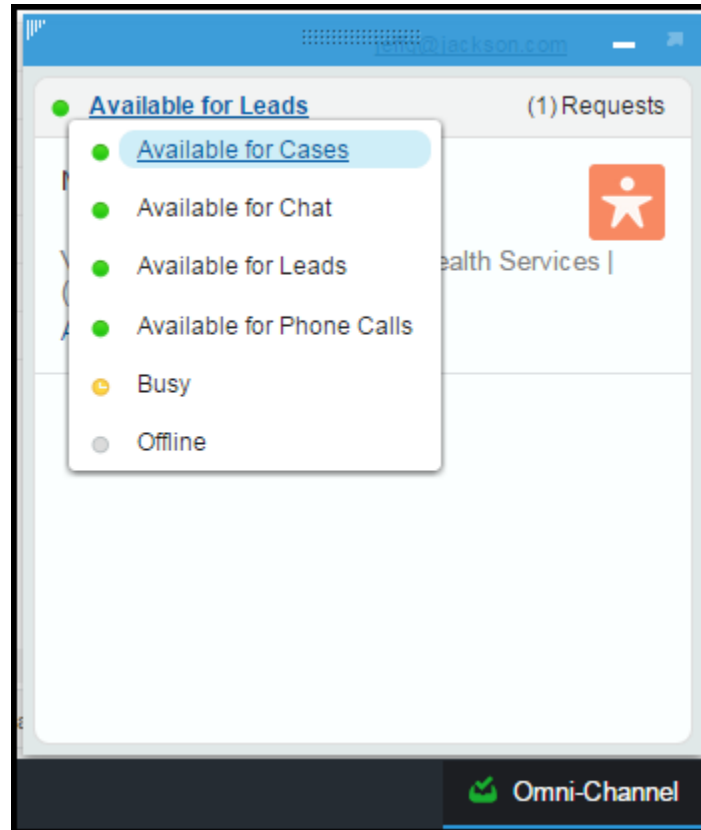
エージェントへの作業項目の転送を開始するためのユーザとルーティング設定のキューへの割り当て

ルーティング設定をSalesforceキューに関連付けます。そのキューにある項目は、ルーティング設定に基づいてエージェントに転送されます。既存のキューをオムニチャネルと統合できます。

プレゼンス状況によるエージェントの対応可能状況 (対応可能、オフライン、通話中) の定義

プレゼンス状況は、エージェントがオムニチャネルにサインインしているときに、作業にどのように対応できるかを示します。エージェントが退席中であるか、新しい作業項目を受け入れ可能であることを示す、状況を作成します。

プレゼンス状況は、1つ以上のサービスチャネルに関連付けられます。オンライン状況でサインインしたエージェントは、そのチャネルから作業項目を受け入れることができます。エージェントが異なる作業項目を同時に処理できる場合、エージェントはそれらのチャネルに関連付けられたプレゼンス状況でログインできます。



プレゼンス設定によるエージェントのオムニチャネル設定の定義

プレゼンス設定により、エージェントが受け入れ可能な作業量と、顧客に対応中にエージェントがアクセスできるオムニチャネルの動作が決まります。異なる作業を処理するエージェントの種別またはグループごとに異なる設定を定義できます。各エージェントは、1つのプレゼンス設定にのみ割り当てることができます。別の設定に割り当てない限り、すべてのエージェントはデフォルトのプレゼンス設定に割り当てられます。デフォルトのプレゼンス設定は Salesforce で自動的に作成され、すばやく開始できます。

プレゼンス設定を使用して、作業項目に関するエージェントの全体的な業務量(つまり、エージェントが同時に受け入れることができる作業量)を指定します。また、エージェントが割り当てを拒否できるかどうかなど、割り当てられた作業に対するエージェントの対応方法を示すこともできます。

SaveCancel

Basic Information

= Required Information

Presence Configuration Name

Billing Configuration

Developer Name

Billing_Configuration

Capacity

5

Automatically Accept Requests

☐

Allow Agents to Decline Requests

☒

Update Status on Decline

Busy

Assign Users

Select the users for this configuration. User-level configurations override profile-level configurations.

Available Users

Admin User

Kendra Fumai

Add

Remove

Selected Users

Agent Amazing

Assign Profiles

Select the profiles for this configuration.

Available Profiles

Marketing User

Read Only

Solution Manager

Standard Platform User

Standard User

System Administrator

Add

Remove

Selected Profiles

Service Cloud

SaveCancel

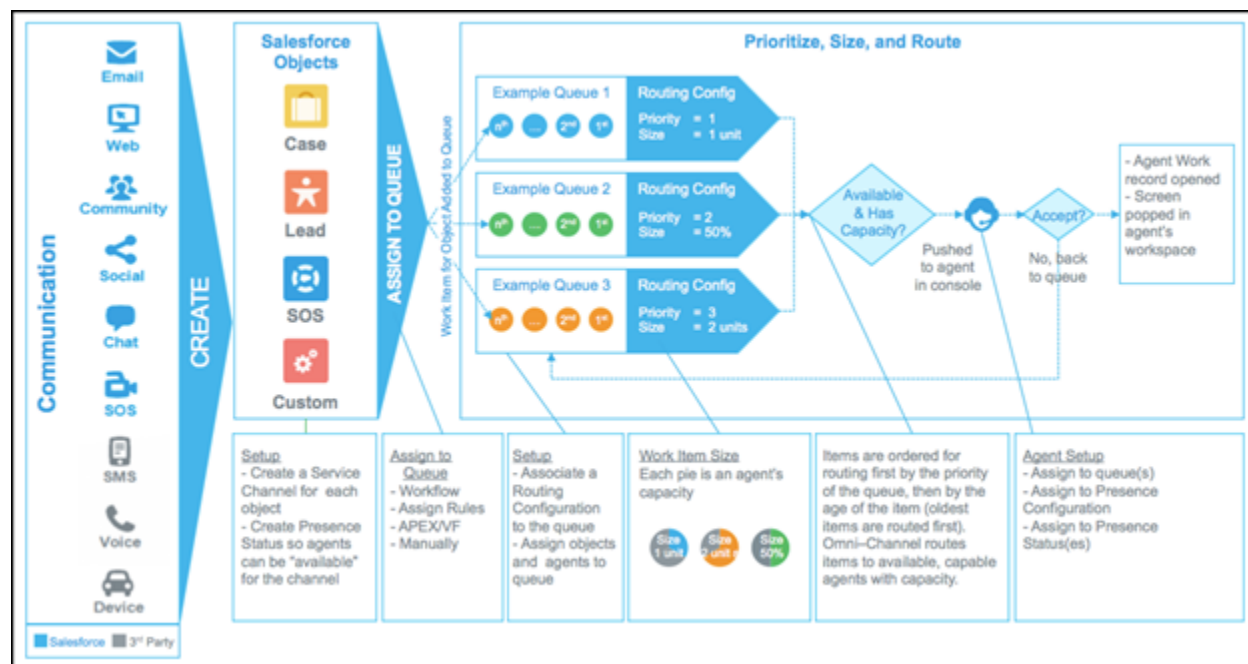
エージェントの対応可能状況と割り当て作業に関するレポートの実行

カスタムレポートを使用して、オムニチャネルエージェントの活動に関する洞察を得ることができます。エージェントのプレゼンス状況および割り当て作業に関するレポートを実行できます。

たとえば、エージェントが特定の状況で費やす時間や、エージェントが準拠規格を満たしているかどうかを確認するとします。この場合は、ユーザプレゼンスオブジェクトに関するレポートを実行するか、ダッシュボードを作成します。ユーザプレゼンスオブジェクトは、オムニチャネルセッション全体でのエージェントの状況を追跡します。

または、エージェントが割り当て作業をどのように管理しているかを確認するとします。この場合は、エージェントが受け入れた作業項目数と拒否した作業項目数、エージェントの平均応答速度、または平均処理時間を表示する、エージェント作業オブジェクトに関するレポートを作成します。

オムニチャネルのすべての要素がどのように関連するかの概要を次に示します。



オムニチャネルの設定および作業項目の効率的なエージェントへの転送についての詳細は、[「SetUpOmni-Channel」](#)を参照してください。

SOS ビデオチャットおよび画面共有を使用するモバイルアプリケーションへのアプリケーション内サポートの追加 (ベータ)

まったく新しい方法で顧客とのやりとりを希望される場合、Service Cloud のモバイルサポートソリューションである SOS を使用できるようになりました。SOS では、iOS または Android のネイティブモバイルアプリケーションにヘルプボタンを追加して、一方向ビデオまたは双方向音声チャットにより顧客がエージェントとやりとりできます。

このリリースには、SOS のベータバージョンが含まれています。本番品質ではありませんが、既知の制限があります。SOS についてのフィードバックと提案は、IdeaExchange からお寄せください。組織でのこの機能の有効化については、Salesforce にお問い合わせください。また、この機能を使用するには、追加サービスまた

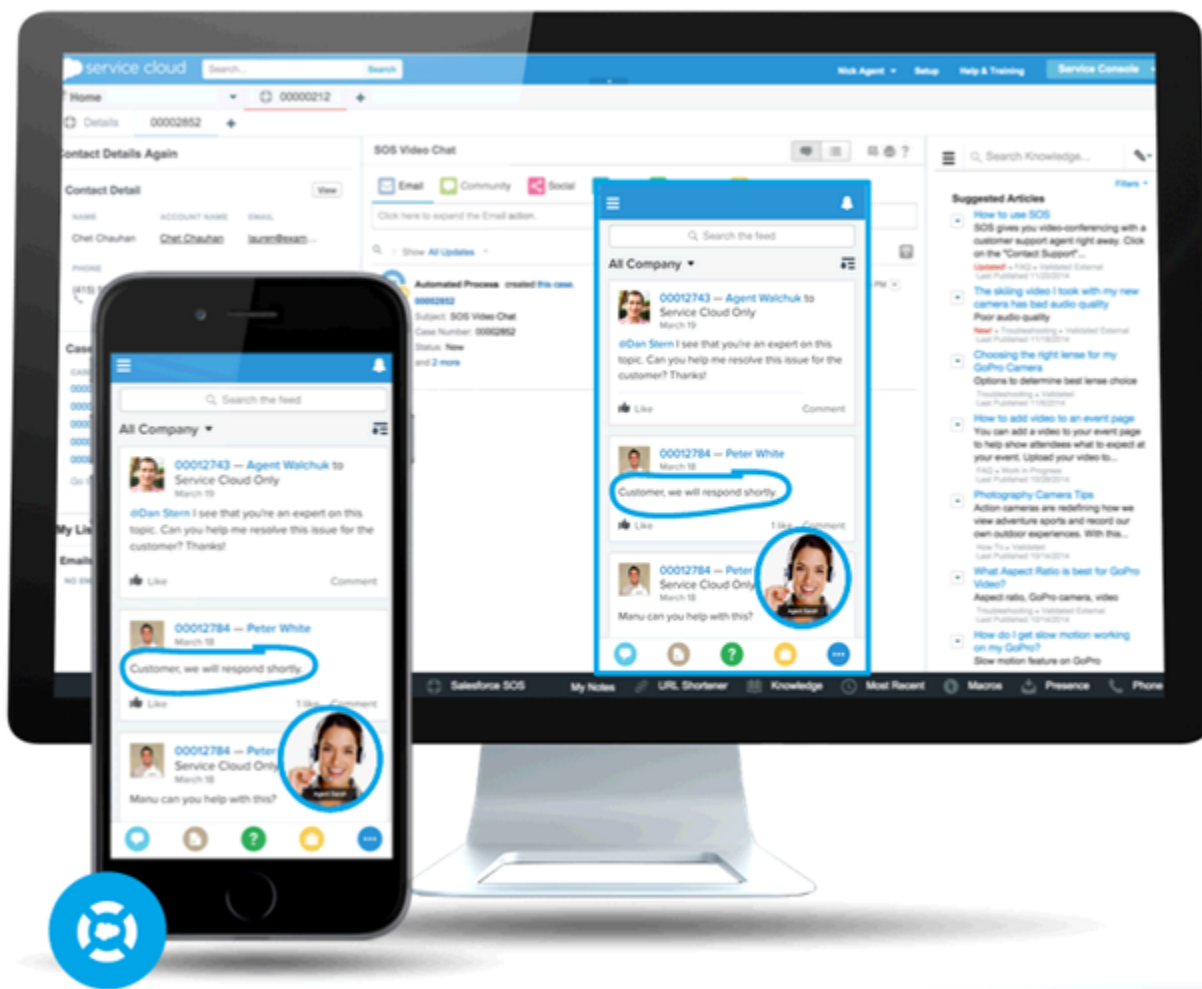
エディション

有料オプションで SOS を使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

はサブスクリプションの購入が必要な場合があります。価格設定についての詳細は、Salesforce カスタマーサポートにお問い合わせください。

これで完了です。では、本題に戻ります。

名前も顔もわからないエージェントと顧客が電話でやりとりしなければならない時代は終わりました。ビデオチャット、画面共有、およびエージェントによる注記を使用してパーソナライズされたアプリケーション内ガイダンスをエージェントが提供するときに、顧客は1回クリックするだけでエージェントを表示させることができます。



SOS は、Service Cloud の Salesforce コンソールに統合されています。エージェントは、ビデオコール中にケース、アカウントレコード、顧客情報にすばやく簡単にアクセスできます。また、エージェントは SOS セッション中に顧客の画面を引き出して、問題を解決するためのアプリケーション内ガイダンスを顧客に提供することもできます。顧客には包括的な個人サポート環境が提供され、エージェントには顧客の問題を解決するために必要な情報がコンソールで提供されます。

さらに、SOS はオムニチャネルに完全に統合されています。オムニチャネルは、SOS ビデオコールを含めた作業項目をエージェントに転送する方法をカスタマイズできる Service Cloud の転送エンジンです。SOS コールは、組織内で最も対応可能なエージェントにリアルタイムで転送されます。オムニチャネル転送は、Service Cloud

および Salesforce コンソールに直接組み込まれているため、SOS コールがエージェントに自動的に転送され、サードパーティの転送エンジンは必要ありません。

モバイルアプリケーションへの SOS の統合についての詳細は、*SOS iOS SDK* に関して Salesforce 取引先チームにお問い合わせください。

オムニチャネルについての詳細は、「[オムニチャネルによる適格で対応可能なサポートエージェントへの作業の転送 \(ベータ\)](#)」(ページ 140)を参照してください。

ケースフィード

ケースフィードは、ケースの作成、管理、および表示をより合理的に行う方法をサポートエージェントに提供します。ケースフィードにはパブリッシャーが含まれています。パブリッシャーでは、エージェントがケースメモの作成、活動の記録、ケースの状況の変更、および顧客とのやりとりを Chatter のようなフィードで行えます。

このセクションの内容:

[ケースフィードでの投稿とコメントの編集](#)

以前は、ケースフィードの投稿とコメントは変更できませんでした。ユーザが投稿とコメントを編集できるようになり、入力ミスの修正や情報の追加が容易になりました。

[ケースフィードでの外部に表示されるフィード項目の強調表示](#)

ケースフィードで外部ユーザに表示されるフィード項目を強調表示できます。内部ユーザにのみ表示されるフィード項目と、顧客などの外部ユーザに表示される項目をサポートエージェントが容易に区別できるようになりました。

ケースフィードでの投稿とコメントの編集

以前は、ケースフィードの投稿とコメントは変更できませんでした。ユーザが投稿とコメントを編集できるようになり、入力ミスの修正や情報の追加が容易になりました。

「[フィードの投稿とコメントの編集](#)」を参照してください。

ケースフィードでの外部に表示されるフィード項目の強調表示

ケースフィードで外部ユーザに表示されるフィード項目を強調表示できます。内部ユーザにのみ表示されるフィード項目と、顧客などの外部ユーザに表示される項目をサポートエージェントが容易に区別できるようになりました。

デフォルトでは、ケースフィードで誰に表示されるかによってフィード項目が区別されることはありません。

エディション

使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

エディション

使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

エディション

使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

[外部から参照可能なフィード項目を強調表示]設定を有効にすると、外部に表示されるフィード項目の背景がオレンジ色に変わります。[設定]で、[カスタマイズ]>[ケース]>[ページレイアウト]をクリックします。編集するフィードベースのページレイアウトを選択し、[編集]をクリックします。[フィードビュー]設定までスクロールし、[外部から参照可能なフィード項目を強調表示]を選択します。

メール-to-ケース

メール-to-ケースを使用すると、会社はメールでケースを効率的に受信して解決できます。

使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

このセクションの内容:

メールフィード項目の HTML 形式およびインライン画像の表示

これまでは、Salesforce Console for Service のメールフィード項目はテキスト形式のみで表示され、メールのインライン画像は添付ファイルとして表示されていました。今回のリリースで、コンパクトフィードレイアウトのメールフィード項目を HTML で表示可能になり、サポートエージェントが顧客のメールのインライン画像を簡単に確認できるようになりました。

メールの返信の直後にユーザ署名を追加

デフォルトでは、ケースフィードから送信されるメールのスレッドの最後尾に常にユーザ署名が追加されます。サポートエージェントの返信の後、メールのスレッドの前にユーザ署名を挿入できるようになりました。

スレッド ID のメール-to-ケース設定の名前変更

スレッド ID をメールの件名および本文に挿入するメール-to-ケース設定の名前が変更されました。

メールフィード項目の HTML 形式およびインライン画像の表示

これまでは、Salesforce Console for Service のメールフィード項目はテキスト形式のみで表示され、メールのインライン画像は添付ファイルとして表示されていました。今回のリリースで、コンパクトフィードレイアウトのメールフィード項目を HTML で表示可能になり、サポートエージェントが顧客のメールのインライン画像を簡単に確認できるようになりました。

メールフィード項目で HTML 形式および画像を表示できるのは、コンパクトフィードレイアウトの場合のみです。顧客またはサポートエージェントが HTML 形式およびインライン画像を含むメールを送信すると、メールフィード項目にその形式および画像が表示されます。2 MB 以下の画像は、最初のメールフィード項目にのみ読み込まれます。2 MB 超の画像および他のメールフィード項目の画像は、アイコンとして表示されます。アイコンをクリックすると、フィードに画像が表示されます。

これまでは、メール本文の mailto リンクは無効で、テキスト形式で表示されていました。今回のリリースからは、メールアドレスなどの mailto リンクをクリックすると、Salesforce が標準のメールアクションと mailto リンクに指定されている値を読み込みます。

エディション

使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition (Service
Cloud 付属)

メールフィード項目のHTMLを有効にするには、[設定]から[カスタマイズ]>[ケース]>[メール-to-ケース]をクリックし、[メール-to-ケースの設定]ページで[HTML メールの有効化]を選択します。

メールの返信の直後にユーザ署名を追加

デフォルトでは、ケースフィードから送信されるメールのスレッドの最後尾に常にユーザ署名が追加されます。サポートエージェントの返信の後、メールのスレッドの前にユーザ署名を挿入できるようになりました。

この機能は、ケースフィードのメールパブリッシャーでのみサポートされます。ケースの関連リスト([メール]関連リストなど)からメールを送信するときには使用できません。

これまでは、標準のメールパブリッシャー、メールApexパブリッシャー、[メールを送信]アクションにユーザ署名が表示されなかったため、ユーザがメールの各自の署名を確認していませんでした。ユーザは、ケースフィードから送信したメールで自分の署名を確認できるようになりました。

 **メモ:** メール本文の値が事前に定義されている場合は、[メールを送信]アクションにユーザ署名が追加されません。

1. [設定]で、[カスタマイズ]>[ケース]>[メール-to-ケース]をクリックします。
2. [メールスレッドの前にユーザの署名を配置]を選択します。チェックボックスをオンにしない場合は、デフォルトでメールの最後尾にユーザ署名が追加されます。
3. [保存]をクリックします。

スレッド ID のメール-to-ケース設定の名前変更

スレッドIDをメールの件名および本文に挿入するメール-to-ケース設定の名前が変更されました。

[メール件名にスレッド ID を挿入]設定は、以前は[メール件名]という名前でした。

[メール本文にスレッド ID を挿入]設定は、以前は[メール内容]という名前でした。

エディション

使用可能なエディション:

Professional Edition、
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

ユーザ権限

メール-to-ケースを設定する

- 「アプリケーションのカスタマイズ」

エディション

使用可能なエディション:

Professional Edition、
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

マクロによる効率性の向上

ケースフィードを使用するサポートエージェントは、マクロを使用して、反復作業(メールテンプレートの選択、顧客へのメールの送信、ケース状況の更新など)をすべて1回のクリックで完了できます。マクロにより、時間が節約され、エージェントの作業をサポートするうえで一貫性が確保されます。

マクロを作成して、ケースフィードで複数のアクションを実行できます。また、一括マクロを使用すると、複数のレコードで同じアクションを同時に実行できます。

 **メモ:** マクロがサポートされるのは、取引先、取引先責任者、リード、ケースオブジェクトのフィードベースのレイアウトのみです。

エディション

使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition (Service
Cloud ライセンス付属)

このセクションの内容:

複数のレコードへの一括マクロの同時実行

これまでサポートエージェントは、マクロを一度に1つのレコードにしか実行できませんでした。エージェントが複数のレコードに一括マクロを同時に実行できるようになりました。一括マクロにより、エージェントは同じ問題を抱える顧客のケースの増加に簡単に対応できます。

マクロを使用して Salesforce ナレッジをすばやく検索して記事をケースに添付

Summer'15 リリースでは、自動的に Salesforce ナレッジ記事のキーワード検索を実行して、記事をケースに添付するマクロを作成できます。マクロを使用すると、サポートエージェントが顧客の一般的な問題に関連するサポート記事をすばやく簡単に検索して提供できます。

マクロを使用したソーシャルネットワークへの投稿

Twitter や Facebook などのソーシャルネットワークに自動的に投稿するマクロを作成して実行できるようになりました。

マクロを使用したケースの項目値の置換

マクロを使用してケースの項目値を自動的に置換すると、レコードの内容を簡単に変更できます。置換命令は、項目の既存の値をクリアして、マクロに指定した値と置換するようマクロに指示します。値が指定されていない場合、マクロは項目を空の文字列に置換します。

マクロを使用したケースへの項目値の挿入

マクロを使用して項目に項目値を自動的に挿入すると、詳細情報を簡単にレコードに追加できます。追加および挿入命令は、項目の既存の値に指定した項目値を追加するようマクロに指示します。

ユーザが元に戻せないマクロを作成および実行する新しいユーザ権限

一部のマクロは、元に戻せないアクション(顧客へのメールの送信、ケースの状況の更新など)を実行します。これまでは、「マクロを作成」権限を持つシステム管理者またはサポートエージェントが、元に戻せないアクションを実行するマクロを作成および実行することができました。システム管理者およびエージェントが元に戻せないアクションを実行する命令を含むマクロを作成、編集、実行するためには、「ユーザが元に戻せないマクロを管理」ユーザ権限が必要になりました。

マクロの検索の機能強化

以前は、マクロの検索リストに最大 400 マクロしか表示されませんでした。Summer'15 でこの制限が排除されました。

マクロリストに最近使用したマクロを表示

以前は、マクロの検索ボックスが空の場合、マクロリストに既存のマクロがすべて表示されていました。今回のリリースで、マクロの検索ボックスが空の場合、マクロリストにユーザが最近使用した 25 のマクロが表示されるようになりました。

複数のレコードへの一括マクロの同時実行

これまでサポートエージェントは、マクロを一度に 1 つのレコードにしか実行できませんでした。エージェントが複数のレコードに一括マクロを同時に実行できるようになりました。一括マクロにより、エージェントは同じ問題を抱える顧客のケースの増加に簡単に対応できます。

必要なユーザ権限

マクロを参照する	マクロに対する「参照」
マクロを作成および編集する	マクロに対する「作成」および「編集」
一括マクロを作成および実行する	「ユーザが元に戻せないマクロを管理」

エディション

使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition (Service
 Cloud ライセンス付属)

一括マクロは、取引先、ケース、取引先責任者、リードオブジェクトのレコードに実行できます。ただし、一括マクロを実行できるのは、一度に 1 つのオブジェクトリストビューのレコードのみです。たとえば、[ケース] リストビューの複数のケースに一括マクロを実行することはできますが、ケースと取引先に同時に実行することはできません。

各クイックアクションの最終命令に送信アクションが含まれるマクロのみが一括で実行できます。緑の稲妻と 2 本の下線を示すアイコン()で、マクロが一括マクロかどうかを識別します。

一括マクロでは、マクロが一度に 10 個単位で処理されます。11 以上のケースに一括マクロを実行することも可能ですが、システムではマクロが一度に 10 個ずつ処理されます。

1. [ケース] リストビューで、マクロを実行するケースを選択します。

ケースを検索条件で絞り込んで、マクロを実行するケースを特定することもできます。

2. マクロウィジェットで、マクロを選択して [実行] をクリックします。

3. 確認ウィンドウで、[OK] をクリックして続行します。

選択したケースにマクロが実行されます。リストビューに、マクロが正常に実行されたケースが緑で強調表示され、緑のチェックマークアイコンが付けられます。マクロが正常に実行されなかったケースは赤で強調表示され、赤い×アイコンが付けられます。ケースでマクロが機能しなかった理由を確認するには、赤い×アイコンにマウスポインタを置きます。



例: 同じ問題に関する顧客のケースが増加しているとします。これらの顧客にメールを送信するマクロを使用して、会社がこの問題を認識し修正に取り組んでいることを知らせて安心させます。マクロを適用するケースを選択します。ケースごとに、マクロによってメールテンプレートが新規メールに適用され、ケースの取引先責任者のメールアドレスが指定され、メールが送信されます。

マクロを使用して Salesforce ナレッジをすばやく検索して記事をケースに添付

Summer'15 リリースでは、自動的に Salesforce ナレッジ記事のキーワード検索を実行して、記事をケースに添付するマクロを作成できます。マクロを使用すると、サポートエージェントが顧客の一般的な問題に関連するサポート記事をすばやく簡単に検索して提供できます。

記事を検索および添付するマクロを使用する前に、Salesforce ナレッジを設定する必要があります。

サポートエージェントがマクロを使用して次のことをできるようになりました。

- Salesforce ナレッジ記事をキーワードまたは記事番号で検索する。
- 最も関連性が高い記事をケースに添付する。
- ケースフィードで記事を PDF または HTML 形式でメールに添付する。
- 記事を HTML 形式でケースに挿入する。

 **例:** 自動的に記事を選択して顧客への返信メールに添付するマクロを作成して実行できます。たとえば、顧客からサポートに度々パスワードのリセットに関する情報の問い合わせがあるとします。この場合、「パスワードをリセットする方法」記事を選択してサポートエージェントの返信メールに挿入するマクロを作成できます。このマクロにより、記事を検索してコピーし、メールに貼り付ける時間が節約されます。

エディション

使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition (Service
Cloud ライセンスおよび
Salesforce ナレッジ付属)

マクロを使用したソーシャルネットワークへの投稿

Twitter や Facebook などのソーシャルネットワークに自動的に投稿するマクロを作成して実行できるようになりました。

ソーシャルネットワークに投稿するマクロを使用する前に、ソーシャルカスタマーサービスを設定する必要があります。

 **例:** ソーシャル投稿にクイックテキストを挿入するマクロを作成できます。ソーシャル投稿アクションでは、「挿入」命令は @メンションを保持したり、その後にテキストを追加したりできるので便利です。

エディション

使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition (Service
Cloud ライセンス付属)

マクロを使用したケースの項目値の置換

マクロを使用してケースの項目値を自動的に置換すると、レコードの内容を簡単に変更できます。置換命令は、項目の既存の値をクリアして、マクロに指定した値と置換するようマクロに指示します。値が指定されていない場合、マクロは項目を空の文字列に置換します。

 **例:** マクロを使用して、顧客に標準化されたメールで応答できます。メールフィード項目の件名項目とメール本文を置換するマクロを作成して実行できます。マクロはメールフィード項目の既存の値をクリアして、指定した件名とテキストに置換します。

エディション

使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition (Service
Cloud ライセンス付属)

マクロを使用したケースへの項目値の挿入

マクロを使用して項目に項目値を自動的に挿入すると、詳細情報を簡単にレコードに追加できます。追加および挿入命令は、項目の既存の値に指定した項目値を追加するようマクロに指示します。

[追加] および [挿入] 命令は、項目に指定した値またはテキストを追加するもので、項目に存在する値またはテキストを削除するものではありません。

マクロが1行の項目に [追加] または [挿入] 命令を実行すると、新しい値が既存の値に追加されます。複数行の項目 (メール本文項目など) の場合は、マクロが項目のカーソル位置に指定した値を挿入します。

 **例:** コミュニティの投稿にクイックテキストを挿入するマクロを作成できます。[コミュニティ]アクションでは、「挿入」命令は@メンションを保持したり、その後にテキストを追加したりできるので便利です。

エディション

使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition (Service
Cloud ライセンス付属)

ユーザが元に戻せないマクロを作成および実行する新しいユーザ権限

一部のマクロは、元に戻せないアクション (顧客へのメールの送信、ケースの状況の更新など) を実行します。これまでは、「マクロを作成」権限を持つシステム管理者またはサポートエージェントが、元に戻せないアクションを実行するマクロを作成および実行することができました。システム管理者およびエージェントが元に戻せないアクションを実行する命令を含むマクロを作成、編集、実行するためには、「ユーザが元に戻せないマクロを管理」ユーザ権限が必要になりました。

「ユーザが元に戻せないマクロを管理」ユーザ権限は、ユーザ (システム管理者を含む) が元に戻せないアクションを実行する命令を含むマクロを作成、編集、実行できるかどうかを制御します。この権限のないシステム管理者およびエージェントも、マクロを共有、コピー、削除するために必要な権限があれば、これらのアクションの命令を含むマクロを共有、コピー、削除できます。また、この権限のないシステム管理者およびエージェントは、マクロを作成および編集するために必要な権限があれば、元に戻せないアクションを実行する命令を含まないマクロを作成および編集できます。

このユーザ権限を有効にするには、[設定] から [管理] > [ユーザの管理] > [権限セット] をクリックします。[アプリケーション権限] > [コールセンター] セクションで、「ユーザが元に戻せないマクロを管理」を選択します。

エディション

使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition (Service
Cloud ライセンス付属)

マクロの検索の機能強化

以前は、マクロの検索リストに最大 400 マクロしか表示されませんでした。Summer '15 でこの制限が排除されました。

400 マクロの表示制限を排除するため、検索がクライアント側からサーバ側に変更されました。その結果、検索はサーバで実行されるため、検索時間が長くなる可能性があります。最高のパフォーマンスを得るには、ユーザがアクセスできるマクロの最大数を 5,000 マクロに設定します。

エディション

使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition (Service
Cloud ライセンス付属)

マクロリストに最近使用したマクロを表示

以前は、マクロの検索ボックスが空の場合、マクロリストに既存のマクロがすべて表示されていました。今回のリリースで、マクロの検索ボックスが空の場合、マクロリストにユーザが最近使用した 25 のマクロが表示されるようになりました。

「最近使用した」マクロに該当するのは、ユーザが実行したことがあるマクロまたは詳細ページを表示したことがあるマクロです。

エディション

使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition (Service
Cloud ライセンス付属)

ケースの割り当てルールの直観的な有効化

ケースの編集または作成時に、ケースの割り当てルールを強制的に適用するか、エンドユーザがルールの有効化/無効化を切り替えられるようにするかを別途選択できるようになりました。以前は、これらのオプションが相互に連動していました。

ケースの割り当てルールを強制的に適用するには、[ケース割り当て] チェックボックスの下にある [デフォルト] を選択します。このオプションにより、ケースの編集または作成時にエンドユーザがケースの割り当てを無効にするのを防止できます。エンドユーザによるケースの割り当てルールの有効化/無効化を許可するには、[[ケース割り当て] チェックボックス] の下にある [編集ページを表示] を選択します。両方のオプションを選択した場合は、割り当てチェックボックスが表示され、さらにそのチェックボックスはデフォルトでオンになります。[デフォルト] 設定では、チェックボックスも表示してユーザが手動でオフにしない限り、割り当てルールが強制的に実行されます。

[ケース割り当て] チェックボックスを更新するには、ケースページレイアウトの [レイアウトのプロパティ] を編集します。

エディション

使用可能なエディション:
Group Edition、
Professional Edition、
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

エンタイトルメント管理

エンタイトルメント管理を使用して、ユーザおよびサポートエージェントは顧客のサポート契約を確認および実行できます。

このセクションの内容:

マイルストンの残り時間を営業時間ではなく実際の時間で追跡

これまでは、組織のエンタイトルメントで営業時間が有効になっている場合、マイルストントラッカーにマイルストンの期日までの残り時間が営業時間で示されていました。今回のリリースで、営業時間が有効でも、残り時間を実際の時間で追跡できるようになりました。

エディション

使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition (Service
Cloud 付属)

マイルストンの残り時間を営業時間ではなく実際の時間で追跡

これまでは、組織のエンタイトルメントで営業時間が有効になっている場合、マイルストントラッカーにマイルストンの期日までの残り時間が営業時間で示されていました。今回のリリースで、営業時間が有効でも、残り時間を実際の時間で追跡できるようになりました。

マイルストンの残り時間は、現在の時刻からマイルストンの期日までの時間です。マイルストンに営業時間が設定されている場合は、デフォルトで残り時間が営業時間で示されます。

マイルストントラッカーの残り時間の表示方法を設定する前に、エンタイトルメント管理および営業時間を有効にします。

営業時間ではなく実際の時間を使用する場合は、[設定] から [ビルド] > [カスタマイズ] > [エンタイトルメント管理] > [設定] をクリックします。[マイルストントラッカー] セクションで、[残り時間を営業時間ではなく実際の時間で表示] のチェックボックスをオンにして、[保存] をクリックします。

 **例:** 残り時間が営業時間で示される場合: たとえば、営業時間が午前 9 時から午後 5 時で、現在午後 4 時 30 分、サポートエージェントのマイルストンの期日が翌日の午前 11 時であるとしてみます。この場合、マイルストントラッカーには残り時間が営業時間で示されるため、残り時間は 2 時間 30 分になります (今日の午後 4 時 30 分 ~ 5 時と、明日の午前 9 時 ~ 11 時)。

残り時間が実際の時間で示される場合: 他方、実際の時間で示すようにマイルストントラッカーを設定した場合は、営業時間が無視されます。代わりに、マイルストントラッカーには残り時間が、現在の時刻からマイルストンの期日までの総時間で示されます。つまり、現在午後 4 時 30 分で、マイルストンの期日が翌日の午前 11 時の場合、残り時間は 18 時間 30 分になります (今日の午後 4 時 30 分 ~ 翌日の午前 11 時)。

エディション

使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition (Service
Cloud 付属)

ナレッジ

Salesforce ナレッジは、ナレッジセンターサポート (KCS) 認定済みの知識ベースです。

このセクションの内容:

記事の詳細ページからケースに記事を添付

エージェントが記事を検索し、その記事の詳細ページを表示して、記事リストに戻ることなく、詳細ページから直接記事をケースに添付できるようになりました。

ソーシャルカスタマーサービスでの記事へのリンク

Summer'15 リリースでは、ソーシャルカスタマーサービスのエージェントが、ケースフィードのソーシャルアクションに公開記事へのリンクを挿入できます。

ケースの推奨記事の関連性の向上 (正式リリース)

エージェントと顧客の解決時間を短縮するため、ケースの検索および作成時に推奨記事をクリック 1 回でアクセスできます。推奨記事は、Salesforce Console for Service およびポータルとコミュニティに表示されます。

エディション

Salesforce ナレッジを使用
可能なエディション:
Performance Edition および
Developer Edition
有料オプションで
Salesforce ナレッジを使用
可能なエディション:
Enterprise Edition および
Unlimited Edition

プラスまたはマイナス評価 (ベータ)

このベータプログラムでは、既存の星による評価方式または新しいプラス/マイナス評価方式を使用して、内部記事の評価することを選択できます。

Salesforce ナレッジのその他の変更

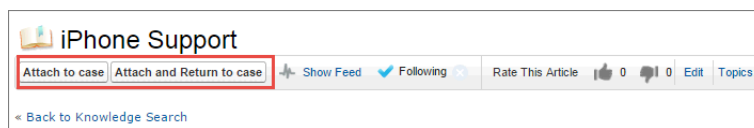
Salesforce ナレッジユーザに影響するその他の変更について説明します。

記事の詳細ページからケースに記事を添付

エージェントが記事を検索し、その記事の詳細ページを表示して、記事リストに戻ることなく、詳細ページから直接記事をケースに添付できるようになりました。

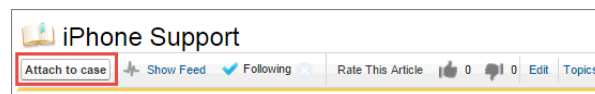
これまでエージェントは、記事を[記事の検索結果]リストからしかケースに添付できませんでした。ほとんどの場合、添付する正しい記事かどうかを判断するためには、記事の詳細ページまでドリルダウンする必要があります。リストまで戻る必要がある場合は、ドリルダウンして表示していた記事が、リストのどの記事なのか判断できないことがあります。

エージェントが、Service コンソールではなく、ケースから記事を検索している場合は、[ケースに添付] または [添付してケースに戻る] をクリックできます。



エージェントが[ケースに添付] または [添付してケースに戻る] をクリックすると、これらのボタンが[ケースから添付解除] および [添付解除してケースに戻る] になります。

Service コンソールでは、[ケースに添付] のみがあります。Service コンソールではケースタブに移動すればよいので、[添付してケースに戻る] は必要ありません。



Service コンソールで添付した記事を削除することもできます。

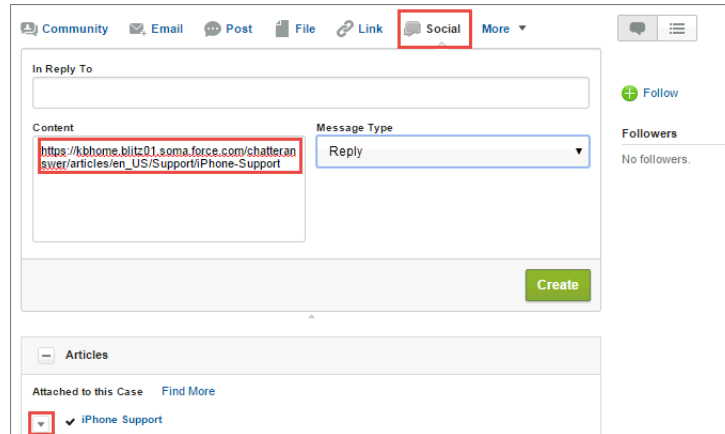
エージェントがケースから記事の検索を開始した場合は、記事の詳細ビューから記事を添付および削除できます。

 **メモ:** これらのオプションは、エージェントがケース記事の検索を実行している場合にのみ使用できます。たとえば、エージェントは記事を添付または添付解除する必要がある特定のケースから開始する必要があります。

ソーシャルカスタマーサービスでの記事へのリンク

Summer '15 リリースでは、ソーシャルカスタマーサービスのエージェントが、ケースフィードのソーシャルアクションに公開記事へのリンクを挿入できます。

Service コンソールでソーシャルアクションを使用しているときに、エージェントは公開記事 (記事の検索ウィジェット、添付記事、またはナレッジサイドバーのいずれか) で [記事リンクを共有] を選択できます。リンクはソーシャルアクションのコンテンツに貼り付けられます。

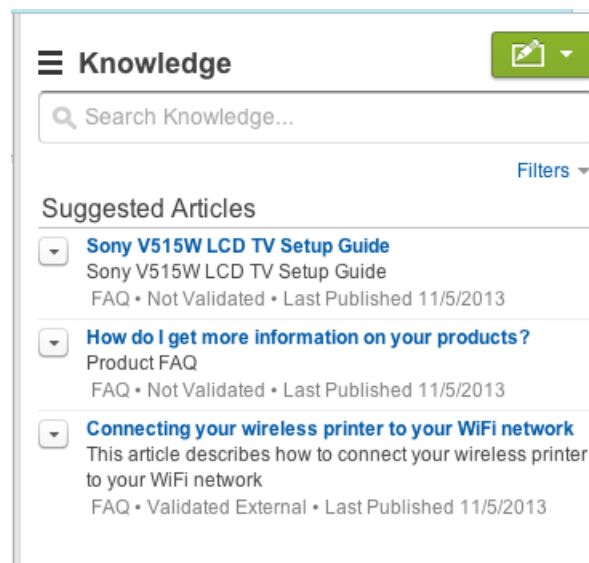


 **メモ:** ソーシャルカスタマーサービスへの記事リンクの挿入は、Internet Explorer 7 ではサポートされていません。

ケースの推奨記事の関連性の向上 (正式リリース)

エージェントと顧客の解決時間を短縮するため、ケースの検索および作成時に推奨記事にクリック1回でアクセスできます。推奨記事は、Salesforce Console for Service およびポータルとコミュニティに表示されます。

検索エンジンは、一致する検索用語の頻度と分布に基づいて、ケースの件名や説明に類似するコンテンツを含む記事を検索します。また、件名や説明に同じキーワードを使用している、他のケースに添付された記事も検索します。



有効にするには、[設定] から [カスタマイズ] > [ナレッジ] > [設定] へ移動し、Knowledge One の [ケースのコンテンツを考慮する場合に記事を推奨] チェックボックスをオンにします。

プラスまたはマイナス評価 (ベータ)

このベータプログラムでは、既存の星による評価方式または新しいプラス/マイナス評価方式を使用して、内部記事の評価することを選択できます。

メモ: このリリースには、プラスまたはマイナス評価のベータバージョンが含まれています。本番品質ではありませんが、既知の制限があり、Internet Explorer 8 ではサポートされていません。フィードバックや提案のご提供、および組織でのこの機能の有効化については、Salesforce にお問い合わせください。

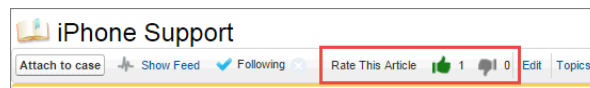
プラス/マイナス投票により簡単に評価できるようになるため、エージェントによる投票が促されます。

[設定] から [カスタマイズ] > [ナレッジ] > [設定] に移動して、[記事のプラス投票とマイナス投票を有効化] を選択します。

記事のプラス/マイナス投票を有効にした時点ですでに星による評価が行われている場合は、以前の投票が保持されます。星 3 つ、4 つ、5 つはプラスに変換され、星 1 つまたは 2 つはマイナスに変換されます。プラス/マイナスを星に戻す場合は、プラスが星 5 つ、マイナスが星 1 つになります。

ナレッジユーザは、記事の詳細ページで投票します。ユーザがプラスに投票すると、そのアイコンが緑で表示されます。ユーザがマイナスに投票すると、そのアイコンが赤で表示されます。

メモ: 現時点では、投票した内容を変更すること、プラス/マイナス投票を投票統計に反映すること、メタデータ API に設定を保持すること、このベータプログラムを Salesforce1 およびコミュニティで使用することはできません。



投票は現在のチャンネルに基づいて記事の詳細ページに表示され、記事の検索リストにはすべてのチャンネルの投票総数が表示されます。



Salesforce ナレッジのその他の変更

Salesforce ナレッジユーザに影響するその他の変更について説明します。

シノニムグループの制限の緩和

シノニムグループを 1,000 個まで追加できるようになりました。以前は、300 個しか追加できませんでした。

Salesforce1 およびコミュニティの記事のファイル項目

エージェントおよび顧客が、Salesforce1 およびコミュニティで記事のファイル項目の添付ファイルを表示できるようになりました。これは、項目の内容が、ファイルにアクセスしなければ十分に理解できない添付ファイルの内容を参照している場合に特に重要です。

エディタのアップグレード

記事を含むすべてのオブジェクトで CKEditor がバージョン 4.4.6 にアップグレードされました。

Live Agent

Live Agent により、サービス組織は、Web ベースのテキストのみの Live Chat を使用して顧客または Web サイトの訪問者とリアルタイムに接続できます。

エディション

Live Agent を使用可能な組織: 2012 年 6 月 14 日より
も後に作成された
Performance Edition および
Developer Edition の組織
有料オプションで Live Agent を使用可能なエディション: **Enterprise Edition**
および **Unlimited Edition**

このセクションの内容:

チャット転送または会議でのワークスペースの転送

エージェントがチャットを転送または会議を開始するときに、別のエージェントがチャットを受け入れた時点で、その別のエージェントのワークスペースにチャットトランスクリプトに添付されているレコードが開かれるようになりました。このため、転送されたチャットを受け入れたエージェントが、顧客のサポートにすぐに取り掛かるための情報をすべて確認でき、関連レコードを検索する必要がありません。

複数のエージェントとチャットで会議

特に要望の多かった機能強化の1つが実現されました。単一のチャットに複数のエージェントが参加して、顧客が必要とする解決方法をより速く得られるようにサポートできるようになりました。

迷惑なチャット訪問者の IP アドレスに基づくブロック

指定した IP アドレスからのチャットをブロックして、エージェントが厄介な顧客を回避できるようにします。

Live Agent ブラウザのサポートの更新

Internet Explorer バージョン 7 以前のサポートを終了しました。さらに、IE 8 以前のバージョンを使用するエージェントには一定の制限があります。

チャット要求がタイムアウトになったときにエージェントの状況を自動的に [退席中] に設定

残念ながら、時としてエージェントが自身の状況を更新し忘れることがあります。エージェントに割り当てられたチャット要求がタイムアウトになったときに、そのエージェントの Live Agent 状況を自動的に [退席中] に設定する新しいオプションが追加されました。このようにして対応不可能なエージェントをキューから外すことで、チャット転送の効率を向上させることができます。

顧客が待機中のチャット要求をキャンセルできる新規ボタン

キューで待機中のチャット要求をキャンセルするボタンが新設されました。顧客が [キャンセル] ボタンをクリックするとチャットがただちに終了するため、[次の後に中止] 時間の正確度が高まります。

大刷新: Live Agent Edition

Live Agent が一新されて、チャットが読みやすくなり、アクションをすばやく見つけられるようになりました。

既存の Live Agent 実装でのオムニチャネルの有効化

Live Agent を使用したカスタマーサービスを次のレベルに進めることができます。ここでは、すでに Live Agent チャットを使用して顧客をサポートしている場合に、オムニチャネルで Live Agent によるチャットトラフィックの管理を始める前に知っておく必要がある点について説明します。

チャット転送または会議でのワークスペースの転送

エージェントがチャットを転送または会議を開始するときに、別のエージェントがチャットを受け入れた時点で、その別のエージェントのワークスペースにチャットトランスクリプトに添付されているレコードが開かれるようになりました。このため、転送されたチャットを受け入れたエージェントが、顧客のサポートにすぐに取り掛かるための情報をすべて確認でき、関連レコードを検索する必要がありません。

エージェントがチャットを転送しようとしたときに、保存されていないレコードやチャットトランスクリプトに添付されていないレコードが開いていると、最初のエージェントにチャット転送を完了する前に変更を保存するプロンプトが表示されます。この仕組みにより、転送を受け入れたエージェントには、顧客に関する最新の詳細が表示されます。

ワークスペースの転送についての詳細は、「チャットの転送」および Salesforce ヘルプの「Send a Chat Conferencing Request」を参照してください。

複数のエージェントとチャットで会議

特に要望の多かった機能強化の1つが実現されました。単一のチャットに複数のエージェントが参加して、顧客が必要とする解決方法をより速く得られるようにサポートできるようになりました。

エージェントが顧客の問題の解決で何らかのヘルプが必要な場合に、会話の流れを遮ることなく、別のエージェントをチャットに招待できるようになりました。チャットを (顧客の問題を解決できるかどうかかわからない) 別のエージェントに転送するのではなく、エージェントが同じチャットで協力して顧客をより効率的にサポートできます。

スーパーバイザも、通常のチャットを監視する場合と同じように、スーパーバイザパネルでチャット会議を監視して、示唆メッセージを送信できます。

詳細は、Salesforce ヘルプの「チャット会議」を参照してください。

迷惑なチャット訪問者の IP アドレスに基づくブロック

指定した IP アドレスからのチャットをブロックして、エージェントが厄介な顧客を回避できるようにします。

コンソールで作業中に、指定した IP アドレスからのチャット要求をエージェントがブロック可能にすることができます。たとえば、顧客が暴言を吐いたり、スパムメッセージを送ってきたりする場合に、そのユーザが新しいチャットを開始できないようにすることができます。

システム管理者は、[訪問者をブロック] 設定ページで個々の IP アドレスまたは IP 範囲のいずれかをブロックできます。

ブロックされた訪問者には、チャットを使用できないことを示すメッセージが表示されます。

顧客がブロックされた IP アドレスからチャットを要求しようとしても、チャットがキューに追加されないか、エージェントに転送されません。また、ブロックルールを変更または削除することもできます。

チャットのブロックについての詳細は、Salesforce ヘルプの「[Let Your Agents Block Visitors by IP Address](#)」およびSalesforce ヘルプの「[Create an IP Blocking Rule](#)」を参照してください。

Live Agent ブラウザのサポートの更新

Internet Explorer バージョン 7 以前のサポートを終了しました。さらに、IE 8 以前のバージョンを使用するエージェントには一定の制限があります。

Summer '15 以降、エージェントが IE 8 以前のバージョンを使用する場合、Salesforce コンソールの Live Agent 機能がサポートされなくなります。

また、Summer '15 から、IE 6 または IE 7 のお客様対応機能がサポートされなくなり、IE 8 では自動チャット招待のアニメーションがサポートされません。

詳細は、「[サポートされるブラウザ](#)」(ページ 44)を参照してください。

チャット要求がタイムアウトになったときにエージェントの状況を自動的に[退席中]に設定

残念ながら、時としてエージェントが自身の状況を更新し忘れることがあります。エージェントに割り当てられたチャット要求がタイムアウトになったときに、そのエージェントの Live Agent 状況を自動的に[退席中]に設定する新しいオプションが追加されました。このようにして対応不可能なエージェントをキューから外すことで、チャット転送の効率を向上させることができます。

これまでは、エージェントがチャットを拒否した場合にのみ、[拒否の場合は自動的に退席中に変更]機能を使用して、そのエージェントの状況を自動的に[退席中]に設定することができました。[拒否の場合は自動的に退席中に変更]に加えて、[転送のタイムアウト]設定で指定されている時間内にエージェントが要求に応答しない場合にもそのエージェントの状況を[退席中]に設定する機能が追加されました。

このオプションは、プッシュ転送を使用するチャットボタンまたは招待にエージェントが割り当てられている場合にのみ適用されます。組織が[選択]ルーティングを使用してチャットをエージェントに転送している場合は、このオプションを使用できません。

自動的に退席中にする機能は、Live Agent フッターウィジェット経由で転送されるチャットでのみ動作します。新しいオムニチャネルウィジェットではサポートされていません。

転送のタイムアウトについての詳細は、Salesforce ヘルプの「[Live Agent の設定](#)」を参照してください。

顧客が待機中のチャット要求をキャンセルできる新規ボタン

キューで待機中のチャット要求をキャンセルするボタンが新設されました。顧客が[キャンセル]ボタンをクリックするとチャットがただちに終了するため、[次の後に中止]時間の正確度が高まります。

キューで待機中に、顧客が[チャットをキャンセル]をクリックしてチャット要求をキャンセルできるようになりました。チャットをキャンセルすると、Live Agent が次のことを行います。

- キューからチャットを削除します。
- 顧客が[キャンセル]をクリックした場合は、[訪問者によってキャンセルされました]トランスクリプトイベントをログに記録します。
- 顧客がチャットを中止した場合は、[訪問者が退席]トランスクリプトイベントをログに記録します。

- トランスクリプトの[次の後に中止]項目に時間を記録します。

<liveAgent:clientChatCancelButton> Visualforce コンポーネントを使用して、カスタムチャットウィンドウの[チャットをキャンセル]ボタンをカスタマイズすることもできます。

大刷新: Live Agent Edition

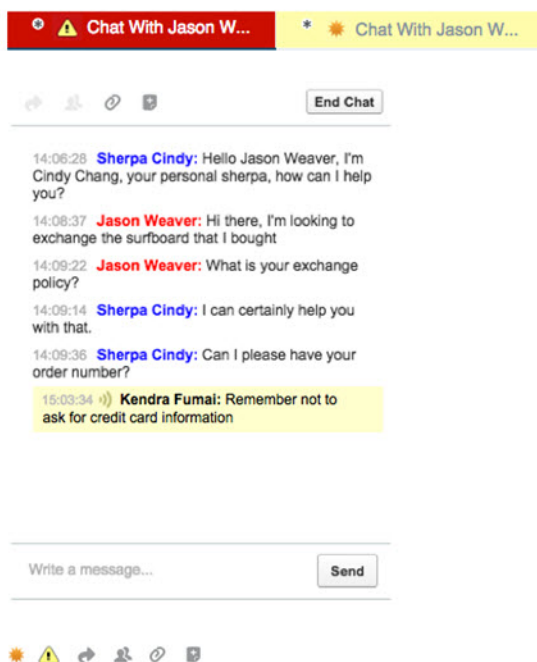
Live Agent が一新されて、チャットが読みやすくなり、アクションをすばやく見つけられるようになりました。

主な変更点は次のとおりです。

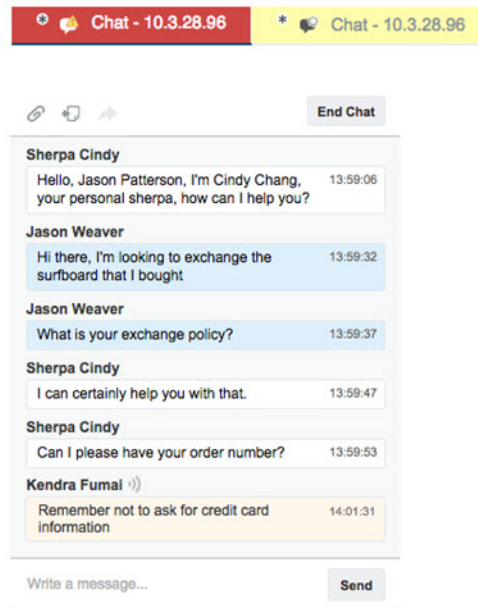
- チャットの各参加者を見分けやすいように、テキストの背景が色分けされました。
- 操作ペインのアクションが、左から使用頻度の高い順に再配置されました。
- チャットタブのアイコンと色が更新されました。
- チャットをすぐ区別できるように、タブのテキストが短縮されました。

(ご心配は不要です。このビジュアルデザインの更新に伴う機能の変更はありません。エージェントのツールはすべて同じように機能します。)

Before



After



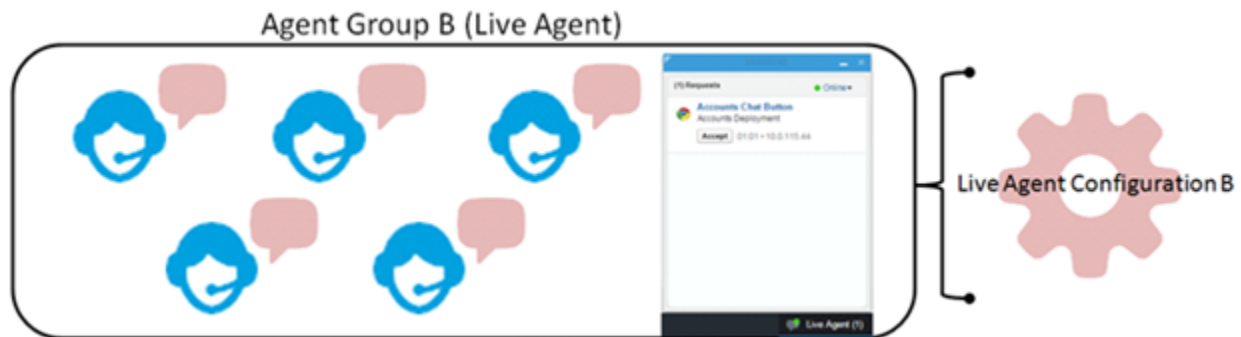
既存の Live Agent 実装でのオムニチャネルの有効化

Live Agent を使用したカスタマーサービスを次のレベルに進めることができます。ここでは、すでに Live Agent チャットを使用して顧客をサポートしている場合に、オムニチャネルで Live Agent によるチャットトラフィックの管理を始める前に知っておく必要がある点について説明します。

Live Agent は、Live Agent ユーザが使用可能な動作と設定を制御する Live Agent 設定に基づいて機能します。同様に、オムニチャネルでは、プレゼンス設定を使用してオムニチャネルユーザが使用可能な動作と設定が制御されます。Live Agent をオムニチャネルと統合できます。統合すると、チャットは他の作業項目と同様に転送され、エージェントはオムニチャネルウィジェットで要求を受け入れるか、拒否することができます。その場合、Live Agent ユーザはオムニチャネルユーザにもなるため、チャットエージェントは Live Agent 設定とプレゼンス設定の両方に関連付けられている必要があります。

オムニチャネルを現在の Live Agent 実装で有効化すると、Salesforce がユーザに代わって一部の面倒な作業を行います。組織の既存の Live Agent 設定ごとに、Salesforce が対応するプレゼンス設定をユーザに代わって作成します。複数の Live Agent 設定がある場合、Salesforce が Live Agent 設定ごとに異なるプレゼンス設定を作成します。

たとえば、すでに Live Agent が有効で、20 人のエージェントがチャットに対応しているとします。これらのエージェントは、Live Agent 設定に割り当てられています。



オムニチャネルを有効化すると、Salesforce が Live Agent 設定に対応する新しいプレゼンス設定をユーザに代わって作成します。Salesforce は自動的に 20 人のチャットエージェント全員を新しいプレゼンス設定に割り当てます。オムニチャネルを有効化してもエージェントのワークフローに中断は生じません。エージェントは、コンソールのオムニチャネルウィジェットを介してすぐにチャットを受け入れ始めることができます。

エディション

オムニチャネルを使用可能なエディション:

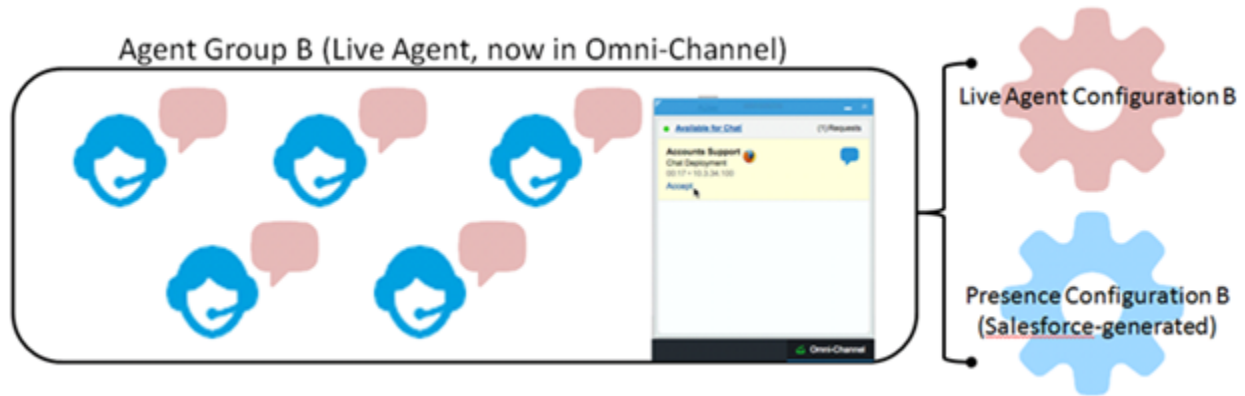
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

エディション

Live Agent を使用可能な組織: 2012 年 6 月 14 日より
も後に作成された

Performance Edition および
Developer Edition の組織

有料オプションで Live Agent を使用可能なエディション: **Enterprise** Edition
および **Unlimited** Edition



Salesforce Console for Service

Salesforce Console for Service は、顧客をサポートするためにレコードの検索、更新、作成をすばやく行う必要のある、変化の速い環境にあるユーザ向けに設計されているアプリケーションです。

このセクションの内容:

コンソールサイドバーへのレポートグラフの追加

Salesforce コンソールへの分析の追加がさらに簡単になりました。

Salesforce コンソール: シンプルなタブ管理

コンソールユーザがタブを簡単に見つけ、アクセスし、更新できるようになりました。

コンソールインテグレーションツールキットの新しい API メソッド

API メソッドにアクセスして、プログラムでコンソールをカスタマイズできます。

強調表示パネルでの納入商品およびサービス契約項目のサポート

これまで、Salesforce コンソールの強調表示パネルに納入商品レコードとサービス契約レコードから項目を表示することはできませんでした。Summer 15 では、納入商品およびサービス契約オブジェクトから項目を強調表示パネルに追加できます。サポートエージェントは、顧客の納入商品とサービス契約に関する情報を強調表示パネルで容易に確認できます。

エディション

使用可能なエディション:

Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition (Service
Cloud 付属)

使用可能なエディション:

Performance Edition および
Developer Edition (Sales
Cloud 付属)

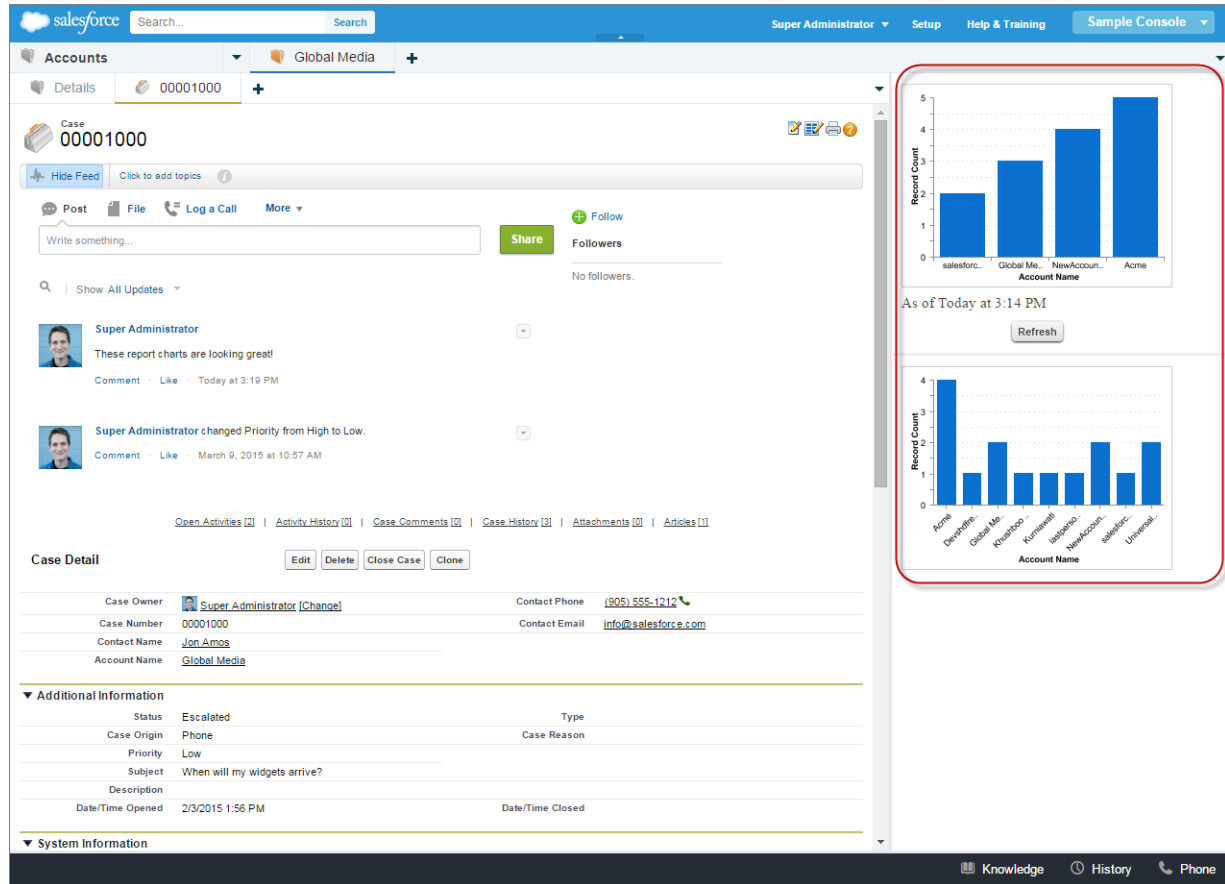
有料オプションで使用可
能なエディション:

Enterprise Edition および
Unlimited Edition (Sales
Cloud の有料オプション)

コンソールサイドバーへのレポートグラフの追加

Salesforce コンソールへの分析の追加がさらに簡単になりました。

数回のクリックで既存のレポートグラフをコンソールコンポーネントに追加できるため、ユーザはクリック操作なしでレコードの横に関連グラフを表示できます。



- ☑ **メモ:** 開発者が Salesforce メタデータ API を使用する場合は、Sandbox と本番インスタンス間の移行には、レポートグラフサイドバーコンポーネントを使用できません。

このセクションの内容:

コンソールコンポーネントへのレポートグラフの追加

レポートグラフを Salesforce コンソールのサイドバーに追加するには、グラフの表示元になるレコードのページレイアウトを編集します。

コンソールコンポーネントへのレポートグラフの追加

レポートグラフを Salesforce コンソールのサイドバーに追加するには、グラフの表示元になるレコードのページレイアウトを編集します。

レポートグラフコンポーネントを追加する前に、ソースレポートが次の条件を満たすことを確認します。

- アクセスする必要があるユーザと共有するフォルダ内にある。
- サマリーレポートまたはマトリックスレポートである。
- グラフが含まれる。
- レポートグラフがページレイアウトに追加されている。Salesforce ヘルプの「ページレイアウトへのレポートグラフの追加」を参照してください。

ユーザ権限

カスタムコンソールコンポーネントを追加する

- 「アプリケーションのカスタマイズ」

1. レポートコンポーネントを追加するオブジェクトのページレイアウトエディタに移動します。
 - 標準オブジェクトの場合、[設定] から [カスタマイズ] > [オブジェクト] > [ページレイアウト] をクリックします。
 - カスタムオブジェクトの場合、[設定] から [作成] > [オブジェクト] をクリックして、オブジェクトを選択します。
2. レイアウトの横にある [編集] をクリックします。
3. [カスタムコンソールコンポーネント] をクリックします。
4. コンポーネントの追加先のサイドバーの横で、コンポーネントを表示および整理する方法を選択します。
Salesforce ヘルプの「コンソールコンポーネントのサイドバーのスタイル」を参照してください。
5. コンソールのサイドバーのサイズを指定します。サイドバーの高さまたは幅が 150 ピクセル未満の場合、レポートグラフは判読しづらくなるため自動的に非表示になります。
6. [種別] の下で、[レポートグラフ] を指定します。
7. ページレイアウトに追加されたレポートグラフを選択します。
ページレイアウトではレポートグラフは2個までに制限されているため、サイドバーには最大2個のレポートグラフを追加できます。サイドバーには最大5つのコンポーネントを追加でき、ページレイアウトには最大8つのコンポーネントを追加できます。コンポーネントとして表示されるレポートグラフをページから隠し、重複する情報が表示されないようにすることもできます。
8. [表示ラベル] の下で、サイドバーからコンソールユーザに表示されるコンポーネント名を入力します。レポートグラフの表示ラベルを入力しない場合は、レポートグラフの名前が使用されます。
9. サイドバーのコンポーネントのサイズを指定するには、高さまたは幅を選択し、そのパーセントまたはピクセル数を入力します。高さまたは幅を指定しない場合、コンポーネントは自動的にコンソールで正しく表示されるサイズに設定されます。
10. [保存] をクリックします。

Salesforce コンソール: シンプルなタブ管理

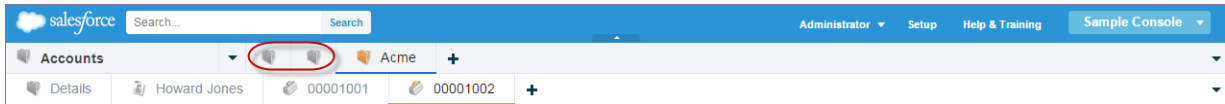
コンソールユーザがタブを簡単に見つけ、アクセスし、更新できるようになりました。

最後に閉じたタブを再開

ユーザが主タブを誤って閉じたときに、ボタンをクリックするか、キーボードショートカットを押してそのタブを再度開くことができるようになりました。タブバーで ▼ をクリックし、[最後に閉じたタブを再開] を選択するか、Shift キーを押しながら C キーを押します。ユーザは 10 個まで閉じたタブを再度開くことができます。

主タブの固定

ユーザが、お気に入りのタブやよく使用するタブをすぐにアクセスできるようにタブバーに固定することが可能になりました。タブの固定は簡単です。タブバーで ▼ をクリックし、タブの横にある ✖ を選択します。タブは、固定されるとタブバーの前面に移動し、テキストは画面領域をより広く確保するために削除されます。

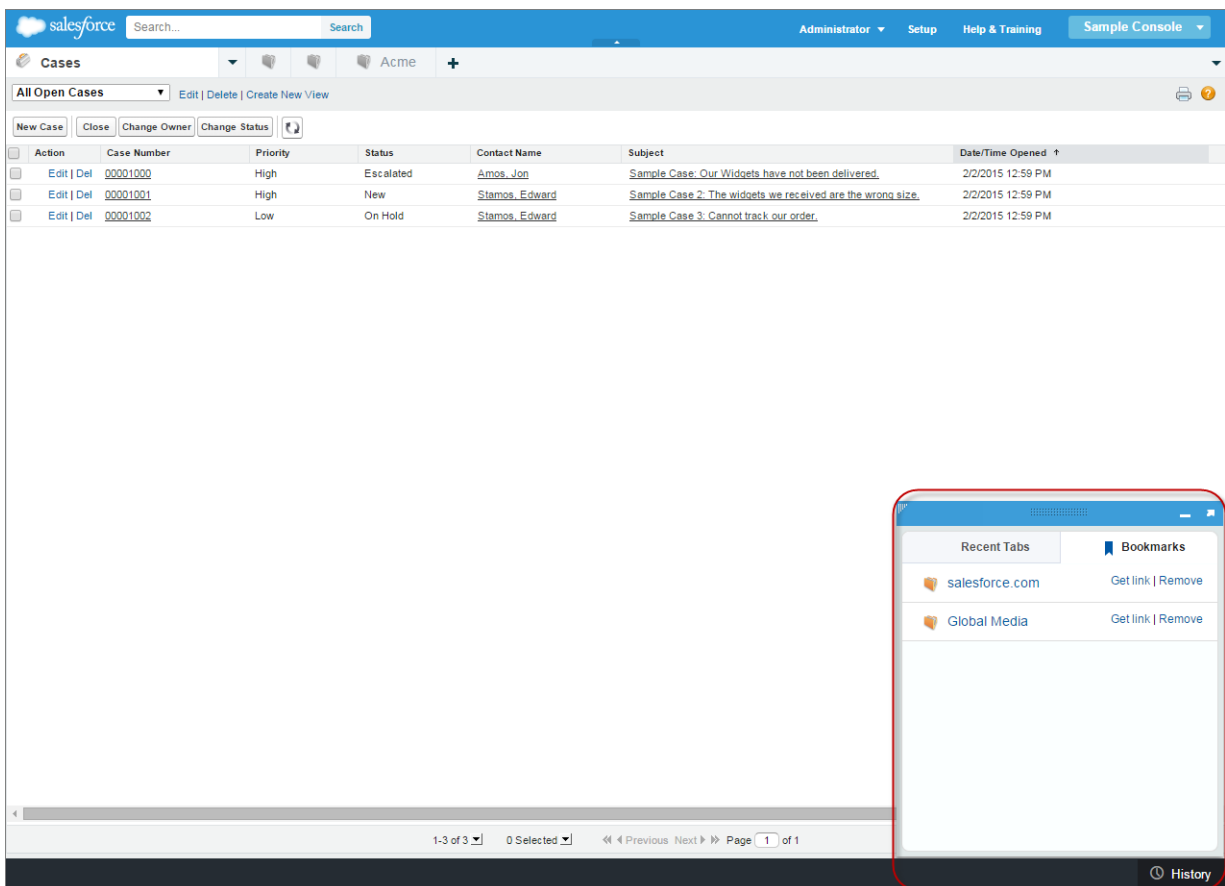


タブの固定解除も簡単です。▼をクリックし、✖を選択します。固定したタブを並び替えるには、タブバーで、最初の固定されていないタブより前の任意の位置にタブをドラッグします。未保存の新規レコードのタブ、または + をクリックして表示される新規タブを固定することはできません。固定したタブは、Internet Explorer® 7 および 8 では使用できません。

ブラウザを閉じるか、Salesforce コンソールからログアウトした後にユーザが固定したタブを保存するには、コンソールごとに「ユーザセッションを保存」をオンにします。Salesforce ヘルプの「Salesforce コンソールのユーザセッションの保存」を参照してください。

主タブのブックマーク

ユーザが、お気に入りのタブや頻繁に使用するタブをすぐにアクセスできるようにブックマークすることが可能になりました。タブのブックマークは簡単です。タブバーで ▼ をクリックし、タブの横にある 📌 を選択します。タブは、ブックマークされるとフッターの [履歴] コンポーネント (旧名称は [最新のタブ]) に移動します。



ブックマークしたタブの削除も簡単です。▼をクリックし、📌を選択するか、[履歴] コンポーネントでタブの横にある [削除] を選択します。さらに、[履歴] コンポーネントで、ユーザは [リンクを取得] をクリッ

くし、ブックマークしたタブの URL を他の Salesforce ユーザと共有できます。ブックマークしたタブは、Internet Explorer® 7 および 8 では使用できません。

[最新のタブ] コンポーネントの [履歴] への名称変更

[最新のタブ] が [履歴] という名前に変更され、ユーザがタブを見つけて取得する操作を効率化できるようにブックマークが追加されました。[履歴] コンポーネントは Internet Explorer® 7 および 8 では使用できませんが、これらのブラウザでは [最新のタブ] を引き続き使用できます。

コンソールインテグレーションツールキットの新しい API メソッド

API メソッドにアクセスして、プログラムでコンソールをカスタマイズできます。

新規および更新されたメソッドは、開発者や上級システム管理者が Live Agent またはコンソールサイドバーコンポーネントをカスタマイズするために役立ちます。詳細は、「[Salesforce コンソール API \(インテグレーションツールキット\)](#)」(ページ 317)を参照してください。

強調表示パネルでの納入商品およびサービス契約項目のサポート

これまで、Salesforce コンソールの強調表示パネルに納入商品レコードとサービス契約レコードから項目を表示することはできませんでした。Summer 15 では、納入商品およびサービス契約オブジェクトから項目を強調表示パネルに追加できます。サポートエージェントは、顧客の納入商品とサービス契約に関する情報を強調表示パネルで容易に確認できます。

エディション

使用可能なエディション:

Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition (Service
Cloud 付属)

使用可能なエディション:

Performance Edition および
Developer Edition (Sales
Cloud 付属)

有料オプションで使用可
能なエディション:

Enterprise Edition および
Unlimited Edition (Sales
Cloud の有料オプション)

サービスコミュニティ

Summer'15 では、コミュニティケースフィードを使用するサポートエージェントに新機能が提供され、セルフサービスコミュニティのエージェントとユーザが、ケースのすべてのやりとり (ケースメールを含む) を統一された Chatter ベースのフィードに包括的に表示できるようになりました。

エディション

使用可能なエディション:

Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

このセクションの内容:

コミュニティケースフィードでのエージェントのオプションの追加 (正式リリース)

Summer'15 では、コミュニティケースフィードでエージェントとコミュニティユーザが開始から完了までのケースのライフサイクルを確認できます。すべてのケースのやりとりは、統合された時系列の Chatter ケースフィードに表示されます。コミュニティユーザはこの Chatter の追加機能を有効活用できる一方で、エージェントはサポート側の新機能によってより効率的な個人サポートを簡単に提供できるようになります。

外部ユーザに対するフィードでのケースメールの表示

コミュニティケースフィードを有効にすると、ケースへのアクセス権を持つ外部ユーザのコミュニティケースフィードにケースメールが表示されます。フィードのケースメールには、メールの作成者、受信者、テキスト、送信時刻が表示されます。

コミュニティケースフィードでのエージェントのオプションの追加 (正式リリース)

Summer '15 では、コミュニティケースフィードでエージェントとコミュニティユーザが開始から完了までのケースのライフサイクルを確認できます。すべてのケースのやりとりは、統合された時系列の Chatter ケースフィードに表示されます。コミュニティユーザはこの Chatter の追加機能を有効活用できる一方で、エージェントはサポート側の新機能によってより効率的な個人サポートを簡単に提供できるようになります。

コミュニティケースフィードは、コミュニティユーザが自分のケースを管理できる、直観的な汎用環境を提供します。ユーザはパブリッシャー (1) を使用して、投稿の作成やケースへのファイルの添付を行います。フィード (2) には、Chatter のコラボレーションツールが完全に装備されています。ユーザは、投稿のブックマーク、いいね!、およびコメントや、他のユーザへのメンションを行うことができます。画像とコメントはインラインで表示されるため、フィードの詳細を簡単に確認できます。[添付ファイル] サイドバー (3) には、すべてのケース添付ファイルが表示されます。

エディション

使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

The new mountaineering system is clearly defective.
Medium • New • 00001255

Write a new post... **1**

Post

pfwhite (Customer)
4h ago

Here is how it broke **2**

Like

NTO Admin — Just Now
Looks like a pretty bad break!
Like

Close Case

CASE DETAILS

Case Owner
NTO Admin User

Case Number
00001255

Contact Name
Pete White
[View All](#)

ATTACHMENTS (2) **3**

climbing

GX10 harness system

コミュニティケースフィードには次のやりとりが表示されます。

- Chatter テキスト、ファイル、およびリンク投稿
- ケースに関連付けられた Chatter の質問
- ケースメール

メモ: 外部で参照可能なケースメールについての詳細は、「[外部ユーザに対するフィードでのケースメールの表示](#)」を参照してください。

Salesforce システム管理者がケースで参照のみのソーシャル投稿を公開している場合は、それらもコミュニティケースフィードに表示されます。

コミュニティケースフィードは、セルフサービスコミュニティテンプレートで構築されたすべてのコミュニティ、および Salesforce タブ + Visualforce テンプレートで構築されたコミュニティで使用できます。Summer '15 リリース以降に作成された新規コミュニティ、および Summer '15 テンプレートにアップグレードされているコミュニティに追加できます。

サポートエージェントの新機能

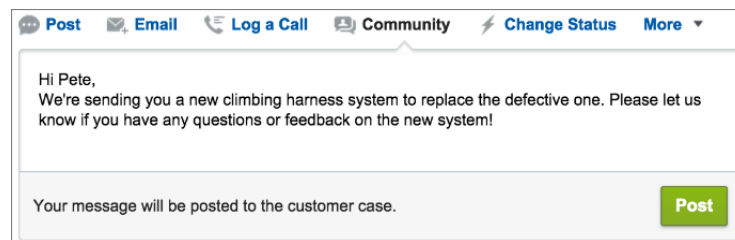
コミュニティケースフィードを使用するサポートエージェントは、コンソールを離れずにケースのやりとりを確認し、顧客や他のエージェントとコラボレーションできます。

コンソール内でのケースまたはコミュニティの質問への投稿

ケースフィードの[コミュニティ]アクションによって、エージェントがケースへの Chatter 投稿、コミュニティの質問への回答、および投稿の表示の調整を簡単に行うことができます。

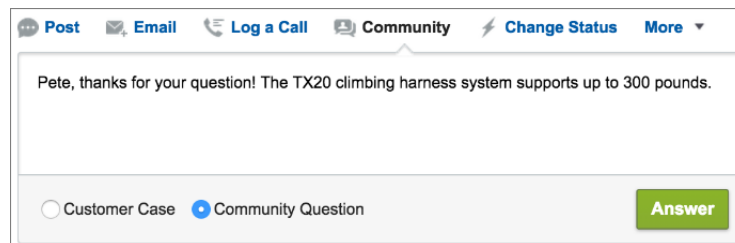
 **メモ:** Summer '15 より前のリリースでは、エージェントは[コミュニティ]アクションを使用してケースコメントを作成し、[顧客]または[全員]を選択してコメントを参照可能なユーザを指定していました。

[コミュニティ]アクションでケースに投稿すると、そのケースにアクセスできるすべての内部ユーザと外部ユーザに投稿が表示されます。



ケースがコミュニティの質問から作成されている場合は、[コミュニティ]アクションに2つのオプションが表示されます。

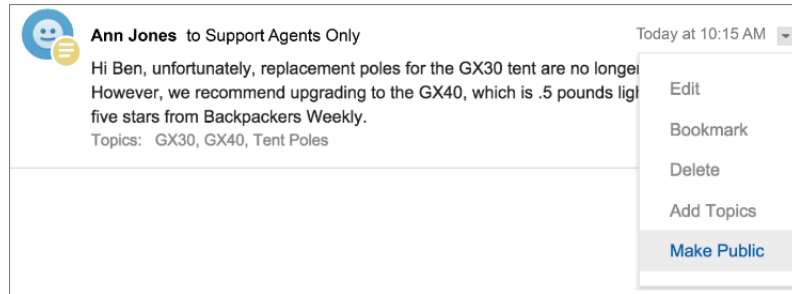
- [顧客ケース]を選択すると、そのケースにアクセスできるすべての内部ユーザと外部ユーザに投稿が表示されます。
- [コミュニティの質問]を選択すると、コミュニティユーザの質問に対する公開回答を投稿できます。



 **メモ:** 引き続きコンソールで[投稿]、[ファイル]、および[リンク]アクションを使用して、外部ユーザとケースに関するやりとりを行うことができます。この場合は必ず利用者ドロップダウンメニューで[アクセス権があるすべてのユーザ]を選択してください。

公開ケース投稿の表示の編集

必要に応じて、エージェントはケースでの公開テキスト、リンク、またはファイル投稿の外部表示を変更できます。このオプションは、コンパクトケースフィードが有効になっている場合にのみ使用できます。



コンパクトケースフィードの投稿のドロップダウンメニューでは、エージェントが[公開]を選択し、ケースにアクセスできる外部ユーザに内部投稿を表示できます。反対に、[非公開]を選択すると、投稿は内部ユーザのみに表示されます。投稿を非公開にすると、顧客のケースフィードに投稿が表示されなくなります。ただし、最初に投稿されたときに、顧客にメールで通知されている場合があります。

エージェントがケースへの Chatter 投稿を編集するには、「自分の投稿を編集」および「自分の所有レコードへの投稿を編集」ユーザ権限が必要です。

このセクションの内容:

コミュニティケースフィードの設定

コミュニティでコミュニティケースフィードを設定するには、Salesforce で機能を有効にし、Site.com Studio でケースページに 2 つの標準コンポーネントを追加します。

コミュニティケースフィードの設定

コミュニティでコミュニティケースフィードを設定するには、Salesforce で機能を有効にし、Site.com Studio でケースページに 2 つの標準コンポーネントを追加します。

- ☑ **メモ:** 新規コミュニティと既存のコミュニティの両方でこの手順を実行する必要があります。

1. コミュニティケースフィードを有効にします。
 - a. Salesforce の [設定] から、[カスタマイズ] > [ケース] > [サポート設定] を選択します。
 - b. [編集] をクリックします。
 - c. [コミュニティケースフィードを有効化] を選択します。
 - d. 必要に応じて、[ケース投稿のメール通知を有効化] を選択します (推奨)。
コミュニティケースフィードが有効な場合に表示されるこの設定は、誰かがケースで外部参照可能な投稿を行ったときにケース取引先責任者にメールで通知します。ユーザは、メールに返信することで投稿にコメントできます。Napili テンプレートで構築されたコミュニティのユーザは、メール通知設定でこれらの通知を無効にできます。

- ☑ **メモ:** ワークフローでトリガされる通知などのカスタムメール通知設定をすでに使用している場合は、この設定を選択するとメール通知が重複する可能性があります。

ユーザ権限

コミュニティケースフィードを有効にする

- 「アプリケーションのカスタマイズ」

Site.com サイトを構築、編集、および管理する

- [Site.com Publisher ユーザ] 項目をユーザ詳細ページで有効化
- サイトレベルで割り当てられたサイト管理者またはデザイナーロール

e. [保存] をクリックします。

2. ケースページに新しいコンポーネントを追加します。

コミュニティケースフィードには、ユーザがケースへの Chatter 投稿を参照および作成できる 2 つの新しいコンポーネントがあります。Site.com Studio でコミュニティのケースページにコンポーネントを追加します。

- [ケース Chatter パブリッシャー] コンポーネントでは、ユーザがコミュニティケースフィードの Chatter 投稿を作成できます。これは [ケースパブリッシャー] コンポーネントに代わるコンポーネントです。
- [ケースフィード] コンポーネントは、ケースの Chatter 投稿とメールを顧客に表示するようにします。これは [ケースコメント] コンポーネントに代わるコンポーネントです。

コンポーネントの切り替えの手順とベストプラクティスは、Salesforce ヘルプの「コミュニティケースフィードの設定」を参照してください。

外部ユーザに対するフィードでのケースメールの表示

コミュニティケースフィードを有効にすると、ケースへのアクセス権を持つ外部ユーザのコミュニティケースフィードにケースメールが表示されます。フィードのケースメールには、メールの作成者、受信者、テキスト、送信時刻が表示されます。

ケースの連絡先がメールの作成者または受信者である場合、外部ユーザを含め、ケースに関連付けられたすべてのユーザのケースフィードにメールが表示されます。ただし、エージェント間のメールは外部ユーザには表示されません。

 **メモ:** 外部ユーザがケースを表示するには、外部ユーザのプロファイルにコミュニティ内のケースへのアクセス権が含まれている必要があります。

たとえば、外部ユーザである Rita が、コミュニティで質問を投稿するとします。質問は未解決のままになり、コミュニティモデレータは、[質問-to-ケース] アクションを使用して質問からケースを作成します。ケースに割り当てられたサポートエージェントがメールパブリッシャーから Rita にメールを送信すると、Rita およびケースへのアクセス権を持つ他のすべてのユーザのケースフィードにメールが表示されます。アクセス権を持つユーザには、割り当て済みのサポートエージェント、ケースの連絡先、およびパートナーが含まれます。

コミュニティケースフィードを有効化したかどうかに関係なく、ケースへのアクセス権を持つ外部ユーザに対してケースメールの表示を設定する Apex トリガを作成できます。EmailMessage オブジェクトの `IsExternallyVisible` 項目により、メールメッセージの表示が制御されます。項目が `true` (デフォルト値) に設定されていると、メールメッセージが外部ユーザに表示されます。ケースメールを外部ユーザに対して非表示にするには、メールメッセージの作成時に `IsExternallyVisible` 項目を `false` に設定するトリガを作成します。

エディション

使用可能なエディション:

Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

ソーシャルカスタマーサービス

ソーシャルカスタマーサービスは、Social Studio (Radian6) と Salesforce Service Cloud 間の次世代のインテグレーションです。カスタマーサービスエージェントは、Twitter および Facebook から作成されたケースに対応することで、顧客との関係を構築できます。Salesforce システム管理者は、Apex クラスを使用して受信ソーシャルコンテンツの処理方法をカスタマイズすることや、組織内のどのユーザがソーシャル取引先を使用して応答する権限を持つようにするかを設定することができます。

エディション

ソーシャルカスタマーサービスを使用可能なエディション: **Enterprise Edition**、**Performance Edition**、および **Unlimited Edition**

このセクションの内容:

基本的なビジネスルール

時間のかかるコード変更を行わずに、ソーシャルカスタマーサービスの Apex クラスを設定インターフェース内でカスタマイズします。

Twitter ダイレクトメッセージ環境の改善

エージェントが Twitter での会話を公開から非公開に切り替えたときに、適切な情報を取得できるようになりました。

Starter Pack でのケースの作成オプション

Starter Pack を使用している場合、それぞれの受信ソーシャル投稿でどのソーシャルアカウントがケースを作成するかを制御できるようになりました。

追加のソーシャル投稿項目

Starter Pack ではなく、フルバージョンのソーシャルカスタマーサービスを使用し、Social Studio (Radian6) ソーシャルハブで分類子を使用している場合は、ソーシャル投稿オブジェクトで、[アナライズスコア]、[言語]、[分類]、[契約レベル] という 4 つの追加項目を使用できます。

Google+ および Sina Weibo での発信投稿の削除 (パイロット)

エージェントは、Google+ および Sina Weibo で発信コメントを削除できるようになりました。

受信投稿エラーの削除

エラー投稿を削除およびクリアして、ソーシャルハブルールで引き続き他の受信投稿を処理できるようになりました。

受信処理の改善

エラーが発生した受信投稿が自動的に 1 回だけ再試行され、子投稿の処理時に親投稿が存在することが Salesforce で確認されてから、子投稿がレコードとして書き込まれるようになりました。

ソーシャルカスタマーサービスのその他の変更

ソーシャルカスタマーサービスユーザに影響するその他の変更を確認します。

基本的なビジネスルール

時間のかかるコード変更を行わずに、ソーシャルカスタマーサービスの Apex クラスを設定インターフェース内でカスタマイズします。

システム管理者は、ソーシャルカスタマーサービスの [受信設定] タブで、受信ソーシャルデータの処理方法に関するビジネスルールを選択できます。

SETTINGS SOCIAL ACCOUNTS **INBOUND SETTINGS** ERROR LOG

Inbound Settings Save Cancel Default Apex Reference (?)

Salesforce.com provides a default Apex class to process your inbound social content, including: creating social posts and personas, cases, and contacts. To learn more, see the Social Customer Service Implementation Guide and the Force.com Apex Code Developer's Guide.

Optionally, create an Apex class that implements the `SocialPost.InboundSocialPostHandler` interface, before editing your inbound settings.

```
global class myHandler implements Social.InboundSocialPostHandler {
    global Social.InboundSocialPostResult handleInboundSocialPost(SocialPost post, SocialPersona author,
        Map<String, Object> data) {
        Social.InboundSocialPostResult result = new Social.InboundSocialPostResult();
        return result;
    }
}
```

Apex Class ! = Required Information

Apex Class: Default

Run Apex as User: Admin User

Inbound Business Rules

Enable Case Reopen ☒ Reopen Cases within 20 Day(s)

Use Person Accounts ☒ Person Account record type: new record type

Create Case for Post Tags ☒

Available Post Tags: iPhone 4

Selected Post Tags: Latest release

Add Remove

メモ: カスタム Apex クラスを使用している場合は、受信ビジネスルールを使用できません。

ケースの再オープンの有効化

同じソーシャル人格からの新規投稿がクローズケースに関連付けられている場合、指定日数以内にケースが再オープンされます。日数は1日以上3,000日以下で指定する必要があります。

個人取引先の使用

ソーシャル人格の親レコードに選択された種別の個人取引先を割り当てます。

投稿タグのケースの作成

選択された投稿タグがソーシャル投稿に存在する場合に、ソーシャルハブのケースの作成ルールを上書きし、ケースを作成します。投稿タグは、「この投稿のトピックは?」という質問に回答するために使用されます。SocialStudio(Radian6)ソーシャルハブで設定される投稿タグは、個々の投稿の内容に関するコンテキストをより多く提供するのに役立ちます。

Twitter ダイレクトメッセージ環境の改善

エージェントがTwitterでの会話を公開から非公開に切り替えたときに、適切な情報を取得できるようになりました。

ダイレクトメッセージは、非公開の情報をソーシャルネットワーク上の顧客と交換するためのベストプラクティスです。エージェントは、Twitterでの会話を公開から非公開に簡単に切り替えることができるため、生産性が高まってエラーが減少し、顧客との会話がより円滑になり、サービス環境が向上します。

Twitter では、エージェントと顧客が互いにフォローしている必要があります。新しいソーシャルアクションでは、片方または両方が相手をフォローする必要があるかどうかのエージェントに示されます。これは、エージェントがフォローしたり、フォローされることを依頼したりするのに役立つため、ダイレクトメッセージがさらに効率的になります。

Starter Pack でのケースの作成オプション

Starter Pack を使用している場合、それぞれの受信ソーシャル投稿でどのソーシャルアカウントがケースを作成するかを制御できるようになりました。

すべての投稿にケースが必要なわけではありません。たとえば、称賛のツイートや投稿にエージェントのサポートは必要ありません。フルバージョンのソーシャルカスタマーサービスでは、システム管理者は Social Studio (Radian6) ソーシャルハブでどの投稿がケースを作成するかを制御できます。Starter Pack のシステム管理者は、特定のソーシャルアカウントから投稿が行われたときにケースを自動的に作成するかどうかを決定できるようになりました。

SETTINGS	SOCIAL ACCOUNTS	INBOUND SETTINGS	ERROR LOG
Manage Social Accounts ⌕ Add Account			
Account	Status	Case Creation	Remove
 Agent @scsauto_agent	Active	☒	Remove
 Best Tech Electronic @BestTechCompany	Active	☐	Remove

たとえば、2つの Twitter ハンドル (1つはサポート用、もう1つはマーケティングまたはブランドに焦点を絞った情報用) がある場合、サポートハンドルからのみケースを自動的に作成することができます。マーケティングハンドルのツイートは、確認のためソーシャル投稿キューに入ります。Salesforceヘルプの「ソーシャル投稿の管理」を参照してください。

追加のソーシャル投稿項目

Starter Pack ではなく、フルバージョンのソーシャルカスタマーサービスを使用し、Social Studio (Radian6) ソーシャルハブで分類子を使用している場合は、ソーシャル投稿オブジェクトで、[アナライズスコア]、[言語]、[分類]、[契約レベル] という4つの追加項目を使用できます。

Social Post Detail		Edit	Delete	Clone	Ignore
▼ Information					
Name	TWEET FROM: ScsCustomerOne				
Posted Date	10/27/2014 9:23 PM				
Content	Can you help me with my issue? @DaScsAgent				
Parent	00001031				
In Reply To					
Reviewed Status					
External Post Id	526952259712581633				
Analyzer Score	5.600				
Language	English				
Classification	Product Review				
Engagement Level	Commented				

アナライザスコア

[アナライザスコア]を使用して、ソーシャル投稿の関連性および重要性にスコアを付けることができます。フォロワー数、強い語法、ライブラリ、近似性など、ソーシャルハブで使用できるすべての条件を使用して、独自のカスタム関連性システムを設定できます。次に、各条件を定義および重み付けし、投稿に関連付けるスコアに加減します。Salesforce では、エージェントはこのスコアに基づいてルーティングや優先度の決定を行います。

言語

[言語]で、ソーシャル投稿に使用する言語を特定します。

分類

[分類]は、「投稿の理由は?」という質問に回答したり、投稿をテーマに分割したりするのに役立ちます。

契約レベル

[契約レベル]には、送信時における投稿のワークフロー状況が反映されます。

エージェントはこれらの項目を使用して、ソーシャル投稿やケースを正しいチームに転送するために必要な情報を得ることができます。また、Apex クラスをカスタマイズして、ケースを適切に割り当てることもできます。

Google+ および Sina Weibo での発信投稿の削除 (パイロット)

エージェントは、Google+ および Sina Weibo で発信コメントを削除できるようになりました。

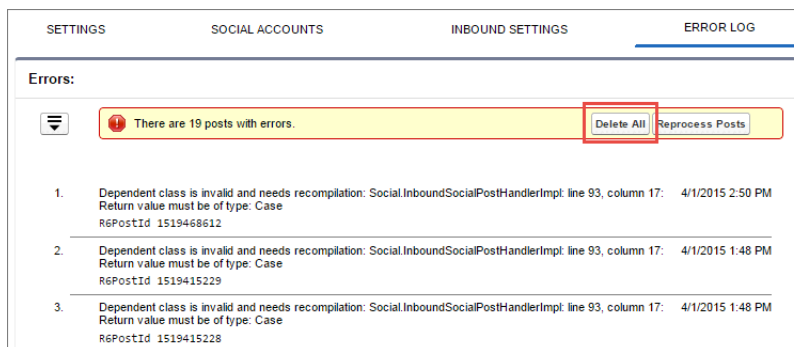
 **メモ:** ソーシャルカスタマーサービスの Google+ および Sina Weibo は現在、パイロットプログラムを通じて一部のお客様が使用できます。このパイロットプログラムに参加する方法については、Salesforce にお問い合わせください。パイロットプログラムへの参加には、追加の契約条件が適用される場合があります。パイロットプログラムは変更される可能性があるため、このパイロットプログラムへの参加や、特定の期間にこの機能を有効化することは保証できません。このドキュメント、プレスリリース、または公式声明で参照されている未リリースのサービスまたは機能は、現在利用できず、提供が遅れたり中止されたりする可能性があります。サービスのご購入をご検討中のお客様は、現在利用可能な機能に基づいて購入をご決定ください。

エージェントは、誤りまたは不適切な言葉を含む Google+ のコメントや Sina Weibo の返信およびコメントの削除を許可することにより、ブランドメッセージおよびブランド画像を保護することができます。



受信投稿エラーの削除

エラー投稿を削除およびクリアして、ソーシャルハブルールで引き続き他の受信投稿を処理できるようになりました。



[エラーログ] タブの [ソーシャルカスタマーサービスの設定] で [すべてを削除] をクリックすると、エラーログをクリアし、今後の投稿処理を続行できます。

受信処理の改善

エラーが発生した受信投稿が自動的に1回だけ再試行され、子投稿の処理時に親投稿が存在することがSalesforceで確認されてから、子投稿がレコードとして書き込まれるようになりました。

これらの改善により、エラー状態や介入を必要とする投稿順序に関する紛らわしい問題が減少するため、時間が節約され、ソーシャルカスタマーサービスのパフォーマンスが向上します。

ソーシャルカスタマーサービスのその他の変更

ソーシャルカスタマーサービスユーザに影響するその他の変更を確認します。

コミュニティの外部ユーザによるソーシャル投稿の参照

システム管理者は、外部コミュニティユーザとポータルユーザにソーシャル投稿の参照アクセス権を付与できるようになり、その顧客は自分のケースの完全な履歴をコミュニティで直接確認できるようになりました。コミュニティおよびポータルでソーシャル投稿を使用可能にするには、次の3つの要件があります。

1. ユーザがコミュニティでケースにアクセスできることを確認します。
2. ユーザのプロファイルでソーシャル投稿への参照権限を付与します。

3. 組織のソーシャル投稿オブジェクトで、項目レベルセキュリティ設定を使用して個々のユーザへの表示を有効にします。

 **メモ:** 以上の要件が満たされると、外部ユーザに公開されたすべてのソーシャル投稿を表示できます。たとえば、ケースまたはリードフィードが外部に公開された場合、フィードのすべてのソーシャル投稿が表示されます。現在、ソーシャル投稿オブジェクトレベルで表示を制限する方法はありません。

ソーシャル人格オブジェクトの新規項目

新しく作成されたソーシャル人格には、人格を作成したソーシャルネットワークを示す新しい項目があります。この項目は、作成時に設定され、更新することはできません。Summer '15 より前に作成されたソーシャル人格には、この項目はありません。

 **メモ:** 組織でカスタム Apex を使用する場合は、この項目を使用するように更新する必要があります。Summer '15 リリースより前に作成されたソーシャル人格には、この項目がないことに注意してください。

納入商品

納入商品オブジェクトで、顧客が所有する商品を追跡します。納入商品には、自社や競合他社の商品などがあります。

このセクションの内容:

納入商品で可能になった大規模共有

これまで、大規模カスタマーポータルユーザおよびコミュニティユーザによる共有は、納入商品レコードではサポートされていませんでした。共有セットを使用して大規模ポータルユーザおよびコミュニティユーザに納入商品レコードを割り当てることができるようになりました。

納入商品で可能になった大規模共有

これまで、大規模カスタマーポータルユーザおよびコミュニティユーザによる共有は、納入商品レコードではサポートされていませんでした。共有セットを使用して大規模ポータルユーザおよびコミュニティユーザに納入商品レコードを割り当てることができるようになりました。

「大規模ポータルまたはコミュニティユーザへのユーザレコードアクセス権の付与」を参照してください。

エディション

納入商品を使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

エディション

使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

組織同期

組織同期により、プライマリ組織がメンテナンス中にユーザがアクセスできる、同期済みのセカンダリ Salesforce 組織を設定できます。Summer'15 では組織同期が改善され、自動公開項目、メタデータを同期するオプション、組織の同期ログのレポートおよびトリガの作成機能、新しい動画「How Organization Sync Works」(組織同期の仕組み) が追加されました。

このセクションの内容:

組織同期でのメタデータのサポート

組織同期でデータを同期された状態のままにするには、Salesforce のプライマリ組織とセカンダリ組織でメタデータが一致している必要があります。組織間で特定の種類のメタデータの変更を毎日同期できるようになりました。

組織同期の機能強化

組織同期機能が拡張され、一部の新規ユーザサポート、自動公開項目、ユーザの自動同期、組織の同期ログのレポートおよびトリガの作成機能が追加されました。

組織同期でのメタデータのサポート

組織同期でデータを同期された状態のままにするには、Salesforce のプライマリ組織とセカンダリ組織でメタデータが一致している必要があります。組織間で特定の種類のメタデータの変更を毎日同期できるようになりました。

次の種類のメタデータの挿入および更新は、一方向(プライマリ組織からセカンダリ組織)で毎日同期されます。

- Apex クラス、コンポーネント、ページ
- カスタム項目
- カスタムオブジェクト
- 外部オブジェクト
- レイアウト
- 権限セット
- レコードタイプ
- ロール
- ユーザプロファイル

サポート対象のメタデータでの次のアクションは同期されず、両方の組織で操作を繰り返す必要があります。

- セカンダリ組織でのメタデータの作成または更新
- いずれかの組織でのメタデータの削除

たとえば、プライマリ組織のユーザが権限セットを作成または更新すると、その変更が 24 時間以内にセカンダリ組織に適用されます。ただし、セカンダリ組織で権限セットを更新しても、更新内容はプライマリ組織に反映されず、次の同期でセカンダリ組織での更新が上書きされます。

エディション

組織同期を使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

エディション

組織同期を使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

複製接続の設定時に[メタデータを同期]オプションを選択することで、顧客はメタデータの同期を選択できます。既存の複製接続がある顧客の場合、このオプションは[接続の詳細]ページに表示されます。メタデータの同期のベストプラクティスについては、Salesforce ヘルプの「メタデータの複製」を参照してください。

組織同期の機能強化

組織同期機能が拡張され、一部の新規ユーザサポート、自動公開項目、ユーザの自動同期、組織の同期ログのレポートおよびトリガの作成機能が追加されました。

楽しく学習

- 組織同期についての詳細は、この短い動画を見てください。
- 組織同期を初めて使用するシステム管理者の場合は、Salesforce で[接続]タブを追加し複製接続を設定した後で、接続詳細ページでこの対話型のツアーを開始し、機能を最大限に活用する方法について学習してください。

 **順を追った説明: 接続詳細ページの探索。**

エディション

組織同期を使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

自動公開項目

複製接続のリンクされた組織にオブジェクトを公開すると、そのオブジェクトの項目が自動的に公開されます。どの項目を公開するかは、接続詳細ページで引き続き編集できます。この変更により、クリックする時間を節約できます。次の項目種別はサポートされません。

- リッチテキストエリア (RTA) 項目
- 数式項目
- 積み上げ集計項目
- 未公開オブジェクトを参照する項目

 **メモ:** この変更は、Salesforce to Salesforce 標準接続には適用されません。

ユーザの自動同期

組織同期でユーザが自動的に同期されるようになりました。複製接続を作成すると、標準ユーザライセンスを持つすべてのユーザがただちにセカンダリ組織にコピーされます。ユーザが作成、更新、無効化されると、その変更が両方の組織に自動的に適用されます。

 **メモ:** 組織同期でメタデータの同期を選択しない場合は、接続詳細ページ上部の[一括同期ユーザ]をクリックして、ユーザをセカンダリ組織に追加します。

組織の同期ログのトリガおよびレポートの作成

組織の同期ログには、同期に失敗したデータとメタデータが表示されます。ログエントリについて通知するため、ログの Apex トリガを作成できます。次に例を示します。

- 過去 24 時間に 10 件を超える新しいエントリがログに表示された場合に、システム管理者にメールを送信するトリガを作成する。
- アカウントのログにエントリが表示された場合に、アカウントに「要レビュー」フラグを設定するワークフロールールをトリガする。

組織の同期ログのトリガを作成するには、[設定] から [Salesforce to Salesforce] > [組織の同期ログ] > [トリガ] を選択します。

また、組織同期環境の健全度を監視するため、カスタムレポートタイプを作成することもできます。組織同期でサポートされるオブジェクト (取引先や取引先責任者など) に対して、組織の同期ログオブジェクトを主オブジェクトまたは第 2 オブジェクトとして使用します。次に例を示します。

- 先月のケースに関連するレコードのすべてのログエントリを表示するカスタムレポートをケースオブジェクトで作成する。
- 次の内容を表示するレポートでダッシュボードを作成する。
 - 過去 24 時間のログエントリ数
 - 項目種別ごとのログエントリ数

 **メモ:** ログには進行中の同期の失敗が表示されるため、作業している組織によっては同じレポートに異なる結果が表示されます。

コードを使用した Service Cloud の実装の向上: *Service Cloud Cookbook* の概要

Service Cloud の実装をさらに発展させることを求める開発者や、簡単なコードを使用して Service Cloud の実装を向上しようとする経験のあるシステム管理者の場合、組織に追加できる単純で影響力の強いコードサンプルのコレクションである新しい *Service Cloud Cookbook* を参照してください。

ケースの整理方法の向上、Salesforce コンソールへのカスタマイズの追加、Live Agent チャットウィンドウのパーソナライズを行う場合、*Service Cloud Cookbook* にはこのような問題の解決やその他の多くの処理を行うためにすぐに使用できるコードサンプルが含まれています。

Service Cloud Cookbook のコードが、カスタマーサービスをさらに発展させるのにどのように役立つかを確認してください。

Chatter: レポート作成、質問-to-ケース、グループ内のレコード

Summer '15 では、組織の Chatter 活動に関するレポート作成、グループへのレコード追加、Chatter の質問からのケースの作成が可能になりました。ファイル、フィード、およびリストに記載しないグループ機能にもいくつかの改善が加えられました。

このセクションの内容:

フィード

Chatter フィードで、ユーザによる投稿とコメントの編集、およびレコードフィードのレポートが可能になりました。

ファイル

Summer '15 の Salesforce Files を使用すると、Salesforce 内の任意のファイルの共有および同期、さまざまな制限の引き上げ、フォルダのサポート、外部ファイルおよびデータソースとのより緊密な統合が可能になります。

グループ

Chatter グループでは、リストに記載しないグループのセキュリティ、グループで許可されるカスタムオブジェクトレコードの制御、情報共有機能、およびいくつかのグループメールの書式設定が強化されています。

メール通知

統合ユーザダイジェストベータに参加して、改良された、モバイルで使いやすいメールダイジェストを受信できます。

Chatter のその他の変更

Chatter のユーザエクスペリエンスを向上させる小規模な変更がありました。

関連トピック:

[Chatter 機能の使用可能になる方法と状況](#)

フィード

Chatter フィードで、ユーザによる投稿とコメントの編集、およびレコードフィードのレポートが可能になりました。

このセクションの内容:

フィードの投稿とコメントの編集

フィード投稿編集を使用して、フィード投稿を正確で最新の状態にすることができます。

Chatter ダッシュボードパッケージのレコードフィードのレポート

更新された Salesforce Chatter ダッシュボードパッケージが、Summer '15 リリースの直後に AppExchange で入手できるようになります。

エディション

使用可能なエディション:

Group Edition、
Professional Edition、
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、**Contact**
Manager Edition、および
Developer Edition

フィードの投稿とコメントの編集

フィード投稿編集を使用して、フィード投稿を正確で最新の状態にすることができます。

ユーザが自分のフィード投稿を編集できるようになりました。レコード所有者は、所有するレコードへの投稿を、投稿の作成者に関係なく編集できます。システム管理者は、投稿を編集し、特定の個人に編集権限を付与できます。[Chatter 設定] に 2 つのプロファイル権限と 1 つのオプションが追加され、システム管理者が、投稿とコメントを編集できるユーザを制御できるようになりました。

組織でフィード投稿の編集機能を有効化または無効化するには、[Chatter 設定] の [ユーザに投稿とコメントの編集を許可] オプションを使用します。このオプションは、デフォルトで有効になっています。標準プロファイルに割り当てられたユーザはすべて、自分の投稿とコメントをすぐに編集できます。ただし、Chatter Free ユーザ、Chatter 外部ユーザ、カスタマーポータルユーザは除きます。カスタムプロファイルが割り当てられているユーザの場合は、カスタムプロファイルまたは権限セットで権限を有効化します。

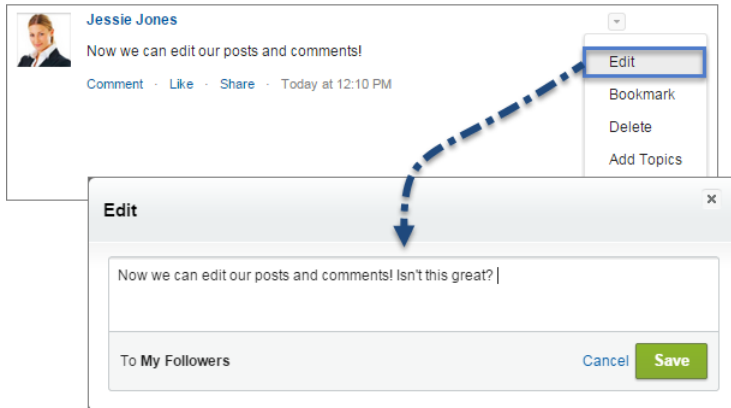
「自分の投稿を編集」権限があるユーザは、自分の投稿を編集できます。この権限は、標準プロファイルでは有効化されています。ただし、Chatter 外部ユーザ、Chatter Free ユーザ、およびカスタマーポータルユーザのプロファイルは除きます。

「自分の所有レコードへの投稿を編集」権限があるユーザは、所有するレコードへの投稿とコメントを編集できます。これには、他のユーザによる投稿とコメントも含まれます。たとえば、グループ所有者またはマネージャはグループのフィードへのすべての投稿を編集できます。特定のレコードタイプのマネージャはそのレコードへのすべての投稿を編集できます。この権限は標準プロファイルとカスタムプロファイルで使用できますが、デフォルトでは無効化されています。

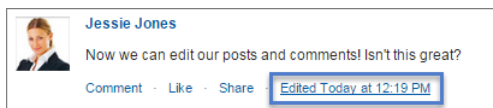
次の表には、ユーザ権限とそのデフォルト設定がまとめられています。

ユーザ権限	説明	使用可能なエディション	デフォルト設定
自分の投稿を編集	ユーザが自分の投稿を編集できます。	標準プロファイル (以下を除く)	このリリースではすべての新規または既存の組織で有効化されています。
		• Chatter 外部ユーザ • Chatter Free ユーザ • 大規模カスタマーポータル ユーザ • パートナーコミュニティユーザプロファイル	
		カスタムプロファイル	すべての新規および既存の組織で無効化されています。
自分の所有レコードへの投稿を編集	レコード所有者が自分の投稿と、グループおよびレコードの詳細ページで他のユーザが行った投稿を編集できます。	カスタムプロファイル	すべての新規および既存の組織で無効化されています。ただし、Chatter モデレータ、コミュニティモデレータ、「すべてのデータの編集」権限を持つユーザは、常にすべての投稿とコメントを編集できます。

[Chatter 設定] の [ユーザに投稿とコメントの編集を許可] オプションは、デフォルトで有効になっています。必要なユーザプロファイル権限を持つユーザの場合、[編集] オプションを投稿、コメント、質問、回答のドロップダウンメニューから選択できます。選択すると別の [編集] ウィンドウが開き、そこでユーザがテキストを変更できます。



ユーザが投稿の編集済みバージョンを保存すると、[編集済み]タイムスタンプが表示されて、元の投稿が変更されたことを示します。



ユーザが投稿またはコメントを編集して新しい人またはグループにメンションした場合、それらの人とグループにメール通知が送信されます。元の投稿またはコメントでメンションされていた人とグループには、新しいメール通知は送信されません。編集済み投稿またはコメントのメール通知には、[編集済み]タイムスタンプが表示されます。

コミュニティユーザの場合、フィード投稿編集は、コミュニティが Salesforce タブと Visualforce または Napili テンプレートで作成された場合にのみ使用できます。[編集]オプションは、フィードで追跡されるレコードの更新など、システムで生成された投稿には使用できません。

[Chatter REST API](#) および [Chatter in Apex](#) でもフィード投稿編集がサポートされます。

ユーザプロフィールまたは権限セットのフィード投稿編集の有効化

デフォルトでは、フィード投稿編集はすべてのカスタムプロフィールで無効になっています。カスタムプロフィールまたは権限セットで権限を有効化します。

権限セットの権限を有効化する手順は、次のとおりです。

1. [設定] で、[ユーザの管理] > [権限セット] をクリックします。
2. 既存の権限セットをクリックするか、権限セットを作成します。
3. [システム権限] セクションで、[編集] をクリックします。
4. 有効にするフィード投稿編集権限を選択します。
 - この権限セットに割り当てられているユーザに各自の投稿とコメントの編集を許可するには、[自分の投稿を編集] を選択します。
 - この権限セットに割り当てられているユーザに各自が所有するレコードへの投稿とコメント (他のユーザによる投稿とコメントを含む) の編集を許可するには、[自分の所有レコードへの投稿を編集] を選択します。

ユーザ権限

権限セットを作成および編集する

- 「プロフィールと権限セットの管理」

権限セットを割り当てる

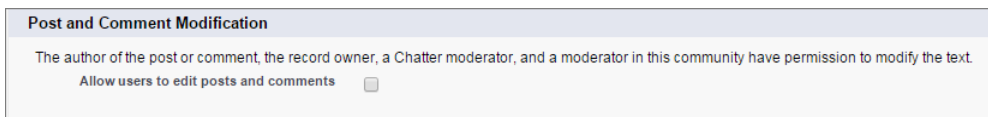
- 「権限セットの割り当て」

5. [保存]をクリックします。
6. 権限を必要とするユーザに権限セットを割り当てます。

すべてのユーザに対するフィード投稿編集の無効化

デフォルトでは、フィード投稿編集権限が有効なプロファイルに割り当てられているすべてのユーザは、自分の投稿とコメントを編集できます。割り当てられているユーザプロファイルに関係なく、組織内のすべてのユーザに対してフィード投稿編集を無効にできます。

1. [設定]で、[カスタマイズ]>[Chatter]>[設定]をクリックします。
2. [編集]をクリックします。
3. [投稿とコメントの変更]セクションで、[ユーザに投稿とコメントの編集を許可]の選択を解除します。



ユーザ権限

[Chatter 設定]で機能を有効化または無効化する

- 「アプリケーションのカスタマイズ」

4. [保存]をクリックします。

組織全体でフィード投稿編集機能が無効になります。ユーザは投稿とコメントの編集ができなくなります。

Chatter ダッシュボードパッケージのレコードフィードのレポート

更新されたSalesforce Chatter ダッシュボードパッケージが、Summer'15 リリースの直後に AppExchange で入手できるようになります。

Object > ObjectFeeds でカスタムレポートタイプを作成することで、標準またはカスタムオブジェクトに対するレコードフィードエンゲージメントを監視できます。このカスタムレポートタイプを使用すると、取引先、ケース、リード、商談、カスタムオブジェクトなど、フィード追跡が有効なすべての標準オブジェクトに対するフィード活動についてレポートできます。フィード編集数を追跡して、フィードを編集しているユーザの種別を確認することもできます。このパッケージでは[取引先フィード]ダッシュボードが提供され、独自のカスタマイズしたダッシュボードを作成するための例として使用できます。

ファイル

Summer '15 のSalesforce Filesを使用すると、Salesforce 内の任意のファイルの共有および同期、さまざまな制限の引き上げ、フォルダのサポート、外部ファイルおよびデータソースとのより緊密な統合が可能になります。

このセクションの内容:

ライブラリとの任意のファイルの共有

Chatter ファイルおよび外部ファイルをライブラリと共有できます。

Chatter での非公開 (個人用) コンテンツファイルの共有

Chatter で非公開コンテンツファイル (旧名称は個人用コンテンツファイル) を共有できます。ライブラリに含まれるかどうかに関係なく、すべてのコンテンツファイルを Chatter で共有できるようになりました。

コンテンツファイルの同期

非公開ファイルも含め、コンテンツライブラリのファイルはすべて Chatter で同期できます。

ファイルからフォルダへの同期

Chatter でファイルを同期するときに、フォルダに同期できるようになりました。

Salesforce Files Sync の管理バージョンの配布 (ベータ)

Spring '15 リリースでパイロットだった Salesforce Files Sync の管理バージョンが Summer '15 でベータになりました。この機能により、IT 管理者は Salesforce Files Sync デスクトップクライアントを大規模にリリースできます。

グループとのファイルの共有時の @メンションの追加

Chatter でファイルをグループと共有するときに、メッセージで人またはグループに @メンションできるようになりました。

Files Connect

Summer'15 では、Google ドライブのサポートが強化され、カスタム項目へのアクセスが可能になり、認証と検索が高速化されました。

Salesforce Files のその他の変更

Salesforce Files では、制限の引き上げ、コンテンツ配信の改善、およびその他の変更が行われました。

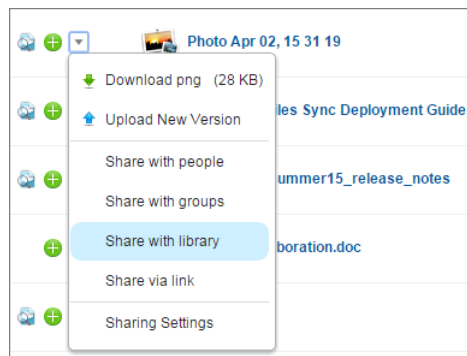
ライブラリとの任意のファイルの共有

Chatter ファイルおよび外部ファイルをライブラリと共有できます。

コンテンツライブラリで権限設定機能を利用する場合、ファイルのアップロード元が自分のコンピュータに制限されなくなりました。Chatter で次のファイルを 1 つまたは複数のライブラリと共有できるようになりました。

- 自分が所有するファイル
- 自分または自分が属するグループと共有されているファイル
- 外部ファイル

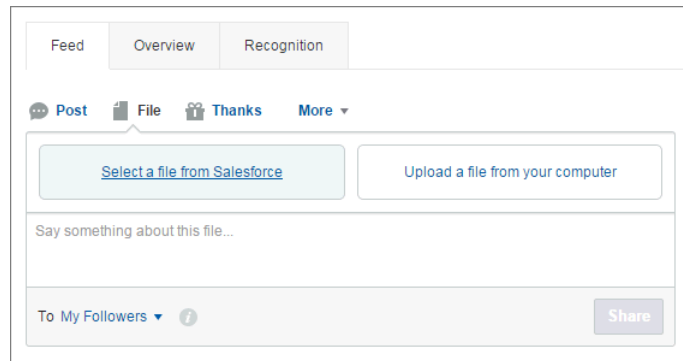
Chatter 内のファイルを共有できる任意の場所から、ライブラリとファイルを共有できるようになりました。



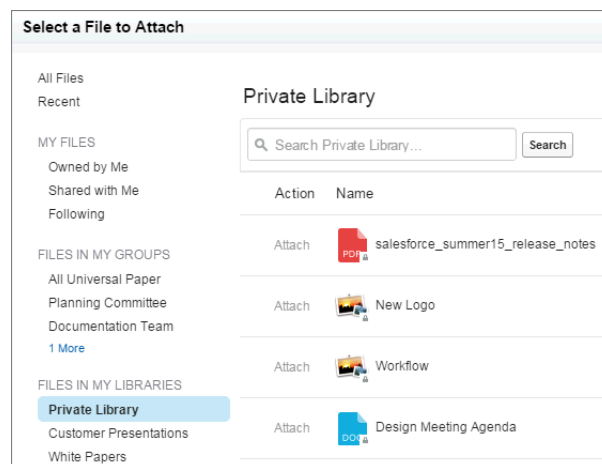
Chatter ファイルをライブラリと共有する機能は、[Chatter ファイルをコンテンツライブラリに公開できません] 設定を使用して組織レベルで設定されます。この設定はデフォルトで無効になっています。[設定]>[ビルド]>[カスタマイズ]>[Salesforce Files]>[設定]>[Salesforce CRM Content] で有効にできます。

Chatter での非公開 (個人用) コンテンツファイルの共有

Chatter で非公開コンテンツファイル (旧名称は個人用コンテンツファイル) を共有できます。ライブラリに含まれるかどうかに関係なく、すべてのコンテンツファイルを Chatter で共有できるようになりました。



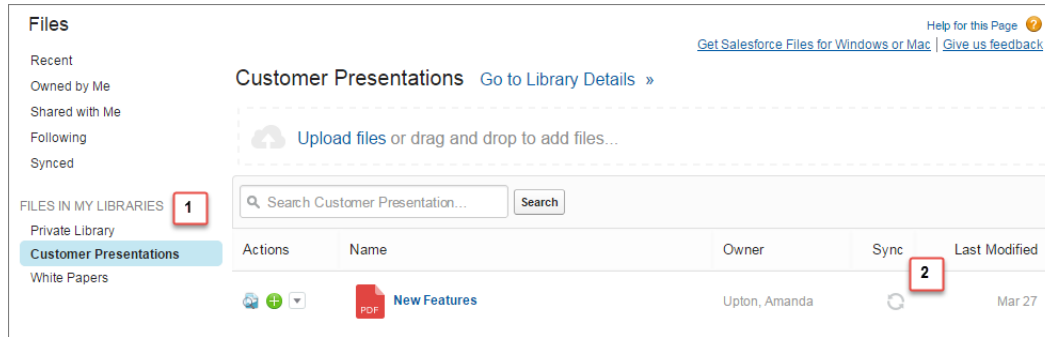
[Salesforceからファイルを選択] オプションを使用して、Chatter の投稿またはコメントにファイルを添付するとき、ファイルを非公開 (個人) ライブラリから選択できるようになりました。



コンテンツファイルの同期

非公開ファイルも含め、コンテンツライブラリのファイルはすべて Chatter で同期できます。

Chatter 内の [ファイル] タブ、フィード、およびファイルを同期できる任意の場所で、コンテンツファイルを同期できるようになりました。ファイルが Chatter ファイルとして開始されたか、コンテンツライブラリで開始されたかに関係なく、Chatter で同期できます。[ファイル] タブの [私のライブラリのファイル] の下でコンテンツファイルを見つけます。



- [私のライブラリのファイル] (1) に、すべてのライブラリが表示されます。
- [同期] 列およびアイコン (2) がライブラリのすべてのファイルで使用できるようになりました。

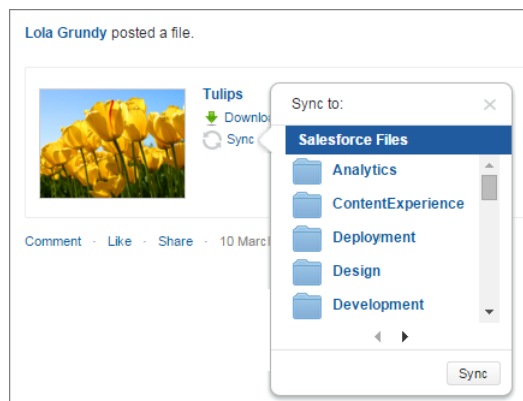
メモ: Salesforce Files Sync が組織で有効になっている必要があります。

ファイルからフォルダへの同期

Chatter でファイルを同期するときに、フォルダに同期できるようになりました。

同期済みファイルの整理がさらに簡単になりました。今後、Chatter のどこから (フィード、[ファイル] タブ、プロフィールのファイルリスト、ファイル詳細ページ) ファイルを同期する場合でも、ローカルドライブにある Salesforce Files ディレクトリのフォルダに直接同期できます。

1. Chatter のどこからでもファイルを同期できます。
2. 同期先のフォルダを選択します。デフォルトでは、ファイルはデスクトップにある最上位の Salesforce Files フォルダに同期されます。または、いずれかのサブフォルダを選択します。



3. 同期します。これで、デスクトップの同期先フォルダに移動するだけで、同期済みファイルを見つめることができます。

エディション

使用可能なエディション:
すべてのエディション

Salesforce Files Sync の管理バージョンの配布 (ベータ)

Spring '15 リリースでパイロットだった Salesforce Files Sync の管理バージョンが Summer '15 でベータになりました。この機能により、IT 管理者は Salesforce Files Sync デスクトップクライアントを大規模にリリースできます。

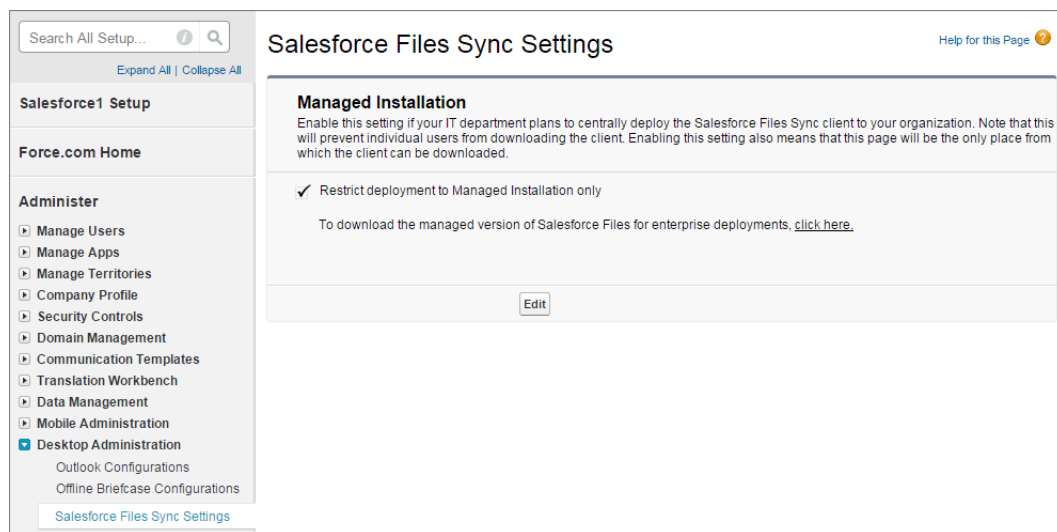
 **メモ:** Salesforce Files Sync の管理バージョンはベータであり、既知の制限があります。IdeaExchange でフィードバックをお寄せください。

管理バージョンは、IT 管理者がグループポリシーまたは設定管理ソフトウェアを使用して組織にリリースできます。管理バージョンを有効にすると、ユーザがアクセス可能な Salesforce 内の Files Sync クライアントへのダウンロードリンクとバナーがすべて無効になるため、Files Sync のリリースとアップグレードができるのは IT 管理者のみにになります。

ベータバージョンの新機能

パイロットに参加されたお客様から、この機能を使用中にフィードバックが寄せられました。ベータになった管理バージョンでは、Salesforce Files Sync クライアントが `\users` ではなく、ユーザの `Program Files` ディレクトリにインストールされます。

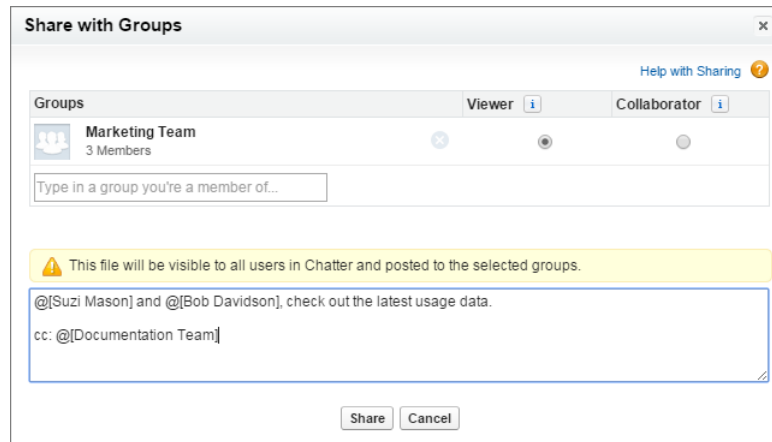
[管理バージョン] 設定には、[設定] > [管理] > [デスクトップ管理者] > [Salesforce Files Sync 設定] からアクセスします。



グループとのファイルの共有時の @メンションの追加

Chatter でファイルをグループと共有するときに、メッセージで人またはグループに @メンションできるようになりました。

[グループと共有] を使用して Chatter の任意の場所からファイルを共有する場合、メッセージに @メンションを追加できるようになりました。これにより、ファイルの共有先である @メンションされた人とグループに通知されます。



Files Connect

Summer'15 では、Google ドライブのサポートが強化され、カスタム項目へのアクセスが可能になり、認証と検索が高速化されました。

このセクションの内容:

Google ドライブのコンテンツへの接続

Files Connect を使用すると、Salesforce ユーザが Google で広く使用されているクラウドベースのシステムのコンテンツにアクセスして共有できます。外部コンテンツを完全に統合するには、コンテンツを Salesforce 検索に追加します。

1つの外部データソースに絞り込んだ検索

Files Connect で、ユーザが Google ドライブや SharePoint のようなソースの外部コンテンツを直接検索できるようになりました。

Files Connect データソースによる認証の合理化

SharePoint などの外部データソースに対してユーザ単位の認証を選択した場合、ユーザは Salesforce に外部ログイン情報を指定する必要があります。ユーザが最初にデータソースにアクセスしたとき、またはそのログイン情報の期限が切れたとき、Files Connect に自動的にメッセージが表示され、認証をすばやく簡単に行うことができます。

特定のユーザへの外部データソースの公開

Summer'15 以前は、Files Connect が有効化されていたユーザは組織の外部データソースのすべてにアクセスできました。今後は、データソースごとに表示をカスタマイズできます。

外部データソースのカスタム項目へのアクセス

Files Connect は、これまで外部データソースの標準項目にのみアクセスできました。Summer'15 では、任意のカスタム項目を追加し、固有の検索レイアウトに表示できます。

Files Connect 外部オブジェクトでの参照関係のサポート

これまで、Files Connect 外部オブジェクトは、主にユーザが外部データソースを検索できるようにするためのものでした。Summer'15 では、外部オブジェクトの項目を標準およびカスタムオブジェクトにリンクして、外部データを Salesforce 全体の関連リストとその他の領域に統合できます。

エディション

使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

Google ドライブのコンテンツへの接続

Files Connect を使用すると、Salesforce ユーザが Google で広く使用されているクラウドベースのシステムのコンテンツにアクセスして共有できます。外部コンテンツを完全に統合するには、コンテンツを Salesforce 検索に追加します。

次のオンラインヘルプトピックに設定プロセスの概要説明があります (Summer '15 がリリースされると、これらは Google ドライブの設定詳細に追加されます)。

1. [組織で Files Connect を有効にします。](#)
2. [ユーザが Google ドライブにアクセスできるようにします。](#)
3. [Google ドライブの認証プロバイダを作成します。](#)
4. [Google ドライブの外部データソースを定義します。](#)
5. ユーザが Salesforce 検索で外部データにアクセスできるようにするには、[外部オブジェクトを作成して、その項目へのアクセス権をユーザに付与します。](#) この手順は省略可能ですが、外部データを Salesforce と適切に統合するために強くお勧めします。
6. ユーザに[それぞれのデータソースログイン情報を提供](#)するように依頼します。これでユーザは、[ファイル] タブやフィードで外部ファイルのダウンロードや共有を行ったり、Salesforce コンテンツと一緒に外部ファイルを検索したりできます。

ユーザ権限

Files Connect を有効化する、外部データソースを作成する、およびそのデータソースを検索に追加する

- 「アプリケーションのカスタマイズ」

1つの外部データソースに絞り込んだ検索

Files Connect で、ユーザが Google ドライブや SharePoint のようなソースの外部コンテンツを直接検索できるようになりました。

外部および Salesforce コンテンツを結合したグローバル検索では、最初に[外部オブジェクトを作成](#)する必要がありますが、次の簡易手順でユーザは特定のデータソースをすぐに検索できます。

1. [Chatter] または [ファイル] タブの左列で、データソース名をクリックします。
2. 表示されたデータソースの検索ボックスに、ドキュメントのタイトルや著者などの検索語を入力します。検索できる特定の情報は、外部データソースの設定によって異なります。



ユーザ権限

クラウドベースのデータソースにアクセスする

- 「Files Connect (クラウド)」

社内の SharePoint 2010 または 2013 にアクセスする

- 「Files Connect (社内)」

Files Connect データソースによる認証の合理化

SharePoint などの外部データソースに対してユーザ単位の認証を選択した場合、ユーザは Salesforce に外部ログイン情報を指定する必要があります。ユーザが最初にデータソースにアクセスしたとき、またはそのログイン情報の期限が切れたとき、Files Connect に自動的にメッセージが表示され、認証をすばやく簡単に行うことができます。

ユーザの詳細な手順は、Salesforce ヘルプの「[外部データソースのログイン情報の指定](#)」を参照してください。

特定のユーザへの外部データソースの公開

Summer '15 以前は、Files Connect が有効化されていたユーザは組織の外部データソースのすべてにアクセスできました。今後は、データソースごとに表示をカスタマイズできます。

1. [設定] から、[ユーザの管理] > [権限セット] または [ユーザの管理] > [プロフィール] をクリックします。
2. Files Connect が有効化されている権限セットまたはプロフィールをクリックします。
3. 次のいずれかの操作を実行します。
 - 権限セットの場合、[アプリケーション] セクションで [外部データソースアクセス] をクリックします。
 - プロファイルの場合、[外部データソースアクセスを有効にする] リストまでスクロールダウンします。
4. [編集] をクリックします。ユーザがアクセスして認証できるデータソースを追加し、[保存] をクリックします。

ユーザ権限

権限を設定する

- 「アプリケーションのカスタマイズ」

外部データソースのカスタム項目へのアクセス

Files Connect は、これまで外部データソースの標準項目にのみアクセスできました。Summer '15 では、任意のカスタム項目を追加し、固有の検索レイアウトに表示できます。

ユーザへのカスタム項目へのアクセス権の付与

1. [設定] から、[ユーザの管理] > [権限セット] または [ユーザの管理] > [プロフィール] をクリックします。
2. Files Connect が有効化されている権限セットまたはプロフィールをクリックします。
3. [アプリケーション] セクションで、[オブジェクト設定] をクリックします。
4. 外部オブジェクトの名前をクリックします。
5. [編集] をクリックし、Salesforce で公開するすべての項目の「参照」権限を有効化します。
6. [保存] をクリックします。

ユーザ権限

外部オブジェクトを作成し、その項目へのアクセスを提供する

- 「アプリケーションのカスタマイズ」

グローバル検索結果のレイアウトの選択

デフォルトでは、Files Connect 外部オブジェクトは、Chatter の標準の検索結果レイアウトと [ファイル] タブを使用します。これらのオブジェクトにカスタマイズした検索レイアウトを表示する場合は、下記の簡易手順を実行してください。

1. [設定] で、[カスタマイズ] > [Salesforce Files] > [設定] > [Files Connect] をクリックします。
2. [外部オブジェクト検索レイアウトを使用] を選択します。

Files Connect 外部オブジェクトでの参照関係のサポート

これまで、Files Connect 外部オブジェクトは、主にユーザが外部データソースを検索できるようにするためのものでした。Summer '15 では、外部オブジェクトの項目を標準およびカスタムオブジェクトにリンクして、外部データを Salesforce 全体の関連リストとその他の領域に統合できます。

カスタムオブジェクトと同様に、外部オブジェクトでは参照関係がサポートされています。ただし、外部データには、関連レコードを関連付けるために必要な 18 文字の Salesforce ID が含まれていない場合があるため、2 つの追加のリレーション種別 (外部参照と間接参照) を外部オブジェクトに使用できます。

詳細は、Salesforce ヘルプの「[外部オブジェクトリレーション](#)」を参照してください。

Salesforce Files のその他の変更

Salesforce Files では、制限の引き上げ、コンテンツ配信の改善、およびその他の変更が行われました。

最大 10,000 ファイルの同期

コンピュータから Salesforce に最大 10,000 個のファイルを同期できるようになりました。

ファイル共有メッセージ項目の制限の 5,000 文字への増加

[別の人と共有] または [グループと共有] を使用してファイルを個々のユーザまたはグループと共有する場合、メッセージ項目に入力できる最大文字数が以前の 255 文字から 5,000 文字になりました。

コンテンツ配信のデフォルト帯域幅の 24 時間あたり 10 GB への増加

コンテンツ配信のデフォルトの配信帯域幅が、直近 24 時間につき 1 GB から 10 GB に増加しました。

個人用ライブラリの非公開ライブラリへの名称変更

「個人用ファイル」および「個人用ライブラリ」が「非公開ファイル」および「非公開ライブラリ」に名称変更されました。コンテンツライブラリの [個人ファイル] という名前のタブが [非公開ファイル] に変わりました。Chatter の [ファイル] タブにある「個人用ライブラリ」が「非公開ライブラリ」に名称変更されました。

パスワード保護されたコンテンツ配信のユーザエクスペリエンスの向上

パスワードを要求するように設定されたコンテンツ配信で、コンテンツにアクセスする受信者の操作性が改善されました。

エディション

使用可能なエディション:
すべてのエディション

グループ

Chatter グループでは、リストに記載しないグループのセキュリティ、グループで許可されるカスタムオブジェクトレコードの制御、情報共有機能、およびいくつかのグループメールの書式設定が強化されています。

このセクションの内容:

[グループに追加可能なカスタムオブジェクトレコードの管理](#)

Summer'15 以降、グループにユーザが追加できるカスタムオブジェクトレコードを選択できるようになりました。これまで、すべてのカスタムオブジェクトレコードが許可されていました。この機能により、今後はグループにユーザが追加できるカスタムオブジェクトレコードのタイプと数をより詳細に制御できます。

グループ情報項目での 4,000 文字の許容

グループの情報項目の文字数制限が 4,000 文字になりました。以前は 1,000 文字に制限されていました。

リストに記載しないグループでの一意ではない名前の許容

プライバシーとセキュリティを強化するため、リストに記載しないグループに一意の名前を使用する必要がなくなりました。公開グループと非公開グループには引き続き一意の名前を使用する必要があります。

グループメールの機能強化

グループからのメール通知が FreeMarker Template Language を使用するようにアップグレードされ、いくつかの書式設定が改善されました。

Salesforce1 レイアウトのグループアクションのカスタマイズ

グループページレイアウトでデフォルトの Salesforce1 アクションを上書きして、より柔軟に [グループを編集]、[グループに参加]、および [グループを脱退] アクションの外観と場所をカスタマイズできます。

グループに追加可能なカスタムオブジェクトレコードの管理

Summer '15 以降、グループにユーザが追加できるカスタムオブジェクトレコードを選択できるようになりました。これまで、すべてのカスタムオブジェクトレコードが許可されていました。この機能により、今後はグループにユーザが追加できるカスタムオブジェクトレコードのタイプと数をより詳細に制御できます。

カスタムオブジェクトの詳細ページにある [追加の機能] の下で、管理するカスタムオブジェクトごとに [Chatter グループ内で許可] オプションを選択します。



メモ: Summer '15 より前にグループに追加されたカスタムオブジェクトレコードは削除されず、引き続き [グループレコード] リストに表示されます。グループで許可する既存のカスタムオブジェクトごとに、この機能を有効にしてください。

グループ情報項目での 4,000 文字の許容

グループの情報項目の文字数制限が 4,000 文字になりました。以前は 1,000 文字に制限されていました。

この文字数の増加により、グループページで詳細を探しているグループのメンバーおよび非メンバーとより多くの情報を共有できます。

リストに記載しないグループでの一意ではない名前の許容

プライバシーとセキュリティを強化するため、リストに記載しないグループに一意の名前を使用する必要がなくなりました。公開グループと非公開グループには引き続き一意の名前を使用する必要があります。

これまで、ユーザがリストに記載しないグループと同じ名前のグループを作成しようとすると、別の一意の名前を使用するように要求され、アクセス権のないリストに記載しないグループの名前が誤って検出されてしまうことがありました。これを防止するために、リストに記載しないグループに一意の名前は必須ではなくなりました。これは、機密情報 (「Acme Merger」 (Acme 合併) など) を含むグループ名にとって重要です。

グループメールの機能強化

グループからのメール通知が FreeMarker Template Language を使用するようにアップグレードされ、いくつかの書式設定が改善されました。

Salesforce1 レイアウトのグループアクションのカスタマイズ

グループページレイアウトでデフォルトのSalesforce1 アクションを上書きして、より柔軟に[グループを編集]、[グループに参加]、および[グループを脱退]アクションの外観と場所をカスタマイズできます。

グループページレイアウトの [Salesforce1 アクションバーのアクション] セクションで、[定義済みアクションを上書き] をクリックします。その後で、[グループを編集]、[グループに参加]、および[グループを脱退]アクションをアクションバーの別の場所にドラッグしたり、削除したりできます。

メール通知

統合ユーザダイジェストベータに参加して、改良された、モバイルで使いやすいメールダイジェストを受信できます。

このセクションの内容:

統合ユーザダイジェスト (ベータ)

再設計されて、モバイルで使いやすく、整理され、グループダイジェストと調整されたユーザダイジェストメールを受信できます。

統合ユーザダイジェスト (ベータ)

再設計されて、モバイルで使いやすく、整理され、グループダイジェストと調整されたユーザダイジェストメールを受信できます。

 **メモ:** このリリースには、統合ユーザダイジェストのベータバージョンが含まれています。本番品質ではありませんが、既知の制限があります。組織でのこの機能の有効化については、Salesforceにお問い合わせください。

統合ユーザダイジェストには次の特長があります。

- モバイルデバイスで読みやすい新書式
- 優先度別に整理され、重要度の高い順に情報を表示ようになった投稿
- 投稿を親グループまたはオブジェクトの下に整理
- 見分けやすくなったグループ写真
- レコードの項目値に基づいた取引先、取引先責任者、ケース、カスタムオブジェクトの状況の要約
- グループダイジェストにすでに含まれている投稿を除外してグループダイジェストとの重複を減少

統合ユーザダイジェスト(ベータ)を有効化するには、カスタマーサポートに問い合わせるか、サポートにケースを登録してください。有効化されたら、[設定] に移動して [カスタマイズ] > [Chatter] > [メール設定] をクリックし、[ユーザダイジェストベータを有効化] を選択します。

統合ユーザダイジェストでは、オブジェクトの主コンパクトレイアウトを使用して、表示される項目を判別します。ほとんどの場合、システムデフォルトコンパクトレイアウトに最も便利な項目のセットが含まれていますが、カスタムコンパクトレイアウトを作成し、主レイアウトとして設定することで、ユーザエクスペリエンスを向上させることができます。項目の総数を4つ以下に制限することをお勧めします。ユーザには、アクセス権のある項目のみが表示されます。項目値には次の制限があります。

- 項目値はローカライズされない

エディション

使用可能なエディション:

Group Edition、
Professional Edition、
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、**Contact Manager** Edition、および
Developer Edition

- 一部のデータ型(チェックボックスなど)は、最適には表示されない

詳細は、Salesforce ヘルプの「[コンパクトレイアウトの概要](#)」を参照してください。

 **ヒント:** ベータを有効化してもユーザのメール設定に変更はありません。ベータを利用してユーザのメール量を合理化するには、次の操作を実行することをお勧めします。

- 個人のダイジェストの頻度を「毎日」に設定する
- 毎日および毎週のグループダイジェストを「受信しない」に変更する
- 各投稿グループダイジェストのメール通知は変更しない

Chatter のその他の変更

Chatter のユーザエクスペリエンスを向上させる小規模な変更がありました。

プレビューリンクの追加

Salesforce は、さまざまな URL のリッチメディアサポートを提供してユーザエクスペリエンスをさらに向上させています。プレビューは Embed.ly によって動作するサードパーティサービスで、動画へのリンクのサムネール、説明、動画プレーヤーが含まれます。このリリースでは、次のサポートが追加されました。

- app.devhv.com
- app.stghv.com
- edition.cnn.com
- flickr.com
- hirevue.com、app.hirevue.com
- money.cnn.com
- on.aol.com
- streamlike.com

プロフィール写真のアップロード時間の改善

プロフィール写真のアップロードがより高速になりました。プロフィール写真のアップロードが同期プロセスになり、写真のアップロードと表示までの待機時間が短縮されました。

マーケティング

Marketing Cloud は、1 対 1 のカスタマージャーニーで優れた顧客体験を提供するプレミアプラットフォームです。あらゆるソースからの顧客利用データを 1 か所で表示し、ビジネス目標に基づいて一意のカスタマージャーニーを計画および最適化できます。最適なタイミングですべてのチャンネルとデバイスにパーソナライズされたコンテンツを配信し、リアルタイムでアプローチを最適化してより優れた結果をもたらすことができるように、ビジネスにおける各インタラクションの影響を評価します。

詳細は、「[Marketing Cloud Release Notes](#)」を参照してください。

Salesforce1 レポート: レポート API からのレポートの保存、コピー、削除

レポート REST API の機能強化により、ダッシュボードの削除、レポートの保存、コピー、削除、および新しいレポートプロパティへのアクセスが可能になりました。Apex の機能強化により、他のレポートプロパティを取得および設定できるようになりました。これらの機能強化は、Salesforce1 モバイルアプリケーションのダッシュボードまたはレポートには適用されません。

また、レポート通知を使用してビジネスを常に掌握する方法を確認するには、新しい動画  「[レポート通知](#)」で確認してください。

関連トピック:

[Salesforce1 レポート機能が使用可能になる方法と状況](#)

[Salesforce1 レポート REST API](#)

[新規および変更された Apex クラス](#)

リリース: Sandbox のパフォーマンス、テスト、移行の機能向上

変更を組織に新しい方法でリリースできるようになりました。

このセクションの内容:

[Full Sandbox の Sandbox コピーエンジンの改善 \(正式リリース\)](#)

パフォーマンスや拡張性を最適化し、お客様の成功を最大限に高めるために Sandbox コピーエンジンが再構築されました。新しいエンジンは、Full Sandbox の作成時および既存の Full Sandbox の更新時に影響します。

[更新の必要がない、Sandbox に対する本番ライセンスの照合](#)

Sandbox を更新することなく、Sandbox 組織と本番環境のプロビジョニング済みライセンスを照合して時間を節約できます。

[変更セット](#)

Flow Definition コンポーネントが Flow コンポーネントに取って代わり、Flow コンポーネントはリストに表示されなくなります。

[リリースの全般的な機能強化](#)

リリースの機能強化により、本番環境へのリリース時間が短縮され、Sandbox のリリースでのテスト実行に対する制御が強化されます。また、Force.com 移行ツールの最近の検証のリリースおよびリリースのキャンセルのサポートが拡張されました。これらのリリースの機能強化は、変更セットには適用されません。

Full Sandbox の Sandbox コピーエンジンの改善 (正式リリース)

パフォーマンスや拡張性を最適化し、お客様の成功を最大限に高めるために Sandbox コピーエンジンが再構築されました。新しいエンジンは、Full Sandbox の作成時および既存の Full Sandbox の更新時に影響します。

コピーエンジンの機能強化により、Sandbox の作成および更新が迅速化し、Sandbox の矛盾が最小限に抑えられます。これらの改善点は、Summer '15 リリース時にローリング方式でリリースされます。

インテリジェントルーティング

コピーエンジンは、各 Sandbox インスタンスのストレージ容量、CPU 消費量、インポートアクティビティに基づいて、Sandbox の最適なインスタンスを選択します。

新しいデータコピーフレームワーク

コピーエンジンは、Sandbox にエクスポートおよびコピーする組織のデータを小さなチャンクに分割します。チャンクが並列処理されるためコピーが迅速化します。最初のデータチャンクがエクスポートされるとすぐにインポートが開始されます。エクスポートとインポートは独立しているため、システムは堅牢かつ柔軟な状態です。

新しいコピー後フレームワーク

Sandbox の作成または更新中に本番組織に変更が行われると、Sandbox のデータに矛盾が生じることがあります。新しい自動化されたコピー後処理では、コピーの完了後にこうした矛盾をすばやく修正し、修正を追跡します。

進行状況の追跡

Sandbox の作成または更新の進行状況を監視できます。[設定] から、[Sandbox] または [データの管理] > [Sandbox] をクリックして、Sandbox のリストを表示します。リストに、キューで待機中、処理中、最近完了済みの Sandbox の進行状況バーが表示されます。進行状況バーにマウスポインタを置くと、進行中のコピーの完了率が示されます。名前をクリックすると、詳細ページに次の更新が可能になるまでの時間など Sandbox に関する情報が表示されます。Sandbox が 1 時間以上中断または停止している場合は、Salesforce カスタマーサポートにお問い合わせください。

エディション

使用可能なエディション:

Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Database.com Edition

更新の必要がない、Sandbox に対する本番ライセンスの照合

Sandbox を更新することなく、Sandbox 組織と本番環境のプロビジョニング済みライセンスを照合して時間を節約できます。

照合では、本番と一致するように Sandbox のライセンス数を更新し、本番にあり Sandbox にはないライセンスを追加し、本番にないライセンスを削除します。

ライセンスを Sandbox 組織と照合するには、Sandbox にログインします。[設定] で [組織プロファイル] > [組織情報] > [本番ライセンスに一致] をクリックします。

照合プロセスが開始するとアラートが表示されます。Sandbox のすべてのライセンスが照合されたら、確認メールが送信されます。確認メールは、ライセンスコピーを開始したユーザに送信されます。

本番ライセンスを照合するには、Sandbox 組織と本番組織の Salesforce リリースが同じである必要があります。Sandbox が次のリリースにアップグレードされていて (Sandbox プレビュー中の場合など)、本番はまだアップグレードされていない場合、本番ライセンスを照合することはできません。

エディション

使用可能なエディション:

Enterprise Edition、
Performance Edition、および
Unlimited Edition

本番ライセンスの照合ツールは、トライアル組織では使用できません。ツールを使用するには、「すべてのデータの編集」権限を持っている必要があります。

変更セット

Flow Definition コンポーネントが Flow コンポーネントに取って代わり、Flow コンポーネントはリストに表示されなくなります。

エディション

使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Database.com Edition

使用可能なエディション:
Sandbox が購入されている
Professional Edition

リリースの全般的な機能強化

リリースの機能強化により、本番環境へのリリース時間が短縮され、Sandbox のリリースでのテスト実行に対する制御が強化されます。また、Force.com 移行ツールの最近の検証のリリースおよびリリースのキャンセルのサポートが拡張されました。これらのリリースの機能強化は、変更セットには適用されません。

「[メタデータ型とメタデータ項目](#)」の関連するメタデータ API の変更を参照してください。

エディション

使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

このセクションの内容:

リリースで実行するテストの選択

テストレベルにより、リリースで実行するテストに対する制御が強化されます。本番組織へのリリース時間を短縮するには、Apex コンポーネントのリリース時にテストのサブセットを実行します。本番組織のデフォルトのテスト実行動作も変更されました。テストレベルが指定されていないときは、デフォルトで、リリースパッケージに Apex クラスまたはトリガが含まれる場合を除き、テストが実行されません。

Sandbox リリースでのローカルテストの実行

本番組織のテスト実行動作に合わせて、Sandbox リリースで実行するテストを選択できるようになりました。これまでは Sandbox リリースでテストを有効にすると、管理パッケージテストを除外できませんでした。

Force.com 移行ツールの機能強化

Force.com 移行ツールが強化され、最近の検証のリリース、リリースのキャンセル、セッション ID による認証がサポートされています。

リリースで実行するテストの選択

テストレベルにより、リリースで実行するテストに対する制御が強化されます。本番組織へのリリース時間を短縮するには、Apexコンポーネントのリリース時にテストのサブセットを実行します。本番組織のデフォルトのテスト実行動作も変更されました。テストレベルが指定されていないときは、デフォルトで、リリースパッケージに Apex クラスまたはトリガが含まれる場合を除き、テストが実行されません。

この変更の一環として、runAllTests リリースオプションが testLevel に置き換えられました。目的のテストレベルを設定して、リリースで実行するテストを選択できます。すべてのテストレベルについての詳細は、[deploy\(\) コールのテストレベル](#)を参照してください。特に、リリースでテストのサブセットを実行するには、testLevel を RunSpecifiedTests 値に設定し、runTests オプションに実行するテストを指定します。

テストのサブセットを実行時に、クラスおよびトリガごとにコードカバレッジが個別に計算されます。この比率は全体的なカバレッジとは異なります。リリースパッケージに Apex クラスおよびトリガが含まれる場合は、実行されるテストで各クラスおよびトリガの大部分がカバーされます (コードカバレッジが 75% 以上)。

リリースの Apex コンポーネントのコードカバレッジが 75% 未満の場合は、リリースに失敗します。指定したテストのいずれかに失敗した場合も、リリースに失敗します。最初に Sandbox でリリースをテストし、指定したテストが各コンポーネントを十分にカバーすることを確認することをお勧めします。組織の全体的なコードカバレッジが 75% 以上でも、Apex コンポーネントの個々のカバレッジが 75% 未満のことがあります。コードカバレッジの要件を満たしていない場合は、他のテストを記述してリリースに含めます。

この変更は、メタデータ API で行われ、メタデータ API ベースのツール (Force.com 移行ツールなど) に公開されます。

Force.com 移行ツールでのテストの指定

Force.com 移行ツールでテストのサブセットを実行するには、testLevel="RunSpecifiedTests" パラメータをリリースターゲットに追加します。sf:deploy 要素内の <runTest> </runTest> 子要素に、リリースターゲットに実行する各テストクラスを指定します。<runTest> </runTest> タグ内にテストクラス名を追加します。runTest タグはテストクラスに 1 つずつ必要なだけ追加します。

このリリースターゲットの例は、3 つのテストクラスを示します。このパッケージのリリース時に、Salesforce がこれらのテストクラスを実行します。

```
<target name="deployCode">
  <sf:deploy username="${sf.username}" password="${sf.password}"
    sessionId="${sf.sessionId}" serverurl="${sf.serverurl}"
    deployroot="codepkg" testLevel="RunSpecifiedTests">
    <runTest>TestClass1</runTest>
    <runTest>TestClass2</runTest>
    <runTest>TestClass3</runTest>
  </sf:deploy>
</target>
```

メタデータ API でのテストの指定

メタデータ API を使用してテストのサブセットを実行するには、DeployOptions オブジェクトに RunSpecifiedTests テストレベルを設定します。次に、DeployOptions に実行する各テストクラスを指定

します。最後に、`DeployOptions` を引数として `deploy()` コールに渡します。次の例は、これらの手順を実行して、指定したテストクラスのみを実行します。

```
// Create the DeployOptions object.
DeployOptions deployOptions = new DeployOptions();

// Set the appropriate test level.
deployOptions.setTestLevel(TestLevel.RunSpecifiedTests);

// Specify the test classes to run.
// String array contains test class names.
String[] tests = {"TestClass1", "TestClass2", "TestClass3"};
// Add the test class names array to the deployment options.
deployOptions.setRunTests(tests);

// Call deploy() by passing the deployment options object as an argument.
AsyncResult asyncResult = metadatabinding.deploy(zipBytes,deployOptions);
```

特定のテストの実行に関する考慮事項

- 指定できるのはテストクラスのみで、個々のテストメソッドは指定できません。
- コードカバレッジの要件を満たす最小限のテストを含めるように、テストクラスを再構成することをお勧めします。テストクラスを再構成するとテストの実行時間が短縮され、結果的にリリース時間も短縮されます。
- 対象組織のトリガを無効化するには、トリガを無効な状態でリリースします。ただし、そのトリガは以前に有効な状態でリリースされたものである必要があります。

本番組織のデフォルトのテスト実行

リリースオプションにテストレベルが指定されていない場合、デフォルトのテスト実行動作はリリースパッケージの内容によって異なります。本番組織へのリリース時に、リリースパッケージに Apex クラスまたはトリガが含まれる場合は、管理パッケージから作成されたテストを除くすべてのテストが実行されます。パッケージに Apex コンポーネントが含まれない場合は、デフォルトでテストは実行されません。

API バージョン 33.0 以前では、Apex コンポーネントのみならず、テストを必要とするコンポーネント (カスタムオブジェクトなど) にテストが実行されていました。たとえば、パッケージにカスタムオブジェクトが含まれる場合、API バージョン 33.0 以前ではすべてのテストが実行されます。他方、API バージョン 34.0 以降ではこのパッケージにテストは実行されません。API バージョンは、API クライアントのバージョンまたは使用しているツール (Force.com 移行ツール) のバージョンに対応します。

Apex 以外のコンポーネントのリリースにテストを実行できます。リリースオプションにテストレベルを設定すれば、デフォルトのテスト実行動作を上書きできます。テストレベルは、リリースパッケージに存在するコンポーネントの種類に関係なく強制適用されます。本番組織にリリースする前に、Sandbox などの開発環境ですべてのローカルテストを実行することをお勧めします。開発環境でテストを実行すれば、本番リリースで実行する必要のあるテストの量を削減できます。

Sandbox リリースでのローカルテストの実行

本番組織のテスト実行動作に合わせて、Sandbox リリースで実行するテストを選択できるようになりました。これまでは Sandbox リリースでテストを有効にすると、管理パッケージテストを除外できませんでした。

この変更の一環として、runAllTests リリースオプションが testLevel に置き換えられました。開発環境で使用可能なすべてのテストレベルについての詳細は、[deploy\(\) コール](#)のテストレベルを参照してください。たとえば、リリースでローカルテストを実行し、管理パッケージテストを除外するには、testLevel を RunLocalTests 値に設定します。

 **メモ:** リリースパッケージの内容に関係なく、RunLocalTests テストレベルが強制適用されます。これに対し、本番組織ではデフォルトで、リリースパッケージに Apex クラスまたはトリガが含まれる場合のみテストが実行されます。RunLocalTests は、Sandbox および本番組織のリリースに使用できます。

Force.com 移行ツールを使用している場合は、この例に示すように、リリースターゲットに testLevel="RunLocalTests" パラメータを追加します。

```
<target name="deployCode">
  <sf:deploy username="${sf.username}" password="${sf.password}"
    sessionId="${sf.sessionId}" serverurl="${sf.serverurl}"
    deployroot="codepkg" testLevel="RunLocalTests">
  </sf:deploy>
</target>
```

メタデータ API を使用している場合は、次のように、DeployOptions オブジェクトのテストレベルを TestLevel.RunLocalTests に設定し、このオブジェクトを引数として deploy() コールに渡します。

```
// Create the DeployOptions object.
DeployOptions deployOptions = new DeployOptions();

// Set the appropriate test level.
deployOptions.setTestLevel(TestLevel.RunLocalTests);

// Call deploy() by passing the deployment options object as an argument.
AsyncResult asyncResult = metadatabinding.deploy(zipBytes,deployOptions);
```

Force.com 移行ツールの機能強化

Force.com 移行ツールが強化され、最近の検証のリリース、リリースのキャンセル、セッション ID による認証がサポートされています。

最近の検証のリリース

最近の検証をリリースするには、<sf:deployRecentValidation> タスクをターゲットに追加して、recentValidationId パラメータに検証 ID を指定します。過去 4 日以内に検証が正常に実行されている必要があります。詳細は、Salesforce ヘルプの「[クイックリリース](#)」を参照してください。

```
<target name="quickDeploy">
  <sf:deployRecentValidation username="${sf.username}" password="${sf.password}"
    sessionId="${sf.sessionId}" serverurl="${sf.serverurl}"
    maxPoll="${sf.maxPoll}"
    recentValidationId="${sf.recentValidationId}"/>
</target>
```

`<sf:deployRecentValidation>` は、Force.com 移行ツールのバージョン 34.0 以降でサポートされます。

リリースのキャンセル

Force.com 移行ツールで進行中またはキュー内にあるリリースをキャンセルできるようになりました。キャンセルするには、`<sf:cancelDeploy>` タスクをターゲットに追加します。requestId パラメータにリリースの ID を指定します。

```
<target name="cancelDeploy">
  <sf:cancelDeploy username="${sf.username}" password="${sf.password}"
    sessionId="${sf.sessionId}" serverurl="${sf.serverurl}"
    maxPoll="${sf.maxPoll}"
    requestId="${sf.deployRequestId}"/>
</target>
```

`sf:cancelDeploy` は、Force.com 移行ツールのバージョン 34.0 以降でサポートされます。

認証にセッション ID を使用

Force.com 移行ツールを実行して移行を行うときに、ユーザ名とパスワードの代わりにセッション ID を使用して認証できます。セッション ID を使用すると柔軟性が高まります。Force.com 移行ツールの build.properties ファイルが更新され、sf.sessionId プロパティが含まれました。同様に、build.xml ファイルのサンプルターゲットが更新され、sessionId パラメータが含まれました。

認証にセッション ID を使用するには、build.properties のこのプロパティのコメントを解除して、セッション ID の値を追加します。さらに、sf.username と sf.password のプロパティペアをコメントアウトします。両方のプロパティを同時に存在させることはできません。build.properties のセッション ID プロパティを次に示します。

```
sf.sessionId = <Insert your Salesforce session ID here.>
```

このサンプルターゲットには、sessionId パラメータを指定した `<sf:deploy>` タスクが含まれます。

```
<target name="deployZip">
  <sf:deploy username="${sf.username}" password="${sf.password}"
    sessionId="${sf.sessionId}"
    serverurl="${sf.serverurl}" maxPoll="${sf.maxPoll}"
    zipFile="${sf.zipFile}" pollWaitMillis="1000"
    rollbackOnError="true"/>
</target>
```

セッション ID 認証は、Force.com 移行ツールのすべての新バージョンおよびバージョン 17.0 以降の旧バージョンでサポートされます。

カスタマイズ: クリックとコードによる Salesforce の適 合化

カスタマイズ機能を使用すると、オブジェクト、データ、項目の機能強化、組織の外観のカスタマイズ、ビジネスプロセスの追加、Web サイトの作成、アプリケーションの作成などで組織を拡張できます。しかもすべてポイント&クリックツールやコードを使用して実行できます。カスタマイズ機能には、組織を管理および保護するツールも含まれます。

このセクションの内容:

全般的な管理

システム管理によって、組織をビジネスニーズに合わせて管理できます。

すべての顧客データを BigObjects に保管 (パイロット)

BigObjects とは、Salesforce プラットフォームでデータを大規模に保存および管理できる新機能です。この機能により、顧客の過去のイベントデータをすべて保持して、顧客と直接的に関わり合うことができます。

Data Pipeline を使用した顧客データの管理 (パイロット)

すべての顧客データを活用してインテリジェンスと実用的な情報を獲得する、Data Pipeline という新機能のパイロットプログラムが継続されています。ジョブが実行されないときに確認できるエラー記録が追加されました。エラーメッセージは Tooling API 経由で確認でき、開発者コンソールのジョブ実行情報にも表示されます。

Lightning Connect

Salesforce 組織の外部に保存されているデータをシームレスに操作するオプションが拡張されました。ユーザがビジネスの全体像をオンデマンドで、リアルタイムに、データを組織にコピーすることなく、把握できるようになります。

Process Builder: データの利用の拡大

数式、新しい数式関数、項目を更新するさらなるオプションへのサポートが改善され、ビジネスプロセスの自動化のオプションが拡張されています。複数選択リストを使用できる場所が増え、12 時間待機しなくてもプロセスを削除できるようになりました。また、ユーザインターフェースが更新され、バージョンの管理、項目の検索および参照、Chatter メッセージの作成が容易になりました。

Visual Workflow: 新しい変数および数式、削除の簡素化

無効化されたフローを削除する前の 12 時間の待機が排除されました。また、選択リスト値および複数選択リスト値を検証できるようになりました。さらに、フロー障害メールに、フローで生じた問題のトラブルシューティングに役立つ詳細が追加されました。

グローバリゼーション

グローバリゼーションツールは、システム管理者が、通貨、言語、翻訳されたコンテンツなど、国ごとに異なるリソースを管理するのに役立ちます。

監視

イベント監視とログインフォレンジックの更新により、組織でのユーザ活動の追跡機能が改善されます。さらに、Apex 制限イベントとデータ漏洩検出の 2 つの新しいパイロットプログラムも導入されました。

組織間データ共有

組織間データ共有は、Lightning Connect の Salesforce アダプタに取って代わられました。

関連トピック:

[カスタマイズ機能が使用可能になる方法と状況](#)

全般的な管理

システム管理によって、組織をビジネスニーズに合わせて管理できます。

このセクションの内容:

ログインアクセスポリシーの変更

「すべてのデータの編集」権限を持つシステム管理者および「設定・定義を参照する」権限を持つ代理管理者は、エンドユーザからアクセスの許可を得ることなく、任意のユーザとしてログインできます。これまでは、Salesforce が組織の [管理者は任意のユーザでログインできます] 設定を有効にしている場合しかこのオプションを使用できませんでした。この機能を無効にするには、Salesforce にお問い合わせください。

カスタムプロファイルの許容数

高いパフォーマンスを確保するために、組織はユーザライセンスの種類ごとに最大 1,500 のカスタムプロファイルを設定できます。組織のカスタムプロファイルが多すぎるときは、権限セットを使用して、追加の権限およびアクセス設定を必要とするユーザに付与することを検討します。

距離のルックアップ検索条件の作成

メタデータ API を使用して、位置および住所データ型に距離条件を備えたルックアップ検索条件を作成できるようになりました。ユーザの生産性やデータの品質を向上させるために、ルックアップ検索条件を使用して、参照関係項目、主従関係項目、階層関係項目の有効な値やルックアップダイアログ結果を制限します。

ナレッジ API へのゲストユーザアクセスの有効化

Force.com サイトおよび Salesforce Communities Force.com サイトに新しいオプションが追加されました。[ナレッジ API へのゲストアクセス] チェックボックスがオンになっていると、認証されていないユーザによるナレッジ API へのアクセスが許可されます。

HTML エリアホームページコンポーネントでの JavaScript、iFrame、CSS、その他の高度なマークアップのサポート終了

現在、HTML エリアホームページコンポーネントでサポートされていないコードの禁止が強制適用されています。HTML エリアホームページコンポーネントを編集および保存するときに、JavaScript、CSS、iframe、その他のサポートされていないマークアップが削除されるようになりました。クリーンアップされたバージョンが保存され、サポートされていないコンテンツはすべて失われます。

ログインアクセスポリシーの変更

「すべてのデータの編集」権限を持つシステム管理者および「設定・定義を参照する」権限を持つ代理管理者は、エンドユーザからアクセスの許可を得ることなく、任意のユーザとしてログインできます。これまでは、Salesforce が組織の [管理者は任意のユーザでログインできます] 設定を有効にしている場合しかこのオプションを使用できませんでした。この機能を無効にするには、Salesforce にお問い合わせください。

エディション

使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

カスタムプロファイルの許容数

高いパフォーマンスを確保するために、組織はユーザライセンスの種類ごとに最大 1,500 のカスタムプロファイルを設定できます。組織のカスタムプロファイルが多すぎる場合は、権限セットを使用して、追加の権限およびアクセス設定を必要とするユーザに付与することを検討します。

各プロファイルはユーザライセンスの種類に関連付けられているため、この制限はユーザライセンスの種類ごとに適用されます。

 **例:** 組織に Salesforce ユーザライセンスを持つユーザが 200 人と、Force.com アプリケーションサブスクリプションユーザライセンスを持つユーザが 50 人いるとします。この場合、Salesforce ユーザライセンスに最大 1,500 のカスタムプロファイルと、Force.com アプリケーションサブスクリプションユーザライセンスに 1,500 のカスタムプロファイルを設定できます。

距離のルックアップ検索条件の作成

メタデータ API を使用して、位置および住所データ型に距離条件を備えたルックアップ検索条件を作成できるようになりました。ユーザの生産性やデータの品質を向上させるために、ルックアップ検索条件を使用して、参照関係項目、主従関係項目、階層関係項目の有効な値やルックアップダイアログ結果を制限します。

指定した範囲内または範囲外の距離に基づいて検索を絞り込むことができます。

距離に基づくルックアップ検索条件を、Salesforce ユーザインターフェースで作成することはできません。代わりに、CustomField メタデータ型にメタデータ API の lookupFilter 項目を使用します。lookupFilter 項目およびそのサブ項目についての詳細は、『[メタデータ API 開発者ガイド](#)』の「CustomField」を参照してください。

ルックアップ検索条件の利点についての詳細は、Salesforce ヘルプの「[ルックアップ検索条件について](#)」を参照してください。

ナレッジ API へのゲストユーザアクセスの有効化

Force.com サイトおよび Salesforce Communities Force.com サイトに新しいオプションが追加されました。[ナレッジ API へのゲストアクセス] チェックボックスがオンになっていると、認証されていないユーザによるナレッジ API へのアクセスが許可されます。

エディション

使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

エディション

使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

エディション

使用可能なエディション:
Developer Edition、
Enterprise Edition、
Performance Edition、および
Unlimited Edition

HTML エリアホームページコンポーネントでの JavaScript、iFrame、CSS、その他の高度なマークアップのサポート終了

現在、HTML エリアホームページコンポーネントでサポートされていないコードの禁止が強制適用されています。HTML エリアホームページコンポーネントを編集および保存するときに、JavaScript、CSS、iframe、その他のサポートされていないマークアップが削除されるようになりました。クリーンアップされたバージョンが保存され、サポートされていないコンテンツはすべて失われます。

Summer'14 で、HTML エリアホームページコンポーネントのリッチテキストエディタが置換され、Summer'15 からサポートされていないコードの削除が開始されることが通知されました (Summer'14 リリースノートの「[ホームページのコンポーネント](#)」を参照)。

実行時に、サポートされていないマークアップを含む HTML エリアホームページコンポーネントは、動的に表示から除外されます。

JavaScript やその他の高度な HTML 要素をホームページコンポーネントで使用するには、代わりに Visualforce エリアコンポーネントを使用することをお勧めします。

エディション

使用可能なエディション:
すべてのエディション

すべての顧客データを BigObjects に保管 (パイロット)

BigObjects とは、Salesforce プラットフォームでデータを大規模に保存および管理できる新機能です。この機能により、顧客の過去のイベントデータをすべて保持して、顧客と直接的に関わり合うことができます。

BigObjects は使用中の Salesforce データと簡単に統合できます。BigObjects は、SOQL、Bulk、REST、SOAP API や、膨大なデータを一括処理する強力なツールである Data Pipeline で処理できます。

 **メモ:** この機能は、特定の契約条件への同意が必要なパイロットプログラムを通じて一部のお客様に提供されています。このプログラムに参加する方法については、Salesforce にお問い合わせください。パイロットプログラムは変更される可能性があるため、参加は保証されません。このドキュメント、プレスリリース、または公式声明で参照されているこのパイロット機能は正式リリースされていません。特定期間内の正規リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている機能に基づいて購入をご決定ください。

BigObjects 機能は差し当たり次のユースケースを対象とします。

- Customer360 — 販売時点データ、注文および品目、ゲスト関係データ、ゲストインタラクションを Big Objects に保存して、これらのデータを処理したり、中核的な CRM データに対応付けたりします。
- データのアーカイブ — データを Salesforce の信頼できるプラットフォームから移動することなく、FINRA コンプライアンスなどのために本番ストレージのレコードをアーカイブ用のデータストアに編成します。
- データレイク — 膨大なデータを必要になるまでネイティブ形式で保存します。
- メールイベントの取り込み — 顧客のやりとり履歴、セグメント化、センチメント分析のためにメールを保持します。

エディション

使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

最初のパイロットでは、メタデータ API を使用して BigObjects を定義し、標準またはカスタムの sObject へのルックアップを含めることができます。BigObjects を定義したら、Bulk API または SOAP API を使用して BigObjects に入力できます。作成した BigObjects は参照のみです。

このパイロットについての詳細は、『BigObject Implementation Guide』を参照してください。

パイロットへの参加についての詳細は、営業担当者または Salesforce カスタマーサポートまでお問い合わせください。

Data Pipeline を使用した顧客データの管理 (パイロット)

すべての顧客データを活用してインテリジェンスと実用的な情報を獲得する、Data Pipeline という新機能のパイロットプログラムが継続されています。ジョブが実行されないときに確認できるエラー記録が追加されました。エラーメッセージは Tooling API 経由で確認でき、開発者コンソールのジョブ実行情報にも表示されます。

Data Pipeline は、顧客との交流やデータ駆動型アプリケーションの構築に役立ちます。Data Pipeline では、Hadoop のカスタム Apache Pig スクリプトの機能を使用して、Salesforce に保存されている大規模なデータを処理できます。

 **メモ:** この機能は、特定の契約条件への同意が必要なパイロットプログラムを通じて一部のお客様に提供されています。このプログラムに参加する方法については、Salesforce にお問い合わせください。パイロットプログラムは変更される可能性があるため、参加は保証されません。このドキュメント、プレスリリース、または公式声明で参照されているこのパイロット機能は正式リリースされていません。特定期間内の正規リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている機能に基づいて購入をご決定ください。

パイロットについての詳細は、『Data Pipelines Implementation Guide』を参照してください。

パイロットへの参加についての詳細は、営業担当者または Salesforce カスタマーサポートまでお問い合わせください。

エディション

使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

Lightning Connect

Salesforce 組織の外部に保存されているデータをシームレスに操作するオプションが拡張されました。ユーザがビジネスの全体像をオンデマンドで、リアルタイムに、データを組織にコピーすることなく、把握できるようになります。

このセクションの内容:

[Lightning Connect の Salesforce コネクタを使用した複数の組織のデータへのアクセス](#)

Salesforce 組織間でデータを共有して、コラボレーションの効率性を高め、プロセスを向上させます。ユーザに他の組織のデータがシームレスに表示されるため、ビジネスの全体像を把握できます。Lightning Connect の Salesforce アダプタは、ポイント & クリックツールですばやく簡単に設定できます。

エディション

使用可能なエディション:
Developer Edition

有料オプションで使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Performance Edition、および
Unlimited Edition

Lightning Apex コネクタフレームワークで場所を問わずにデータにアクセス

Lightning Connect に利用可能な他のアダプタがニーズに適さない場合は、Apex Connector Framework を使用して独自のカスタムアダプタを開発できます。カスタムアダプタで外部システムからデータを取得して、ローカルでデータを合成できます。Lightning Connect がそのデータを Salesforce 外部オブジェクトに表示し、ユーザおよび Force.com プラットフォームがデータを操作します。

Lightning Connect の OData 2.0 アダプタを使用した政府および医療データへのアクセス

Lightning Connect が、Socrata Open Data Portal™ を基盤とするエンドポイントからのデータにアクセスできるようになりました。Socrata Open Data Portal は、医療データの共有や政府とその市民の協働に広く使用されています。

Lightning Connect の OData 2.0 アダプタの制限の緩和

いくつかの制限の上限値が 2 倍に引き上げられ、さらに多くの外部システムと統合できるようになりました。

外部データソースのサーバ駆動ページングの有効化

外部データの Lightning Connect クエリで、大量の結果セットがバッチやページに分割されて示されることはよくあります。サーバ駆動ページングを有効にすると、外部システムでページサイズやバッチの区切りが制御されます。外部システムのページング設定を最適化すると、クライアント駆動ページングよりも効率的にデータを組織に提供できます。

OData クエリで合計行数を要求するかどうかの制御

一部の外部システムは、`$inlinecount=allpages` システムクエリオプションをサポートしていません。Lightning Connect の OData 2.0 アダプタ経由でこれらのオブジェクトのデータにアクセスしようとすると、エラーを受信したり読み込みに時間がかかったりします。必要に応じて、指定した外部データソースの OData クエリからシステムクエリオプションを除外できるようになりました。

検索レイアウトの外部オブジェクトの名前項目のカスタマイズ

これまでは、検索レイアウトに外部オブジェクトの名前項目を含めるかどうかやその位置を変更できませんでした。今回のリリースで、検索レイアウトをカスタマイズして外部オブジェクトの名前項目を特定の位置に表示できるようになりました。

外部オブジェクトの参照関係項目に親レコードの名前を表示

これまでは、外部オブジェクトレコードの参照関係項目に親レコードのレコード ID が表示されていました。今回のリリースで、参照関係項目に、ユーザと関連性が高い親レコード名が表示されるようになりました。

外部データソースの同期の [すべて選択] チェックボックスの削除

システム管理者が外部システムからの同期に使用可能なテーブルを誤ってすべて選択したために、外部オブジェクトが組織の上限である 100 件に達することがよくありました。今回のリリースで、外部データソースの [検証して同期] をクリックするときに、同期するそれぞれのテーブルを選択することになりました。すべてのテーブルを選択するチェックボックスは今後使用できません。

Lightning Connect の Salesforce コネクタを使用した複数の組織のデータへのアクセス

Salesforce 組織間でデータを共有して、コラボレーションの効率性を高め、プロセスを向上させます。ユーザーに他の組織のデータがシームレスに表示されるため、ビジネスの全体像を把握できます。Lightning Connect の Salesforce アダプタは、ポイント & クリックツールですばやく簡単に設定できます。

Lightning Connect の Salesforce アダプタは、Force.com REST API を使用して他の組織のデータにアクセスします。ユーザーおよび Force.com プラットフォームは、外部オブジェクトを介して他の組織のデータを操作します。Lightning Connect の Salesforce アダプタについての詳細は、Salesforce ヘルプを参照してください。



例: ある Salesforce 組織に商品の在庫を保存しているとします。支社や支店に独自の組織があり、各組織が在庫数量に関する最新情報を確認できるようにしたいと考えます。Lightning Connect の Salesforce アダプタを使用すると、これらの他の組織が、適用されるアクセス制限を順守しながらデータに簡単にアクセスできます。

Lightning Apex コネクタフレームワークで場所を問わずにデータにアクセス

Lightning Connect に利用可能な他のアダプタがニーズに適さない場合は、Apex Connector Framework を使用して独自のカスタムアダプタを開発できます。カスタムアダプタで外部システムからデータを取得して、ローカルでデータを合成できます。Lightning Connect がそのデータを Salesforce 外部オブジェクトに表示し、ユーザーおよび Force.com プラットフォームがデータを操作します。

Apex から外部オブジェクトとして公開するデータのソースは問いません。次に例を示します。

- Apex、コールアウト、Web サービスコールアウト、SOQL、SOSL を使用してデータを取得する。
- データをプログラムで操作または生成する。



メモ: Apex Connector Framework の詳細なドキュメントは、2015 年 6 月に [Salesforce ヘルプ](#) および [Salesforce Developers](#) で入手できるようになります。ドキュメントの中には、英語版でしか Winter '16 まで入手できないものもあります。

Lightning Connect のカスタムアダプタを作成するには、2 つの Apex クラスを作成します。

1. 次のメソッドで外部システムにアクセスする `DataSource.Connection` クラスを作成します。

- `sync` は、外部システムのメタデータスキーマを取得して、システム管理者が Salesforce 外部オブジェクトに変換する外部テーブルを選択できるようにします。
- `query` は、ユーザーが Salesforce で外部オブジェクトを参照した場合、または外部オブジェクトへの SOQL クエリが実行された場合に外部システムからデータを取得します。
- `search` は、ユーザーが Salesforce グローバル検索を実行した場合、または外部オブジェクトへの SOSL クエリが実行された場合に外部システムからデータを取得します。

2. 次を宣言する `DataSource.Provider` クラスを作成します。

- 外部システムにアクセスするために使用する認証の種類 (OAuth、基本的なパスワード認証など)
- 外部システムがサポートする機能 (SOQL クエリ、検索および SOSL クエリ、合計行数、サーバ駆動ページングなど)
- 外部データソースにエンドポイント URL が必要かどうか
- エンドポイント URL の先頭を `https://` にする必要があるかどうか

- 関連付けられた DataSource.Connection クラス

Apex クラスが正しくコンパイルされたら、外部データソースを定義します。Type 項目で、DataSource.Provider クラス名を選択します。外部オブジェクトを作成するために同期し、Lightning Connect の OData アダプタの場合と同様にユーザのアクセス権を有効にします。

 **例:** 以下のサンプルクラスは、コールアウトと OAuth を使用して外部システムにアクセスする方法を示しています。実際の実装では、OAuth を設定するときにオフラインアクセスを要求して、Salesforce が接続の更新トークンを取得および維持できるようにするものと思われます。

DataSource.Connection クラスのサンプル

```
/**
 * Extends the DataSource.Connection class to enable
 * Salesforce to sync the external system's metadata schema
 * and to handle queries and searches of the external data.
 */
global class DriveDataSourceConnection extends
    DataSource.Connection {
    private DataSource.ConnectionParams connectionInfo;

    /**
     * Constructor for DriveDataSourceConnection.
     */
    global DriveDataSourceConnection(
        DataSource.ConnectionParams connectionInfo) {
        this.connectionInfo = connectionInfo;
    }

    /**
     * Called when the administrator clicks "Validate and Sync"
     * in the user interface for the external data source.
     */
    override global List<DataSource.Table> sync() {
        List<DataSource.Table> tables =
            new List<DataSource.Table>();
        List<DataSource.Column> columns;
        columns = new List<DataSource.Column>();
        columns.add(DataSource.Column.text('title', 255));
        columns.add(DataSource.Column.text('description', 255));
        columns.add(DataSource.Column.text('createdDate', 255));
        columns.add(DataSource.Column.text('modifiedDate', 255));
        columns.add(DataSource.Column.url('selfLink'));
        columns.add(DataSource.Column.url('DisplayUrl'));
        columns.add(DataSource.Column.text('ExternalId', 255));
        tables.add(DataSource.Table.get('googleDrive', 'title',
            columns));
        return tables;
    }

    /**
     * Called to query and get results from the external
     * system for SOQL queries, list views, and detail pages
     * for an external object that's associated with the
```

```

    *   external data source.
    *
    *   The queryContext argument represents the query to run
    *   against a table in the external system.
    *
    *   Returns a list of rows as the query results.
    **/
override global DataSource.TableResult query(
DataSource.QueryContext c){
DataSource.Filter filter = c.tableSelection.filter;
String url;
if (filter != null) {
    String cName = filter.columnName;
    if (cName != null && cName.equals('ExternalId'))
        url = 'https://www.googleapis.com/drive/v2/'
            + 'files/' + filter.columnValue;
    else
        url = 'https://www.googleapis.com/drive/v2/'
            + 'files';
} else {
    url = 'https://www.googleapis.com/drive/v2/'
        + 'files';
}

/**
 *   Filters, sorts, and applies limit and offset clauses.
 **/
List<Map<String, Object>> rows =
    DataSource.QueryUtils.process(c, getData(url));
return DataSource.TableResult.get(true, null,
    c.tableSelection.tableSelected, rows);
}

/**
 *   Called to do a full text search and get results from
 *   the external system for SOSL queries and Salesforce
 *   global searches.
 *
 *   The searchContext argument represents the query to run
 *   against a table in the external system.
 *
 *   Returns results for each table that the searchContext
 *   requested to be searched.
 **/
override global List<DataSource.TableResult> search(
    DataSource.SearchContext c){
List<DataSource.TableResult> results =
    new List<DataSource.TableResult>();

for (Integer i =0; i< c.tableSelections.size();i++){
    String entity = c.tableSelections[i].tableSelected;
    String url = 'https://www.googleapis.com/drive/v2/files'+
        '?q=fullText+contains\''+c.searchPhrase+'\'';
    results.add(DataSource.TableResult.get(

```

```

        true, null, entity, getData(url)));
    }

    return results;
}

/**
 *   Helper method to parse the data.
 *   The url argument is the URL of the external system.
 *   Returns a list of rows from the external system.
 */

public List<Map<String, Object>> getData(String url){
    HttpResponse response = getResponse(url);

    List<Map<String, Object>> rows =
        new List<Map<String, Object>>();

    Map<String, Object> m = (
        Map<String, Object>)JSON.deserializeUntyped(
            response.getBody());

    /**
     *   Checks errors.
     */
    Map<String, Object> error =
        (Map<String, Object>)m.get('error');
    if (error!=null){
        List<Object> errorsList =
            (List<Object>)error.get('errors');
        Map<String, Object> errors =
            (Map<String, Object>)errorsList[0];
        String ms = (String)errors.get('message');
        throw new DataSource.OAuthTokenExpiredException(ms);
    }

    List<Object> fileItems=(List<Object>)m.get('items');
    if (fileItems != null){
        for (Integer i=0; i< fileItems.size(); i++){
            Map<String, Object> item =
                (Map<String, Object>)fileItems[i];
            rows.add(createRow(item));
        }
    } else {
        rows.add(createRow(m));
    }

    return rows;
}

/**
 *   Helper method to populate the External ID and Display
 *   URL fields on external object records based on the 'id'
 *   value that's sent by the external system.

```



```

    *
    *   The item argument maps to the data that
    *   represents a row.
    *
    *   Returns an updated map with the External ID and
    *   Display URL values.
    */
    public Map<String, Object> createRow(
        Map<String, Object> item){
        Map<String, Object> row = new Map<String, Object>();
        for ( String key : item.keySet() ){
            if (key == 'id') {
                row.put('ExternalId', item.get(key));
            } else if (key=='selfLink'){
                row.put(key, item.get(key));
                row.put('DisplayUrl', item.get(key));
            } else {
                row.put(key, item.get(key));
            }
        }
        return row;
    }

    /**
    *   Helper method to make the HTTP GET call.
    *   The url argument is the URL of the external system.
    *   Returns the response from the external system.
    */
    public HttpResponse getResponse(String url) {
        Http httpProtocol = new Http();
        HttpRequest request = new HttpRequest();
        request.setEndPoint(url);
        request.setMethod('GET');
        request.setHeader('Authorization', 'Bearer '+
            this.connectionInfo.oauthToken);
        HttpResponse response = httpProtocol.send(request);
        return response;
    }
}

```

DataSource.Provider クラスのサンプル

```

/**
 *   Extends the DataSource.Provider base class to create a
 *   custom adapter for Lightning Connect. The class informs
 *   Salesforce of the functional and authentication
 *   capabilities that are supported by or required to connect
 *   to an external system.
 */
global class DriveDataSourceProvider
    extends DataSource.Provider {

    /**
    *   Declares the types of authentication that can be used
    */
}

```

```

    *   to access the external system
    **/
override global List<DataSource.AuthenticationCapability>
    getAuthenticationCapabilities() {
List<DataSource.AuthenticationCapability> capabilities =
new List<DataSource.AuthenticationCapability>();
capabilities.add(DataSource.AuthenticationCapability.OAUTH);
capabilities.add(
    DataSource.AuthenticationCapability.ANONYMOUS);
return capabilities;
}

/**
 *   Declares the functional capabilities that the
 *   external system supports.
 **/
override global List<DataSource.Capability>
    getCapabilities() {
List<DataSource.Capability> capabilities =
    new List<DataSource.Capability>();
capabilities.add(DataSource.Capability.ROW_QUERY);
capabilities.add(DataSource.Capability.SEARCH);
return capabilities;
}

/**
 *   Declares the associated DataSource.Connection class.
 **/
override global DataSource.Connection getConnection(
    DataSource.ConnectionParams connectionParams) {
    return new DriveDataSourceConnection(connectionParams);
}
}

```

Lightning Connect の OData 2.0 アダプタを使用した政府および医療データへのアクセス

Lightning Connect が、Socrata Open Data Portal™ を基盤とするエンドポイントからのデータにアクセスできるようになりました。Socrata Open Data Portal は、医療データの共有や政府とその市民の協働に広く使用されています。

「Lightning Connect: OData 2.0」という種類の外部データソースに「特殊な互換性」項目が設定されました。この項目を Socrata に設定すると、Lightning Connect が Socrata 固有の要件に合わせて外部データへのアクセス方法を調整します。Salesforce ヘルプの「Lightning Connect — OData 2.0 アダプタに関する Socrata™ の考慮事項」を参照してください。

Lightning Connect の OData 2.0 アダプタの制限の緩和

いくつかの制限の上限値が2倍に引き上げられ、さらに多くの外部システムと統合できるようになりました。

	以前の制限	新しい制限
OData の最大 HTTP 要求サイズ	4 MB	8 MB
OData の最大 HTTP 応答サイズ	4 MB	8 MB
OData の最大結果セットサイズ	8 MB	16 MB

外部データソースのサーバ駆動ページングの有効化

外部データの Lightning Connect クエリで、大量の結果セットがバッチやページに分割されて示されることはよくあります。サーバ駆動ページングを有効にすると、外部システムでページサイズやバッチの区切りが制御されます。外部システムのページング設定を最適化すると、クライアント駆動ページングよりも効率的にデータを組織に提供できます。

外部システムのページング設定により、外部システムのパフォーマンスを最適化して、組織の外部オブジェクトの読み込み時間を短縮できます。また、ユーザや Force.com プラットフォームが結果セットのページを移動している間も外部データセットを変更できます。通常、サーバ駆動ページングはバッチの区切りを調節して、データセットの変更にクライアント駆動ページングよりも効率的に対応します。

外部データソースのサーバ駆動ページングを有効にすると、外部システムがクエリで指定されたバッチやページサイズを無視します。サーバ駆動ページングを有効にする方法は、Lightning Connect のアダプタによって異なります。

- Salesforce アダプタは常にサーバ駆動ページングを使用します。
- OData 2.0 アダプタのサーバ駆動ページングを有効にするには、外部データソースの「サーバ駆動のページ設定」を選択します。

デフォルトで、OData 2.0 アダプタは、特に OData 要求で \$top および \$skip システムクエリオプションを使用して、クライアント駆動ページングを使用します。

- Apex Connector Framework を使用して作成したカスタムアダプタのサーバ駆動ページングを有効にするには、アダプタの `DataSource.Provider` クラスにある `getCapabilities` メソッドの `QUERY_PAGINATION_SERVER_DRIVEN` 機能を宣言します。また、Apex コードで、結果の次のバッチを取得するためのクエリトークンを生成する必要があります。

デフォルトで、カスタムアダプタは、特に結果セットのページの移動に `LIMIT` および `OFFSET` 句が設定された `queryMore()` を使用して、クライアント駆動ページングを使用します。カスタムアダプタについての詳細は、「[Lightning Apex コネクタフレームワークで場所を問わずにデータにアクセス](#)」(ページ 212)を参照してください。

OData クエリで合計行数を要求するかどうかの制御

一部の外部システムは、`$inlinecount=allpages` システムクエリオプションをサポートしていません。Lightning Connect の OData 2.0 アダプタ経由でこれらのオブジェクトのデータにアクセスしようとすると、エラーを受信したり読み込みに時間がかかったりします。必要に応じて、指定した外部データソースの OData クエリからシステムクエリオプションを除外できるようになりました。

デフォルトで、Salesforce は、各 Odata 要求に `$inlinecount=allpages` システムクエリオプションを指定して送信します。その応答には、要求で指定された `$filter` システムクエリオプションを適用後の合計行数が含まれます。

`$inlinecount=allpages` を無効にするには、外部データソースの「要求の行数」を選択解除します。無効にした場合は、外部データソースおよび関連付けられている外部オブジェクトが、合計行数を必要とする SQL COUNT () 集計関数をサポートしません。

検索レイアウトの外部オブジェクトの名前項目のカスタマイズ

これまでの、検索レイアウトに外部オブジェクトの名前項目を含めるかどうかやその位置を変更できませんでした。今回のリリースで、検索レイアウトをカスタマイズして外部オブジェクトの名前項目を特定の位置に表示できるようになりました。

デフォルトで、外部オブジェクトの「外部 ID」標準項目は名前項目です。ただし、異なる項目の「名前項目」属性を選択して、この項目を外部オブジェクトの名前項目に設定できます。

外部オブジェクトの参照関係項目に親レコードの名前を表示

これまでの、外部オブジェクトレコードの参照関係項目に親レコードのレコード ID が表示されていました。今回のリリースで、参照関係項目に、ユーザと関連性が高い親レコード名が表示されるようになりました。

外部データソースの同期の「すべて選択」チェックボックスの削除

システム管理者が外部システムからの同期に使用可能なテーブルを誤ってすべて選択したために、外部オブジェクトが組織の上限である 100 件に達することがよくありました。今回のリリースで、外部データソースの「検証して同期」をクリックするときに、同期するそれぞれのテーブルを選択することになりました。すべてのテーブルを選択するチェックボックスは今後使用できません。

Process Builder: データの利用の拡大

数式、新しい数式関数、項目を更新するさらなるオプションへのサポートが改善され、ビジネスプロセスの自動化のオプションが拡張されています。複数選択リストを使用できる場所が増え、12 時間待機しなくてもプロセスを削除できるようになりました。また、ユーザインターフェースが更新され、バージョンの管理、項目の検索および参照、Chatter メッセージの作成が容易になりました。

このセクションの内容:

数式の値を比較して返す

新しくサポートされた関数を使用して、Process Builder の値を比較して返します。

数式および日付関数を使用した項目の更新

プロセスで項目を更新するときに、数式および日付関数を値として使用できるようになりました。

システム指定の値の参照

数式にシステム変数を使用して、組織の情報を簡単に参照します。

複数選択リストを使用できる場所の増加

これまで複数選択リストは、レコードを作成および更新する場合のみサポートされていました。プロセスの条件、数式、クイックアクションでも複数選択リストを使用できるようになりました。

レコード更新時の追加条件の定義

プロセスのレコードの更新時に、条件を使用して更新するレコードを絞り込めるようになりました。

より多くの値型を使用した項目の更新

項目の更新のオプションが追加され、値型を指定しやすくなりました。

プロセスの即時削除

プロセスを無効にした後、削除するまで 12 時間待機する必要がなくなりました。

Process Builder ユーザーインターフェースの機能強化

Process Builder ユーザーインターフェースが改善され、バージョンの管理、項目の検索および参照、Chatter メッセージの作成などが容易になりました。

数式の値を比較して返す

新しくサポートされた関数を使用して、Process Builder の値を比較して返します。

次の新しい関数を数式で使えるようになりました。

- INCLUDES
- ISCHANGED
- ISNEW
- ISPICKVAL
- PRIORVALUE

たとえば、`ISCHANGED([Case].ContactId)` を使用して、ケースの取引先責任者が変更になったかどうかを確認します。この数式の評価が `true` の場合は、プロセスが関連するアクションを実行します。

 **メモ:** 選択リスト項目は、数式ではテキスト項目として評価されなくなりました。プロセスで選択リスト項目を参照する数式 (`[Account].Industry = 'Agriculture'` など) を使用している場合は、代わりに `TEXT` または `ISPICKVAL` を使用する数式 (`ISPICKVAL([Account].Industry) = 'Agriculture'` など) に変更することをお勧めします。

数式および日付関数を使用した項目の更新

プロセスで項目を更新するときに、数式および日付関数を値として使用できるようになりました。

次のような操作が可能です。

- 数式を使用して、価格の割引、手数料率、送料などの値を計算する。
- 日付項目に入力するときに相対日付関数 (`NOW()`、`TODAY()` など) を使用する、またはレコードを作成するときに将来の日付を設定する。

たとえば、`ISCHANGED([Case].ContactId)` を使用して、ケースの取引先責任者が変更になったかどうかを確認します。この数式の評価が `true` の場合は、プロセスが関連するアクションを実行します。

次の例では、数式を使用して、ケースに関連する `ToDo` レコードの期日項目を更新する方法を示します。`ToDo` 期日がケースクローズの 5 日後に設定されます。

Field*	Type*	Value*
Due Date Only	Formula	[Case].ClosedDate + 5
+ Add Row		

システム指定の値の参照

数式にシステム変数を使用して、組織の情報を簡単に参照します。

システム変数を追加するには、数式を作成するときに[システム変数]をクリックします。

Insert:	Field +	Function +	System Variable +	Operator ▼
<code>[Case].ContactId <></code>				

数式に次のシステム変数種別を使用できます。

- \$API
- \$Organization
- \$Profile
- \$System
- \$User
- \$UserRole



例: 取引先責任者レコードが別のユーザによって変更された場合に、プロセスによってそのレコードの所有者に通知されます。数式条件にシステム変数を使用してユーザの値を参照します。

`[Case].ContactId <> $User.ContactId`

この数式の評価が true の場合は、プロセスによって取引先責任者レコードの所有者に通知されます。

詳細は、Salesforce ヘルプの「グローバル変数とは」を参照してください。

複数選択リストを使用できる場所の増加

これまで複数選択リストは、レコードを作成および更新する場合のみサポートされていました。プロセスの条件、数式、クイックアクションでも複数選択リストを使用できるようになりました。

プロセスで取引先の事業所が移転したかどうかを確認するとします。いずれかの事業所の所在地がワシントン州、オレゴン州、カリフォルニア州の場合は、プロセスによって West Coast (西海岸) 営業マネージャに通知されます。

取引先の事業所の所在地に複数選択リストのこれらの値のいずれかが含まれているかどうかを、次の方法で確認します。

- 数式を使用する。

```
INCLUDES ( [Account].Offices__c, "Washington" ) || INCLUDES ( [Account].Offices__c, "Oregon" ) || INCLUDES ( [Account].Offices__c, "California" )
```

- プロセスに条件を設定する。

Set Conditions

	Field*	Operator*	Type*	Value*
1	[Account].Offices__c	Equals	MultiPicklist	Washington
2	[Account].Offices__c	Equals	MultiPicklist	Oregon
3	[Account].Offices__c	Equals	MultiPicklist	California

+ Add Row

Conditions *

☐ All of the conditions are met (AND)
☒ Any of the conditions are met (OR)
☐ Customize the logic

レコード更新時の追加条件の定義

プロセスのレコードの更新時に、条件を使用して更新するレコードを絞り込めるようになりました。

[レコードを更新] アクションに条件を追加する手順は、次のとおりです。

- [更新されたレコードがすべての条件に合致する] オプションを選択します。
- 更新されるレコードの絞り込みに使用する条件を設定します。

例: プロセスで、子ケースの状況が変更されたときに親ケースの状況も更新するとします。条件 (2) を指定できるようになったため、親ケースの状況が [保留中] (3) に設定されているときは親ケース (1) を更新しません。

より多くの値型を使用した項目の更新

項目の更新のオプションが追加され、値型を指定しやすくなりました。

使用可能な値型は選択した項目によって異なりますが、主として次のものがあります。

- **Currency** — 通貨値を手動で入力します。
- **Boolean** — true または false の boolean 値を選択します。
- **DateTime** または **Date** — 日付/時間または日付値を手動で入力します。
- **Formula** — 数式を作成します。
- **Global Constant** — グローバル定数を選択して値を null または空の文字列に設定します。たとえば、\$GlobalConstant.Null を選択します。
- **ID** — Salesforce の ID 値 (例:003000000003T2PGAA0) を手動で入力します。
- **MultiPicklist** — 1つ以上の複数選択リスト値を選択します。
- **Number** — 数値を手動で入力します。
- **Picklist** — 選択リスト値を選択します。
- **Reference** — レコードまたは関連レコードの項目を選択します。
- **String** — 文字列値を手動で入力します。



例: 親取引先項目を参照する場合は [Reference] 値型を選択し、選択リスト値を選択する場合は [選択リスト] 値型を選択します。

	Field*	Operator*	Type*	Value*
1	[Account].Id	Equals	Reference	[Account].ParentId
2	[Account].Industry	Equals	Picklist	Education

+ Add Row

プロセスの即時削除

プロセスを無効にした後、削除するまで 12 時間待機する必要がなくなりました。

次に該当する場合はプロセスを削除できます。

- 有効でない
- 待機中のスケジュール済みアクションがない

プロセスに待機中のスケジュール済みアクションがある場合は、これらのアクションが実行されるまで待機するか、アクションを削除します。

関連トピック:

[フローバージョンの即時の削除](#)

[Salesforce ヘルプ: 未実行のスケジュール済みアクションの削除](#)

Process Builder ユーザーインターフェースの機能強化

Process Builder ユーザーインターフェースが改善され、バージョンの管理、項目の検索および参照、Chatter メッセージの作成などが容易になりました。

お知らせページの更新

お知らせページが更新され、使用開始に役立つリソースが追加されました。お知らせページはプロセスがないときにのみ表示されるため、プロセス作成を開始する前にこれらのリソースを確認します。

バージョン管理の簡易化

プロセス管理ページに直接バージョンリストを展開して、プロセスのバージョンを表示、削除、開く操作ができるようになりました。

プロセスのバージョンは新しい順にリストされ、作成順を示すバージョン番号が付いています。プロセス名 (1) の任意の場所をクリックしてリストを展開し、プロセスを開くか削除します。

My Processes					New
3 Items					
PROCESS ▲	DESCRIPTION	OBJECT	LAST MODIFIED	STATUS	ACTIONS
▼ Case Escalation 1					
Version 3: Case Escalation	Tested and approved	Case	4/2/2015	Active	
Version 2: Case Escalation ...	Changed task fields	Case	4/2/2015	Inactive	Delete
Version 1: Case Escalation	Follow up with account owner	Case	4/2/2015	Inactive	Delete
▶ Opportunity Management					
▶ Update Child Contacts					

詳細オプションの表示と非表示

詳細オプションがサイドパネルの展開可能な領域に移されたため、プロセスの重要な設定に焦点を絞ることができます。[詳細]をクリックすると、詳細オプションが表示または非表示になります。

詳細オプションは、次の場合に使用できます。

- プロセスにオブジェクトを追加する場合
- プロセスに条件を追加する場合

Object *

Case

Start the process *

☐ only when a record is created

☒ when a record is created or edited

▼ Advanced

Recursion - Allow process to evaluate a record multiple times in a single transaction? ⓘ

☐ Yes

これらのオプションがプロセスにどのように影響するかを検討することが重要と思われるため、これらのオプションが切り離されました。実際、これらのオプションを選択する前に Salesforce ヘルプを確認して理解しておくことを強くお勧めします。

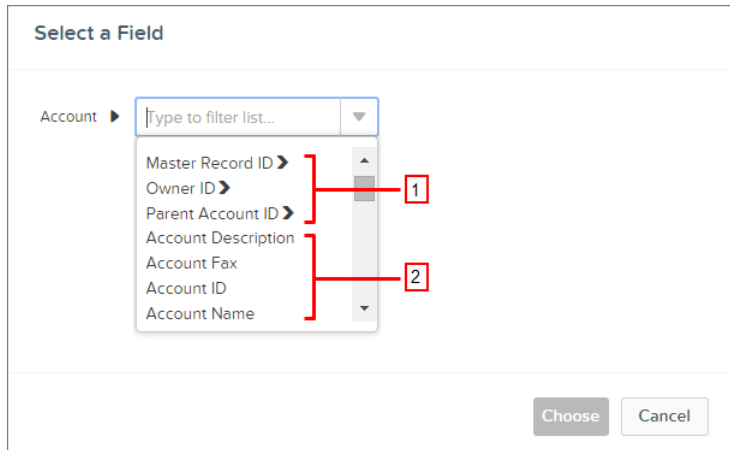
「設定済み」演算子の削除

条件を定義するときに、今後は「設定済み」演算子を使用できません。この演算子をプロセス条件で使用するときに、一貫性に欠ける結果が生じることがあるため削除されました。

項目の検索および参照の簡易化

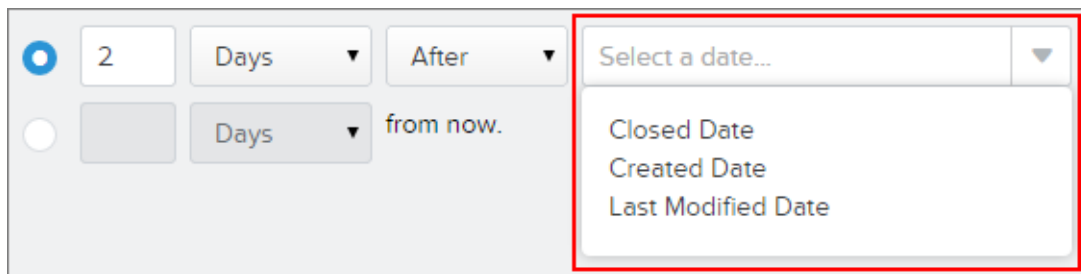
項目がグループ化され、大幅に検索しやすくなりました。

- 関連レコードを参照する項目 (1)
- 現在のレコードの項目 (2)



スケジュール済みアクションの日付をドロップダウンリストから選択

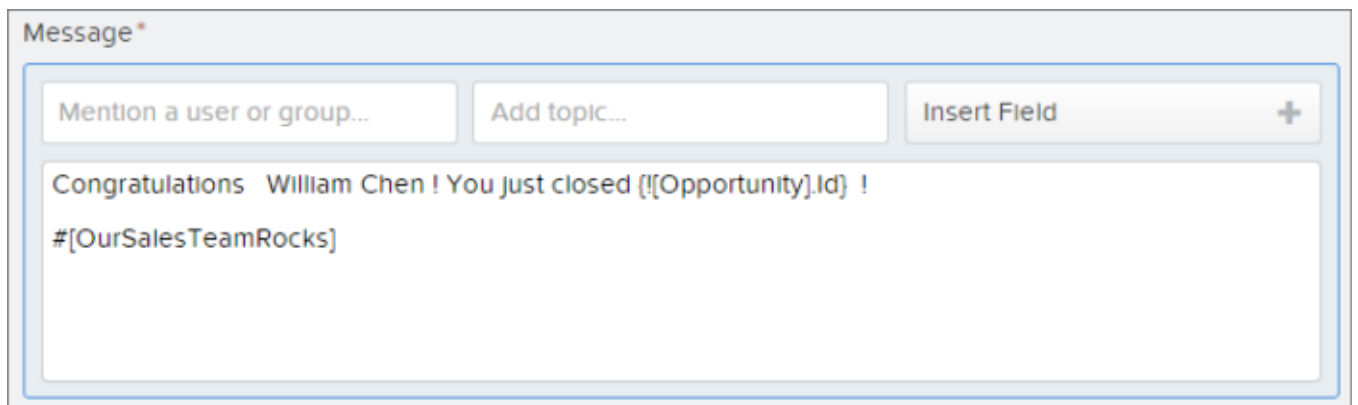
スケジュール済みアクションの実行時点を選択する方法が簡略化されました。日付を、別個のダイアログではなく、リストから選択できます。項目に入力して選択可能な値のリストを絞り込むこともできます。



Chatter への投稿アクションの更新

Chatter への投稿アクションで Chatter メッセージを作成する場合のデザインが若干変更されました。メンション、差し込み項目、トピックの挿入が簡潔になりました。

Spring '15 の [Chatter に投稿] のメッセージ領域は次のように表示されていました。



Summer '15 ではメッセージ領域が次のように更新されました。

また、メッセージ項目にメンションが青のテキストで表示されます。

プロセスの不要なアクションの回避方法を説明する新しい動画の追加

プロセスの不要なアクションの回避に関する詳細情報の動画が追加されました。動画を見るには、プロセスの基準を定義するときに情報バブルにマウスポインタを置き、[動画] をクリックします。このオプションは、サイドパネルの [詳細] 領域にあります。

Visual Workflow: 新しい変数および数式、削除の簡素化

無効化されたフローを削除する前の 12 時間の待機が排除されました。また、選択リスト値および複数選択リスト値を検証できるようになりました。さらに、フロー障害メールに、フローで生じた問題のトラブルシューティングに役立つ詳細が追加されました。

このセクションの内容:

フローの選択リスト値の検証

選択リスト値を表すフローの変数を作成できるようになりました。そのため、フロー数式の `ISPICKVAL()` 関数のサポートが追加されました。

フローの複数選択リスト値の検証

複数選択リスト値を表すフローの変数を作成できるようになりました。そのため、フロー数式の `INCLUDES()` 関数のサポートが追加されました。

フローバージョンの即時の削除

フローバージョンを無効にした後、削除するまで 12 時間待機する必要がなくなりました。フローバージョンが有効でなく、一時停止中または待機中のインタビューがなければ削除できます。

エディション

使用可能なエディション:

Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

フローのグローバル変数の参照

Visual Workflow で Salesforce のグローバル変数のサブセットがサポートされるようになりました。クエリを使用せず、グローバル変数を参照して、組織またはフローを実行しているユーザーに関する情報にアクセスします。これまでは、検索要素を使用してこの一部の情報にアクセスすることができました。検索要素とは異なり、グローバル変数は SOQL クエリの制限にカウントされません。

フローインタビューが失敗までに辿ったパスの確認 (ベータ)

フローインタビューに失敗すると、フロー作成者が「未対応の処理エラーが発生しました.....」という件名のメールを受信します。このメールには、どこで問題が生じたかを説明するメッセージが記されています。インタビューで実行された各フロー要素のリストが追加されたため、インタビューが辿った正確なパスを確認できます。

フローの選択リスト値の検証

選択リスト値を表すフローの変数を作成できるようになりました。そのため、フロー数式の `ISPICKVAL()` 関数のサポートが追加されました。

選択リストの変数を作成するには、変数を通常どおり作成します。[データ型] には、[選択リスト] を選択します。このデータ型はコレクション変数には使用できず、デフォルト値をサポートしません。

`ISPICKVAL()` は次の形式にする必要があります。この `picklist_value` は、選択リストの変数または `sObject` の選択リスト項目への参照で、`string` は手動で入力された値です。

```
ISPICKVAL ( picklist_value, "string" )
```

 **例:** 次の数式は、商談が既存のビジネスかどうかおよび不成立になったかどうかをチェックします。

```
ISPICKVAL ( {!varOpptyType}, "Existing Business" )
&& ISPICKVAL ( {!varOpptyStage}, "Closed Lost" )
```

フローの複数選択リスト値の検証

複数選択リスト値を表すフローの変数を作成できるようになりました。そのため、フロー数式の `INCLUDES()` 関数のサポートが追加されました。

複数選択リストの変数を作成するには、変数を通常どおり作成します。[データ型] には、[選択リスト(複数選択)] を選択します。このデータ型はコレクション変数には使用できず、デフォルト値をサポートしません。

`INCLUDES()` は次の形式にする必要があります。この `mvp_value` は、複数選択リストの変数または `sObject` の複数選択リスト項目への参照で、`string` は手動で入力された値です。

```
INCLUDES ( mvp_value, "string" )
```

 **例:** 次の数式は、複数選択リストのリソースに「黄」、「青」、「緑」が含まれるかどうかをチェックします。

```
INCLUDES ( {!mspvar} , "yellow" )
&& INCLUDES ( {!mspvar} , "blue" )
&& INCLUDES ( {!mspvar} , "green" )
```

フローバージョンの即時の削除

フローバージョンを無効にした後、削除するまで 12 時間待機する必要がなくなりました。フローバージョンが有効でなく、一時停止中または待機中のインタビューがなければ削除できます。

フローバージョンに一時停止中または待機中のインタビューがある場合は、これらのインタビューが終了するまで待機するかインタビューを削除します。

関連トピック:

[プロセスの即時削除](#)

[Salesforce ヘルプ: 一時停止中または待機中のフローインタビューの削除](#)

フローのグローバル変数の参照

Visual Workflow で Salesforce のグローバル変数のサブセットがサポートされるようになりました。クエリを使用せず、グローバル変数を参照して、組織またはフローを実行しているユーザに関する情報にアクセスします。これまででは、検索要素を使用してこの一部の情報にアクセスすることができました。検索要素とは異なり、グローバル変数は SOQL クエリの制限にカウントされません。

フロー数式には次のグローバル変数とその差し込み項目を使用できます。

- \$Api
- \$Label — 組織にカスタム表示ラベルが存在する場合にのみ使用できます。
- \$Organization
- \$Permission — 組織にカスタム権限が存在する場合にのみ使用できます。
- \$Profile
- \$Setup — 組織に階層カスタム設定が存在する場合にのみ使用できます。
- \$System
- \$User
- \$UserRole

Cloud Flow Designer のグローバル変数をフロー数式に追加するには、[リソース] ドロップダウンリストを開いて、[グローバル変数とシステム変数] セクションを展開します。

 **例:** フローに、実行しているユーザへの挨拶が表示されます。

かつては、`?userId={!User.Id}` をフローの URL の末尾に追加し、レコード検索でその ID を参照して `FirstName` と `LastName` の項目値を取得していました。

グローバル変数ではその代わりに、次の式を使用して数式を作成します。

```
{!$User.FirstName} & " " & {!$User.LastName}
```

フローインタビューが失敗までに辿ったパスの確認 (ベータ)

フローインタビューに失敗すると、フロー作成者が「未対応の処理エラーが発生しました.....」という件名のメールを受信します。このメールには、どこで問題が生じたかを説明するメッセージが記されています。インタビューで実行された各フロー要素のリストが追加されたため、インタビューが辿った正確なパスを確認できます。

たとえば、フローに決定要素がある場合、このリストを見てインタビューが辿ったルート調べます。

 **メモ:** このリリースには、フロー障害メールのベータバージョンが含まれています。本番品質ではありませんが、既知の制限があります。[IdeaExchange](#) でフィードバックをお寄せください。

メールの冒頭に生じたエラーと各エラーが生じた要素が記されます。フローで障害コネクタが使用されている場合は、インタビューが完了する前に複数のエラーが発生する可能性があります。

メールには、フローおよび失敗したインタビューの詳細と、インタビューで実行された要素のリストも記載されます。

- 失敗した要素に障害コネクタがある場合は、インタビューが次のエラーまで、あるいは実行する要素がなくなるまで続行されます。必ずしもリストの末尾にある要素が失敗した要素とは限りません。実際、複数の要素が失敗している可能性があります。
- 失敗した要素に障害コネクタがない場合は、その要素でインタビューが停止します。メールのリストの末尾にある要素が失敗した要素です。

要素のリストを見て、フローインタビューが辿った正確なパスを判断します。たとえば、決定要素でインタビューがどのルートに進んだのかを判断します。

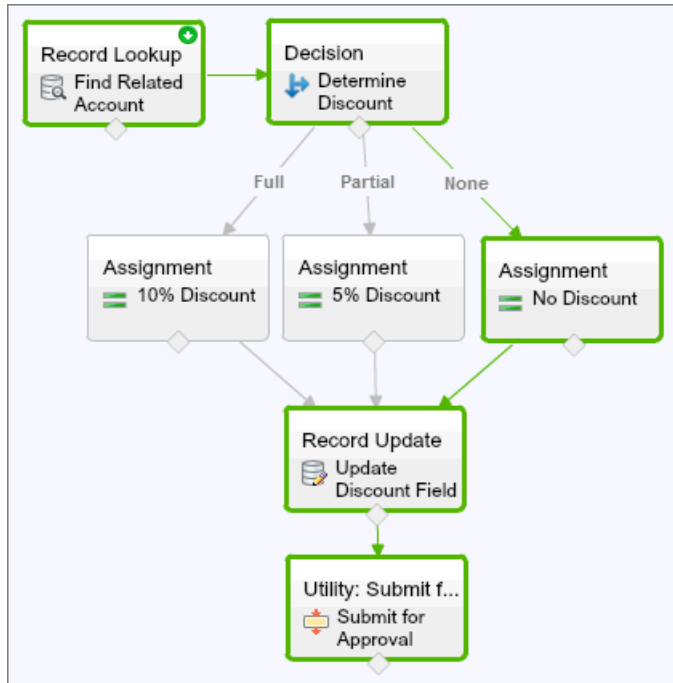
 **例:** フローは、取引先の年間売上に基づいて商談の割引を計算します。このフローのインタビューを実行しますが、失敗します。受信した障害メールの冒頭に次のエラーメッセージが記載されています。

```
An error occurred at element Submit_Record.  
No applicable approval process was found.
```

続いて、インタビューで実行された要素のリストが示されます。

```
Record Lookup: Find_Acct  
Decision: Determine_Discount  
Assignment: No_Discount  
Record Update: Update_Discount_Field  
Subflow: Submit_for_Approval  
Submit for Approval: Submit_Record
```

このリストから、インタビューが緑で強調表示されたパスを辿ったことがわかります。フローの「Submit_for_Approval」というサブフローでインタビューが失敗しています。



グローバリゼーション

グローバリゼーションツールは、システム管理者が、通貨、言語、翻訳されたコンテンツなど、国ごとに異なるリソースを管理するのに役立ちます。

このセクションの内容:

マルチ通貨組織が1つの通貨のみを使用する場合の通貨記号の表示

マルチ通貨が有効になっているが、1つの通貨しか使用しない組織では、ISOコードと通貨記号のどちらを使用するかを選択します。マルチ通貨が有効になっている組織には、通貨記号の代わりにISOコードが表示されます。ただし、マルチ通貨組織が1つの通貨のみを使用する場合は、通貨記号を表示するように設定できます。

59の新しいロケールからの選択

ロケール設定によって、日時、ユーザの名前、住所、数字にカンマやピリオドを使用するかどうかの表示形式が決まります。単一通貨組織の場合、[組織情報]ページの[通貨]選択リストで、括弧内に国名が記載されたロケール名を選択すると、組織のデフォルト通貨も設定されます。Salesforceのロケールが拡大されました。

マルチ通貨組織が1つの通貨のみを使用する場合の通貨記号の表示

マルチ通貨が有効になっているが、1つの通貨しか使用しない組織では、ISOコードと通貨記号のどちらを使用するかを選択します。マルチ通貨が有効になっている組織には、通貨記号の代わりにISOコードが表示されます。ただし、マルチ通貨組織が1つの通貨のみを使用する場合は、通貨記号を表示するように設定できます。

通貨記号を表示するには、[設定]で「ユーザインターフェース」を検索し、[ユーザインターフェース設定]ページの[通貨表示設定]セクションで「ISOコードではなく通貨記号を表示する」を選択します。組織で後から他の通貨も有効にすると、ISOコードが表示され、この設定が使用できなくなります。この設定は、標準のSalesforceユーザインターフェースにのみ適用されます。

組織でのマルチ通貨の使用については、Salesforceヘルプの「マルチ通貨の管理」を参照してください。

エディション

使用可能なエディション:

Group Edition、
Professional Edition、
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、
Developer Edition、および
Database.com Edition

59 の新しいロケールからの選択

ロケール設定によって、日時、ユーザの名前、住所、数字にカンマやピリオドを使用するかどうかの表示形式が決まります。単一通貨組織の場合、[組織情報]ページの[通貨]選択リストで、括弧内に国名が記載されたロケール名を選択すると、組織のデフォルト通貨も設定されます。Salesforceのロケールが拡大されました。

組織のロケールを変更するには、[設定]で「組織情報」を検索します。[組織情報]ページで、[編集]をクリックし、[地域のデフォルト値]ドロップダウンメニューからロケールを選択して、[保存]をクリックします。次のロケールが追加されました。

エディション

使用可能なエディション:

Group Edition、
Professional Edition、
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、
Developer Edition、および
Database.com Edition

ISO コード	ロケール名
en_UG	英語(ウガンダ)
en_KY	英語(ケイマン諸島)
en_TT	英語(トリニダード・トバゴ)
ta_LK	タミル語(スリランカ)
en_SH	英語(セントヘレナ)
so_DJ	ソマリ語(ジブチ)
dz_BT	ゾンカ語(ブータン)
fr_HT	フランス語(ハイチ)
en_SX	英語(シントマールテン(オランダ領))
en_SL	英語(シエラレオネ)

ISO コード	ロケール名
en_SC	英語 (セイシェル)
en_FK	英語 (フォークランド諸島)
en_MW	英語 (マラウイ)
en_ER	英語 (エリトリア)
en_PG	英語 (パプアニューギニア)
en_AG	英語 (アンチグアバーブーダ)
en_GI	英語 (ジブラルタル)
en_RW	英語 (ルワンダ)
fa_IR	ペルシア語 (イラン)
en_BW	英語 (ボツワナ)
en_BS	英語 (バハマ)
en_VU	英語 (バヌアツ)
ti_ET	ティグリニア語 (エチオピア)
en_FJ	英語 (フィジー)
pt_ST	ポルトガル語 (サントメ・プリンシペ)
fr_WF	フランス語 (ワリー・エ・フトゥーナ諸島)
en_JM	英語 (ジャマイカ)
en_MG	英語 (マダガスカル)
fr_MR	フランス語 (モーリタニア)
en_WS	英語 (サモア)
rn_BI	ルンディ語 (ブルンジ)
fr_KM	フランス語 (コモロ)
fr_GN	フランス語 (ギニア)
en_SB	英語 (ソロモン諸島)
my_MM	ビルマ語 (ミャンマー [ビルマ])
pt_CV	ポルトガル語 (カーボベルデ)
en_KE	英語 (ケニア)
nl_AW	オランダ語 (アルーバ)

ISO コード	ロケール名
pt_MZ	ポルトガル語 (モザンビーク)
yo_BJ	ヨルバ語 (ベナン)
en_LR	英語 (リベリア)
en_MU	英語 (モーリシャス)
en_BZ	英語 (ベリーズ)
lu_CD	ルバ・カタンガ語 (コンゴ - キンシャサ)
es_CU	スペイン語 (キューバ)
en_GM	英語 (ガンビア)
en_CM	英語 (カメルーン)
uz_Latn_UZ	ウズベク語 (LATN、UZ)
en_GY	英語 (ガイアナ)
ps_AF	パシュトウ語 (アフガニスタン)
ne_NP	ネパール語 (ネパール)
en_NA	英語 (ナミビア)
so_SO	ソマリ語 (ソマリア)
lo_LA	ラオ語 (ラオス)
en_SZ	英語 (スワジランド)
en_TO	英語 (トンガ)
en_TZ	英語 (タンザニア)
ko_KP	韓国語 (北朝鮮)
sr_RS	セルビア語 (セルビア)

完全なリストについては、Salesforce ヘルプの「サポートされているロケール」を参照してください。

監視

イベント監視とログインフォレンジックの更新により、組織でのユーザ活動の追跡機能が改善されます。さらに、Apex 制限イベントとデータ漏洩検出の2つの新しいパイロットプログラムも導入されました。

このセクションの内容:

イベント監視機能の更新

イベント監視には、組織のイベントを追跡および分析するためのさらに多くの機能が追加されました。CPU 時間とデータベース要求時間を監視してパフォーマンスを分析し、データベースまたはコードでボトルネックが発生しているかどうかを確認できます。

エディション

使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

イベント監視機能の更新

イベント監視には、組織のイベントを追跡および分析するためのさらに多くの機能が追加されました。CPU 時間とデータベース要求時間を監視してパフォーマンスを分析し、データベースまたはコードでボトルネックが発生しているかどうかを確認できます。

さらに、新しいログ行 `QUEUED_EXECUTION_EVENT` では、組織のキュー内にあるジョブ (Apex 一括処理ジョブなど) を追跡できます。

組織の監視機能を拡張できる方法についての詳細は、EventLogFile オブジェクトリファレンスの Salesforce ヘルプの「サポートされているイベントタイプ」を参照してください。

エディション

使用可能なエディション:
Developer Edition、
Enterprise Edition、
Performance Edition、および
Unlimited Edition

組織間データ共有

組織間データ共有は、Lightning Connect の Salesforce アダプタに取って代わられました。

このセクションの内容:

組織間データ共有パイロットの使用終了

Summer'15 以降、新しい組織では組織間データ共有パイロットプログラムを使用できません。この機能は、Lightning Connect の Salesforce アダプタに取って代わられました。組織間データ共有をすでに使用している組織は引き続きアクセスできますが、Lightning Connect に移行することをお勧めします。

エディション

使用可能なエディション:
Developer Edition

組織間データ共有パイロットの使用終了

Summer'15 以降、新しい組織では組織間データ共有パイロットプログラムを使用できません。この機能は、LightningConnect の Salesforce アダプタに取って代わられました。組織間データ共有をすでに使用している組織は引き続きアクセスできますが、Lightning Connect に移行することをお勧めします。

詳細は、「[Lightning Connect の Salesforce コネクタを使用した複数の組織のデータへのアクセス](#)」(ページ 212)を参照してください。

セキュリティと ID

セキュリティを使用して、データとアプリケーションの両方を保護します。これらの機能では、ユーザ ID やアクセス管理も提供されます。

このセクションの内容:

[プラットフォームの暗号化を使用したデータ保護要件への準拠 \(正式リリース\)](#)

プラットフォームの暗号化では、一般的な規制要件に準拠するため機密データが暗号化されます。

[データレジデンシーオプション \(DRO\) 機能の廃止](#)

データレジデンシーオプションソリューションは、2015 年 8 月 15 日をもって終了します。この日付以降は、新しいインストールはサポートされず、既存のインストールのサポートも停止されます。DRO ソリューションを引き続き使用することはできますが、今後の Salesforce リリースとの互換性については保証されません。

[\[ログイン IP アドレスの制限\] の IP アドレスの継続的な適用](#)

[セッションの設定] の [すべての要求でログイン IP アドレスの制限を適用] オプションは、ユーザが Salesforce にアクセスできる IP アドレスを [ログイン IP アドレスの制限] で定義された IP アドレスのみに制限します。このオプションは、ログイン IP アドレスが制限されたすべてのユーザプロフィールに影響します。

[ユーザログインの地理的な場所の追跡](#)

[ログイン履歴] ページまたは [セッション管理] ページから、あるいは LoginGeo オブジェクトをクエリすることで、ユーザログインの IP アドレスの地理的な場所を追跡できるようになりました。

[ログイン履歴による ID 別の認証サービスの追跡](#)

認証サービス ID がユーザのログイン履歴に関連付けられるようになりました。たとえば、この追加により、ログインイベントの SAML または認証プロバイダ設定を追跡するレポートを開発者が作成できます。

[外部データソースおよび指定ログイン情報の簡略化された OAuth フロー](#)

以前は外部データソースおよび指定ログイン情報の OAuth フローで、ユーザが 2 つの同意画面 (1 つは外部システム用、もう 1 つは Salesforce 用) で [許可] のクリックを必要とする場合があります。Salesforce 同意画面が表示されなくなり、認証プロセスが簡略化されました。

[OpenID Connect を使用する並行アプリケーションへの 1 回のみのログイン](#)

ユーザがログインし Salesforce ユーザデータにアクセスするアプリケーションを承認したら、他のアプリケーションを承認するときに再度ログインするよう求められることはありません。この動作は、OpenID Connect (ユーザが別の Salesforce アプリケーションにログインしている場合は OAuth) を使用するシングルサインオンに適用されます。

[ファイルまたは URL からのシングルサインオン設定の作成](#)

手動ではなく、XML ファイルまたは公開 URL から設定をインポートしてシングルサインオンの SAML を設定できます。これにより設定が合理化され、ID プロバイダからの設定を簡単に使用できます。

コミュニティまたはカスタムドメインの SAML メタデータ URL へのアクセス

コミュニティまたはカスタムドメインの SAML 設定情報を、公開 URL 経由でサービスプロバイダと共有できます。URL は、Salesforce への接続用にサービスプロバイダでシングルサインオンを設定するために使用できるメタデータを指し示します。

Google および LinkedIn の認証プロバイダのエンドポイントの編集

Google または LinkedIn の認証プロバイダを設定するときに、[承認エンドポイント URL] および [トークンエンドポイント URL] を編集できるようになりました。また、Google [ユーザ情報エンドポイント URL] も編集できます。

Salesforce ユーザのログアウトページの選択

Salesforce からログアウトしたユーザを、独自のブランド設定を維持する特定のログアウト先や、特定の認証プロバイダページに転送します。

高度なネットワークプロトコルのテストと使用

Apex コールアウト、ワークフローアウトバウンドメッセージ、代理認証、および他の HTTPS コールアウトで、Transport Layer Security (TLS) バージョン 1.2、TLS 1.1、Server Name Indication (SNI) がサポートされるようになりました。HTTPS コールアウトでは、TLS 1 が引き続きサポートされます。アップグレードする前に、Sandbox でコールアウトの互換性をテストすることをお勧めします。

[セッションの設定] で名前が変更された [ID 確認] の SMS

[セッションの設定] の [ID 確認] で、[SMS による ID 確認を有効にする] 設定の名前が変更されました。新しい名前は [SMS による ID 確認を有効にする] です。

最小パスワード長を 15 文字に設定することによる FedRAMP 標準への準拠

組織の最小パスワード長を 15 文字に設定するオプションが追加されました。この最小パスワード長を必須にすることで、United States Federal Risk and Authorization Management Program (FedRAMP) および Defense Information Systems Agency (DISA) のセキュリティ標準に準拠することができます。以前は、最も長い最小パスワード長が 12 文字でした。

サポートされるログインフロー種別

ログインフローを組織のプロファイルに接続する場合、種別が [フロー] であるフローのみがサポートされます。

接続アプリケーションのユーザプロビジョニング (正式リリース)

Salesforce 組織または Active Directory サービスのユーザアカウントに加えられた変更に基づいて、Google や Box などのサービスでユーザアカウントを自動的に作成、更新、削除します。この機能により、新規ユーザの作成、ユーザアカウントの更新、アカウントの無効化に要する時間が大幅に短縮されます。また、アプリケーションおよびサービス全体ですべてのユーザアカウントを一元的に表示することもできます。

詳細な制御および簡単な管理を可能にするための接続アプリケーションの改善

接続アプリケーションの設定をすばやく調整するため、接続アプリケーションの管理にいくつかの変更が加えられました。

System for Cross-domain Identity Management (SCIM) を使用した代理承認者の取得

開発者は、REST API を使用して、Salesforce から承認プロセスに割り当てられた承認者の ID および表示名を取得できます。

私のドメイン名の伝達における更新のすばやい取得

Salesforce で新しいドメインの DNS 伝達状況の確認に要する時間が、10 分から 30 秒に短縮されました。つまり、新しいドメインの伝達の完了通知を、以前のリリースに比べてすばやく受信できるようになります。

ドメインを全ユーザにリリースする前に行う [私のドメイン] ログインページの設定テスト

以前は、ログイン設定をテストするために新しいドメインをユーザにリリースしていました。ドメインを全ユーザにリリースすることなく、新しいドメインを設定してログインページの設定をテストできるようになりました。

プラットフォームの暗号化を使用したデータ保護要件への準拠 (正式リリース)

プラットフォームの暗号化では、一般的な規制要件に準拠するため機密データが暗号化されます。

-  **メモ:** この機能を使用するには、追加サービスまたはサブスクリプションの購入が必要な場合があります。価格設定についての詳細は、Salesforce アカウントエグゼクティブにお問い合わせください。プラットフォームの暗号化は、インスタンスが政府クラウドにある場合は使用できません。

プラットフォームの暗号化では、Sales Cloud、Service Cloud、カスタムアプリケーションを問わず、Salesforce 全体で保存されたデータを顧客が暗号化できます。

非公開の機密データを Salesforce1 プラットフォームで暗号化し、非公開データを処理するためのプライバシーポリシー、規制要件、契約義務への準拠に役立てます。

Salesforce プラットフォームの暗号化では、追加のハードウェアまたはソフトウェアを使用することなく、ネイティブの強力な標準ベースの暗号化を使用して数分で設定が行われます。プラットフォームの暗号化により、検索、ワークフロー、入力規則などの重要なビジネスプラットフォーム機能を顧客に許可しながら、Salesforce のセキュリティがさらに強化されます。

実行できる操作

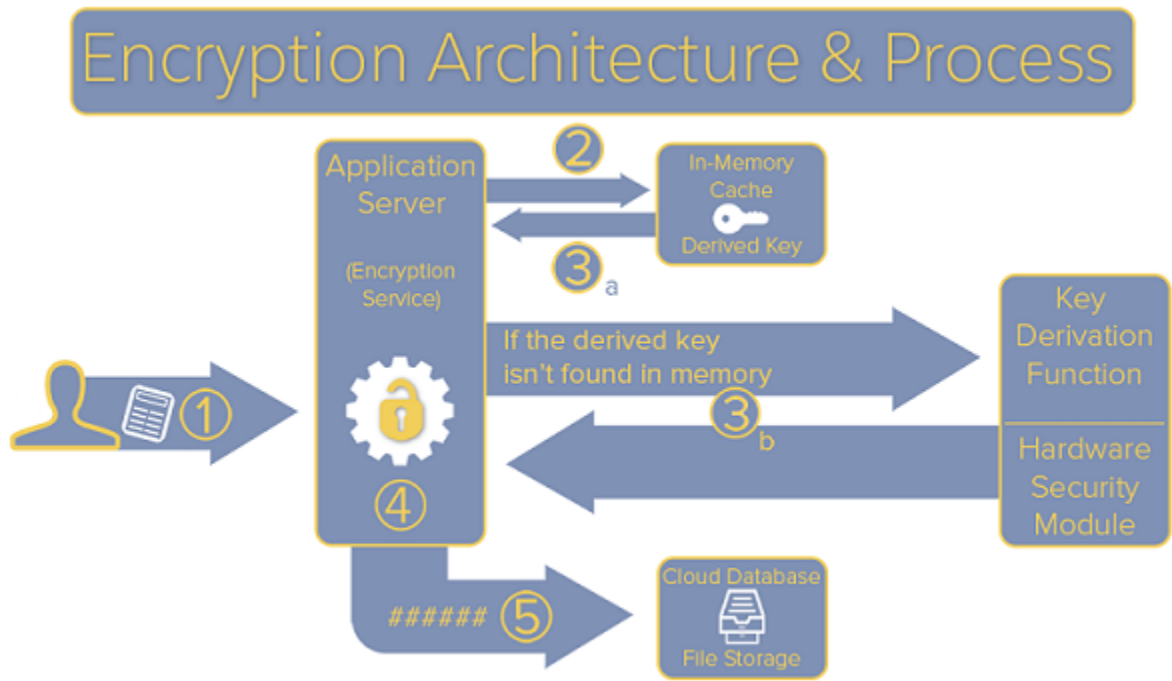
- ファイルおよび添付ファイルを暗号化する。
- 特定の標準項目およびカスタム項目を暗号化する。
- 高度な鍵管理システムを使用する。

プラットフォームの暗号化では、機密項目データがマスクされ、情報の表示対象ユーザが制限されます。コントロールは、データを保護するのに役立ちます。これらのコントロールには、派生データの暗号化鍵と顧客が管理する鍵のローテーション、生成、破棄プロセスの使用が含まれます。

エディション

使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

プラットフォームの暗号化のプロセスフロー



暗号化プロセスの手順は、次のとおりです。

1. データがアプリケーションサーバに送信されます。
2. アプリケーションサーバにより、データの暗号化鍵がメモリに存在するかどうかを確認されます。
3. 次のいずれかの処理が行われます。
 - a. データの暗号化鍵がキャッシュで見つかり、アプリケーションサーバで取得されます。
 - b. データの暗号化鍵が見つからないと、組織の暗号化された有効なテナントの秘密がデータベースから読み込まれます。次に、アプリケーションサーバは、暗号化されたテナントの秘密およびリリースバージョンなどの付随情報を使用して、鍵派生サーバから鍵を要求します。鍵派生サーバは、主秘密およびテナントの秘密を使用して HSM で鍵を派生し、それをアプリケーションサーバに提供します。
4. 暗号化サービスにより、アプリケーションサーバでデータが暗号化されます。
5. 暗号化されたデータが保存されます。

従来の暗号化カスタム項目とプラットフォームの暗号化との違い

次の表で、従来の暗号化カスタム項目とプラットフォームの暗号化の違いを比較します。

機能	従来の暗号化カスタム項目 (基本のユーザライセンスに含まれる)	プラットフォームの暗号化 (追加料金が課せられる)
保存データの暗号化	✓	✓

機能	従来の暗号化カスタム項目 (基本のユーザライセンスに含まれる)	プラットフォームの暗号化 (追加料金が課せられる)
ネイティブソリューション (ハードウェアまたはソフトウェアは不要)	✓	✓
暗号化アルゴリズム	128 ビットの Advanced Encryption Standard (AES)	256 ビットの Advanced Encryption Standard (AES)
HSM ベースの鍵の派生		✓
「暗号化鍵の管理」権限		✓
鍵の生成、エクスポート、インポート、破棄	✓	✓
PCI-DSS L1 準拠	✓	
テキスト (暗号化) データ型	✓ (カスタムデータ型専用、175 文字に制限)	
マスク	✓	✓
種別と文字をマスク	✓	
暗号化された項目値の参照に「暗号化されたデータの参照」権限が必要	✓	✓
メールテンプレート値で「暗号化されたデータの参照」権限を遵守		✓
標準項目の暗号化		✓*
添付ファイル、ファイル、およびコンテンツの暗号化		✓
カスタムテキスト (短)、ロングテキストエリア、電話、メール、および URL 項目の暗号化		✓
サポート対象のカスタム項目のデータ型について既存の項目を暗号化		✓
検索 (UI、部分検索、ルックアップ)		✓
API へのアクセス	✓	✓
ワークフロールールおよびワークフロー項目自動更新で使用可能		✓
承認プロセスの開始条件および承認ステップ条件で使用可能		✓

取引先オブジェクトでは、[取引先名]を暗号化できます。取引先責任者オブジェクトでは、[メール]、[Fax]、[自宅電話]、[住所(郵送先)]([町名・番地(郵送先)]と[市区郡(郵送先)]、[携帯]、[名前]([名]、[ミドルネーム]、[姓])、[その他の電話]、および[電話]を暗号化できます。

データレジデンシーオプション (DRO) 機能の廃止

データレジデンシーオプションソリューションは、2015年8月15日をもって終了します。この日付以降は、新しいインストールはサポートされず、既存のインストールのサポートも停止されます。DROソリューションを引き続き使用することはできますが、今後のSalesforceリリースとの互換性については保証されません。

データレジデンシーに関して固有で厳密な要件(データがファイアウォールまたは国境を越えることができないなど)がある場合は、AppExchangeで提供されるオプションを検討することをお勧めします。この変更についてのご質問は、カスタマーサポートにお問い合わせください。

エディション

使用可能なエディション:
Unlimited Edition

[ログイン IP アドレスの制限] の IP アドレスの継続的な適用

[セッションの設定]の[すべての要求でログイン IP アドレスの制限を適用]オプションは、ユーザがSalesforceにアクセスできるIPアドレスを[ログイン IP アドレスの制限]で定義されたIPアドレスのみに制限します。このオプションは、ログイン IP アドレスが制限されたすべてのユーザプロフィールに影響します。

1. [設定]で、[セキュリティのコントロール]>[セッションの設定]をクリックします。
2. [すべての要求でログイン IP アドレスの制限を適用]を選択します。

このオプションでは、クライアントアプリケーションからのログインを含むすべてのSalesforceアクセス要求に対して[ログイン IP アドレスの制限]のIPアドレスが適用されます。このオプションが選択されていない場合は、ユーザがログインする場合にのみログインIPアドレス範囲の制限が適用されます。

エディション

使用可能なエディション:
すべてのエディション

ユーザ権限

セッションセキュリティを設定する

- 「アプリケーションのカスタマイズ」

ユーザログインの地理的な場所の追跡

[ログイン履歴]ページまたは[セッション管理]ページから、あるいはLoginGeoオブジェクトをクエリすることで、ユーザログインのIPアドレスの地理的な場所を追跡できるようになりました。

ユーザがSalesforceへのログインを試みると、ログイン試行に関する場所情報がLoginGeoオブジェクトに記録されます。地理位置情報技術の性質上、地理位置情報項目の精度(国、市区郡、郵便番号など)は変化する場合があります。LoginGeoオブジェクトについての詳細は、「[新しいオブジェクト](#)」を参照してください。

エディション

使用可能なエディション:
すべてのエディション

ログイン履歴による ID 別の認証サービスの追跡

認証サービス ID がユーザのログイン履歴に関連付けられるようになりました。たとえば、この追加により、ログインイベントの SAML または認証プロバイダ設定を追跡するレポートを開発者が作成できます。

この値は、LoginHistory 標準オブジェクトに項目として含まれます。詳細は、「[変更されたオブジェクト](#)」を参照してください。

エディション

使用可能なエディション: すべてのエディション

ユーザ権限

セッションセキュリティを設定する

- 「アプリケーションのカスタマイズ」

外部データソースおよび指定ログイン情報の簡略化された OAuth フロー

以前は 外部データソースおよび指定ログイン情報の OAuth フローで、ユーザが 2 つの同意画面 (1 つは外部システム用、もう 1 つは Salesforce 用) で [許可] のクリックを必要とする場合があります。Salesforce 同意画面が表示されなくなり、認証プロセスが簡略化されました。

動作が次のようになりました。OAuth フロー処理中に、ログインするよう外部システムから求められます。一部の外部システムでは、同意画面で [許可] をクリックする必要があります。ログイン時に外部システムによってユーザが他の場所にリダイレクトされなければ、Salesforce 組織に戻ります。

Lightning Connect 用に Salesforce アダプタを使用する外部データソースでは、OAuth フローの処理時間が多少長くなります。外部システム (この場合は別の Salesforce 組織) へのログインには、同じブラウザセッションが使用されます。そのプロバイダ組織に正常にログインすると、ログアウトしてから元の登録者組織に再度ログインするよう求められます。Lightning Connect の Salesforce アダプタについての詳細は、Salesforce ヘルプを参照してください。

エディション

指定ログイン情報を使用可能なエディション: すべてのエディション

Lightning Connect の外部データソースを使用可能なエディション: **Developer** Edition。有料オプションで使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、および **Unlimited** Edition

Files Connect の外部データソースを使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

OpenID Connect を使用する並行アプリケーションへの1回のみのログイン

ユーザがログインし Salesforce ユーザデータにアクセスするアプリケーションを承認したら、他のアプリケーションを承認するときに再度ログインするよう求められることはありません。この動作は、OpenID Connect (ユーザが別の Salesforce アプリケーションにログインしている場合は OAuth) を使用するシングルサインオンに適用されます。

次の場合、ユーザは再度ログインする必要があります。

- 他のアプリケーションでログインを明示的に要求している
- 他のアプリケーションが IP 制限をスキップするように設定されている
- ユーザのセッションがタイムアウトになった

ユーザが再度ログインする必要はなくても、アプリケーションがデータにアクセスすることを許可するように求められます。たとえば、ユーザがアプリケーションにアクセスすると、Salesforce にログインして Salesforce ユーザ情報へアクセスすることを許可するように求められます。ユーザがアプリケーションを承認した後、Salesforce データへのアクセスを要する別のサードパーティアプリケーションにアクセスします。この場合は Salesforce に再度ログインすることは要求されませんが、引き続きデータへのアクセスを許可または拒否する必要があります。

エディション

使用可能なエディション:
すべてのエディション

ユーザ権限

OAuth アプリケーションを
管理、作成、編集、および
削除する

- 「接続アプリケーションの管理」

ファイルまたは URL からのシングルサインオン設定の作成

手動ではなく、XML ファイルまたは公開 URL から設定をインポートしてシングルサインオンの SAML を設定できます。これにより設定が合理化され、ID プロバイダからの設定を簡単に使用できます。

XML ファイルには、ID プロバイダからの SAML 2.0 設定が含まれている必要があります。URL を使用する場合は公開 URL とし、有効な XML ファイルを指し示して [セキュリティのコントロール] > [リモートサイトの設定] に表示されるようにする必要があります。詳細は、Salesforce ヘルプの「[シングルサインオン用の SAML 設定](#)」を参照してください。

エディション

使用可能なエディション:
すべてのエディション

コミュニティまたはカスタムドメインの SAML メタデータ URL へのアクセス

ユーザ権限

参照する	「アプリケーションのカスタマイズ」
作成、更新または削除する	「アプリケーションのカスタマイズ」および 「すべてのデータの編集」または「接続アプリケーションの管理」のいずれか
プロファイル、権限セット、およびサービスプロバイダの SAML 属性以外のすべての項目を更新する	「アプリケーションのカスタマイズ」
プロファイル、権限セット、およびサービスプロバイダの SAML 属性を更新する	「アプリケーションのカスタマイズ」および「すべてのデータの編集」
アンインストールする	「AppExchange パッケージのダウンロード」

エディション

接続アプリケーションを作成可能なエディション:
Group Edition、
Professional Edition、
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

接続アプリケーションをインストール可能なエディション: すべてのエディション

コミュニティまたはカスタムドメインの SAML 設定情報を、公開 URL 経由でサービスプロバイダと共有できます。URL は、Salesforce への接続用にサービスプロバイダでシングルサインオンを設定するために使用できるメタデータを指し示します。

[接続アプリケーション] 詳細ページに、SAML 設定メタデータの URL が表示されます。URL は、組織が ID プロバイダとして有効であり、SAML を使用する接続アプリケーションを使用する場合にのみ表示されます。

1. [設定] で、[アプリケーションを管理する] > [接続アプリケーション] をクリックします。
2. 接続アプリケーションの詳細ページを表示するには、接続アプリケーションの名前をクリックします。
3. [SAML ログイン情報] セクションで、[メタデータ検出エンドポイント] の URL をコピーし、サービスプロバイダと共有します。

これで、[ID プロバイダ] ページにも、カスタムドメインおよび各コミュニティの SAML ID プロバイダ情報が表示されます。

1. [設定] で、[セキュリティのコントロール] > [ID プロバイダ] をクリックします。
2. [SAML のメタデータ検出エンドポイント] で、サービスプロバイダと共有する URL を選択します。組織に適用される URL のみが表示されます。たとえば、組織にコミュニティが存在しない場合、コミュニティの URL は表示されません。
 - Salesforce ID - [私のドメイン] のカスタムドメインの ID プロバイダメタデータの URL。
 - 「コミュニティ名」コミュニティ ID - 名前が指定されたコミュニティの ID プロバイダメタデータの URL。

Google および LinkedIn の認証プロバイダのエンドポイントの編集

Google または LinkedIn の認証プロバイダを設定するときに、[承認エンドポイント URL] および [トークンエンドポイント URL] を編集できるようになりました。また、Google [ユーザ情報エンドポイント URL] も編集できます。

エンドポイント URL を入力するには、[設定] から [セキュリティのコントロール] > [認証プロバイダ] をクリックして、Google または LinkedIn の認証プロバイダを作成します。独自のサードパーティアプリケーションから、適切なエンドポイント情報を入力します。また、[コンシューマ鍵] と [コンシューマの秘密] にも値を指定する必要があります。



例: [承認エンドポイント URL] で、クエリ文字列パラメータをベース URL に追加できます。たとえば、オフラインアクセス用に Google から更新トークンを取得するには、

`https://accounts.google.com/o/oauth2/auth?access_type=offline&approval_prompt=force` を使用します。この例では、更新アクションの承認をユーザに求めるために追加の `approval_prompt` パラメータが必要となるため、Google では最初の更新トークンの後にも更新トークンが引き続き提供されます。

エディション

使用可能なエディション:

Professional Edition、
Enterprise Edition、
Unlimited Edition、
Performance Edition、および
Developer Edition

Salesforce ユーザのログアウトページの選択

Salesforce からログアウトしたユーザを、独自のブランド設定を維持する特定のログアウト先や、特定の認証プロバイダページに転送します。

[設定] から、[セキュリティのコントロール] > [セッションの設定] に移動します。[ログアウトページの設定] で、カスタムログアウトページの URL を指定します。指定しない場合、[私のドメイン] が有効でなければ

`https://login.salesforce.com` がデフォルトになります。[私のドメイン] が有効な場合、デフォルトは `https://customdomain.my.salesforce.com` です。

エディション

使用可能なエディション:

Group Edition、
Professional Edition、
Enterprise Edition、
Unlimited Edition、
Performance Edition、および
Developer Edition

高度なネットワークプロトコルのテストと使用

Apex コールアウト、ワークフローアウトバウンドメッセージ、代理認証、および他の HTTPS コールアウトで、Transport Layer Security (TLS) バージョン 1.2、TLS 1.1、Server Name Indication (SNI) がサポートされるようになりました。HTTPS コールアウトでは、TLS 1 が引き続きサポートされます。アップグレードする前に、Sandbox でコールアウトの互換性をテストすることをお勧めします。

以前のバージョンのソフトウェアが実行されているエンドポイントでは、接続要求に TLS 1.2 または SNI が存在すると TLS とのネゴシエーションに失敗することがあります。TLS ネゴシエーションに失敗すると、コールアウトが動作しなくなります。Salesforce が本番インスタンスをアップグレードする前に HTTPS コールアウトエンドポイントとの互換性を確認して、HTTPS コールアウトが引き続き機能するようにしてください。

エディション

使用可能なエディション:
すべてのエディション

インスタンスが NA21 であるか Sandbox が CS32 または CS33 の場合、HTTPS コールアウトで有効になるのは TLS 1.2 のみです。

[セッションの設定] で名前が変更された [ID 確認] の SMS

[セッションの設定] の [ID 確認] で、[SMS による ID 確認を有効にする] 設定の名前が変更されました。新しい名前は [SMS による ID 確認を有効にする] です。

設定の名前が変更され、SMS 配信は有効化または無効化することができても、メールによる ID 確認は無効化できないことが明確になりました。

エディション

使用可能なエディション:
Personal Edition、**Contact Manager** Edition、**Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、**Developer** Edition、および **Database.com** Edition

ユーザ権限

セッションセキュリティを設定する

- 「アプリケーションのカスタマイズ」

最小パスワード長を15文字に設定することによる FedRAMP 標準への準拠

組織の最小パスワード長を15文字に設定するオプションが追加されました。この最小パスワード長を必須にすることで、United States Federal Risk and Authorization Management Program (FedRAMP) および Defense Information Systems Agency (DISA) のセキュリティ標準に準拠することができます。以前は、最も長い最小パスワード長が12文字でした。

[設定] の [セキュリティのコントロール] > [パスワードポリシー] で組織の最小パスワード長を設定し、他のパスワード要件を指定します。

エディション

使用可能なエディション:
Group Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、**Developer** Edition、**Contact Manager** Edition、および **Database.com** Edition

サポートされるログインフロー種別

ログインフローを組織のプロファイルに接続する場合、種別が[フロー]であるフローのみがサポートされます。

詳細は、Salesforce ヘルプの「[プロファイルへのログインフローの接続](#)」を参照してください。

エディション

使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

ユーザ権限

Cloud Flow Designer でフローを開く、編集または作成する

- 「Force.com Flow の管理」

接続アプリケーションのユーザプロビジョニング (正式リリース)

ユーザ権限

参照する	「アプリケーションのカスタマイズ」
作成、更新または削除する	「アプリケーションのカスタマイズ」および 「すべてのデータの編集」または「接続アプリケーションの管理」のいずれか
プロファイル、権限セット、およびサービスプロバイダの SAML 属性以外のすべての項目を更新する	「アプリケーションのカスタマイズ」
プロファイル、権限セット、およびサービスプロバイダの SAML 属性を更新する	「アプリケーションのカスタマイズ」および「すべてのデータの編集」
アンインストールする	「AppExchange パッケージのダウンロード」

エディション

接続アプリケーションを作成可能なエディション:
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

接続アプリケーションをインストール可能なエディション: すべてのエディション

Salesforce 組織または Active Directory サービスのユーザアカウントに加えられた変更に基づいて、Google や Box などのサービスでユーザアカウントを自動的に作成、更新、削除します。この機能により、新規ユーザの作成、ユーザアカウントの更新、アカウントの無効化に要する時間が大幅に短縮されます。また、アプリケーションおよびサービス全体ですべてのユーザアカウントを一元的に表示することもできます。

接続アプリケーションのユーザプロビジョニングでは、Salesforce 組織でユーザイベント (ユーザの作成、権限セットまたはプロファイルの割り当て、ユーザ情報の変更など) が取得され、サードパーティサービスの対応するアカウントに更新が適用されます。

たとえば、組織の Google Apps 接続アプリケーションのユーザプロビジョニングを設定できます。次に、その接続アプリケーションに「従業員」プロファイルを割り当てます。組織で新規ユーザが作成されて「従業員」プロファイルが割り当てられると、そのユーザは自動的に Google Apps でプロビジョニングされます。さらに、このユーザが無効化された場合やプロファイルの割り当てが変更された場合、このユーザの Google Apps でのプロビジョニングは自動的に解除されます。また、承認プロセスを設定して、プロビジョニングまたはプロビジョニング解除アクションの前に、マネージャに承認を申請することもできます。

Active Directory インストールでイベントを取得し、ユーザプロビジョニングの更新を外部アプリケーションに適用するには、Salesforce Identity Connect を追加します。Identity Connect は、Salesforce と Active Directory を統合するオンプレミス型のアドオンです。Active Directory と Salesforce ユーザアカウントが同期されます。接続アプリケーションのユーザプロビジョニングでは、サードパーティのシステムまたはアプリケーションでユーザをプロビジョニングまたはプロビジョニング解除するために、Identity Connect を介して Active Directory の変更を取得できます。

接続アプリケーションのユーザプロビジョニングの利点

クイック設定のためのウィザード

ユーザプロビジョニングウィザードを実行して、ユーザプロビジョニングを設定します。

承認プロセスのサポート

新規ユーザアカウントおよびユーザアカウントの変更の管理を制御する承認プロセスが含まれています。

強化されたセキュリティ

ユーザが退職した場合、サードパーティアプリケーションのユーザアカウントが自動的に無効化されます。

監査と準拠

ユーザが使用するアプリケーションを検出および管理します。すべての接続アプリケーションでユーザが所有するすべてのアカウントを一元的に表示できます。レポートを実行してアラートを設定できます。

IT 効率

ユーザアカウントのメンテナンス時間が削減され、アプリケーションのユーザプロビジョニングにかかる時間が節約されます。

カスタマイズ

完全なカスタマイズを行うため Apex と Visual Workflow がサポートされています。

接続アプリケーションのユーザプロビジョニングの要件

サードパーティサービスの接続アプリケーション

接続アプリケーションでは、「ブックマーク」接続アプリケーションなどのユーザプロビジョニングをサポートできます。

指定ログイン情報

指定ログイン情報は、サードパーティシステムとその認証設定を識別します。アカウントの作成、編集、または削除などのサードパーティシステムへのコールは、指定ログイン情報のサードパーティ認証設定を使用します。指定ログイン情報では指定ユーザを指定します。これは、サードパーティシステムのアカウントまたは組織の既存の認証プロバイダの OAuth 認証です。ユーザプロビジョニングウィザードで指定ログイン情報の入力求められます。

Flow Designer で作成されたフロー

フローでサードパーティシステムへのプロビジョニング要求を管理します。Salesforce では、ユーザプロビジョニングの設定プロセスを簡略化する、事前設定済みのフローを含むコネクタパッケージを AppExchange で提供しています。ユーザプロビジョニングウィザードを使用して、いずれかのフローを接続アプリケーションに関連付けます。

詳細は、オンラインヘルプの「[接続アプリケーションのユーザプロビジョニング](#)」を参照してください。

詳細な制御および簡単な管理を可能にするための接続アプリケーションの改善

接続アプリケーションの設定をすばやく調整するため、接続アプリケーションの管理にいくつかの変更が加えられました。

次の変更により、接続アプリケーションの管理と操作性が改善されます。

OAuth 接続アプリケーションのセッションタイムアウト

接続アプリケーション設定を編集するときに、個々の OAuth 接続アプリケーションの [タイムアウト値] を設定します。[タイムアウト値] で、接続アプリケーションセッションのアクセストークンの有効期限を設定します。[タイムアウト値] を設定しないか [なし] (デフォルト) を選択すると、ユーザプロフィール内のタイムアウト値が Salesforce で使用されます。プロフィールに値が設定されていない場合は、組織の [セッションの設定] のタイムアウト値が使用されます。

ユーザの詳細ページまたは接続アプリケーションの詳細ページで接続アプリケーションアカウントのリンクを設定するために行うユーザプロビジョニングの編集

接続アプリケーションのユーザプロビジョニングは、Salesforce ユーザアカウントを、Google Apps などのサードパーティシステムのアカウントにリンクします。リンクされると、アカウントのリンク設定を次の 2 つの場所で編集できます。

- (新規) [ユーザプロビジョニングアカウント] セクションのユーザの詳細ページ。[設定] で、[ユーザの管理] > [ユーザ] をクリックします。
- 接続アプリケーションの詳細ページ。[設定] で、[アプリケーションを管理する] > [接続アプリケーション] をクリックし、接続アプリケーション名をクリックします。

エディション

接続アプリケーションを作成可能なエディション:
Group Edition、
Professional Edition、
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

接続アプリケーションをインストール可能なエディション: すべてのエディション

System for Cross-domain Identity Management (SCIM) を使用した代理承認者の取得

開発者は、REST API を使用して、Salesforce から承認プロセスに割り当てられた承認者の ID および表示名を取得できます。

Salesforce は、オープン標準の SCIM 仕様 1.1 をサポートし、REST API を使用してユーザのプロパティを編集および管理できるようにする拡張機能を提供します。開発者が Salesforce SCIM エンドポイントに ID 情報を要求すると、Salesforce がデータを JSON 形式で返します。

エディション

使用可能なエディション:
すべてのエディション

返される値に、Uniform Resource Name (URN): `urn:scim:schemas:extension:enterprise:1.0` に基づく代理承認者の ID と表示名が含まれるようになりました。

詳細は、オンラインヘルプの「[System for Cross-domain Identity Management \(SCIM\) の使用](#)」を参照してください。



例: `"urn:scim:schemas:extension:enterprise:1.0":{ "organization":"00DD00#####",
"delegatedApprover":{ "delegatedApproverId":"005D00#####",
"displayName":"Renee Moreau" } }`

私のドメイン名の伝達における更新のすばやい取得

Salesforce で新しいドメインの DNS 伝達状況の確認に要する時間が、10 分から 30 秒に短縮されました。つまり、新しいドメインの伝達の完了通知を、以前のリリースに比べてすばやく受信できるようになります。

ログインして新しいドメインをテストする前に、Salesforce により新しい名前がサーバに伝達されます。以前は、DNS の伝達状況が Salesforce で 10 分おきに確認されていました。この確認が 30 秒おきになったため、処理完了通知を受信するまでの待機時間が短縮する可能性があります。

DNS の伝達は、ユーザへのドメインのリリースとは異なります。カスタムドメインのリリースは別個のプロセスです。詳細は、「[私のドメインの概要](#)」を参照してください。

エディション

使用可能なエディション:
Performance Edition、
Unlimited Edition、
Enterprise Edition、
Developer Edition、
Professional Edition、および
Group Edition

ドメインを全ユーザにリリースする前に行う [私のドメイン] ログインページの設定テスト

以前は、ログイン設定をテストするために新しいドメインをユーザにリリースしていました。ドメインを全ユーザにリリースすることなく、新しいドメインを設定してログインページの設定をテストできるようになりました。

新しいカスタムドメインをユーザにリリースする前に、ログインページの外観をカスタマイズします。ログインページをテストし、認証サービスを確認します。その後、初回リリースでこの設定をユーザにロールアウトできます。詳細は、「[ドメイン名の設定](#)」を参照してください。

エディション

使用可能なエディション:
Performance Edition、
Unlimited Edition、
Enterprise Edition、
Developer Edition、
Professional Edition、および
Group Edition

開発: 独自の Salesforce アプリケーションの作成

Force.com は、組織で役立たせたり、別の組織に再販したりするための新しいアプリケーションおよびインテグレーションの開発に役立ちます。

このセクションの内容:

開発者コンソール

改善された開発者コンソールの機能を使用して、組織でコードをより簡単に管理します。

Visualforce

Visualforce と地図を組み合わせた、Salesforce1 やその他のモバイルアプリケーションなどのアプリケーションを開発します。

Apex コード

Apex の機能強化により、デバッグログの優先順位の使用および場所と距離のバインド変数の使用が可能になりました。また、機能強化には、コードカバレッジの変更とクラスおよびメソッドの新規追加も含まれます。

Lightning コンポーネント

Lightning コンポーネントフレームワークは、Salesforce1 を強化します。このフレームワークを使用すると、モバイルアプリケーションやページをこれまで以上にすばやく構築できます。

API

API バージョン 34.0 では、より多くのメタデータ型とデータオブジェクトにアクセスできます。

ISVforce

Summer '15 には、パッケージ化の機能拡張が含まれています。

カスタムメタデータ型を使用したアプリケーションの設定 (正式リリース)

カスタムメタデータ型を使用して設定を定義し、パッケージ化およびリリースできる再利用可能なアプリケーションのコンポーネントや機能を作成します。その後、自分と他のユーザが、カスタムメタデータ型の特性を備えたカスタムメタデータを作成できます。

関連トピック:

[開発機能が使用可能になる方法と状況](#)

開発者コンソール

改善された開発者コンソールの機能を使用して、組織でコードをより簡単に管理します。

このセクションの内容:

より正確な数字および場所の使用

開発者コンソールのクエリエディタに、小数点以下最大18桁の緯度、経度、数字項目を表示および保存できるようになりました。これまでは、項目間の移動時やレコードの保存時に、これらの項目が小数点以下2桁に四捨五入されていました。

クエリプランのメモの表示

開発者コンソールのクエリエディタにクエリプランのメモを表示できるようになりました。Salesforce が最高位のクエリプランで使用できるすべてのメモを表示します。

レポートおよびリストビューのクエリプランの取得

開発者コンソールのクエリエディタにレポートおよびリストビューのクエリプランを表示できます。実行に時間がかかるレポートおよびリストビューの読み込みが遅い理由を見極めます。

エディション

使用可能なエディション:

Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、
Developer Edition、および
Database.com Edition

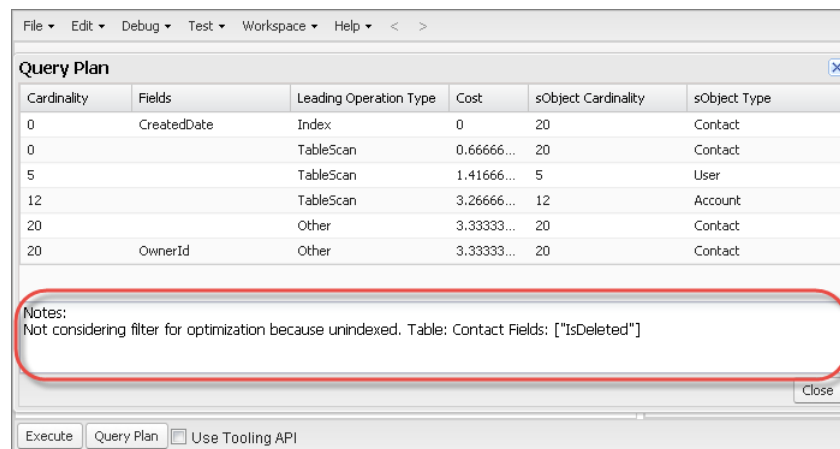
より正確な数字および場所の使用

開発者コンソールのクエリエディタに、小数点以下最大 18 桁の緯度、経度、数字項目を表示および保存できるようになりました。これまでは、項目間の移動時やレコードの保存時に、これらの項目が小数点以下2桁に四捨五入されていました。

クエリプランのメモの表示

開発者コンソールのクエリエディタにクエリプランのメモを表示できるようになりました。Salesforce が最高位のクエリプランで使用できるすべてのメモを表示します。

クエリエディタの [Query Plan (クエリプラン)] ボタンを有効にするには、[Help (ヘルプ)] > [Preferences (個人設定)] をクリックして、[Enable Query Plan (クエリプランを有効化)] を `true` に設定し、[Save (保存)] をクリックします。クエリプランの結果に [Notes (メモ)] ペインが表示されます。



レポートおよびリストビューのクエリプランの取得

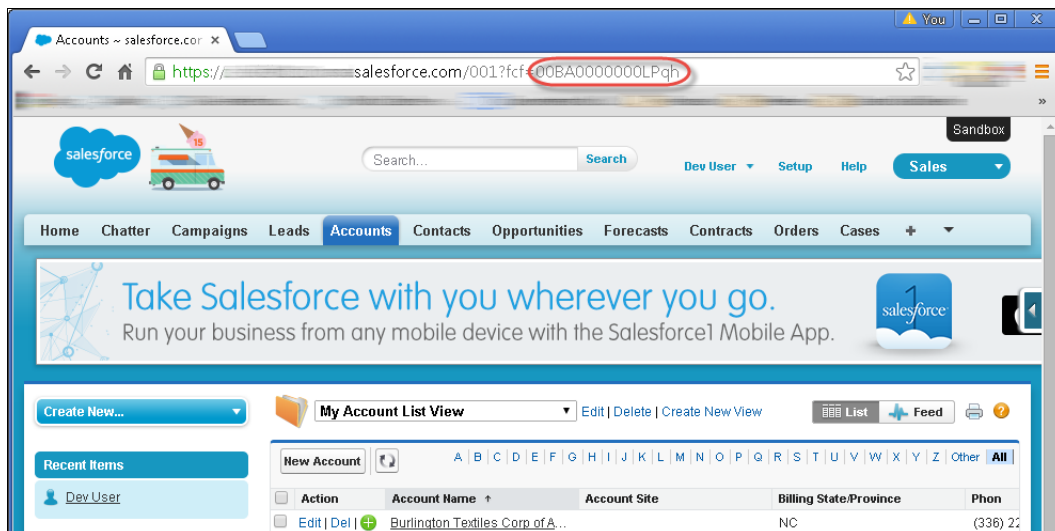
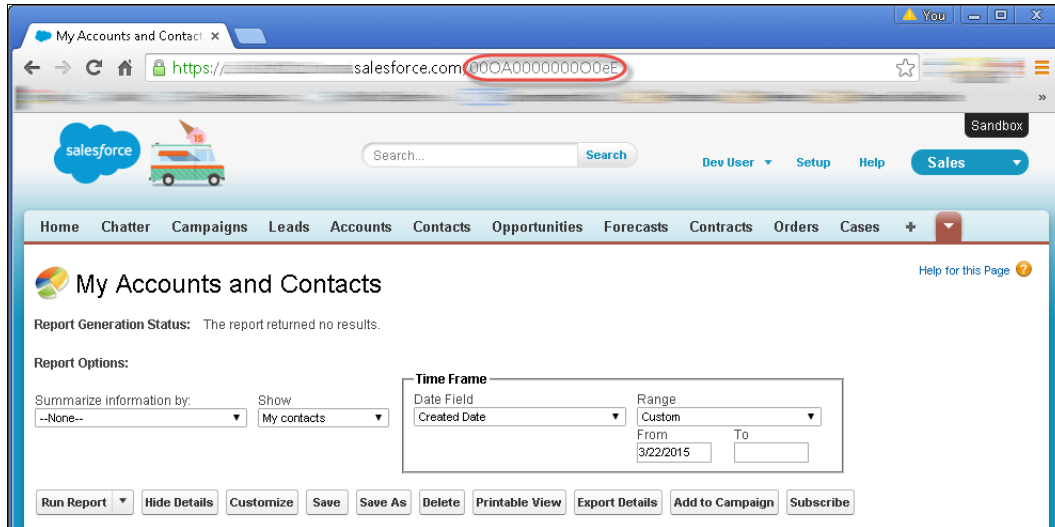
開発者コンソールのクエリエディタにレポートおよびリストビューのクエリプランを表示できます。実行に時間がかかるレポートおよびリストビューの読み込みが遅い理由を見極めます。

1. URL でレポートまたはリストビューの ID を確認します。

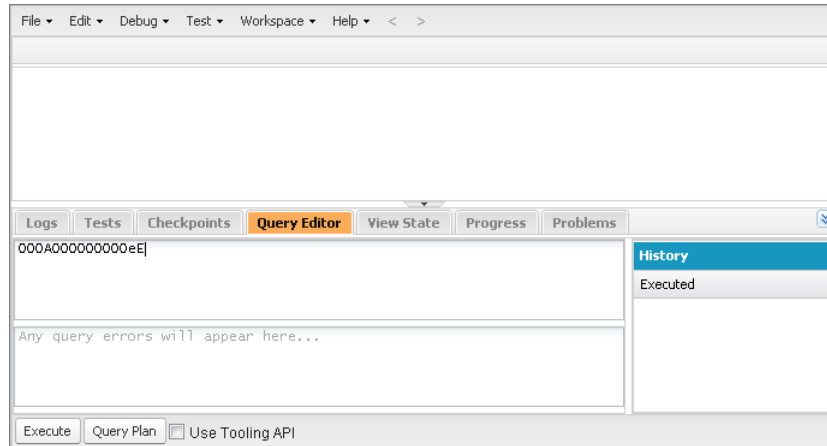
ユーザ権限

開発者コンソールを使用する

- 「すべてのデータの参照」



- クエリエディタの [Query Plan (クエリプラン)] ボタンを有効にするには、[Help (ヘルプ)] > [Preferences (個人設定)] をクリックして、[Enable Query Plan (クエリプランを有効化)] を `true` に設定し、[Save (保存)] をクリックします。
- クエリエディタにレポート ID またはリストビュー ID を入力して、[Query Plan (クエリプラン)] をクリックします。



4. レポートまたはリストビューのクエリプランを調べます。組織でカスタムインデックスを使用できる場合は、クエリプランを見て Salesforce サポートにカスタムインデックスを要求する時点を判断します。

Cardinality	Fields	Leading Operation Type	Cost	sObject Cardinality	sObject Type
0	CreatedDate	Index	0	20	Contact
0		TableScan	0.66666...	20	Contact
5		TableScan	1.41666...	5	User
12		TableScan	3.26666...	12	Account
20		Other	3.33333...	20	Contact
20	OwnerId	Other	3.33333...	20	Contact

Notes:
Not considering filter for optimization because unindexed. Table: Contact Fields: ["IsDeleted"]

Visualforce

Visualforce と地図を組み合わせた、Salesforce1 やその他のモバイルアプリケーションなどのアプリケーションを開発します。

Visualforce の言語および機能の改善により、アプリケーション開発がさらに容易になりました。このリリースでの機能強化は、Visualforce と JavaScript とロケーションベースのデータを組み合わせたアプリケーション開発の操作性の改善に焦点をあてています。以下のリリースノートでは、新機能について説明し、これらの機能の使い方を示す簡潔なサンプルコードを示します。

これらの機能強化の影響を受ける機能についての詳細は、『[Visualforce 開発者ガイド](#)』を参照してください。

エディション

使用可能なエディション:
Contact Manager Edition、
Group Edition、
Professional Edition、
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

このセクションの内容:

カスタムマーカーを使用した Visualforce 地図のカスタマイズ

カスタムマーカーアイコンにより、地図にスタイルやブランド設定を追加できます。また、カスタムマーカーを使用して、同一の地図上に異なる種類の場所を表示できます。

情報ウィンドウを使用した Visualforce 地図の強化

場所に関連する情報を Visualforce 地図に追加して情報ウィンドウに表示できます。情報ウィンドウは、ユーザが地図のマーカーをクリックまたはタップすると表示されます。

新しい <liveAgent:clientChatCancelButton> コンポーネント

`liveAgent:clientChatCancelButton` は、API バージョン 34.0 以降で使える新しいコンポーネントです。エージェントが受け入れる前に訪問者がクリックしてチャット要求をキャンセルできるボタンを Live Agent チャットウィンドウ内に表示します。

<liveAgent:clientChatAlertMessage> の新しい属性

API バージョン 34.0 以降では、`liveAgent:clientChatAlertMessage` コンポーネントで新しい属性 `chatBlockedLabel` がサポートされます。この属性で、エージェントが顧客をチャットからブロックしたときに顧客に表示されるメッセージを指定します。

アクセシビリティ: 必須項目の表示ラベルの「*」アノテーションの復元

Visualforce では、スクリーンリーダーでのアクセシビリティを向上するため、必須入力項目の表示ラベルに「*」文字が追加されます。この機能は誤って無効化されていましたが、復元されるようになりました。

リモートアクション応答のエンコードに含まれる単一引用符

リモートアクション応答に含まれる文字列値は、HTML で特殊な意味を持つ「<」や「>」などの文字をエスケープするためにエンコードされます。エンコードに、単一引用符 (') が含まれるようになりました。応答の文字列値をエンコードすると、独自の明示的なエンコードを使用するかどうかに関係なく、Visualforce ページで安全に処理できます。

ヘッダーが無効化されている場合の Visualforce ページのクリックジャック保護の有効化

クリックジャック保護により、ユーザインターフェース着せ替え攻撃から Visualforce ページを保護します。標準ヘッダーを抑制する Visualforce ページのクリックジャック保護を有効化できます。この設定は組織に対してグローバルであり、すべての Visualforce ページに適用されます。

with sharing キーワードを使用した Apex クラスのアクセス制限

`with sharing` キーワードを使用して定義された Apex クラスは、組織の共有ルールで非公開に設定されている User オブジェクトに対して絞り込まないアクセスができなくなりました。

Visualforce ドメインからの静的リソースの提供

この重要な更新により、Salesforce からの静的リソース (画像、JavaScript、CSS ファイルなど) の提供方法が変わります。静的リソースへの参照が破損しないようにするには、推奨されるベストプラクティスを確認します。

コールアウトとして動作する PageReference getContent() および getContentAsPDF() メソッド

この重要な更新により、PageReference メソッド `getContent()` および `getContentAsPDF()` に対して行われたコールの処理方法が変わり、コール側ページのトランザクションのセマンティックが改善されます。

カスタムマーカーを使用した Visualforce 地図のカスタマイズ

カスタムマーカーアイコンにより、地図にスタイルやブランド設定を追加できます。また、カスタムマーカーを使用して、同一の地図上に異なる種類の場所を表示できます。

マーカーのアイコンをカスタマイズするには、使用するグラフィックの絶対または完全修飾 URL に `icon` 属性を設定します。グラフィックが CDN で配布されているなどの場合には、任意の画像を Web で参照できます。また、静的リソースに保存したグラフィックを使用することもできます。静的リソースの画像を使用する場合は、`URLFOR()` 関数を使用して画像 URL を取得します。次に例を示します。

```
<apex:mapMarker title="{! Account.Name }"
  position="{!Account.BillingStreet},{!Account.BillingCity},{!Account.BillingState}"
  icon="{! URLFOR($Resource.MapMarkers, 'moderntower.png') }" />
```

PNG、GIF、JPEG など、一般的なグラフィック形式を使用します。推奨されるマーカーサイズは、32×32 ピクセルです。他のサイズは拡大縮小され、常に理想的な結果とならない可能性があります。

エディション

使用可能なエディション:
Contact Manager Edition、
Group Edition、
Professional Edition、
Enterprise Edition、
Performance Edition、および
Unlimited Edition

情報ウィンドウを使用した Visualforce 地図の強化

場所に関連する情報を Visualforce 地図に追加して情報ウィンドウに表示できます。情報ウィンドウは、ユーザが地図のマーカーをクリックまたはタップすると表示されます。

情報ウィンドウを地図のマーカーに追加するには、関連する `<apex:mapMarker>` の子コンポーネントとして `<apex:mapInfoWindow>` コンポーネントを追加します。`<apex:mapInfoWindow>` コンポーネントの本文は、ユーザがマーカーをクリックまたはタップすると情報ウィンドウに表示され、Visualforce マークアップ、HTML と CSS、またはプレーンテキストを指定できます。

次の完成したページでは、情報ウィンドウのコンテンツに Visualforce マークアップを使用しています。

```
<apex:page standardController="Account">

  <!-- This page must be accessed with an Account Id in the URL. For example:
        https://<salesforceInstance>/apex/AccountContactsCustomMarker?id=001D000000JRBet
  -->

  <apex:pageBlock >
    <apex:pageBlockSection title="Contacts For {! Account.Name }">

      <apex:dataList value="{! Account.Contacts }" var="contact">
        <apex:outputText value="{! contact.Name }" />
      </apex:dataList>

      <apex:map width="600px" height="400px" mapType="roadmap"
        center="{!Account.BillingStreet},{!Account.BillingCity},{!Account.BillingState}">
```

エディション

使用可能なエディション:
Contact Manager Edition、
Group Edition、
Professional Edition、
Enterprise Edition、
Performance Edition、および
Unlimited Edition

```
<!-- Add markers for account contacts -->
<apex:repeat value="{! Account.Contacts }" var="ct">
  <apex:mapMarker title="{! ct.Name }"
    position="{! ct.MailingStreet },{! ct.MailingCity },{! ct.MailingState }">

    <!-- Add info window with contact details -->
    <apex:mapInfoWindow >
      <apex:outputPanel layout="block" style="font-weight: bold;">
        <apex:outputText>{! ct.Name }</apex:outputText>
      </apex:outputPanel>

      <apex:outputPanel layout="block">
        <apex:outputText>{! ct.MailingStreet }</apex:outputText>
      </apex:outputPanel>

      <apex:outputPanel layout="block">
        <apex:outputText>{! ct.MailingCity }, {! ct.MailingState }</apex:outputText>
      </apex:outputPanel>

      <apex:outputPanel layout="block">
        <apex:outputLink value="{! 'tel://' + ct.Phone }">
          <apex:outputText>{! ct.Phone }</apex:outputText>
        </apex:outputLink>
      </apex:outputPanel>
    </apex:mapInfoWindow>

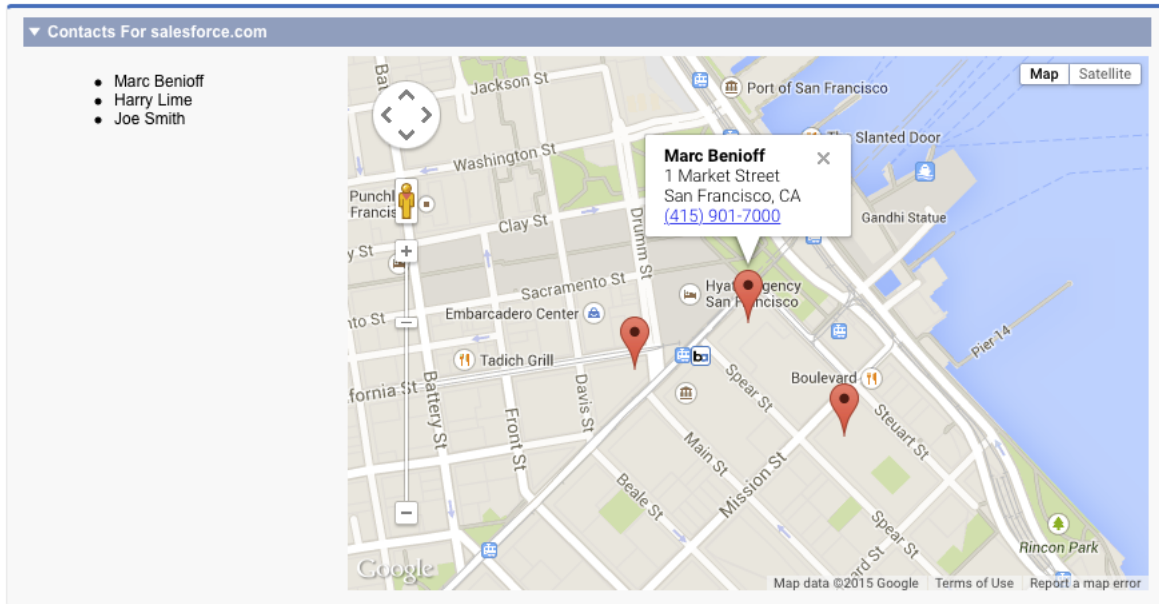
  </apex:mapMarker>
</apex:repeat>

</apex:map>

</apex:pageBlockSection>
</apex:pageBlock>

</apex:page>
```

このコードにより、次の地図が作成されます。



新しい <liveAgent:clientChatCancelButton> コンポーネント

`liveAgent:clientChatCancelButton` は、API バージョン 34.0 以降で使用できる新しいコンポーネントです。エージェントが受け入れる前に訪問者がクリックしてチャット要求をキャンセルできるボタンを Live Agent チャットウィンドウ内に表示します。

`clientChatCancelButton` 属性を使用すると、ボタンのテキストをカスタマイズできます。デフォルトの表示ラベルは [チャットをキャンセル] です。これは、新しい **チャットをキャンセル** 機能に対応します。

エディション

Live Agent を使用可能な組織: 2012 年 6 月 14 日より
も後に作成された
Performance Edition および
Developer Edition の組織

有料オプションで Live Agent を使用可能なエディション: **Enterprise Edition**
および **Unlimited Edition**

<liveAgent:clientChatAlertMessage> の新しい属性

APIバージョン34.0以降では、liveAgent:clientChatAlertMessage コンポーネントで新しい属性 chatBlockedLabel がサポートされます。この属性で、エージェントが顧客をチャットからブロックしたときに顧客に表示されるメッセージを指定します。

このリリースでは、エージェントが顧客をチャットからブロックできるようになりました。たとえば、顧客がエージェントに対して不適切な言葉遣いをする場合、そのユーザのIPアドレスを新しいチャットの開始からブロックして、エージェント自身および他のエージェントを保護することができます。

chatBlockedLabel 属性では、ブロック後にチャットウィンドウで顧客に表示されるメッセージをカスタマイズできます。これは、新しい [IP アドレスによる不適切なチャット訪問者のブロック機能](#) に対応します。

エディション

Live Agent を使用可能な組織: 2012 年 6 月 14 日より
も後に作成された **Performance Edition** および **Developer Edition** の組織
有料オプションで Live Agent を使用可能なエディション: **Enterprise Edition** および **Unlimited Edition**

アクセシビリティ: 必須項目の表示ラベルの「*」アノテーションの復元

Visualforce では、スクリーンリーダーでのアクセシビリティを向上するため、必須入力項目の表示ラベルに「*」文字が追加されます。この機能は誤って無効化されていましたが、復元されるようになりました。

この変更は、すべての Visualforce 入力コンポーネントによって追加された <label> タグに影響します。「*」アノテーションは、項目が必須である理由(データモデル、レイアウト、または Visualforce マークアップで必須)に関係なく、必須項目に追加されます。

「*」文字は、標準 Web ブラウザで Visualforce ページを参照するときには表示されません。晴眼のユーザの場合、必須項目が示される方法について可視的な変更はありません。

リモートアクション応答のエンコードに含まれる単一引用符

リモートアクション応答に含まれる文字列値は、HTML で特殊な意味を持つ「<」や「>」などの文字をエスケープするためにエンコードされます。エンコードに、単一引用符(')が含まれるようになりました。応答の文字列値をエンコードすると、独自の明示的なエンコードを使用するかどうかに関係なく、Visualforce ページで安全に処理できます。

この変更は、応答がプリミティブな単一文字列、sObject、または値のコレクションのどれであるかに関係なく、応答の文字列値に影響します。

ヘッダーが無効化されている場合の Visualforce ページのクリックジャック保護の有効化

クリックジャック保護により、ユーザインターフェース着せ替え攻撃から Visualforce ページを保護します。標準ヘッダーを抑制する Visualforce ページのクリックジャック保護を有効化できます。この設定は組織に対してグローバルであり、すべての Visualforce ページに適用されます。

標準ヘッダーを抑制する Visualforce ページのクリックジャック保護を有効化するには、[設定] > [セキュリティのコントロール] > [セッションの設定] で [ヘッダーが無効化された Visualforce ページのクリックジャック保護を有効化] を選択します。

クリックジャック保護は、X-Frame-Options: SAMEORIGIN ヘッダーを Visualforce ページに追加して実装されます。ページで `showHeader="false"` を設定してヘッダーが抑制されていると、このヘッダーがページに追加されず、クリックジャック保護は無効になります。

ヘッダーを抑制すると、不要なリソースが削除され、Visualforce ページが白紙の状態になるため、通常はこれが望ましい動作です。この新しいセッション設定を使用すると、クリックジャック保護機能のみをオンに戻して Visualforce ページに必要なヘッダーを追加できます。

Visualforce ページのクリックジャック保護の有効化には、副次的影響がいくつかあります。このヘッダーが有効化されていると、Visualforce ドメインから配信されるページのみが `<iframe>` で Visualforce ページをラップできます。有効化されていない場合は、Visualforce ページが埋め込まれます。

一部の既存の Salesforce 機能では、Visualforce ページがフレームに埋め込まれます。Visualforce ページのクリックジャック保護を有効化すると、これらの機能が動作しなくなります。この例としては、Salesforce コンソールのカスタムコンソールコンポーネント、Visualforce ページを埋め込むカスタムダッシュボード、および Visualforce を使用して拡張した他の機能があります。クリックジャック保護を Sandbox 組織または Developer Edition 組織でテストして、動作を確認してから本番組織で有効化することをお勧めします。

組織で Visualforce ページをフレームまたは `<iframe>` 内に表示している場合、クリックジャック保護されたページが、空白のページまたはフレームなしのページとして表示される可能性があります。この動作は、使用するブラウザとそのバージョンに応じて異なります。ページをフレーム化する理由があるとはいえ、フレームページがハッカーによって不正使用されるおそれがあります。

フレーム化された既存の Visualforce ページに対処する方法は 2 つあります。

- これらのページをフレームまたは `<iframe>` 内に表示するのをやめる。これが推奨される解決策です。
- Visualforce ページのクリックジャック保護を有効化しない。この方法では、Visualforce ページを引き続きフレーム化できますが、ページはクリックジャック攻撃に対して脆弱な状態になります。この方法は推奨されません。

 **メモ:** この新しい設定と共に、既存のクリックジャック保護設定の表示ラベルが更新され、4 つのクリックジャック設定全体で一貫性と明確化が維持されます。既存の設定の動作は変更されません。

with sharing キーワードを使用した Apex クラスのアクセス制限

with sharing キーワードを使用して定義された Apex クラスは、組織の共有ルールで非公開に設定されている User オブジェクトに対して絞り込まないアクセスができなくなりました。

このキーワードは、カスタム Visualforce コントローラおよびコントローラ拡張でよく使用されます。詳細は、「[with sharing キーワードを使用した Apex クラスのアクセス制限](#)」(ページ 267)を参照してください。

この変更は、Visualforce 標準コントローラにも適用されます。これは文書化された動作であるため、標準コントローラを使用するページにこの変更が影響することはありません。

Visualforce ドメインからの静的リソースの提供

この重要な更新により、Salesforce からの静的リソース(画像、JavaScript、CSS ファイルなど)の提供方法が変わります。静的リソースへの参照が破損しないようにするには、推奨されるベストプラクティスを確認します。

これより前のリリースでは、画像や CSS ファイルなどの一部の静的リソースは、Salesforce ドメインから読み込まれていました。この更新により、すべての静的リソースが Visualforce ドメインから読み込まれます。元のドメインを変更すると、静的リソースへの絶対参照が失敗する場合があります。

静的リソースを参照するには、静的文字列の代わりに `$Resource` グローバル変数および `URLFOR()` 関数を使用することをお勧めします。次に例を示します。

- `<apex:includeScript value="{!$Resource.MyJavascriptFile}"/>`
- `<apex:image url="{!URLFOR($Resource.TestZip, 'images/Bluehills.jpg')}" width="50" height="50"/>`

以上の参照は、組織の設定に関係なく、安全に使用できます。

この更新を Sandbox 組織または Developer Edition 組織でテストして、ページの正しい動作を確認してから本番組織で有効化することをお勧めします。

この重要な更新を有効化する手順は、次のとおりです。

1. [設定] で、[重要な更新] をクリックします。
2. [Visualforce ドメインからの静的リソースの提供] の [有効化] をクリックします。

コールアウトとして動作する PageReference getContent() および getContentAsPDF() メソッド

この重要な更新により、PageReference メソッド `getContent()` および `getContentAsPDF()` に対して行われたコールの処理方法が変わり、コール側ページのトランザクションのセマンティックが改善されます。

PageReference は、Visualforce ページのインスタンス化への参照です。`getContent()` および `getContentAsPDF()` インスタンスメソッドでは、表示されるページのコンテンツがそれぞれ HTML および PDF として返されます。この更新では、これらのメソッドに対して行われたコールがコールアウトとして動作し、コールトランザクションの制限に関してコールが追跡されます。

この更新を Sandbox 組織または Developer Edition 組織でテストして、ページの正しい動作を確認してから本番組織で有効化することをお勧めします。

この重要な更新を有効化する手順は、次のとおりです。

1. [設定] で、[重要な更新] をクリックします。
2. [PageReference getContent() および getContentAsPDF() メソッドをコールアウトとして処理] の [有効化] をクリックします。

Apex コード

Apex の機能強化により、デバッグログの優先順位の使用および場所と距離のバインド変数の使用が可能になりました。また、機能強化には、コードカバー率の変更とクラスおよびメソッドの新規追加も含まれます。

これらの機能強化についての詳細は、『[Force.com Apex コード開発者ガイド](#)』を参照してください。

エディション

使用可能なエディション:

Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、
Developer Edition、および
Database.com Edition

このセクションの内容:

複数行のステートメントの新しいコードカバレッジ計算

ステートメントが複数行にわたって記述されている場合のコードカバレッジ率が変更されました。式が含まれる各行が、カバーされているコードとカバーされていないコードのコードカバレッジ計算に含まれるようになりました。以前は、複数行のステートメントはコードカバレッジ率で1行のコードとして計算されていました。この変更は、すべての API バージョンに影響します。

予測可能な対応付けとセットの反復順序

順序付けされていないコレクション (Map と Set) 内の要素の順序が、コードの実行時に毎回同じになりました。これまで、順序付けされていないコレクション内の要素の順序は無作為で、対応付けとセットでは要素の順序を使用できませんでした。

デバッグログの予測可能な受信

デバッグログレベルに、明確な優先順位が付けられました。以前は、一部のイベントがログに記録されるかどうかを予測するのが困難でした。

Apex の SOQL および SOSL クエリで許可される場所および距離変数

Apex のバインド式内で場所および距離変数を使用できるようになりました。バインド式を使用すると、SOQL および SOSL クエリで Apex 変数を参照できます。

with sharing キーワードを使用した Apex クラスのアクセス制限

with sharing キーワードを使用して定義された Apex クラスは、組織の共有ルールで非公開に設定されている User オブジェクトに対して絞り込まないアクセスができなくなりました。以前のリリースでは、User オブジェクトは with sharing キーワードの適用対象外でした。User オブジェクトの組織の共有設定の共有は、デフォルトで参照のみで公開されているため、ほとんどの組織でこの動作による影響はありません。ただし、組織が User オブジェクトの組織の共有設定の共有を非公開に設定した場合、with sharing キーワードによって予期しない結果が発生する可能性があります。

Apex メソッドパラメータの視認性の向上

『Force.com Apex コード開発者ガイド』のメソッドに関するトピックのタイトルにサンプルパラメータ名が使用されるようになりました。これまで、Apex メソッドのトピックのタイトルは、メソッドに渡すパラメータのデータ型が記載されていました。しかし、「methodName(String, String, Boolean, String)」のような見出しは使いづらいというフィードバックが寄せられました。

新規および変更された Apex クラス

このリリースでは、次のクラス、メソッド、アノテーション、およびインターフェースが新規追加または変更されています。

複数行のステートメントの新しいコードカバレッジ計算

ステートメントが複数行にわたって記述されている場合のコードカバレッジ率が変更されました。式が含まれる各行が、カバーされているコードとカバーされていないコードのコードカバレッジ計算に含まれるようになりました。以前は、複数行のステートメントはコードカバレッジ率で1行のコードとして計算されていました。この変更は、すべての API バージョンに影響します。

この変更の結果、Summer'15で計算するとコードカバレッジ率の数値が変わる場合があります。新しい計算結果は、シナリオに応じて大きくまたは小さくなります。複数行のステートメントが存在する場合、コードカバレッジ率計

算に含まれる行数が増えます。したがって、それらの行がカバーされていれば、カバー率が高くなる可能性があります。同様に、それらの行がカバーされていなければ、カバー率が低くなる可能性があります。

次に、コードカバー率が高くなる例を示します。次のコードスニペットは、コードカバー率で6行とカウントされます。行は、`Integer n = getSomeNumber1();`、`+ getSomeNumber2();`、`+ getSomeNumber3();`、`+ getSomeNumber4();`、`if (myVar==true) {`、および `notCovered();` です。この例では、`notCovered();` ステートメントのみがカバーされないため、カバーされる行の総数は5です。コードカバー率は 5/6、つまり 83% になります。

```
Integer n = getSomeNumber1()
+ getSomeNumber2()
+ getSomeNumber3()
+ getSomeNumber4();

if (myVar==true) {
    // This line doesn't get executed because myVar is false.
    notCovered();
}
```

これまで、最初の代入ステートメント (`Integer n =`) のすべての式は1行としてカウントされていたため、3行のコードがカウントされていました。コードカバー率は 2/3、つまり 66% になります。

```
Integer n = getSomeNumber1()
+ getSomeNumber2()
+ getSomeNumber3()
+ getSomeNumber4();

if (myVar==true) {
    // This line doesn't get executed because myVar is false.
    notCovered();
}
```

次に、コードカバー率が低くなる例を示します。`if` 条件内の式は、コードカバー率で3行とカウントされます。`fooReturnsFalse()` は `false` 値を返すため、条件の残りの式は評価されず、したがってカバーされません。コードカバー率は 1/3、つまり 33% になります。

```
if (fooReturnsFalse() &&
    neverInvoked1() &&
    neverInvoked2())
{ }
```

これまで、`if` 条件の3つの式は、コードカバー率で併せて1行としてカウントされていたため、コードカバー率は 1/1、つまり 100% でした。

```
if (fooReturnsFalse() &&
    neverInvoked1() &&
    neverInvoked2())
{ }
```


 メモ:

- 複数の式で構成されるステートメントが1行に記述されている場合、コードカバー率では1行としてカウントされます。このステートメントの一部がカバーされ、他の部分がカバーされない場合、併せて1行としてカウントされているため、ステートメント全体はカバーされた行としてカウントされます。
- Apex コンパイラによって、ステートメントの式が最適化される場合があります。たとえば、複数の文字列定数が + 演算子で連結される場合、コンパイラは内部的にそれらの式を1つの文字列定数に置き換えます。文字列の連結式が複数行にわたる場合、最適化後、追加の行はコードカバー率計算の一部として計算されません。この点を説明するため、文字列変数が、連結される2つの文字列定数に割り当てられています。2つ目の文字列定数は、別の行にあります。

```
String s = 'Hello'
        + ' World!';
```

コンパイラは、文字列の連結を最適化し、文字列を内部的に1つの文字列定数として表します。この例の2行目は、コードカバー率では無視されます。

```
String s = 'Hello World!';
```

関連トピック:

https://developer.salesforce.com/docs/atlas.en-us.apexcode.meta/apexcode/langCon_apex_expressions_understanding.htm

https://developer.salesforce.com/docs/atlas.en-us.apexcode.meta/apexcode/apex_code_coverage_intro.htm

予測可能な対応付けとセットの反復順序

順序付けされていないコレクション (Map と Set) 内の要素の順序が、コードの実行時に毎回同じになりました。これまで、順序付けされていないコレクション内の要素の順序は無作為で、対応付けとセットでは要素の順序を使用できませんでした。

コードでは、順序付けされていないコレクション内の要素の順序に依存しないのが理想です。依存するコードは、今回の変更以前はエラーになる可能性があります。今回の変更では対応付けとセット内の反復順序が常に同じになるため、コードはより堅牢になります。

次の例は、対応付け内の反復順序がどう決まるかを示しています。対応付けは、2つの要素で作成されます。次に、for ループにより対応付け要素が反復処理され、各要素の鍵と値がデバッグログに書き出されます。このスニペットを実行するときは、毎回 for ループ内の要素の反復順序が同じです。

```
Map<String, String> currencyMap = new Map<String, String>();
currencyMap.put('France', 'Euro');
currencyMap.put('Japan', 'Yen');
// Iterate through the map elements.
for (String mapKey : currencyMap.keySet()) {
    System.debug('Key: ' + mapKey +
        ', Value: ' + currencyMap.get(mapKey));
}

// The output is:
```

```
Key: France, Value: Euro
Key: Japan, Value: Yen
```

-  **メモ:** この変更のための重要な更新 (Apex の順序付けされていないコレクションの予測可能な反復順序) は、Summer '15 より前に追加されました。この更新により、アプリケーションをテストして、変更でエラーが発生しないことを確認したり、発生したエラーを修正したりする時間を設けることができます。まれに、変更が原因で順序に依存するロジックが失敗することがあります。この更新は現在、すべての組織と API バージョンに適用されています。

デバッグログの予測可能な受信

デバッグログレベルに、明確な優先順位が付けられました。以前は、一部のイベントがログに記録されるかどうかを予測するのが困難でした。

デバッグログレベルの優先順位は次のとおりです。

- 開発者コンソールで設定された追跡フラグにより、他のすべてのログ記録ロジックが上書きされます。開発者コンソールは読み込み時に追跡フラグを設定し、その追跡フラグは期限が切れるまで有効な状態が続きます。
 - 追跡フラグとその期限にアクセスするには、開発者コンソールを開き、[Debug(デバッグ)] > [Change Log Levels (ログレベルを変更)] をクリックします。
 - クラスまたはトリガの追跡フラグを追加するには、[Add(追加)] をクリックし、クラスまたはトリガを選択して [Add(追加)] をクリックします。ログレベルを調整するには、項目をダブルクリックします。
- 有効な追跡フラグがない場合、同期または非同期 Apex テストがデフォルトのログレベルで実行されます。デフォルトのログレベルは次のとおりです。

DB

INFO

APEX_CODE

DEBUG

APEX_PROFILING

INFO

WORKFLOW

INFO

VALIDATION

INFO

CALLOUT

INFO

VISUALFORCE

INFO

SYSTEM

DEBUG

3. 関連する追跡フラグが無効でテストが実行中ではない場合は、APIヘッダーでログレベルが設定されます。デバッグヘッダーなしで送信されたAPI要求では、別のログルールが有効な場合を除き、一時的なログ、つまり保存されないログが生成されます。詳細は、『[Force.com Apex コード開発者ガイド](#)』の「DebuggingHeader」を参照してください。
4. ユーザに対してシステムログを有効化すると、そのユーザの以降20件の要求についてデバッグログが生成されます。ユーザベースのデバッグログを設定する方法についての詳細は、Salesforce ヘルプの「デバッグログの監視」を参照してください。
5. エントリポイントでログレベルが設定されている場合は、そのログレベルが使用されます。たとえば、Visualforce 要求には、ログレベルを設定するデバッグパラメータを含めることができます。

上記のいずれも該当しない場合、ログの生成と保持は行われません。デバッグログレベルについての詳細は、『[Force.com Apex コード開発者ガイド](#)』の「開発者コンソールのログの操作」を参照してください。

Apex の SOQL および SOSL クエリで許可される場所および距離変数

Apex のバインド式内で場所および距離変数を使用できるようになりました。バインド式を使用すると、SOQL および SOSL クエリで Apex 変数を参照できます。

Apex の SOQL ステートメントと SOSL ステートメントは、前にコロンの(:)がある場合、Apex コード変数と式を参照できます。このように SOQL ステートメントまたは SOSL ステートメント内でローカルコード変数を使用することを、バインドと呼びます。Apex パーサーは、SOQL ステートメントまたは SOSL ステートメントを実行する前に、最初にコードコンテキスト内のローカル変数を評価します。

次のクエリが許可されるようになりました。

```
Double myLatitude = 10;
Double myLongitude = 10;
List<Account> accountList =
    [SELECT Id, Name, BillingLatitude, BillingLongitude
     FROM Account
     WHERE DISTANCE(My_Location_Field__c, GEOLOCATION(:myLatitude, :myLongitude), 'mi') <
     10];
```

```
Location myLocation = Location.newInstance(10, 10);
Double myDistance = 100;
List<Account> accountList =
    [SELECT Id, Name, BillingLatitude, BillingLongitude
     FROM Account
     WHERE DISTANCE(My_Location_Field__c, :myLocation, 'mi') < :myDistance];
```

Apex バインド変数は、DISTANCE または GEOLOCATION 関数の単位パラメータではサポートされません。次のクエリは機能しません。

```
String units = 'mi';
List<Account> accountList =
    [SELECT ID, Name, BillingLatitude, BillingLongitude
     FROM Account
     WHERE DISTANCE(My_Location_Field__c, GEOLOCATION(10,10), :units) < 10];
```

with sharing キーワードを使用した Apex クラスのアクセス制限

with sharing キーワードを使用して定義された Apex クラスは、組織の共有ルールで非公開に設定されている User オブジェクトに対して絞り込まないアクセスができなくなりました。以前のリリースでは、User オブジェクトは with sharing キーワードの適用対象外でした。User オブジェクトの組織の共有設定の共有は、デフォルトで参照のみで公開されているため、ほとんどの組織でこの動作による影響はありません。ただし、組織が User オブジェクトの組織の共有設定の共有を非公開に設定した場合、with sharing キーワードによって予期しない結果が発生する可能性があります。

デフォルトでは、Apex コードはシステムコンテキストで実行され、組織の全データに対するフルアクセス権があります。with sharing キーワードは、データアクセス時、現在のユーザの共有ルールを考慮するようにクラスに指示します。詳細は、『[Force.com Apex コード開発者ガイド](#)』の「with sharing または without sharing キーワードの使用」を参照してください。

API バージョン 34.0 以降、User オブジェクトは with sharing キーワードによる結果の追加の絞り込みから除外されなくなります。この変更はバージョン設定されています。新しい動作にアクセスするには、コードを API バージョン 34.0 以降に更新してください。

古い動作に依存するコードがある場合、互換性を保持するには 2 つのオプションがあります。

- 影響を受ける Apex クラスを API バージョン 33.0 より後に更新しない。
- 影響を受けるクラスを、without sharing を使用してコンテキストユーザに基づく絞り込みを実装するようにユーザが変更する。

Apex メソッドパラメータの視認性の向上

『[Force.com Apex コード開発者ガイド](#)』のメソッドに関するトピックのタイトルにサンプルパラメータ名が使用されるようになりました。これまで、Apex メソッドのトピックのタイトルは、メソッドに渡すパラメータのデータ型が記載されていました。しかし、「methodName(String, String, Boolean, String)」のような見出しは使いづらいというフィードバックが寄せられました。

さらに、パラメータ名の形式を標準化し、一部のパラメータ名を明確にしました。新しいメソッドの見出しを確認するは、Summer '15 バージョンの『[Force.com Apex コード開発者ガイド](#)』で「リファレンス」の章を参照してください。

新規および変更された Apex クラス

このリリースでは、次のクラス、メソッド、アノテーション、およびインターフェースが新規追加または変更されています。

新しいメソッド

次の既存のクラスに新規メソッドが追加されました。

Auth.AuthConfiguration クラス

```
getForgotPasswordUrl()
```

システム管理者によってコミュニティまたはポータルに指定された、標準またはカスタムの [パスワードを忘れた場合] ページの URL を返します。

Reports.ReportMetadata クラス

次のメソッドでは、ディビジョン、レポートに詳細データがあるかどうか、レポートにレコード件数が含まれるかどうか、データの範囲、並び替えに使用される項目、標準の日付検索条件、デフォルトの検索条件などのレポートのプロパティを取得または設定できます。新規追加されたメソッドは次のとおりです。

- `getDivision`
- `getHasDetailRows`
- `getHasRecordCount`
- `getScope`
- `getSortBy`
- `getStandardDateFilter`
- `getStandardFilters`
- `setDivision`
- `setHasDetailRows`
- `setHasRecordCount`
- `setScope`
- `setSortBy`
- `setStandardDateFilter`
- `setStandardFilters`

レポート REST API でも、レポートメタデータプロパティが公開されます。[「Salesforce1 レポート REST API のリクエストボディとレスポンスボディの変更」](#)を参照してください。

System.Search クラス

`find(String)`

WITH SNIPPET 句を指定できる動的な SOSL クエリを使用して検索を実行します。スニペットでは、Salesforce ナレッジ記事の検索結果のコンテキストが提供されるため、ユーザは探している内容を識別できます。

`suggest(String, String, Search.SuggestionOption)`

名前またはタイトルがユーザの検索クエリ文字列に一致したレコードまたは Salesforce ナレッジ記事のリストを返します。ユーザが検索を実行する前に関連レコードまたは記事に移動するショートカットをユーザに提供するには、このメソッドを使用します。

System.Site クラス

エラーをより適切に処理するには、`createPortalUser()` ではなく `createExternalUser()` メソッドを使用します。各メソッドは、新しいコミュニティまたはポータルユーザを作成して、コミュニティまたはポータルの指定された取引先に関連付けます。各メソッドは、ユーザの作成が失敗すると、`Site.ExternalUserCreateException` を発生させます。

`createExternalUser(name, accountId)`

指定された取引先のコミュニティまたはポータルユーザを作成し、コミュニティに関連付けます。

`createExternalUser(name, accountId, password)`

指定された取引先のコミュニティまたはポータルユーザを作成し、コミュニティに関連付けます。このメソッドでは、指定されたパスワードが記載されたメールをユーザに送信します。

```
createExternalUser(name, accountId, password, sendEmailConfirmation)
```

コミュニティまたはポータルユーザを作成し、指定された取引先に関連付けます。このメソッドでは、指定されたパスワードと新規ユーザの確認が記載されたメールをユーザに送信します。

System.String クラス

```
equals(stringOrId)
```

渡されたオブジェクトが null ではなく、現在の文字列と同じバイナリ文字シーケンスを表す場合、true を返します。文字列と、文字列または ID を表すオブジェクトを比較するには、このメソッドを使用します。

新しい equals(Object) メソッドで、廃止された equals(String) が置き換えられました。以前は、Apex ランタイムで ID が文字列に変換されるため、文字列と ID を比較するには、equals(String) メソッドを使用していました。新しい equals(Object) メソッドは、現在の文字列を任意のオブジェクト(文字列や ID など)と比較します。この新しいメソッドにより、文字列と ID の比較をより確実に処理できます。

変更されたメソッド

次のクラスでメソッドが変更されました。

System.Date クラス

```
valueOf(fieldValue)
```

API バージョン 33.0 以前では、Datetime を表すオブジェクトを指定して Date.valueOf をコールすると、メソッドは時間、分、秒を含む Date 値を返しました。バージョン 34.0 以降では、Date.valueOf はオブジェクトを時間情報のない有効な Date に変換します。Datetime データ型の変数を Date に変換するには、Datetime.date メソッドを使用します。

新しいプロパティ

次のクラスに新規プロパティが追加されました。

DMLOptions.DuplicateRuleHeader クラス

```
includeRecordDetails
```

重複として検出されたレコードの項目と値を取得するには、true に設定します。重複として検出されたレコードのレコード ID のみを取得するには、false に設定します。

```
runAsCurrentUser
```

重複ルールを実行するときに現在のユーザの共有ルールを適用するには、true に設定します。クラスで指定された共有ルールを要求に使用するには、false に設定します。共有ルールが指定されていない場合、Apex コードはシステムコンテキストで実行され、現在のユーザの共有ルールは適用されません。

新規クラス

次のクラスが追加されました。

DataSource 名前空間のクラス

新しい名前空間 DataSource およびクラスが Apex コネクタフレームワークに追加されました。これらのクラスを使用すると、Lightning Connect のカスタムアダプタを作成して、Salesforce 組織以外に保存されている

データにアクセスできます。[「Lightning Apex コネクタフレームワークで場所を問わずにデータにアクセス」](#) (ページ 212) を参照してください。

Search 名前空間のクラス

新しい名前空間 Search とクラスが追加されました。

これらのクラスは、`System.Search.find(String)` メソッドをサポートします。このメソッドでは、`WITH SNIPPET` 句を指定できる動的な SOSL クエリを実行します。

- `Search.SearchResult` — `sObject` と検索メタデータが含まれるラッパーオブジェクト。このクラスには次のメソッドがあります。
 - `getSObject()` — `SearchResult` オブジェクトから `sObject` を返します。
 - `getSnippet()` — デフォルト項目に基づいて `SearchResult` オブジェクトからスニペットを返します。
 - `getSnippet(String)` — 指定された項目名に基づいて `SearchResult` オブジェクトからスニペットを返します。
- `Search.SearchResults` — `Search.find(String)` メソッドから返された結果をラップします。このクラスには次の 1 つのメソッドがあります。
 - `get(String)` — 指定された種別の `sObject` が含まれる `Search.SearchResult` オブジェクトのリストを返します。

次のクラスでは `System.Search.suggest(String, String, Search.SuggestionOption)` メソッドがサポートされます。このメソッドは、名前またはタイトルがユーザの検索クエリ文字列に一致したレコードまたは Salesforce ナレッジ記事のリストを返します。

- `Search.KnowledgeSuggestionFilter` — SOSL 検索クエリに `KnowledgeArticleVersion` オブジェクトが含まれている場合、`System.Search.suggest(searchQuery, sObjectType, options)` へのコール結果を絞り込む検索条件設定。このクラスには次のメソッドがあります。
 - `addArticleType(String)` — 指定された記事タイプが表示されるように検索条件を追加して提案結果を絞り込みます。この検索条件は省略可能です。
 - `addDataCategory(String, String)` — 指定されたデータカテゴリの記事が表示されるように検索条件を追加して提案結果を絞り込みます。この検索条件は省略可能です。
 - `setChannel(String)` — 指定されたチャネルの記事が表示されるようにチャネルを設定して提案結果を絞り込みます。この検索条件は省略可能です。
 - `setDataCategories(Map)` — 指定されたデータカテゴリの記事が表示されるように検索条件を追加して提案結果を絞り込みます。1 回のコールに複数のデータカテゴリグループと名前のペアを設定するには、このメソッドを使用します。この検索条件は省略可能です。
 - `setLanguage(String)` — 特定の言語の記事が表示されるように言語を設定して提案結果を絞り込みます。この検索条件値は、`System.Search.suggest(String, String, Search.SuggestionOption)` へのコールでは必須です。
 - `setPublishStatus(String)` — 特定の公開状況の記事が表示されるように、その状況を設定して提案結果を絞り込みます。この検索条件値は、`System.Search.suggest(String, String, Search.SuggestionOption)` へのコールでは必須です。
 - `setValidationStatus(String)` — 特定の検証状況の記事が表示されるように、その状況を設定して提案結果を絞り込みます。この検索条件は省略可能です。

- `Search.SuggestionOption` — `System.Search.suggest(String, String, Search.SuggestionOption)` へのコールで返されたレコードと記事の提案結果を絞り込むオプション。このクラスには次のメソッドがあります。
 - `setFilter(Search.KnowledgeSuggestionFilter)` — 検索条件を設定して、`System.Search.suggest(String, String, Search.SuggestionOption)` へのコールで返される Salesforce ナレッジ記事の結果を絞り込みます。
 - `setLimit(Integer)` — 取得する推奨レコードまたは記事の最大数。
- `Search.SuggestionResult` — `sObject` が含まれるラッパーオブジェクト。このクラスには次のメソッドがあります。
 - `getSObject()` — `SuggestionResult` オブジェクトから `sObject` を返します。
- `Search.SuggestionResults` — `Search.suggest(String, String, Search.SuggestionOption)` メソッドから返された結果をラップします。このクラスには次のメソッドがあります。
 - `getSuggestionResults()` — `Search.suggest(String, String, Search.SuggestionOption)` へのコールへの応答から `SuggestionResult` オブジェクトのリストを返します。
 - `hasMoreResults()` — `System.Search.suggest(String, String, Search.SuggestionOption)` へのコールで、返された結果の他にもさらに取得できる結果があるかどうかを示します。

新規インターフェース

次のインターフェースが追加されました。

`TerritoryMgmt.OpportunityTerritory2AssignmentFilter` インターフェース

新しい名前空間 `TerritoryMgmt` とインターフェースがエンタープライズテリトリ管理に追加されました。このインターフェースを実装し、テリトリ優先度の値に基づいてテリトリを商談に割り当てるジョブに対する検索条件のロジックを定義できます。このインターフェースでは、`getOpportunityTerritory2Assignments(List<Id>)` メソッドがサポートされます。実装されたメソッドは、商談テリトリ割り当てジョブでコールされ、テリトリを商談に割り当てます。入力は、`IsExcludedFromTerritory2Filter` を `false` に設定した、最大 1,000 件の `opportunityId` のリストです。メソッドは、`OpportunityId` から `Territory2Id` への対応付けを返します。これは `Opportunity` オブジェクトの `Territory2Id` 項目を更新するために使用されます。提供されているサンプルクラスを使用または変更することをお勧めします。詳細は、『[Force.com Apex コード開発者ガイド](#)』の「`OpportunityTerritory2AssignmentFilter` インターフェース」を参照してください。

このセクションの内容:

[ConnectApi \(Chatter in Apex\)](#)

Salesforce にカスタム操作を作成するには、`Chatter in Apex` を使用します。このリリースでは、フィード投稿とコメントの編集やレコードのグループへの関連付けなどが可能になり、カスタムのおすすめのサポートが強化されています。

ConnectApi (Chatter in Apex)

Salesforce にカスタム操作を作成するには、Chatter in Apex を使用します。このリリースでは、フィード投稿とコメントの編集やレコードのグループへの関連付けなどが可能になり、カスタムのおすすめのサポートが強化されています。

ConnectApi 名前空間の Apex クラスでは多くの Chatter REST API リソースアクションが静的メソッドとして公開されています。これらのメソッドでは、情報を入力したり返したりするために他の ConnectApi クラスが使用されます。ConnectApi 名前空間は、Chatter in Apex と呼ばれます。

Apex では、SOQL クエリとオブジェクトを使用して、一部の Chatter データにアクセスできます。ただし、ConnectApi クラスでは Chatter データがより単純な方法で公開されます。データは、表示用にローカライズされ、構成されます。たとえば、フィードへのアクセスや作成を、多くのコールではなく1回のコールで行うことができます。

 **メモ:** モバイルアプリケーション、イントラネットサイト、およびサードパーティ Web アプリケーションを Chatter や Communities に統合するには、Chatter REST API を使用します。

このセクションの内容:

[Chatter in Apex の全般的な更新](#)

[新規および変更された Chatter in Apex クラス](#)

[新規および変更された Chatter in Apex 入力クラス](#)

[新規および変更された Chatter in Apex 出力クラス](#)

[新規および変更された Chatter in Apex Enum](#)

Chatter in Apex の全般的な更新

アクションリンクのカスタム表示ラベルの作成

アクションリンクに適した表示ラベルが「表示ラベルキー」ドロップダウンリストにない場合、「表示ラベルキー」を[なし]に設定して、「表示ラベル」項目にカスタム表示ラベルを入力します。カスタム表示ラベルは、アクションリンクテンプレートでのみ作成できます。

アクションリンクには、NewStatus、PendingStatus、SuccessStatus、FailedStatus の4つの状況があります。次の文字列が、各状況の表示ラベルに追加されます。

- `label`
- 表示ラベル待機中
- 表示ラベル成功
- 表示ラベル失敗

たとえば、`label` の値が「See Example」の場合、4つのアクションリンクの状態の値は「See Example」、「See Example 待機中」、「See Example 成功」、および「See Example 失敗」になります。

新規および変更された Chatter in Apex クラス

フィード

これらのメソッドは、`ConnectApi.ChatterFeeds` クラスに含まれます。

コンテキストユーザによる投稿またはコメントの編集が可能か判別

- `isCommentEditableByMe (communityId, commentId)` — コンテキストユーザがコメントを編集できるかどうかを示します。
- `isFeedElementEditableByMe (communityId, feedElementId)` — コンテキストユーザがフィード要素を編集できるかどうかを示します。フィード要素の種類のうち、編集可能なのはフィード項目のみです。

投稿またはコメントの編集

- `updateComment (communityId, commentId, comment)` — コメントを編集します。
- `updateFeedElement (communityId, feedElementId, feedElement)` — フィード要素を編集します。フィード要素の種類のうち、編集可能なのはフィード項目のみです。

グループ

これらのメソッドは、`ConnectApi.ChatterGroups` クラスに含まれます。

レコードのグループへの関連付け

- `addRecord(communityId, groupId, recordId)` — レコードをグループに関連付けます。

グループレコードに関する情報の取得

- `getRecord(communityId, groupRecordId)` — グループに関連付けられたレコードに関する情報を返します。

グループレコードの削除

- `removeRecord(communityId, groupRecordId)` — レコードとグループの関連付けを削除します。

コミュニティのグループレコードの取得

次のメソッドでは、コミュニティのグループレコードがサポートされるようになりました。

- `getRecords(communityId, groupId)`
- `getRecords(communityId, groupId, pageParam, pageSize)`

推奨事項

これらのメソッドは、`ConnectApi.Recommendations` クラスに含まれます。

静的なおすすめの拒否

- `rejectRecommendationForUser(communityId, userId, action, objectEnum)` — コンテキストユーザへの静的なおすすめを拒否します。

カスタムのおすすめの取得

次の既存のメソッドを使用してカスタムのおすすめを取得できるようになりました。

- `getRecommendationForUser(communityId, userId, action, objectId)`
- `getRecommendationsForUser(communityId, userId, contextAction, contextObjectId, maxResults)`
- `getRecommendationsForUser(communityId, userId, action, contextAction, contextObjectId, maxResults)`
- `getRecommendationsForUser(communityId, userId, action, objectCategory, contextAction, contextObjectId, maxResults)`

カスタムのおすすめの拒否

次の既存のメソッドを使用してカスタムのおすすめを拒否できるようになりました。

- `rejectRecommendationForUser(communityId, userId, action, objectId)`

新規および変更された Chatter in Apex 入力クラス

グループ

`ConnectApi.GroupRecordInput`

この新しいクラスには、1つのプロパティ `recordId` があります。このプロパティはグループに関連付けられたレコードの ID です。

新規および変更された Chatter in Apex 出力クラス

アクションリンク

ConnectApi.ActionLinkDefinition

このクラスには、1つの新しいプロパティ `label` があります。このプロパティでは、アクションリンクボタンに表示されるカスタムの表示ラベルを指定します。

アクションリンクには、`NewStatus`、`PendingStatus`、`SuccessStatus`、`FailedStatus` の4つの状況があります。次の文字列が、各状況の表示ラベルに追加されます。

- `label`
- 表示ラベル待機中
- 表示ラベル成功
- 表示ラベル失敗

たとえば、`label` の値が「See Example」の場合、4つのアクションリンクの状態の値は「See Example」、「See Example 待機中」、「See Example 成功」、および「See Example 失敗」になります。

アクションリンクでは、表示ラベル名の生成に `label` または `labelKey` を使用できますが、両方は使用できません。`label` に値がある場合、`labelKey` の値は `None` になります。`labelKey` に `None` 以外の値がある場合、`label` の値は `null` になります。

コミュニティ

ConnectApi.UserSettings

このクラスには、1つの新しいプロパティ `canViewCommunitySwitcher` があります。このプロパティでは、ユーザにコミュニティ切り替えメニューが表示されるかどうかを指定します。

フィード

ConnectApi.CommentCapabilities

この出力クラスには、次の新しいプロパティが含まれます。

- `edit` — コメントにこの機能がある場合、権限を持つユーザはコメントを編集できます。

ConnectApi.EditCapability

この新しい出力クラスには次のプロパティがあります。

- `isEditRestricted` — このフィード要素またはコメントの編集が制限されているかどうかを指定します。`true` の場合、コンテキストユーザはこのフィード要素またはコメントを編集できません。`false` の場合、コンテキストユーザにこのフィード要素またはコメントを編集する権限がある場合とない場合があります。コンテキストユーザがフィード要素またはコメントを編集できるかどうかを判別するには、`isFeedElementEditableByMe(String, String)` または `isCommentEditableByMe(String, String)` メソッドを使用します。
- `isEditableByMeUrl` — コンテキストユーザがこのフィード要素またはコメントを編集できるかどうかをチェックするための URL。
- `lastEditedBy` — このフィード要素またはコメントを最後に編集したユーザ。
- `lastEditedDate` — このフィード要素またはコメントの最終編集日。

- `latestRevision` — このフィード要素またはコメントの最新バージョン。
- `relativeLastEditedDate` — 相対的な最終編集日 (「2 時間前」など)。

ConnectApi.FeedElementCapabilities

この出力クラスには、次の新しいプロパティが含まれます。

- `edit` — フィード要素にこの機能がある場合、権限を持つユーザはフィード要素を編集できます。

ConnectApi.FeedEntityIsEditable

この新しい出力クラスには次のプロパティがあります。

- `feedEntityUrl` — フィード要素またはコメントの URL。
- `isEditableByMe` — コンテキストユーザがフィード要素またはコメントを編集できる場合は `true`、それ以外の場合は `false`。

ファイル

ConnectApi.UserSettings

この出力クラスには 1 つの新しいプロパティ `hasFileSyncManagedClientAutoUpdate` があります。このプロパティは、ユーザの組織のシステム管理者が FileSync クライアントの自動更新を許可するかどうかを示します。

メンテナンス

ConnectApi.MaintenanceInfo

組織の定期メンテナンス予定に関する情報を表すこの新しいクラスには、次のプロパティがあります。

- `description` — メンテナンスの説明。
- `maintenanceTitle` — メンテナンスのタイトル。
- `maintenanceType` — メンテナンスの種別を指定します。次のいずれかになります。
 - `Downtime` — ダウンタイムメンテナンス。
 - `GenerallyAvailable` — 正式リリースモードでのメンテナンス。
 - `MaintenanceWithDowntime` — ダウンタイムを伴う定期メンテナンス。
 - `ReadOnly` — 参照のみモードでのメンテナンス。
- `messageEffectiveTime` — ユーザへのメンテナンスメッセージの表示を開始する実効時間。
- `messageExpirationTime` — メンテナンスメッセージの表示終了時刻。
- `scheduledEndDowntime` — ダウンタイムの終了予定。 `GenerallyAvailable` および `ReadOnly` メンテナンス種別では `null` になります。
- `scheduledEndMaintenanceTime` — メンテナンスの終了予定。 `Downtime` メンテナンス種別では `null` になります。
- `scheduledStartDowntime` — ダウンタイムの開始予定。 `GenerallyAvailable` および `ReadOnly` メンテナンス種別では `null` になります。
- `scheduledStartMaintenanceTime` — メンテナンスの開始予定。 `Downtime` メンテナンス種別では `null` になります。

ConnectApi.OrganizationSettings

このクラスには、1つの新しいプロパティ `maintenanceInfo` があります。このプロパティは、組織の定期メンテナンス予定のリストに関する情報を提供します。

Motif

ConnectApi.Motif

この出力クラスには新しい `svgIconUrl` プロパティがあります。このプロパティは、レコードタイプを表す SVG 形式のアイコンへの URL です。

おすすめ

ConnectApi.AbstractRecommendation

この抽象クラスには、次の新しいプロパティがあります。

- `platformActionGroup` — コンテキストユーザに適した状態のプラットフォームアクショングループインスタンス。
- `url` — おすすめの URL。

ConnectApi.Actor

この抽象クラスは新しい `ConnectApi.RecommendedObject` クラスのスーパークラスであり、その `type` プロパティで `recommendedObject` 値がサポートされるようになりました。

ConnectApi.EntityRecommendation

この出力クラスの `entity` プロパティに、カスタムのおすすめを表す `ConnectApi.RecommendedObject` を追加できるようになりました。

ConnectApi.NonEntityRecommendation

この出力クラスはバージョン 34.0 以降では使用されず、すべてのおすすめには `ConnectApi.EntityRecommendation` クラスが使用されるようになりました。

ConnectApi.RecommendedObject

カスタムのおすすめを表すこの新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- `idOrEnum` — カスタムのおすすめの、おすすめ定義の ID。
- `motif` — おすすめのオブジェクトの Motif。

新規および変更された Chatter in Apex Enum

これらの Enum についての詳細は、『*Apex コード開発者ガイド*』の「ConnectApi Enum」を参照してください。

`ConnectApi.FeedElementCapabilityType`

この Enum には、権限を持つユーザがフィード要素を編集できるかどうかを示す `Edit` 値が新規追加されました。

`ConnectApi.MaintenanceType`

この新しい Enum には次の値があります。

- `Downtime` — ダウンタイムメンテナンス。
- `GenerallyAvailable` — 正式リリースモードでのメンテナンス。
- `MaintenanceWithDowntime` — ダウンタイムを伴う定期メンテナンス。

- `ReadOnly` — 参照のみモードでのメンテナンス。

`ConnectApi.RecommendedObjectType`

この新しい Enum には次の値があります。

- `Today` — ID のない静的なおすすめ (Today アプリケーションのおすすめなど)。

Lightning コンポーネント

Lightning コンポーネントフレームワークは、Salesforce1 を強化します。このフレームワークを使用すると、モバイルアプリケーションやページをこれまで以上にすばやく構築できます。

すぐに使えるコンポーネントを使用するか、JavaScript、HTML、CSS、Apex、その他の Web 対応コードを使用して独自のコンポーネントを構築します。

AppExchange for Components では、Salesforce パートナーが作成したコンポーネントをインストールしたり、独自のコンポーネントを公開したりすることができます。

詳細は、『[Lightning コンポーネント開発者ガイド](#)』を参照してください。

このセクションの内容:

[スタンドアロン Lightning アプリケーション \(正式リリース\)](#)

スタンドアロンアプリケーション (.app リソース) の Lightning コンポーネントが正式リリースされました。Lightning コンポーネントと Salesforce1 の統合はベータリリースです。本番品質ではありますが、いくつかの制限があります。

[Lightning コンポーネント](#)

コンポーネントは、アプリケーションを迅速に作成するのに役立ちます。これらは Lightning アプリケーションまたは Salesforce1 で使用します。

[Lightning イベント](#)

イベントにより、コンポーネントにインタラクションのレイヤが追加されます。

[Lightning コンポーネントのその他の変更](#)

Lightning コンポーネントがさらに変更されました。

エディション

使用可能なエディション:

Contact Manager Edition、
Group Edition、
Professional Edition、
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

UI を使用して Lightning コンポーネントを作成するエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、**Developer** Edition、または Sandbox

スタンドアロン Lightning アプリケーション (正式リリース)

スタンドアロンアプリケーション (.app リソース) の Lightning コンポーネントが正式リリースされました。

Lightning コンポーネントと Salesforce1 の統合はベータリリースです。本番品質ではありますが、いくつかの制限があります。

スタンドアロンアプリケーションの Lightning コンポーネントはデフォルトで使用できます。[設定] から [開発] > [Lightning コンポーネント] に移動し、Salesforce1 で Lightning コンポーネントを有効にできます。

Lightning コンポーネント

コンポーネントは、アプリケーションを迅速に作成するのに役立ちます。これらは Lightning アプリケーションまたは Salesforce1 で使用します。

変更されたコンポーネント

次のコンポーネントは、ボディ構造が簡素化され、パフォーマンスが向上しています。これらのパフォーマンスの強化により、Salesforce1 のレコード編集ページなど、入力および出力コンポーネントが多数あるアプリケーションやページで特に、コンポーネントの読み込み時間が短くなります。

ui:input

ui:input を拡張する入力コンポーネントにボディを渡すことができなくなります。たとえば、ボディを ui:inputCheckbox に渡して、ui:inputCheckbox が提供するボディを上書きすることはできません。

ui:outputEmail

このコンポーネントのルート要素が、 タグになりました。ui:outputEmail のクライアント側のコントローラに、mailto: プレフィックスを指定のテキスト値に追加するロジックが含まれ、次の例のようになります。

```
<span class="uiOutputEmail">
  <a href="mailto:abc@email.com">abc@email.com</a>
</span>
```

ui:outputPhone

ui:outputPhone のクライアント側のコントローラに、tel: プレフィックスをモバイルデバイスの指定の値に追加するロジックが含まれるようになりました。この変更はパフォーマンスの強化の1つであり、実装には影響ありません。

ui:outputURL

iconClass が使用されているかどうかに基づいて、ui:outputURL のクライアント側のコントローラに、<a> タグのボディを構築するロジックが含まれるようになりました。この変更はパフォーマンスの強化の1つであり、実装には影響ありません。

Lightning イベント

イベントにより、コンポーネントにインタラクションのレイヤが追加されます。

次の ui イベントを使用できるようになりました。

イベント名	説明
ui:clearErrors	検証エラーをクリアする必要があることを示します。
ui:validationError	コンポーネントに検証エラーがあることを示します。

Lightning コンポーネントのその他の変更

Lightning コンポーネントがさらに変更されました。

このセクションの内容:

[Lightning コンポーネントでの \[私のドメイン\] の使用](#)

[私のドメイン] によるカスタムドメインを使用する場合に、Lightning コンポーネントが機能するようになりました。

[Lightning コンポーネントでのカスタム表示ラベルの使用](#)

`$Label` グローバル値プロバイダを使用して Lightning コンポーネントでカスタム表示ラベルを使用します。

[新しい `empty\(\)` 式の関数](#)

`empty(v.attributeName)` 関数は、引数が空の場合に `true` を返します。

[Lightning App Builder コンポーネントの選択リストの作成](#)

Lightning App Builder 向けに設定したカスタム Lightning コンポーネントで、文字列項目を選択リストとして表示できるようになりました。

[Lightning App Builder コンポーネントのデザインファイルの変更](#)

Lightning App Builder コンポーネントのデザインファイルのサポートに 2 つの変更が加えられました。

[参照整合性の検証の拡張](#)

Lightning コンポーネントおよびコンポーネントの連動関係への変更によって既存のコードが破損しないことを確認するために、保存時に検証される変更の範囲が拡張されました。

[デフォルトの名前空間を使用可能なコンテキストの増加](#)

以前のリリースで導入されたデフォルトの名前空間「`c`」を使用できるコンテキストが増えました。デフォルトの名前空間を使用して、`<aura:dependency>` を使用するリソースを参照できます。

Lightning コンポーネントでの [私のドメイン] の使用

[私のドメイン] によるカスタムドメインを使用する場合に、Lightning コンポーネントが機能するようになりました。

[私のドメイン] についての詳細は、[オンラインヘルプ](#)を参照してください。

Lightning コンポーネントでのカスタム表示ラベルの使用

`$Label` グローバル値プロバイダを使用して Lightning コンポーネントでカスタム表示ラベルを使用します。

カスタム表示ラベルは、Salesforce でサポートされている言語に翻訳できるカスタムテキスト値です。カスタム表示ラベルを使用することで、開発者は、情報(ヘルプテキストやエラーメッセージなど)を自動的にユーザの母国語に表示する多言語アプリケーションを作成できます。

Lightning コンポーネントでカスタム表示ラベルにアクセスするには、次の構文を使用します。

- `$Label.c.labelName` (デフォルトの名前空間の場合)
- `$Label.namespace.labelName` (組織に名前空間がある場合)

次に、いくつか例を示します。

デフォルトの名前空間を使用するマークアップ式の表示ラベル

```
{!$Label.c.labelName}
```

組織に名前空間がある場合の JavaScript コードの表示ラベル

```
$A.get("$Label.namespace.labelName")
```

-  **メモ:** Lightning コンポーネントで参照されるカスタム表示ラベルは、Lightning コンポーネントを含むパッケージの作成時に自動的に追加されません。パッケージにカスタム表示ラベルを含めるには、Visualforce ページなどのパッケージの別のメンバーがカスタム表示ラベルを参照する必要があります。

新しい `empty()` 式の関数

`empty(v.attributeName)` 関数は、引数が空の場合に `true` を返します。

この関数は、`String`、`Array`、`Object`、`List`、`Map`、`Set` のいずれかの型の引数で機能します。

空の引数とは、`undefined`、`null`、空の配列、空の文字列などです。プロパティのないオブジェクトは空とはみなされません。

-  **例:** `{! !empty(v.myArray)}` は `{!v.myArray && v.myArray.length > 0}` よりも評価が速いため、パフォーマンスを向上させるためには `empty()` の使用をお勧めします。

Lightning App Builder コンポーネントの選択リストの作成

Lightning App Builder 向けに設定したカスタム Lightning コンポーネントで、文字列項目を選択リストとして表示できるようになりました。

項目を選択リストとして表示するには、次のように、`datasource` をデザインリソースの属性に追加します。

```
<design:attribute name="Name" datasource="value1,value2,value3" />
```

デザインリソースに `datasource` が設定された文字列属性はすべて選択リストとして処理されます。Lightning App Builder でどのように表示されるかは、コンポーネントで定義するデータ型によって異なります。次に例を示します。

- `<aura:attribute name="Name" type="String" />` は、選択リストとして表示されます。
- `<aura:attribute name="Name" type="String[]" />` は、複数選択リストとして表示されます。

Lightning App Builder コンポーネントのデザインファイルの変更

Lightning App Builder コンポーネントのデザインファイルのサポートに 2 つの変更が加えられました。

デザインファイルで `type` 項目がサポートされなくなりました。コンポーネントファイルで属性型を定義してから、デザインファイルで属性を公開します。

さらに、デザインファイルでは `int`、`string`、または `boolean` 型の属性のみがサポートされるようになりました。

参照整合性の検証の拡張

Lightning コンポーネントおよびコンポーネントの連動関係への変更によって既存のコードが破損しないことを確認するために、保存時に検証される変更の範囲が拡張されました。

Lightning コンポーネントのマークアップでは、コンポーネント名、カスタムオブジェクト名とカスタム項目名、クラス名などを参照できます。たとえば、カスタムコンポーネント名などを変更すると、変更された項目を参照するコードも変更する必要があります。カスタムオブジェクト名の変更など、変更がバックグラウンドで自動的に行われることもあれば、コードを手動で変更する必要があることもあります。こうした場合、相容れない変更を保存しようとする、コンパイルエラーが発生します。

参照整合性のチェックが拡張され、<aura:dependency>を使用した明示的な連動関係の参照、継承階層を通して拡張される参照なども検証の対象になりました。また、カスタム項目への参照も、より綿密に検証され更新されます。

参照整合性の検証には依然として、JavaScriptコード内および式内の参照を中心にいくつかのギャップがあります。完全な検証を行っても種々のエラーを防ぐことはできません。ただし、こうした検証により、コードを再構成して拡大しやすくなり、信頼度も増します。

デフォルトの名前空間を使用可能なコンテキストの増加

以前のリリースで導入されたデフォルトの名前空間「c」を使用できるコンテキストが増えました。デフォルトの名前空間を使用して、<aura:dependency> を使用するリソースを参照できます。

デフォルトの名前空間を使用した明示的な連動関係の例を次に示します。

```
<aura:dependency resource="markup://c:myComponent" />
```

これまでの、組織に名前空間が設定されている場合、完全な名前空間を使用する必要がありました。

組織に名前空間が設定されている場合は、常にその名前空間を使用することがベストプラクティスであることに変わりありません。これらの変更により、記事で共有されているコード、GitHubリポジトリなどを再利用しやすくなります。

API

API バージョン 34.0 では、より多くのメタデータ型とデータオブジェクトにアクセスできます。

このセクションの内容:

新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト

次のオブジェクトが新規追加または変更されました。

API 状況コードの変更

より正確な新しいエラーコードで INVALID_READ_ONLY_USER_DML が置き換えられました。

SOQL

TopicAssignment オブジェクトのネストされた準結合が新規追加され、特定のトピックに割り当てられたナレッジ記事のクエリが可能になりました。

SOSL

REST API

REST API では、リソースが新規追加および変更されました。

Chatter REST API

モバイルアプリケーション、イントラネットサイト、およびサードパーティ Web アプリケーションを Salesforce に統合するには、Chatter REST API を使用します。このリリースでは、フィード投稿とコメントの編集やレコードのグループへの関連付けなどが可能になり、カスタムのおすすめのサポートが強化されています。

エディション

使用可能なエディション:

Developer Edition、
Enterprise Edition、
Unlimited Edition、および
Performance Edition

Salesforce1 レポート REST API

レポート REST API に、リソースとプロパティが新規追加されました。

Data.com API

Data.com API を使用して、最新の Data.com レコードにアクセスできます。企業および取引先責任者レコードを検索、照合、および購入できます。

Tooling API

Tooling API は、Force.com アプリケーション用のカスタム開発ツールを作成可能な SOAP および REST インターフェースを提供します。

SOAP API

SOAP API では、新しいデータ型が追加され、コールが変更されました。

メタデータ API

組織のカスタムオブジェクト定義やページレイアウトなどのカスタマイズ情報を管理するには、メタデータ API を使用します。

Salesforce コンソール API (インテグレーションツールキット)

ツールキットでは、コンソールをプログラムでカスタマイズできるメソッドが新規追加および更新されました。

呼び出し可能アクション

呼び出し可能アクションとは、API を使用して Salesforce で実行できるアクションのことです。

新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト

次のオブジェクトが新規追加または変更されました。

このセクションの内容:

新しいオブジェクト

次のオブジェクトが新規追加されました。

変更されたオブジェクト

次のオブジェクトが変更されました。

新しいオブジェクト

次のオブジェクトが新規追加されました。

AgentWork

エージェントに転送された割り当て作業を表します。

ContentFolder

ファイル (ContentDocuments) を追加するための ContentWorkspace 内のフォルダを表します。

ContentFolderLink

有効なフォルダのある ContentWorkspace で、ContentWorkspace とそのルートの ContentFolder 間の関連付けを定義します。

ContentFolderMember

ContentDocument と ContentFolder 間の関連付けを定義します。

カスタムメタデータ型__mdt

カスタムメタデータレコードを表します。

FeedRevision

各リビジョンで変更された属性のリストなど、特定のフィード項目またはコメントのリビジョン履歴を保持します。

ListViewChartInstance

特定のリストビューのコンテキストで、特定のエンティティについてすべての標準およびカスタムグラフのメタデータを取得します。

LiveChatBlockingRule

チャット訪問者のIPアドレスを、エージェントとの新しいチャットを開始できないようにブロックするルールを表します。

LoginGeo

ログインイベントについて、ユーザのIPアドレスの地理的な場所を表します。地理位置情報技術の性質上、地理位置情報項目の精度(国、市区郡、郵便番号など)は変化する場合があります。

NetworkPageOverride

Communities のデフォルトページの上書きに使用されるカスタムページに関する情報を表します。

NetworkSelfRegistration

セルフ登録コミュニティメンバーがデフォルトで関連付けられる取引先を表します。

PresenceUserConfig

プレゼンスユーザの設定を決める設定を表します。

PresenceUserConfigProfile

特定のプロファイルに割り当てられているプレゼンスユーザに割り当てられた設定を決める設定を表します。ユーザレベルの設定でプロファイルレベルの設定が上書きされます。

PresenceUserConfigUser

プレゼンスユーザに割り当てられた設定を決める設定を表します。これらのユーザレベルの設定でプロファイルレベルの設定が上書きされます。

ProfileSkillEndorsementFeed

ProfileSkillEndorsement レコードの詳細ページに表示されるフィード内の単一フィード項目を表します。

ProfileSkillUserFeed

ProfileSkillUser レコードの詳細ページに表示されるフィード内の単一フィード項目を表します。

QueueRoutingConfig

作業項目がエージェントに転送される方法を決める設定を表します。

ServiceChannel

組織から受信した作業項目のチャンネル(ケース、チャット、リードなど)を表します。

ServiceChannelStatus

特定のサービスチャンネルに関連付けられている状況を表します。

ServicePresenceStatus

サービスチャンネルに割り当て可能なプレゼンス状況を表します。

SOSDeployment

ネイティブのモバイルアプリケーションにSOSビデオ通話機能をリリースするための一般設定を表します。

SOSSession

このオブジェクトは SOS セッションごとに自動的に作成され、セッションの情報を保存します。

SOSSessionActivity

SOS ビデオ通話中に発生した特定のイベント (SOS 通話の開始や終了など) に関する情報を収集します。

SOSSessionHistory

SOS セッションごとに自動的に作成され、セッションに対する変更の情報を保存します。

SOSSessionOwnerSharingRule

レコード所有者以外のユーザと SOS セッションレコードを共有するためのルールを表します。

SOSSessionShare

SOS セッションの共有エントリを表します。

TenantSecret

組織固有のデータ暗号化鍵の生成に使用される、暗号化された組織固有の鍵の部分を保存します。



メモ: この情報は、プラットフォームの暗号化には適用され、従来の暗号化には適用されません。詳細は、Salesforce オンラインヘルプを参照してください。

UserProvisioningConfig

更新の属性など、フローがユーザプロビジョニング要求プロセスで使用する情報を表します。このオブジェクトの値は参照のみです。

UserProvisioningRequestOwnerSharingRule

所有者以外のユーザと UserProvisioningRequest オブジェクトを共有するルールを表します。

UserProvisioningRequestShare

UserProvisioningRequest レコードの共有エントリを表します。

WorkFeedbackTemplate

このオブジェクトは、将来の使用のために予約されています。

WorkFeedbackTemplateShare

このオブジェクトは、将来の使用のために予約されています。

変更されたオブジェクト

次のオブジェクトが変更されました。

ActionLinkTemplate

Label — アクションリンクボタンに表示するカスタムの表示ラベル。どの **LabelKey** 値もアクションリンクには不適切な場合は、カスタムの表示ラベルを使用します。LabelKey 項目を **None** に設定し、Label 項目に表示ラベル名を入力します。

AppMenuItem

新しい項目 **CanvasOptions** が追加されました。キャンバス接続アプリケーションで有効なオプションを示します。

Attachment

Attachment オブジェクトの監査項目の値を設定できます。Attachment データをインポートし、CreatedDate など、監査項目に値を設定する必要がある場合は、Salesforce に連絡してください。

IsEncrypted —

 **メモ:** この情報は、プラットフォームの暗号化には適用され、従来の暗号化には適用されません。詳細は、Salesforce オンラインヘルプを参照してください。

添付ファイルがプラットフォームの暗号化を使用して暗号化されているか (true)、否か (false) を示します。

AuthSession

LoginGeo は、ログインイベントについて、ユーザの IP アドレスの地理的な場所を示します。地理位置情報技術の性質上、地理位置情報項目の精度 (国、市区郡、郵便番号など) は変化します。

CollaborationGroupRecord

NetworkId により、グループが属するコミュニティに関する情報が保存されます。

ContentDocument

大規模ポータルユーザは、ContentDocument を SOQL でクエリできるようになりました。

ContentDocumentLink

SOBJECT API で ContentWorkspace へのリンクを作成することで、すべての種類のファイルをライブラリと共有します。

ContentNote

IsReadOnly は、メモが参照のみであるかどうかを示します。

ContentVersion

IsEncrypted —

 **メモ:** この情報は、プラットフォームの暗号化には適用され、従来の暗号化には適用されません。詳細は、Salesforce オンラインヘルプを参照してください。

ドキュメントがプラットフォームの暗号化を使用して暗号化されているか (true)、否か (false) を示します。

TagCsv 項目 を使用すると、十分な権限を持つユーザがすべてのファイルにタグをメタデータとして追加できます。

大規模ポータルユーザは、ContentVersion を SOQL でクエリできるようになりました。

DatacloudCompany

次の項目は、Data.com プロスペクタで見込み客に関する洞察に使用される企業統計データを表します。

- EmployeeQuantityGrowthRate — 会社の従業員数の年間増加率 (割合を小数で表示)。データには、過去 2 年間の合計従業員増加率も含まれます。
- FortuneRank — 会社の Fortune 1000 の順位。null または空白の場合、会社が Fortune 1000 企業としてランクされていないことを意味します。
- IncludedInSnP500 — true または false の値。true の場合、会社は S&P 500 インデックスの構成銘柄です。false の場合、会社は S&P 500 インデックスの構成銘柄ではありません。
- PremisesMeasure — 施設の測定に使用される数値。
- PremisesMeasureReliability — 測定の記述的な精度 (実測、推定、モデル化など)。
- PremisesMeasureUnit — 記述的な測定単位 (エーカー、平方メートル、平方フィートなど)。
- SalesTurnoverGrowthRate — 前期比の年間収益増加率 (割合を小数で表示)。

DatacloudDandBCompany

次の項目は、Data.com プロスペクタで見込み客に関する洞察に使用される企業統計データを表します。

- `EmployeeQuantityGrowthRate` — 会社の従業員数の年間増加率(割合を小数で表示)。データには、過去2年間の合計従業員増加率も含まれます。
- `FortuneRank` — 会社の Fortune 1000 の順位。null または空白の場合、会社が Fortune 1000 企業としてランクされていないことを意味します。
- `IncludedInSnP500` — true または false の値。true の場合、会社は S&P 500 インデックスの構成銘柄です。false の場合、会社は S&P 500 インデックスの構成銘柄ではありません。
- `PremisesMeasure` — 施設の測定に使用される数値。
- `PremisesMeasureReliability` — 測定の記述的な精度(実測、推定、モデル化など)。
- `PremisesMeasureUnit` — 記述的な測定単位(エーカー、平方メートル、平方フィートなど)。
- `SalesTurnoverGrowthRate` — 前期比の年間収益増加率(割合を小数で表示)。

Event

- `AcceptedEventInviteeIds` — この行動を承諾した取引先責任者またはリードの ID の文字列配列。この `JunctionIdList` は、`AcceptedEventRelation` 子リレーションにリンクしています。
- `DeclinedEventInviteeIds` — この行動を拒否した取引先責任者、リード、またはユーザの ID の文字列配列。この `JunctionIdList` は、`DeclinedEventRelation` 子リレーションにリンクしています。
- `EventWhoIds` — 共有行動による多対多リレーションの作成に使用された取引先責任者またはリードの ID の文字列配列。`EventWhoIds` は、`Shared Activities` 設定が有効な場合に使用できます。主 `WhoId` が指定されていないと、リスト内の最初の取引先責任者またはリード ID が主 `WhoId` になります。
- `UndecidedEventInviteeIds` — この行動に関して決定を下していない取引先責任者、リード、またはユーザの ID の文字列配列。この `JunctionIdList` は、`UndecidedEventRelation` 子リレーションにリンクしています。

EmailMessage

新規項目の `IsExternallyVisible` は、コミュニティでのメールメッセージの外部への表示を制御し、コミュニティケースフィードが有効な場合にのみアクセスできます。この項目がデフォルト値の `true` に設定されている場合、ケースフィードでメールメッセージは外部ユーザに表示されます。

EntitlementTemplate

`NamespacePrefix` は、項目の名前空間(ある場合)を指定します。

FeedComment

`FeedComment` オブジェクトで `update()` および `upsert()` コールがサポートされるようになりました。`CommentBody` 項目で、`Update` プロパティがサポートされます。次の項目も追加されました。

- `LastEditById` — フィードコメントを最後に編集したユーザの ID。
- `LastEditDate` — フィードコメントの最終編集日。
- `Revision` — コメントのリビジョン番号。

FeedItem

`FeedItem` オブジェクトで `update()` および `upsert()` コールがサポートされるようになりました。`Body` 項目で、`Update` プロパティがサポートされます。`Title` 項目は、質問の投稿に対してのみ更新できます。`Visibility` 項目は、レコードの投稿に対してのみ更新できます。次の項目が追加されました。

- `LastEditById` — フィード項目を最後に編集したユーザの ID。
- `LastEditDate` — フィード項目の最終編集日。
- `Revision` — フィード項目のリビジョン番号。

ForecastingAdjustment

- 新しい項目 `ForecastingItemCategory` が追加されました。この項目は、売上予測調整が属する売上予測積み上げ集計を示します。詳細は、「[累積売上予測積み上げ集計の API の変更](#)」を参照してください。
- `ForecastCategoryName` 項目を空白にできるようになりました。

ForecastingItem

- 新しい項目 `ForecastingItemCategory` が追加されました。この項目は、売上予測項目が属する売上予測積み上げ集計を示します。詳細は、「[累積売上予測積み上げ集計の API の変更](#)」を参照してください。
- `ForecastCategoryName` 項目を空白にできるようになりました。

ForecastingOwnerAdjustment

新しい項目 `ForecastingItemCategory` が追加されました。この項目は、売上予測調整が属する売上予測積み上げ集計を示します。詳細は、「[累積売上予測積み上げ集計の API の変更](#)」を参照してください。

Goal

`Progress` 項目で、`Create` および `Update` プロパティがサポートされなくなりました。

Group

- `Related.Name` を使用して `Group` オブジェクトをクエリし、その名前を取得します。`Related.Name` は、公開グループ、ユーザロール、テリトリ、マネージャグループ、ユーザ名に対してサポートされています。
- `Type` 項目には、選択リスト値 `Manager` および `ManagerAndSubordinatesInternal` が新規追加されました。次のグループは参照のみです。
 - `Manager` — ユーザの直属および非直属のマネージャを含む公開グループ。
 - `ManagerAndSubordinatesInternal` — ユーザとその直属および非直属の部下を含む公開グループ。

LiveChatTranscript

`Status` 項目に、選択リスト値 `Blocked` が新規追加されました。この値は、エージェントまたはシステム管理者が IP アドレスをブロックすると適用されます。

LiveChatTranscriptEvent

`Type` 項目で、次の 2 つの新しい選択リスト値を使用できるようになりました。`AgentBlocked` は、エージェントがチャット中に IP アドレスをブロックすると適用されます。`CancelBlocked` は、既存のブロックルールでチャット要求がブロックされると適用されます。

LiveChatUserConfig

- `OptionsHasChatConferencing` は、チャットエージェントが他のエージェントを顧客とのチャットに招待できるかどうかを指定します。エージェントと顧客のチャットが単調になった場合、サポートに活気をもたらすために使用します。
- `OptionsHasVisitorBlocking` は、エージェントが IP アドレスで訪問者をブロックできるかどうかを指定します。
- `OptionsIsAutoAwayOnPushTimeout` は、エージェントに転送されたチャット要求がタイムアウトしたときに、エージェントの状況が自動的に [退席中] に変更されるかどうかを指定します。

LoginHistory

- `AuthenticationServiceId` は、ログインイベントの認証サービスを示します。ユーザのログインに使用された SAML または認証プロバイダ設定を識別するレポートを作成する場合に使用します。
- `LoginGeoId` は、成功または失敗したログインイベントについて、ユーザの IP アドレスの地理的な場所を示します。地理位置情報技術の性質上、地理位置情報項目の精度(国、市区郡、郵便番号など)は変化します。

Metric

`CurrentValue`、`InitialValue`、および `TargetValue` で、`Default on create` プロパティがサポートされません。

MetricDataLink

`Name` 項目では、`Autonumber` および `Defaulted on create` プロパティがサポートされますが、`Create`、`Update`、および `Group` プロパティはサポートされなくなりました。

Network

`FirstActivationDate` 項目は、コミュニティが初めて有効化された日を示します。API バージョン 34.0 のリリースより前にコミュニティが有効化されたか無効だった場合、この項目はコミュニティの作成日を返します。

OauthToken および ThirdPartyAccountLink

これらのオブジェクトは、大きな件数を管理するために機能強化されました。`query()` は、最大 500 行を返します。`queryMore()` は、500 件以上、合計で最大 2,500 件を返します。2,500 件に達するとそれ以上レコードは返されません。レコードのもれがないようにするには、そのオブジェクトに対する `SELECT` 句で `COUNT()` クエリを発行します。このクエリでは、レコードの合計数が返されます。2,500 件を超えるレコードがある場合、`UserId` などの項目で絞り込んで 2,500 レコード未満のサブセットずつ返すようにクエリを分割します。

Opportunity

`Pricebook2` 項目を `Opportunity` ページレイアウトで使用できます。

PartnerNetworkConnection

`ConnectionStatus` 項目に新規の値 `BulkSyncMetadata` が追加されました。メタデータがプライマリからセカンダリの Salesforce 組織に同期中、接続状況にこの値が表示されます。システム管理者がメタデータの同期を選択している Salesforce to Salesforce 複製接続にのみ適用されます。

PartnerNetworkSyncLog

- `PartnerNetworkSyncLog` オブジェクトで、`search()` コールがサポートされるようになりました。
- `LocalRecordId` 項目は、Salesforce to Salesforce 複製接続で挿入または更新されるレコードを表す `LocalRecord` 項目に置き換わりました。

ProfileSkillEndorsement

`ProfileSkillEndorsement` オブジェクトで、`search()` コールがサポートされます。

ProfileSkillUser

`ProfileSkillUser` オブジェクトで、`search()` コールがサポートされます。

Quote

`Discount` 項目は、数式で使用されるとき、パーセントを表現するのに 1 ~ 100 ではなく .01 ~ 1 の値を使用します。

Site

[ナレッジ API へのゲストアクセス] 項目により、認証されていないユーザによるナレッジ API へのアクセスを有効にするかどうかを選択できます。

ToDo

TaskWhoIds — このToDoに関連する取引先責任者またはリードのIDの文字列配列。この **JunctionIdList** は、**TaskWhoRelations** 子リレーションにリンクしています。**TaskWhoIds** は、**Shared Activities** 設定が有効な場合にのみ使用できます。主 **WhoId** が指定されていないと、リスト内の最初の取引先責任者またはリードIDが主 **WhoId** になります。

TopicAssignment

EntityKeyPrefix 項目では大文字と小文字が区別され、3 文字の ID でオブジェクト種別を正確に識別できます。ただし、この項目を使用する古いレポートがある場合を除き、「FeedItem」や「Account」など標準のオブジェクト名を使用する **EntityType** 項目を使用してください。

User

次の項目は、コミュニティのユーザのプロファイル上の情報に対するゲストユーザのアクセス権を決定します。

- **UserPreferencesShowEmailToGuestUsers**
- **UserPreferencesShowFaxToGuestUsers**
- **UserPreferencesShowManagerToGuestUsers**
- **UserPreferencesShowMobilePhoneToGuestUsers**
- **UserPreferencesShowStreetAddressToGuestUsers**
- **UserPreferencesShowWorkPhoneToGuestUsers**

UserProvisioningRequest

- **ManagerId** は、**SalesforceUserId** 項目で指定されたユーザを管理するユーザの Salesforce ID です。ユーザプロビジョニング要求の承認プロセスが設定されている場合、この値によってマネージャは要求を承認できるようになります。
- **UserProvConfigId** は、関連付けられた **UserProvisioningConfig** オブジェクトを識別します。

WorkBadge

WorkBadge オブジェクトで、**describeLayout()** コールがサポートされます。

WorkFeedbackRequest

- **AdHocFeedback** — フィードバックの内容。
- **AdHocQuestion** — フィードバック質問の内容。
- **IsDeployed** — **true** の場合、フィードバックはリリースされたパフォーマンスサマリーサイクルに含まれます。
- **IsUnsolicited** — **true** の場合、フィードバック要求は、別のユーザに提供された未承諾のフィードバックです。
- **SharingScope** — フィードバックが表示されるユーザ。
- **TemplateId** — 関連付けられたフィードバックテンプレートの ID。

FeedbackType 項目には、**Unspecified** 選択リスト値が含まれます。

WorkFeedbackQuestion

Type 項目には、**Rating** 選択リスト値があります。

API 状況コードの変更

より正確な新しいエラーコードで `INVALID_READ_ONLY_USER_DML` が置き換えられました。

次のコードをバージョン 34.0 で使用できます。

```
INSERT_DELETE_UPDATE_NOT_ALLOWED_DURING_MAINTENANCE
```

この状況コードのメッセージを次に示します。

エディション

使用可能なエディション:
Developer Edition、
Enterprise Edition、
Unlimited Edition、および
Performance Edition

```
Updates can't be made during maintenance. Try again when maintenance is complete.
```

このエラーコードで `INVALID_READ_ONLY_USER_DML` (後方互換性のために引き続き使用可能) が置き換えられます。

```
DUPLICATES_DETECTED
```

組織に有効な重複ルールがあり、重複レコードが検出された場合に使用されます。

レコードが保存され、データ型が `DuplicateError` の `Error` オブジェクトがある場合に使用されます。これらのデータ型についての詳細は、「[新しいデータ型](#)」を参照してください。

SOQL

`TopicAssignment` オブジェクトのネストされた準結合が新規追加され、特定のトピックに割り当てられたナレッジ記事のクエリが可能になりました。

次に例を示します。

```
SELECT parentId FROM KnowledgeArticleViewStat
WHERE parentId in (SELECT KnowledgeArticleId FROM KnowledgeArticleVersion
WHERE publishStatus = 'Online' AND language = 'en_US'
AND Id in (select EntityId from TopicAssignment where TopicId ='0T0xx0000000xxx'))
ORDER by NormalizedScore DESC LIMIT 900
```

SOSL

Salesforce Object Search Language (SOSL) は、Salesforce API を使用してテキスト検索を実行するために使用します。

SOSL での `ContentDocument` および `ContentNote` オブジェクトのサポート

SOSL 検索で `ContentDocument` および `ContentNote` オブジェクトがサポートされるようになりました。

次に例を示します。

```
FIND {5551212} IN ALL FIELDS RETURNING ContentNote
```

これまで、SOSL でサポートされるコンテンツオブジェクトは `ContentVersion` のみでした。 `ContentDocument` または `ContentNote` オブジェクトを、`ContentVersion` オブジェクトと同じ `RETURNING` 句内で使用することはできません。たとえば、次の `search ()` コールは無効です。

```
FIND {5551212} IN ALL FIELDS RETURNING ContentNote, ContentVersion
```

REST API

REST API では、リソースが新規追加および変更されました。

新しいリソース

複合リソース

Salesforce に、クライアントとサーバ間の往復回数を最小限に抑えることでアプリケーションのパフォーマンスを高める 2 つの複合リソースが導入されました。

Batch

`vXX.X/composite/batch`

Batch リソースを使用すると、独立したサブ要求を連続して実行できます。たとえば、1 回の要求で取引先の名前を更新して取引先の項目値を取得することができます。

```
{
  "batchRequests" : [
    {
      "method" : "PATCH",
      "url" : "v34.0/subjects/account/001D000000K0fXOIAZ",
      "richInput" : { "Name" : "NewName" }
    }, {
      "method" : "GET",
      "url" : "v34.0/subjects/account/001D000000K0fXOIAZ"
    }
  ]
}
```

応答には、各サブ応答の状況コードと応答そのものが含まれます。

```
{
  "hasErrors" : false,
  "results" : [
    {
      "statusCode" : 204,
      "result" : null
    }, {
      "statusCode" : 200,
      "result" : { Account attributes }
    }
  ]
}
```

Batch リソースでは、次のリソースおよびリソースグループの一括処理がサポートされます。

Versions

/

Resources by Version

`vXX.X`

Limits

`vXX.X/limits`

SObject リソース

`vXX.X/subjects/`

Query

vXX.X/query/?q=sogl

QueryAll

vXX.X/queryAll/?q=sogl

Search

vXX.X/search/?q=sosl

Connect リソース

vXX.X/connect/

Chatter リソース

vXX.X/chatter/

SObject Tree

vXX.X/composite/tree

 **メモ:** SObject Tree リソースは、パイロットプログラムで使用可能です。組織でのこのリソースの有効化については、Salesforce にお問い合わせください。

SObject Tree リソースを使用すると、ルートレコードタイプを共有する複数の sObject ツリーを作成できます。sObject ツリーは、同じルートレコードを持つネストされた親-子レコードのコレクションです。要求が処理されると、レコードが作成され、親と子が自動的に ID でリンクされます。要求データには、レコード階層、必須および省略可能な項目値、各レコードの種類、および各レコードの参照 ID を指定します。

```
{
  "records" : [{
    "attributes" : {"type" : "Account", "referenceId" : "ref1"},
    "name" : "SampleAccount",
    "phone" : "1234567890",
    "website" : "www.salesforce.com",
    "numberOfEmployees" : "100",
    "type" : "Analyst",
    "industry" : "Banking",
    "Contacts" : {
      "records" : [{
        "attributes" : {"type" : "Contact", "referenceId" : "ref2"},
        "lastname" : "Smith",
        "title" : "President",
        "email" : "sample@salesforce.com"
      }, {
        "attributes" : {"type" : "Contact", "referenceId" : "ref3"},
        "lastname" : "Evans",
        "title" : "Vice President",
        "email" : "sample@salesforce.com"
      }
    ]
  }
}, {
  "attributes" : {"type" : "Account", "referenceId" : "ref4"},
  "name" : "SampleAccount2",
  "phone" : "1234567890",
  "website" : "www.salesforce2.com",
  "numberOfEmployees" : "100",
```



```

    "type" : "Analyst",
    "industry" : "Banking"
  }}
}

```

成功すると、応答には作成されたレコードの ID が含まれます。

```

{
  "hasErrors" : false,
  "results" : [{
    "referenceId" : "ref1",
    "id" : "001D000000K0fXOIAZ"
  }, {
    "referenceId" : "ref2",
    "id" : "001D000000K0fXPPIAZ"
  }, {
    "referenceId" : "ref3",
    "id" : "003D000000QV9n2IAD"
  }, {
    "referenceId" : "ref4",
    "id" : "003D000000QV9n3IAD"
  }]
}

```

レコードの作成中にエラーが発生した場合は、要求全体が失敗し、応答にはエラーが発生したレコードの参照 ID とエラー情報のみが含まれます。

1つの要求に最大で 200 件のレコードを格納できます。sObject ツリーに含まれるレコードが 1 件の場合があるため、このリソースを使用して同じタイプで関連がないレコードを最大 200 件作成できます。

変更されたリソース

Describe Global

/vXX.X/subjects

If-Modified-Since HTTP 要求ヘッダーがサポート対象になり、オブジェクトのメタデータが変更されたかどうかを判別できるようになりました。DescribeGlobal リソースを使用するときに、If-Modified-Since ヘッダーを `EEE, dd MMM yyyy HH:mm:ss z` 形式の日付と共に含めることができます。このヘッダーを使用すると、指定した日付以降に使用可能なオブジェクトのメタデータが変更された場合にのみ応答メタデータが返されます。指定の日付以降にメタデータが変更されていない場合は、レスポンスボディなしで 304 Not Modified 状況コードが返されます。

Suggest Article Title Matches

/vXX.X/search/suggestTitleMatches

Suggest Article Title Matches リソースで、「a」、「for」、「the」などのストップワードを除いたクエリ文字列全体がタイトルに含まれる Salesforce ナレッジ記事が推奨されるようになりました。タイトルにクエリ文字列の各単語が異なる順序で含まれているタイトルも結果として返されるようになりました。

Chatter REST API

モバイルアプリケーション、イントラネットサイト、およびサードパーティ Web アプリケーションを Salesforce に統合するには、Chatter REST API を使用します。このリリースでは、フィード投稿とコメントの編集やレコードのグループへの関連付けなどが可能になり、カスタムのおすすめのサポートが強化されています。

 **メモ:** Salesforce で Chatter およびコミュニティのカスタム操作を作成するには、[ConnectApi \(Chatter in Apex\)](#) を使用します。

このセクションの内容:

[Chatter REST API の全般的な更新](#)

[新規および変更された Chatter REST API リソース](#)

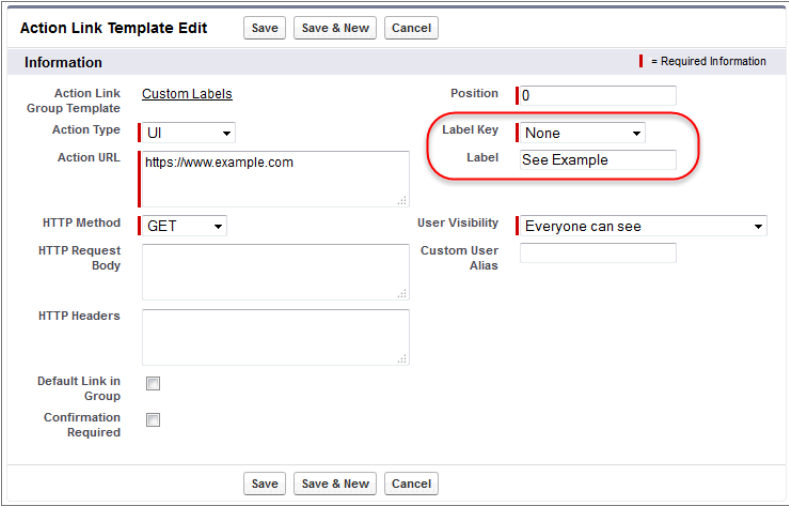
[新規および変更された Chatter REST API リクエストボディ](#)

[新規および変更された Chatter REST API レスポンスボディ](#)

Chatter REST API の全般的な更新

アクションリンクのカスタム表示ラベルの作成

アクションリンクに適した表示ラベルが「表示ラベルキー」ドロップダウンリストにない場合、「表示ラベルキー」を[なし]に設定して、「表示ラベル」項目にカスタム表示ラベルを入力します。カスタム表示ラベルは、アクションリンクテンプレートでのみ作成できます。



アクションリンクには、NewStatus、PendingStatus、SuccessStatus、FailedStatus の4つの状況があります。次の文字列が、各状況の表示ラベルに追加されます。

- 表示ラベル
- 表示ラベル待機中
- 表示ラベル成功

- 表示ラベル失敗

たとえば、`label` の値が「See Example」の場合、4つのアクションリンクの状態の値は「See Example」、「See Example 待機中」、「See Example 成功」、および「See Example 失敗」になります。

新規および変更された Chatter REST API リソース

コミュニティ

1つのコミュニティを範囲とするフィード要素のみが含まれるユーザプロフィールフィードの取得

親レコードタイプが User または Group のフィード要素の範囲は常に1つのコミュニティになります。親が他のレコードタイプ (Account など) のフィード要素は、すべてのコミュニティに表示されます。1つのコミュニティを範囲とするフィード要素のみが含まれるユーザプロフィールフィードを取得するには、新しい `filter` パラメータに値 `CommunityScoped` を指定して次のリソースに渡します。

- `/connect/communities/communityId/chatter/feeds/user-profile/userId/feed-elements?filter=CommunityScoped`

このリソースには、`communityId` で指定されたコミュニティからのフィード要素が含まれます。

- `/chatter/feeds/user-profile/userId/feed-elements?filter=CommunityScoped`

このリソースには、内部コミュニティからのフィード要素が含まれます。

フィード

コメントの編集

コメントを編集するには、既存の `/chatter/comments/commentId` リソースに対し、`Comment Input` を指定して `PATCH` 要求を実行します。

コンテキストユーザによるコメントの編集が可能か判別

コンテキストユーザによるコメントの編集が可能かどうか判別するには、新しいリソース

`/chatter/comments/commentId/capabilities/edit/is-editable-by-me` に対して `GET` 要求を実行します。

投稿の編集

投稿を編集するには、既存の `/chatter/feed-elements/feedElementId` リソースに対し、`Feed Item Input` を指定して `PATCH` 要求を実行します。

コンテキストユーザによる投稿の編集が可能か判別

コンテキストユーザによる投稿の編集が可能かどうか判別するには、新しいリソース

`/chatter/feed-elements/feedElementId/capabilities/edit/is-editable-by-me` に対して `GET` 要求を実行します。

グループ

レコードのグループへの関連付け

レコードをグループに関連付けるには、既存の `/chatter/groups/groupId/records` リソースに対して `POST` 要求を実行します。

コミュニティのグループレコードの取得

コミュニティのグループレコードのリストを取得するには、新しいリソース

`/connect/communities/communityId/chatter/groups/groupID/records` に対して GET 要求を実行します。

グループレコードに関する情報の取得、またはレコードとグループ間の関連付けの削除

グループレコードに関する情報を取得する場合、またはレコードとグループ間の関連付けを削除する場合は、新しい `/chatter/group-records/groupRecordId` リソースに対して GET または DELETE 要求を実行します。

おすすめ

静的なおすすめの取得および削除

ID のない静的なおおすすめを取得または削除するには、新しい

`/chatter/users/userId/recommendations/action/objectEnum` リソースに対し、`action` に `view`、`objectEnum` に `Today` を指定して GET または DELETE 要求を実行します。

カスタムのおすすめの取得

カスタムのおすすめを取得するには、次の既存のリソースに対して GET 要求を実行します。

- `/chatter/users/userId/recommendations`
- `/chatter/users/userId/recommendations/view`
- `/chatter/users/userId/recommendations/view/custom`
- `/chatter/users/userId/recommendations/view/ORD`
- `/chatter/users/userId/recommendations/view/customRecommendationId`

カスタムのおすすめの削除

カスタムのおすすめを削除するには、既存の

`/chatter/users/userId/recommendations/action/objectID` リソースに対し、`action` に `view`、`objectId` に `customRecommendationId` を指定して DELETE 要求を実行します。

おすすめのスケジュール

おすすめがスケジュールされたかどうかを示すには、既存の `/connect/scheduled-recommendations` リソースに対して POST 要求を実行するか、既存の

`/connect/scheduled-recommendations/scheduledRecommendationId` リソースに対し、新しい `enabled` パラメータを指定して PATCH 要求を実行します。

コミュニティマネージャ（「コミュニティの作成および設定」または「コミュニティの管理」権限を持つユーザ）および「すべてのデータの編集」権限を持つユーザのみが、おすすめ定義とスケジュール済みおすすめのアクセス、作成、および削除を行うことができます。これらのおすすめは、Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションのコミュニティのフィードに直接表示されます。また、Summer'15 以降のバージョンの Napili テンプレートを使用すると、コミュニティのホームページの右側にもデフォルトで表示されます。

おすすめのボタンの表示ラベルのカスタマイズ

おすすめの表示ラベルをカスタマイズするには、既存の `/connect/recommendation-definitions` リソースに対して POST 要求を実行するか、既存の

`/connect/recommendation-definitions/recommendationDefinitionId` リソースに対し、新しい `actionUrlName` パラメータを指定して PATCH 要求を実行します。

コミュニティマネージャ (「コミュニティの作成および設定」または「コミュニティの管理」権限を持つユーザ) および「すべてのデータの編集」権限を持つユーザのみが、おすすめ定義とスケジュール済みおすすめのアクセス、作成、および削除を行うことができます。これらのおすすめは、Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションのコミュニティのフィードに直接表示されます。また、Summer'15 以降のバージョンの Napili テンプレートを使用すると、コミュニティのホームページの右側にもデフォルトで表示されます。

新規および変更された Chatter REST API リクエストボディ

groups

Group Record Input

この新しいリクエストボディには、1つのプロパティ `recordId` があります。このプロパティはグループに関連付けられたレコードの ID です。

Recommendations

Recommendation Definition Input

このリクエストボディには、1つの新しいプロパティ `actionUrlName` があります。このプロパティは、ユーザインターフェースのアクション URL のテキスト表示ラベルです。

Scheduled Recommendation Input

このリクエストボディには、1つの新しいプロパティ `enabled` があります。このプロパティは、おすすめがスケジュールされたかどうかを示します。

新規および変更された Chatter REST API レスポンスボディ

アクションリンク

Action Link Definition

このレスポンスボディには、1つの新しいプロパティ `label` があります。このプロパティでは、アクションリンクボタンに表示されるカスタムの表示ラベルを指定します。

アクションリンクには、`NewStatus`、`PendingStatus`、`SuccessStatus`、`FailedStatus` の4つの状況があります。次の文字列が、各状況の表示ラベルに追加されます。

- `label`
- 表示ラベル待機中
- 表示ラベル成功
- 表示ラベル失敗

たとえば、`label` の値が「See Example」の場合、4つのアクションリンクの状態の値は「See Example」、「See Example 待機中」、「See Example 成功」、および「See Example 失敗」になります。

アクションリンクでは、表示ラベル名の生成に `label` または `labelKey` を使用できますが、両方は使用できません。`label` に値がある場合、`labelKey` の値は `None` になります。`labelKey` に `None` 以外の値がある場合、`label` の値は `null` になります。

コミュニティ

User Settings

このレスポンスボディには、1つの新しいプロパティ `canViewCommunitySwitcher` があります。このプロパティでは、ユーザにコミュニティ切り替えメニューが表示されるかどうかを指定します。

フィード

Comment Capabilities

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `edit` — コメントにこの機能がある場合、権限を持つユーザはコメントを編集できます。

Edit Capability

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `isEditRestricted` — このフィード要素またはコメントの編集が制限されているかどうかを指定します。`true` の場合、コンテキストユーザはこのフィード要素またはコメントを編集できません。`false` の場合、コンテキストユーザにこのフィード要素またはコメントを編集する権限がある場合とない場合があります。コンテキストユーザがフィード要素またはコメントを編集できるかどうか判別するには、`Feed Elements`、`Editability` または `Comment Capability`、`Editability` リソースを使用します。
- `isEditableByMeUrl` — コンテキストユーザがこのフィード要素またはコメントを編集できるかどうかをチェックするための URL。
- `lastEditedBy` — このフィード要素またはコメントを最後に編集したユーザ。
- `lastEditedDate` — このフィード要素またはコメントの最終編集日。
- `latestRevision` — このフィード要素またはコメントの最新バージョン。
- `relativeLastEditedDate` — 相対的な最終編集日 (「2時間前」など)。

Feed Element Capabilities

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `edit` — フィード要素にこの機能がある場合、権限を持つユーザはフィード要素を編集できます。

Feed Entity Is Editable

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `feedEntityUrl` — フィード要素またはコメントの URL。
- `isEditableByMe` — コンテキストユーザがフィード要素またはコメントを編集できる場合は `true`、それ以外の場合は `false`。

ファイル

User Settings

このレスポンスボディには1つの新しいプロパティ `hasFileSyncManagedClientAutoUpdate` があります。このプロパティは、ユーザの組織のシステム管理者が `FileSync` クライアントの自動更新を許可するかどうかを示します。

メンテナンス

Maintenance Information

組織の定期メンテナンス予定に関する情報を表すこの新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `description` — メンテナンスの説明。
- `maintenanceTitle` — メンテナンスのタイトル。
- `maintenanceType` — メンテナンスの種別を指定します。次のいずれかになります。
 - `Downtime` — ダウンタイムメンテナンス。
 - `GenerallyAvailable` — 正式リリースモードでのメンテナンス。
 - `MaintenanceWithDowntime` — ダウンタイムを伴う定期メンテナンス。
 - `ReadOnly` — 参照のみモードでのメンテナンス。
- `messageEffectiveTime` — ユーザへのメンテナンスメッセージの表示を開始する実効時間。
- `messageExpirationTime` — メンテナンスメッセージの表示終了時刻。
- `scheduledEndDowntime` — ダウンタイムの終了予定。 `GenerallyAvailable` および `ReadOnly` メンテナンス種別では `null` になります。
- `scheduledEndMaintenanceTime` — メンテナンスの終了予定。 `Downtime` メンテナンス種別では `null` になります。
- `scheduledStartDowntime` — ダウンタイムの開始予定。 `GenerallyAvailable` および `ReadOnly` メンテナンス種別では `null` になります。
- `scheduledStartMaintenanceTime` — メンテナンスの開始予定。 `Downtime` メンテナンス種別では `null` になります。

Organization

このレスポンスボディには、1つの新しいプロパティ `maintenanceInfo` があります。このプロパティは、組織の定期メンテナンス予定のリストに関する情報を提供します。

Motif

Motif

このレスポンスボディには新しい `svgIconUrl` プロパティがあります。このプロパティは、レコードタイプを表す SVG 形式のアイコンへの URL です。

おすすめ

Non-Entity Recommendation

このレスポンスボディは、バージョン 34.0 以降では使用されなくなりました。バージョン 34.0 以降では、すべてのおすすめに `Recommendation` レスポンスボディが使用されます。

Recommendation

`entity` プロパティに、カスタムのおすすめを表す `Recommended Object` レスポンスボディを追加できるようになりました。

さらに、`Recommendation` レスポンスボディには次の新しいプロパティがあります。

- `platformActionGroup` — コンテキストユーザに適した状態のプラットフォームアクショングループインスタンス。
- `url` — おすすめの URL。

Recommendation Definition

このレスポンスボディには1つの新しいプロパティ `actionUrlName` があります。このプロパティは、ユーザインターフェースのアクション URL のテキスト表示ラベルです。

Recommendations Capability

このレスポンスボディの `items` プロパティには、Non-Entity Recommendations が含まれなくなりました。バージョン 34.0 以降では、すべてのおすすめに Recommendation レスポンスボディが使用されます。

Recommended Object

カスタムのおすすめを表すこの新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `idOrEnum` — カスタムのおすすめの、おすすめ定義の ID。
- `motif` — おすすめのオブジェクトの Motif。
- `name` — おすすめのオブジェクトの名前。
- `type` — `RecommendedObject`

Scheduled Recommendation

このレスポンスボディには、1つの新しいプロパティ `enabled` があります。このプロパティは、おすすめがスケジュールされたかどうかを示します。

Salesforce1 レポート REST API

レポート REST API に、リソースとプロパティが新規追加されました。

このセクションの内容:

[新しいレポート REST API リソース](#)

新しいレポート REST API リソースを使用して、レポートを保存、コピー、削除し、ダッシュボードを削除できるようになりました。

[Salesforce1 レポート REST API のリクエストボディとレスポンスボディの変更](#)

Salesforce1 レポート REST API には、Describe、Execute Sync、および Execute Async リソースのリクエストボディとレスポンスボディ用の新しい `reportMetadata` プロパティが追加されました。

新しいレポート REST API リソース

新しいレポート REST API リソースを使用して、レポートを保存、コピー、削除し、ダッシュボードを削除できるようになりました。

レポート REST API には、次の新しい REST リソースがあります。

リソース	説明	サポートされている HTTP メソッド	リソース URL
Save	レポートへの変更を保存します。	PATCH	/services/data/v34.0/analytics/reports/<reportId>
Clone	カスタム、標準、または公開レポートのコピーを作成します。	POST	/services/data/v34.0/analytics/reports?cloneId=<reportID>
Delete	レポートを削除します。削除したレポートは、ごみ箱に移動されます。	DELETE	/services/data/v34.0/analytics/reports/<reportId>
Delete	ダッシュボードを削除します。削除したダッシュボードは、ごみ箱に移動されます。	DELETE	/services/data/v34.0/analytics/dashboards/<dashboardId>

これらのリソースについての詳細は、[『Salesforce1 レポート REST API 開発者ガイド』](#)を参照してください。

Salesforce1 レポート REST API のリクエストボディとレスポンスボディの変更

Salesforce1 レポート REST API には、Describe、Execute Sync、および Execute Async リソースのリクエストボディとレスポンスボディ用の新しい reportMetadata プロパティが追加されました。

reportMetadata には、次の新しいプロパティがあります。

プロパティ	説明
division	レポートに含めるレコードのディビジョンを決定します。たとえば、West Coast と East Coast など。 組織がディビジョンを使用してデータを分類し、かつ「ディビジョンの使用」権限を持っている場合にのみ使用できます。「ディビジョンの使用」権限を持っていない場合は、レポートに、全ディビジョンのレコードが表示されます。
standardDateFilter	レポートで選択可能な標準の日付条件。各標準の日付条件には、次のプロパティがあります。 - column – レポートデータの絞り込み対象となる日付項目の API 名。 - durationValue – レポートを実行する範囲。値は日付リテラルまたは「CUSTOM」です。 - startDate – 開始日。 - endDate – 終了日。

プロパティ	説明
standardFilters	デフォルトでレポートに表示される検索条件のリスト。検索条件はレポートタイプによって異なります。たとえば、商談オブジェクトのレポートの標準検索条件は、「表示」、「商談状況」、および「確度」です。このリストは、名前-値の文字列ペアで表示されます。
hasDetailRows	サマリーデータに詳細データを含めるかどうかを示します。  メモ: このプロパティは、Execute Sync および Execute Async リソースのレスポンスボディには以前からありました。
folderId	フォルダ ID。  メモ: レポートが[私の非公開カスタムレポート]フォルダにある場合、folderId = userId です。レポートが[未整理公開レポート]フォルダにある場合、folderId = orgId です。
sortBy	レポートを並び替える項目の API 名と並び替え順序 (asc または desc)。
scope	レポートの実行対象となるデータの範囲を定義します。たとえば、すべての商談、自分が所有する商談、所属するチームが所有する商談に対してレポートを実行できます。有効な値はレポートタイプに応じて異なります。
name	レポート名。  メモ: このプロパティは、Describe レスポンスボディ、Execute Sync リクエストボディ、および Execute Async レスポンスボディには以前からありました。
currency	マルチ通貨が有効になっている組織のレポートの通貨 (USD、EUR、または GBP など)。組織でマルチ通貨が有効になっていない場合、値は null になります。  メモ: このプロパティは、Execute Sync リクエストボディおよび Execute Async レスポンスボディには以前からありました。

これらのリソースについての詳細は、[『Salesforce1 レポート REST API 開発者ガイド』](#)を参照してください。

Data.com API

Data.com API を使用して、最新の Data.com レコードにアクセスできます。企業および取引先責任者レコードを検索、照合、および購入できます。

DatacloudCompany オブジェクトへの企業統計項目の新規追加

Data.com 企業レコードの項目を表します。このオブジェクトは、API バージョン 30.0 以降で使用できます。

DatacloudDandBCompany オブジェクトへの企業統計項目の新規追加

Data.com API コールから D&B 企業データを返すために使用される、一連の参照のみ項目を表します。

エディション

使用可能なエディション:

Developer Edition、
Professional Edition (アドオン)、**Enterprise** Edition、および **Unlimited** Edition

Tooling API

Tooling API は、Force.com アプリケーション用のカスタム開発ツールを作成可能な SOAP および REST インターフェースを提供します。

新機能

強く型付けされた WSDL

Tooling API で強く型付けされた WSDL を使用できるようになりました。

テストメソッドの JSON 配列の runTestsAsynchronous に対する POST

テストメソッドの JSON 配列を runTestsAsynchronous エンドポイントに対して POST できるようになりました。以前は、POST メソッドで runTestsAsynchronous エンドポイントが受け入れるのは、クラス ID のカンマ区切りリストのみでした。

形式:

```
POST
/runTestsAsynchronous/
  Body:
    {"tests":<tests array>}
```

<tests array> の例:

```
[{
  "classId" : "<classId 1>",
  "testMethods" : ["testMethod1","testMethod2","testMethod3"]
},{
  "classId" : "<classId 2>",
  "testMethods" : ["testMethod1","testMethod2"]
}];
```

新しいオブジェクト

EntityLimit

[設定] UI に表示されるオブジェクトに対する制限を表します。

EntityParticle

記述用コール (describe) で個別に提供可能なオブジェクトの個々の部分を表します。記述用コール (describe) の項目ごとに 1 項目が対応します。これに対し、FieldDefinition は、メタデータ API で定義されたデータ型の個々の部分を表します。

FieldDefinition

FieldDefinition は、メタデータ API で定義されたオブジェクトの項目を表します。FieldDefinition には、メタデータ API の項目ごとに 1 つの項目があります。これに対し、EntityParticle は、記述用コール (describe) で個々に提供されるオブジェクトの部分を表します。

Flow

フローに関連付けられたメタデータを表します。

FlowDefinition

特定のフローのすべてのバージョンの親。

LookupFilter

Tooling API ではこれまで使用できませんでした。

Publisher

オブジェクトの公開者 (Salesforce、管理パッケージ、またはユーザ) を示します。

RelationshipDomain

オブジェクトと他のオブジェクトとのリレーションを表します。

UserEntityAccess

オブジェクトへの実行ユーザのアクセス権を表します。

SearchLayout

検索レイアウトを表します。

UserEntityAccess

オブジェクトへの実行ユーザのアクセス権を表します。

WebLink

Tooling API ではこれまで使用できませんでした。

新しい項目と変更された項目

記載がない限り、すべて新規項目です。

CustomTab

- **ContentId** — カスタムタブが参照する項目の ID。Lightning コンポーネントの場合、この項目の値は、コンポーネントバンドルの ID です。カスタムオブジェクトタブの場合、この項目の値は `null` です。
- **EncodingKey** — タブでコールされる URL に割り当てられたエンコードタイプ。
- **MotifName** — カスタムタブに割り当てられているタブスタイルの名前。

EntityDefinition

データおよびメタデータオブジェクトに関して 30 を超える新規項目が追加され、Tooling API WSDL で使用できるようになりました。

SymbolTable

- 以前は、`STATIC` および `TEST` 修飾子のみが記号テーブルでレポートされていました。すべての API バージョンで、`modifiers` 項目に次のような値を使用できるようになりました。

- abstract
 - final
 - global
 - override
 - private
 - protected
 - public
 - static
 - testMethod (キャメルケースの大文字表記になりました)
 - transient
 - virtual
 - webService (キャメルケースの大文字表記になりました)
 - with sharing
 - without sharing
- 修飾子に、クラスやメソッドで明示的に指定された値よりも多くの値を追加できるようになりました。暗黙的なものも含め、すべての関連する修飾子が返されるようになりました。たとえば、すべての `webservice` メソッドには暗黙的な `global` 修飾子があります。また、項目とメソッドは別途指定されない限り非公開であるため、`private` 修飾子はデフォルトで返されます。
 - `testMethod` 修飾子または `IsTest` アノテーションが使用されると、`testMethod` 修飾子が返されるようになりました。
 - `annotations` 項目が、`constructors`、`externalReferences`、`methods`、`properties`、`tableDeclaration`、および `variables` 項目で使えるようになりました。次のアノテーションを使用できます。
 - `Deprecated`
 - `Future`
 - `HttpDelete`
 - `HttpGet`
 - `HttpPatch`
 - `HttpPost`
 - `HttpPut`
 - `InvocableMethod`
 - `InvocableVariable`
 - `IsTest`
 - `ReadOnly`
 - `RemoteAction`
 - `TestSetup`
 - `TestVisible`
 - `RestResource`
 - 新しい `parentClass` 項目は、内部クラスと拡張クラスの親を返します。

- 内部クラスおよびインターフェースの `interfaces` 項目への値の入力が正確になりました。これまで、内部クラスおよびインターフェースの実装済みインターフェースが不正確にレポートされることがありました。
- 使用可能な修飾子に可能な表示の組み合わせがすべて含まれるようになったため、誤って `PROTECTED` と `PRIVATE` を組み合わせていた `visibility` 項目は使用できなくなりました。

User

以前のリリースでは、`User` のカスタム項目が意図せずに公開されていました。この動作が修正されたため、Tooling API ではカスタム項目を取得できません。

`FullName` および `Metadata` 項目

新しいヘッダー

AllOrNoneHeader

コールで一部のレコードがエラーになった場合、すべてのレコードの変更をロールバックできるようにします。このヘッダーが `true` に設定されている場合、変更はすべてのレコードが正常に処理された場合にのみ保存されます。

`AllOrNoneHeader` ヘッダーは、レコードを作成、更新、または削除する Tooling API 要求で使用できます。

ドキュメントの変更

CompactLayoutItemInfo

`CompactLayoutItemInfo` に関する情報が利用可能になりました。

CompactLayoutInfo

`CompactLayoutInfo` に関する情報が利用可能になりました。

メタデータ

Tooling API で公開されるメタデータに関する詳細情報が利用可能になりました。

QueryResult

`QueryResult` に関する情報が利用可能になりました。

Scontrol

`Scontrol` に関する情報が利用可能になりました。

`FullName` および `Metadata` 項目

クエリ結果に含まれるレコードが1件以下の場合にのみこれらの項目をクエリします。それ以外の場合は、エラーが返されます。複数のレコードが存在する場合、複数のクエリを使用してレコードを取得します。この制限により、パフォーマンスが確保されます。

リソース

『[Force.com Tooling API Developer's Guide](#)』(Force.com Tooling API 開発者ガイド)には、すべての Tooling API に関する情報が含まれています。

SOAP API

SOAP API では、新しいデータ型が追加され、コールが変更されました。

新しいデータ型

重複管理

重複レコードの管理に、次の新しいデータ型を使用できます。レコードを作成または更新すると、SaveResult オブジェクトを取得できます。有効な重複ルールがあり重複が検出された場合、SaveResult にはデータ型が DuplicateError の Error オブジェクトが含まれています。重複レコードを管理するには、DuplicateError とその構成要素のデータ型を使用します。詳細およびコード例は、『[SOAP API 開発者ガイド](#)』を参照してください。

DuplicateRule

重複レコードを検出する重複ルールを表します。

DuplicateRuleHeader

重複ルールを使用して重複レコードを検出するためのオプションを決定します。重複ルールは重複管理機能の一部です。

DuplicateError

重複レコードを保存しようとして発生したエラーに関する情報が含まれます。組織に重複ルール(重複管理機能の一部)が設定されている場合に使用します。

DUPLICATES_DETECTED の新しい StatusCode は、データ型が DuplicateError のエラーに使用されます。

DuplicateResult

重複レコードを検出した重複ルールの詳細と、それらの重複レコードに関する情報を表します。

MatchResult

一致ルールの重複結果を表します。

MatchRecord

一致ルールで検出された重複レコードを表します。

AdditionalInformationMap

一致レコードに関するその他の情報を表します (ある場合)。

FieldDiff

一致ルール項目の名前と、重複およびその一致レコードについて項目値の比較結果を表します。

JunctionIdList 連結リレーション

JunctionIdList は新しいデータ型です。

JunctionIdList データ型

APIバージョン34.0以降、JunctionIdList データ型を使用して、エンティティの多対多リレーションを直接操作できます。基礎となる連結エンティティレコードを操作する必要はなくなりました。JunctionIdList 項目は、エンティティの他の項目と同様にクエリや更新ができます。JunctionIdList 項目へのクエリまたは更新は、基礎となる連結エンティティレコードへのクエリまたは更新として動作します。データ型 JunctionIdList の項目は、WSDL に ID 型の無制限の配列として表示されます。

変更されたコール

describeFlexiPages() および DescribeFlexiPageResult

次の項目が追加されました。

- `region` — この項目は、将来の使用のために予約されています。

`describeLayout()` と `DescribeLayoutResult`

次の項目が追加されました。

- `feedView` — フィードベースのレイアウトのフィードビュー関連レイアウトデータ。この項目は、フィードベースではないページレイアウトでは `null` になります。
- `DescribeLayoutFeedFilter` — フィードの絞り込みに使用可能な個々のフィード条件オプションを表します。
- `DescribeLayoutFeedView` — フィードベースのページレイアウトのフィードビューのレイアウトを表します。

`LayoutComponentType` に次の型が追加されました。

- `AnalyticsCloud` — ページレイアウト上の Analytics Cloud ダッシュボード。

`describeSObjects()` と `DescribeSObjectResult`

`Field` オブジェクトに次の項目が追加されました。

- `encrypted` — この項目がプラットフォームの暗号化を使用して暗号化されているかどうかを示します。この値は、後方互換性のために API バージョン 31.0 以降で使用できます。詳細は、「[プラットフォームの暗号化を使用したデータ保護要件への準拠 \(正式リリース\)](#)」を参照してください。

メタデータ API

組織のカスタムオブジェクト定義やページレイアウトなどのカスタマイズ情報を管理するには、メタデータ API を使用します。

このセクションの内容:

[メタデータ API コール](#)

バージョン 34.0 では、複数のメタデータ API コールが変更または追加されました。

[メタデータ型とメタデータ項目](#)

バージョン 34.0 では、複数のメタデータ型およびメタデータ項目が変更または追加されました。

メタデータ API コール

バージョン 34.0 では、複数のメタデータ API コールが変更または追加されました。

更新されたメタデータコール

次のメタデータ API コールが変更されました。

`createMetadata()`、`updateMetadata()`、`upsertMetadata()`、`deleteMetadata()`

メタデータコンポーネントのセットを作成および更新するデフォルトの動作が変更されました。API バージョン 33.0 以前では、`createMetadata()`、`updateMetadata()`、および `upsertMetadata()` コールでは、コール内のどのレコードにもエラーがない場合にのみ、すべてのレコードが保存されていました。API バージョン 34.0 以降、デフォルトの動作では、エラーがないレコードについて、一部のレコードを保存できます。`deleteMetadata()` コールでは、すべての API バージョンで一部のレコードを保存できます。

また、`createMetadata()`、`updateMetadata()`、`upsertMetadata()`、および `deleteMetadata()` で新しいヘッダー `AllOrNoneHeader` がサポートされるようになりました。このヘッダーにより、コールで一部のレコードがエラーになった場合、すべてのメタデータ変更をロールバックできるようになります。このヘッダーが `true` に設定されている場合、変更はすべてのレコードが正常に処理された場合にのみ保存されます。

`createMetadata()`、`readMetadata()`、`updateMetadata()`、`deleteMetadata()`

カスタムメタデータ型についてのみ、`metadata` 引数に制限 200 が設定されました。

`checkRetrieveStatus()`

`checkRetrieveStatus(ID id, boolean includeZip)` コールで、`Boolean` の第 2 パラメータを受け入れるようになりました。このパラメータは、zip ファイルを取得するかどうか示すために使用します。この省略可能なパラメータを使用すると、バックグラウンドサービスで zip ファイルを取得できます。デフォルトでは、`checkRetrieveStatus()` は、取得が完了すると (`RetrieveResult.isDone() == true`)、最後のコールで zip ファイルを返してサーバからファイルを削除します。削除後、後続の

`checkRetrieveStatus()` へのコールで同じ取得操作を行っても zip ファイルは取得できません。

`includeZip` パラメータを使用することで、取得操作の完了後に別のプロセスで zip ファイルを取得できます。`true` を `Boolean` パラメータに渡して zip ファイルを取得した後、zip ファイルはサーバから削除されます。たとえば、バックグラウンドファイル転送サービスは `checkRetrieveStatus(id, true)` をコールして zip ファイルを取得できます。このサービスは、ループで `checkRetrieveStatus(id, false)` をコールして取得状況をポーリングするもう 1 つのプロセスとは別個のものです。

`describeValueType()` (`ValueTypeField`)

`ValueTypeField` に、項目 `valueRequired` が新規追加されました。この項目は、記述された値の種別項目に値が必要か (`true`)、`null` にできるか (`false`) を示します。`ValueTypeField` は、その `describeValueType()` が返す結果である `DescribeValueTypeResult` 内に含まれます。

`deploy()`

新しいリリースオプション `testLevel` が追加されました。このオプションを使用すると、`deploy()` コールで実行するテストを指定できます。`TestLevel` 列挙値は次のとおりです。

- `NoTestRun` — テストは実行されません。このテストレベルは、`Sandbox`、`Developer Edition`、トライアル組織など、開発環境へのリリースにのみ適用されます。このテストレベルは、開発環境のデフォルトです。
- `RunSpecifiedTests` — `runTests` オプションで指定したテストのみが実行されます。このテストレベルを使用する場合、コードカバレッジ要件がデフォルトのカバレッジ要件とは異なります。リリースパッケージ内にある各クラスおよびトリガは、実行されたテストによって 75% 以上のコードカバレッジでカバーされる必要があります。このカバレッジ率は、クラスおよびトリガごとに個別に計算され、全体のカバレッジ率とは異なります。
- `RunLocalTests` — インストール済みの管理パッケージから発生したテストを除き、組織のすべてのテストが実行されます。このテストレベルは、デフォルトでは Apex クラスまたはトリガを含む、本番リリース用です。
- `RunAllTestsInOrg` — すべてのテストが実行されます。テストには、管理パッケージのテストを含む、組織内のすべてのテストが含まれます。

`DeployOptions` オブジェクトの `runAllTests` リリースオプションが削除され、`testLevel` に置き換われました。

メタデータ型とメタデータ項目

バージョン 34.0 では、複数のメタデータ型およびメタデータ項目が変更または追加されました。

新しいメタデータ型

カスタムメタデータ型 (CustomObject)

カスタムメタデータ型に関連付けられたメタデータを表します。

CustomMetadata

カスタムメタデータ型のレコードを表します。

FlowDefinition

フローのバージョン番号と説明を表します。activeVersionNumber 項目でフローを有効化および無効化できるようになりました。

PathAssistant

商談のセールスパスレコードを表します。

PathAssistantSettings

セールスパス設定を表します。

更新されたメタデータ型とメタデータ項目

API バージョン 34.0 では、次のメタデータ型の変更およびメタデータ項目の追加または変更がありました。

ActionLinkTemplate

次の項目が追加されました。

label

アクションリンクボタンに表示するカスタムの表示ラベル。どの LabelKey 値もアクションリンクには不適切な場合は、カスタムの表示ラベルを使用します。LabelKey 項目を None に設定し、Label 項目に表示ラベル名を入力します。

CustomApplication

次の項目が追加されました。

enableCustomizeMyTabs

Salesforce コンソールアプリケーションで、ユーザがナビゲーションタブの項目を非表示、表示、および整理できる、[タブのカスタマイズ] が有効かどうかを示します。

enablePinTabs

Salesforce コンソールアプリケーションで、ユーザが主タブをすぐにアクセスできるようにタブバーに固定できる、タブの固定が有効かどうかを示します。

CustomField

次の項目が更新されました。

type

ExternalLookup および IndirectLookup が、サポート対象の FieldType 列挙値に追加されました。

次の項目が新規追加されました。

encrypted

この項目が暗号化されているか (true)、否か (false) を示します。

-  **メモ:** この情報は、プラットフォームの暗号化には適用され、従来の暗号化には適用されません。詳細は、Salesforce オンラインヘルプを参照してください。

CustomObject

次の項目が追加されました。

`allowInChatterGroups`

このカスタムオブジェクト種別のレコードを Chatter グループに追加できるかどうかを示します。

`visibility`

この項目が存在する場合、このコンポーネントはカスタムオブジェクトではなくカスタム設定またはカスタムメタデータ型です。この項目はカスタム設定またはカスタムメタデータ型の表示設定を返します。

次の項目は削除されました。

`customSettingsVisibility`

`customSettingsVisibility` は `visibility` 項目に置き換えられました。

CustomSite

次の項目が追加されました。

`forgotPasswordPage`

ユーザがサイトのログインページで [パスワードを忘れた場合] リンクをクリックすると表示される Visualforce ページの名前。この項目は、Communities サイトにのみ適用されます。

ExternalDataSource

次の項目が更新されました。

`customConfiguration`

この JSON 符号化された設定文字列に、次のパラメータが新規追加されました。下記のリストでは、ユーザインターフェースの対応する項目も示します。

`SfdcOrg` 種別の外部データソースの場合は、次のようになります。

- `apiVersion` — API バージョン
- `environment` — 接続先

`OData` 種別の外部データソースの場合は、次のようになります。

- `compatibility` — 特殊な互換性
- `inlineCountEnabled` — 要求の行数
- `pagination` — サーバ駆動のページ設定

次の項目が更新されました。

`type`

`ExternalDataSourceType` には、新しい Lightning Connect アダプタの列挙値が追加されました。

- `SfdcOrg` — Salesforce アダプタ
- `ApexClassId` — Apex コネクタフレームワーク経由で作成されたカスタムアダプタを定義する `DataSource.Provider` クラス

FlexiPage

次の項目が追加されました。

platformActionList

Lightning ページの Salesforce1 アクションバーに表示されるアクションのリストとその順序。

FlexiPage に、PlatformActionList および PlatformActionListItem という子サブタイプが追加されました。

Flow

次の項目が更新されました。

dataType

FlowVariable サブタイプの dataType 項目に、次の値が新規追加されました。

- Picklist
- Multipicklist

これらの新しいデータ型ではデフォルト値がサポートされません。

operator

FlowAssignmentItem サブタイプの operator 項目に、次の値が新規追加されました。

- AddItem

この演算子は、assignToReference が複数選択リスト変数または sObject 変数の複数選択リスト項目を参照する場合にのみサポートされます。演算子は、新しく選択された項目をマークするために必要なセミコロンを自動的に追加します。

FlowAction サブタイプの次の項目が更新されました。

actionType

新しいアクション種別の列挙値 contentWorkspaceEnableFolders がサポートされるようになりました。このアクション種別によってライブラリ内のフォルダが有効になります。

ForecastingSettings

forecastingTypeSettings

次の項目が forecastingTypeSettings サブタイプに追加されました。

forecastedCategoryApiNames

この項目は、[累積売上予測積み上げ集計](#)または個々の売上予測分類積み上げ集計について、組織で使用される 4 つの売上予測積み上げ集計カテゴリを指定するために 4 回出現します。

[累積売上予測積み上げ集計](#)を使用する組織の有効値は次のとおりです。

- openpipeline
- bestcaseforecast
- commitforecast
- closedonly

個々の売上予測分類積み上げ集計を使用する組織の有効値は次のとおりです。

- pipelineonly
- bestcaseonly
- commitonly
- closedonly

ある 4 つの値のセットから他のセットに変更すると、[設定] の [累積売上予測積み上げ集計列を有効化] の組織設定が変更されます。この項目が省略されると、設定は変更されません。

`displayedCategoryApiNames`

この参照のみ項目は、[累積売上予測積み上げ集計](#)または個々の売上予測分類積み上げ集計について、[\[売上予測\]](#) タブに表示される4つの売上予測積み上げ集計カテゴリを指定するために4回出現します。`displayedCategoryApiNames` と `forecastedCategoryApiNames` の両方で、常に同じ4つの値を使用します。

[累積売上予測積み上げ集計](#)を使用する組織の有効値は次のとおりです。

- `openpipeline`
- `bestcaseforecast`
- `commitforecast`
- `closedonly`

個々の売上予測分類積み上げ集計を使用する組織の有効値は次のとおりです。

- `pipelineonly`
- `bestcaseonly`
- `commitonly`
- `closedonly`

`managerAdjustableCategoryApiNames`

この参照のみ項目は、[累積売上予測積み上げ集計](#)または個々の売り上げ予測分類積み上げ集計について、組織で売上予測マネージャが調整可能な2つの売上予測積み上げ集計のカテゴリを指定するために2回出現します。この項目は、`enableAdjustments` 項目の値が `true` の場合にのみ使用できます。`managerAdjustableCategoryApiNames` および `ownerAdjustableCategoryApiNames` の両方の項目が使用されている場合、同じ2つの値が含まれている必要があります。それらの値は、`enableAdjustments` および `enableOwnerAdjustments` 項目の値と一致する必要があります。

[累積売上予測積み上げ集計](#)を使用する組織の有効値は次のとおりです。

- `bestcaseforecast`
- `commitforecast`

個々の売上予測分類積み上げ集計を使用する組織の有効値は次のとおりです。

- `bestcaseonly`
- `commitonly`

`ownerAdjustableCategoryApiNames`

この参照のみ項目は、[累積売上予測積み上げ集計](#)または個々の売り上げ予測分類積み上げ集計について、組織で売上予測所有者が調整可能な2つの売上予測積み上げ集計のカテゴリを指定するために2回出現します。この項目は、`enableOwnerAdjustments` 項目の値が `true` の場合にのみ使用できます。`managerAdjustableCategoryApiNames` および `ownerAdjustableCategoryApiNames` の両方の項目が使用されている場合、同じ2つの値が含まれている必要があります。それらの値は、`enableAdjustments` および `enableOwnerAdjustments` 項目の値と一致する必要があります。

[累積売上予測積み上げ集計](#)を使用する組織の有効値は次のとおりです。

- `bestcaseforecast`
- `commitforecast`

個々の売上予測分類積み上げ集計を使用する組織の有効値は次のとおりです。

- `bestcaseonly`

- commitonly

enableOwnerAdjustments

この項目は、adjustmentsSettings 項目のサブ項目です。売上予測ユーザが各自の売上予測金額を調整できるようにするには、このサブ項目を true に設定します。

forecastingCategoryMappings

このサブタイプは、ForecastingSettings 種別内に8回出現します。各出現箇所には、売り上げ予測分類積み上げ集計の種別を指定する項目、各積み上げ集計に含まれる売り上げ予測分類、および積み上げ集計での各売り上げ予測分類の加重が含まれます。累積売上予測積み上げ集計または個々の売り上げ予測分類列を使用する組織は、このサブタイプの8つの出現箇所すべてを含める必要があります。各 forecastingCategoryMappings サブタイプには次の項目が含まれます。

forecastingItemCategoryApiName

この項目は、積み上げ集計種別の API 名を指定します。有効な値は、次のとおりです。

- openpipeline
- bestcaseforecast
- commitforecast
- pipelineonly
- bestcaseonly
- commitonly
- closedonly
- omittedonly

weightedSourceCategories

この項目は、複数の売上予測分類を積み上げ集計種別を含めるように指定した場合、複数回出現します。各出現箇所には、売上予測積み上げ集計種別を含める売上予測分類とその加重を指定する2つのサブ項目が含まれます。一部の積み上げ集計種別には、複数の売り上げ予測分類が含まれます。次の表は、各積み上げ集計種別に含まれる売り上げ予測分類を示します。

積み上げ集計種別	売り上げ予測分類
openpipeline	パイプライン、最善達成予測、達成予測
bestcaseforecast	最善達成予測、達成予測、完了
commitforecast	達成予測、完了
pipelineonly	パイプライン
bestcaseonly	最善達成予測
commitonly	達成予測
closedonly	完了
omittedonly	売上予測から除外

`sourceCategoryApiName`

この `weightedSourceCategories` のサブ項目では、積み上げ集計種別に含める売り上げ予測分類の API 名を指定します。有効な値は、次のとおりです。

- パイプライン
- 最善達成予測
- 達成予測
- 完了
- 売上予測から除外

`weight`

この `weightedSourceCategories` のサブ項目では、積み上げ集計種別の売上予測を計算するときに売り上げ予測分類に指定される加重を指定します。サポートされる値は 1.0 のみです。

Layout

次の項目が追加されました。

`platformActionList`

レイアウトの Salesforce1 アクションバーに表示されるアクションのリストとその順序。

レイアウトに、`PlatformActionList` および `PlatformActionListItem` という子サブタイプが追加されました。

`LayoutItem` サブタイプに次の項目が追加されました。

`analyticsCloudComponent`

標準またはカスタムオブジェクトページに追加できる Analytics Cloud ダッシュボードを参照します。

LiveChatAgentConfig

`LiveChatAgentConfig` オブジェクトに次の項目が追加されました。

`enableAutoAwayOnPushTimeOut`

エージェントに転送されたチャット要求がタイムアウトしたときに、エージェントが[退席中]として表示されるか (`true`)、否か (`false`) を示します。

`enableChatConferencing`

エージェントのチャット会議が有効か (`true`)、否か (`false`) を示します。

`enableVisitorBlocking`

エージェントが訪問者を IP アドレスでブロックできるか (`true`)、否か (`false`) を示します。

SecuritySettings

`IpRange` サブタイプに次の項目が追加されました。

`description`

信頼される IP 範囲の説明。この項目は、この範囲に対応する企業ネットワークなど、範囲を識別するために使用します。

`SessionSettings` サブタイプに次の項目が追加されました。

`enableClickjackNonsetupUserHeaderless`

標準ヘッダーが無効なカスタマー Visualforce ページでクリックジャック保護が有効化されるか (`true`)、否か (`false`) を示します。

`enforceIpRangesEveryRequest`

`true` の場合、クライアントアプリケーションからのアクセスを含め、ユーザが Salesforce にアクセスすると (ページ要求のたびに) ログイン IP 範囲の IP アドレスが適用されます。`false` の場合、ユーザがログ

インするときのみ、ログイン IP 範囲の IP アドレスが適用されます。この項目は、ログイン IP アドレスが制限されたすべてのユーザプロフィールに影響します。

logoutURL

Salesforce からユーザがログアウトした後のリダイレクト先 URL。

次の列挙値が、PasswordPolicies サブタイプの minPasswordLength 項目に追加されました。

FifteenCharacters

有効なパスワードには 15 文字以上が必要です。

XOrgHub と XOrgHubSharedObject

これらの種別は使用できなくなりました。「[組織間データ共有パイロットの使用終了](#)」(ページ 235)を参照してください。

Salesforce コンソール API (インテグレーションツールキット)

ツールキットでは、コンソールをプログラムでカスタマイズできるメソッドが新規追加および更新されました。

ツールキットについての詳細は、『[Salesforce コンソールインテグレーションツールキット開発者ガイド](#)』(英語版のみ)を参照してください。

次のメソッドが API バージョン 34.0 で新規追加または変更されました。

acceptAgentWork

エージェントに割り当てられたオムニチャネル作業項目を受け入れます。

closeAgentWork

作業項目の状況を「完了」に変更し、オムニチャネルウィジェットの作業項目リストから削除します。

declineAgentWork

エージェントに割り当てられたオムニチャネル作業項目を拒否します。

focusSidebarComponent()

ブラウザのサイドバーコンポーネントにフォーカスを移動します。このメソッドは、サイドバースタイルがタブまたはアコーディオンのコンポーネントにフォーカスを移動するために使用します。

getAgentWorks

現在エージェントに割り当てられ、エージェントのワークスペースで開いているオムニチャネル作業項目のリストを返します。

getServicePresenceStatusChannels

オムニチャネルユーザのプレゼンス状況に関連付けられたサービスチャネルを取得します。

getServicePresenceStatusId

オムニチャネルエージェントの現在のプレゼンス状況を取得します。

login

エージェントが特定のプレゼンス状況でオムニチャネルにログインします。

logout

エージェントがオムニチャネルからログアウトします。

エディション

使用可能なエディション:

Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition (Service
Cloud 付属)

使用可能なエディション:

Performance Edition および
Developer Edition (Sales
Cloud 付属)

有料オプションで使用可
能なエディション:

Enterprise Edition および
Unlimited Edition (Sales
Cloud の有料オプション)


```
setServicePresenceStatus
```

オムニチャネルエージェントのプレゼンス状況を特定の ID を持つ状況に設定します。

呼び出し可能アクション

呼び出し可能アクションとは、API を使用して Salesforce で実行できるアクションのことです。

すべての呼び出し可能アクションは一般的な要求オブジェクトを使用して呼び出されるため、さまざまな SOAP オブジェクトまたは REST JSON ボディ形状とのインターフェースは必要はありません。呼び出し可能アクションでは、「describe」がサポートされるため、各アクションの有効な入力パラメータとアクションの出力値をプログラムで調べることができます。

呼び出し可能アクションは REST API を介してのみ使用でき、次の特性があります。

- 動的な入力値および出力値
- プログラムによる describe のサポート
- 一貫性のある呼び出しインターフェース

次の標準アクションが、Summer '15 で新規追加されました。これらのアクションはそのまま呼び出すことが可能で、設定やインスタンスの作成は必要ありません。

- コンテンツライブラリのフォルダの有効化
- 総計値の更新

呼び出し可能アクションについての詳細は、『[REST API 開発者ガイド](#)』の「呼び出し可能アクション」を参照してください。

ISVforce

Summer '15 には、パッケージ化の機能拡張が含まれています。

このセクションの内容:

Professional Edition のメタデータ API アクセスの要求

ISV パートナーは、認定アプリケーションによる Professional Edition 組織へのメタデータ API アクセスを要求できます。メタデータ API アクセスが許可されると、アプリケーションが顧客の Professional Edition 組織にメタデータ API コールを実行できます。

未使用のコンポーネントの削除による管理パッケージの合理化

管理パッケージを更新するときに、権限セットおよびカスタム設定を削除できるようになりました。アプリケーションで使用されなくなったコンポーネントを削除することで、複雑性を軽減し、より合理化されたユーザ操作を顧客に提供できます。これらのコンポーネントの削除機能は、Summer'15 リリースで導入された同様の機能を基に作成されています。

エディション

使用可能なエディション:
Professional Edition、
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

組織の制限にカウントされるアプリケーション、タブ、オブジェクトの確認

組織に作成またはインストールできるカスタムアプリケーション、タブ、オブジェクトの数は、購入したエディションや製品セットによって異なります。インストール済みのパッケージで使用されている項目の数や、各項目の制限までの残りの数を簡単に追跡できるようになりました。

Professional Edition のメタデータ API アクセスの要求

ISV パートナーは、認定アプリケーションによる Professional Edition 組織へのメタデータ API アクセスを要求できます。メタデータ API アクセスが許可されると、アプリケーションが顧客の Professional Edition 組織にメタデータ API コールを実行できます。

Professional Edition 組織にメタデータ API アクセスする資格を得るには、アプリケーションが AppExchange セキュリティレビューに合格する必要があります。メタデータ API アクセスを要求する手順は、次のとおりです。

1. アプリケーションのセキュリティレビューを申請します。「[セキュリティレビューのステップ](#)」を参照してください。
2. アプリケーションが承認されたら、[AppExchange および機能要求] > [API トークン要求] の [パートナーコミュニティ](#) にケースを登録して、トークンの型に SOAP を指定します。

メタデータ API へのコールを実行するには、アプリケーションに API トークン (クライアント ID) を追加します。この API トークンを API コールの CallOptions SOAP ヘッダーに追加します。この特殊なキーにより、顧客に API アクセス権がなくても、アプリケーションが Professional Edition 組織にコールを実行できます。

エディション

使用可能なエディション:
Professional Edition および
Developer Edition

未使用のコンポーネントの削除による管理パッケージの合理化

管理パッケージを更新するときに、権限セットおよびカスタム設定を削除できるようになりました。アプリケーションで使用されなくなったコンポーネントを削除することで、複雑性を軽減し、より合理化されたユーザ操作を顧客に提供できます。これらのコンポーネントの削除機能は、Summer'15 リリースで導入された同様の機能を基に作成されています。

- 📌 **メモ:** この機能は使用資格のある Salesforce パートナーが使用できます。資格要件を含む、パートナープログラムの詳細は、www.salesforce.com/partners を参照してください。

複雑なパッケージでは、リリースを繰り返すうちにコンポーネントの数が膨大になることがあります。未使用の管理コンポーネントを削除することで、アプリケーションを整理された状態に保ちながら管理およびアップグレードできます。

🚨 重要:

- コンポーネントを削除すると、そのコンポーネントに存在するすべてのデータが完全に削除され、追跡された履歴データが削除されて、割り当てルールやエスカレーションルールなど、そのコンポーネントに依存するインテグレーションが変更されます。管理パッケージのコンポーネントを削除すると、復元することも、同じ API 名で別のコンポーネントを作成することもできなくなります。

エディション

使用可能なエディション:
Developer Edition

ただし、お客様が特定のアクションを実行しなければ、登録者組織のデータやメタデータが削除されることはありません。新しいパッケージバージョンにアップグレードする登録者は、削除したコンポーネントを引き続き組織で使用できます。該当するコンポーネントは、[パッケージの詳細] ページの [未使用のコンポーネント] セクションに表示されます。コンポーネントを維持すれば、登録者が、使用されていないコンポーネントを明示的に削除する前に、データをエクスポートしたり、これらのコンポーネントを伴うカスタムインテグレーションを変更したりすることができます。

- コンポーネントの削除によって予想される影響を顧客に指導することはシステム管理者の責任です。Salesforce では、アップグレードしたパッケージのリリースノートに、削除したすべてのカスタムコンポーネントをリストして、実行する必要があるアクションを顧客に通知することをお勧めします。

管理コンポーネントを削除する場合は、次の制限事項が適用されます。

- コンポーネントが、ワークフロールール、入力規則、Apex クラスなどの他のメタデータで参照されている場合は、そのコンポーネントを削除できません。

管理コンポーネントは、ユーザインターフェースで宣言して削除することも、メタデータ API を使用してプログラムで削除することも可能です。後者の場合は、destructiveChanges.xml マニフェストファイルに削除するコンポーネントを指定して、標準の `deploy()` コールを使用します。管理対象外のコンポーネントを削除する場合も処理は同じです。API についての詳細は、『[メタデータ API 開発者ガイド](#)』を参照してください。管理パッケージのコンポーネント削除についての詳細は、『[ISVforce ガイド](#)』を参照してください。

組織の制限にカウントされるアプリケーション、タブ、オブジェクトの確認

組織に作成またはインストールできるカスタムアプリケーション、タブ、オブジェクトの数は、購入したエディションや製品セットによって異なります。インストール済みのパッケージで使用されている項目の数や、各項目の制限までの残りの数を簡単に追跡できるようになりました。

すべての項目が制限にカウントされるわけではありません。AppExchange に掲載されているものの大半など、特定の管理パッケージのカスタムアプリケーション、タブ、オブジェクトは制限にカウントされません。これまでは、カウントの対象項目と対象外の項目を確認できませんでした。ユーザインターフェースにこの情報を明らかにする詳細が新たに追加されました。[設定] > [インストール済みパッケージ] のリストビューに、各パッケージに含まれるアプリケーション、タブ、オブジェクトの数が示されます (2)。パッケージの内容が組織の制限にカウントされる場合は、[制限] 列にチェックマークが表示されます (1)。

エディション

使用可能なエディション:
Group Edition、
Professional Edition、
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

Installed Packages						1	2	
Action	Package Name	Publisher	Version Number	Namespace Prefix	Install Date	Limits	Apps	Objects
Uninstall	Health Mgmt App	Health Apps Inc	1.0	HEALTH_APP	4/1/2015 2:09 PM	☒	0	2
Uninstall	Fitness Tracking App	Fitness App Publisher	1.0	FIT_APP	4/1/2015 2:00 PM	☐	2	2
Uninstall	Expense Manager	Expense App Publisher	1.1	EXP_MGR	4/1/2015 1:38 PM	☒	2	4

この情報は、各パッケージのパッケージ詳細ページでも確認できます。

Installed Package Detail

Uninstall

View Components

View Dependencies

Package Name	Health Mgmt App	Version Number	1.0
Language	English	First Installed Version Number	1.0
Version Name	1.0	Package Type	Managed
Namespace Prefix	HEALTH_APP	API Access	Unrestricted [Enable Restrictions]
Publisher	Health Apps Inc	Modified By	Admin User , 4/1/2015 2:09 PM
Description			
Installed By	Admin User , 4/1/2015 2:09 PM		

Count Towards Limits

☒

Tabs

1

Apps

0

Objects

2

Installed Package Detail

Uninstall

View Components

View Dependencies

Package Name	Fitness Tracking App	Version Number	1.0
Language	English	First Installed Version Number	1.0
Version Name	1.0	Package Type	Managed
Namespace Prefix	FIT_APP	API Access	Unrestricted [Enable Restrictions]
Publisher	Fitness App Publisher	Modified By	Admin User , 4/1/2015 2:00 PM
Description			
Installed By	Admin User , 4/1/2015 2:00 PM		

Count Towards Limits

☐

Tabs

1

Apps

2

Objects

2

カスタムメタデータ型を使用したアプリケーションの設定 (正式リリース)

カスタムメタデータ型を使用して設定を定義し、パッケージ化およびリリースできる再利用可能なアプリケーションのコンポーネントや機能を作成します。その後、自分と他のユーザが、カスタムメタデータ型の特性を備えたカスタムメタデータを作成できます。

プラットフォーム開発者は一般に、カスタム設定やカスタムオブジェクトを使用して設定を定義し、再利用可能なアプリケーションのコンポーネントや機能を作成します。ただし、これらのエンティティのレコードがメタデータではなくデータのため、これらの型を管理しやすい方法でパッケージ化、リリース、アップグレード、カスタマイズすることができません。カスタムメタデータ型を利用すると、メタデータの独自の型で定義され駆動するアプリケーションを構築できます。

カスタムメタデータ型を使用すると、次のことが可能になります。

- 記述するリリースツールが少なく済むため、開発期間が 25% 短縮される。
- 以前は何万行ものコードを要した作業を数種のカスタムメタデータ型だけで遂行できる。
- インストール済みのアプリケーションのアップグレードが 50% 高速化される。

カスタムメタデータ型の基本的な役割は次のとおりです。

- カスタムメタデータ型およびレコードを作成する。
- カスタムメタデータレコードの作成、編集、削除処理に対応するユーザインターフェースを作成する。
- 未管理パッケージ、管理パッケージ、または管理パッケージ拡張でカスタムメタデータ型およびレコードをパッケージ化する。

エディション

使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、
Developer Edition、および
Database.com Edition

- カスタムメタデータ型およびレコードを含むパッケージを、Professional Edition、Developer Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Database.com Edition 組織にリリースする。
- 変更セットを使用して、Sandbox からカスタムメタデータ型およびレコードをリリースする。
- カスタム設定で利用できる、通貨項目以外のすべての項目種別をカスタムメタデータ型で使用する。
- SOQL クエリを使用して、カスタムメタデータ型およびそのレコードからデータを取得する。他の Apex トランザクションとは異なり、カスタムメタデータ型およびレコードに無限の SOQL クエリを実行できます。

詳細情報

- developer.salesforce.com のこのブログ投稿をご一読ください。
 **メモ:** この投稿は英語のみです。
- 『*Custom Metadata Types Implementation Guide*』を参照してください。

重要な更新

このリリースに含まれている更新は、パフォーマンス、ロジック、Salesforce の使い勝手を向上するものですが、既存のカスタマイズが正しく機能しなくなる可能性もあります。

新しいリリースに円滑に移行できるように、それぞれの重要な更新には選択期間が用意されています。この選択期間は、[設定] の [重要な更新] ページに表示される自動有効化日付になると終了します。この期間中は、更新の有効化および無効化を必要に応じて手動で何度でも行って、組織への影響を評価し、更新によって影響を受けるカスタマイズを修正することができます。選択期間を過ぎると、更新は自動的に有効になります。詳細は、Salesforce ヘルプの「重要な更新の概要」を参照してください。

Visualforce ドメインからの静的リソースの提供

この重要な更新により、Salesforce からの静的リソース (画像、JavaScript、CSS ファイルなど) の提供方法が変わります。静的リソースへの参照が破損しないようにするには、推奨されるベストプラクティスを確認します。

PageReference getContent() および getContentAsPDF() メソッドがコールアウトとして動作

この重要な更新により、PageReference メソッド `getContent()` および `getContentAsPDF()` に対して行われたコールの処理方法が変わり、コール側ページのトランザクションのセマンティックが改善されます。

拡張目標の設定

Work.com 目標を使用するすべての組織は、8 月 21 日 (金) に拡張目標に自動的にアップグレードされます。リリースの新機能が使用可能になった時点ですぐにアップグレードすることも、組織で独自の目標のカスタマイズを移行するために時間を掛けることも選択できます。

その他の Salesforce 製品

Desk.com

Desk.com は、小規模ビジネスや成長中のチーム向けの、オールインワンカスタマーサポートアプリケーションです。

新機能についての詳細は、[Desk.com 製品更新ブログ](#)を参照してください。

Heroku

Heroku は、Web アプリケーションを作成およびリリースするための、クラウドベースのアプリケーションプラットフォームです。

新機能についての詳細は、[「Heroku Changelog」](#)を参照してください。

Salesforce Marketing Cloud

Salesforce Marketing Cloud は統合されたソーシャルマーケティングスイートであり、これを使用して、企業は顧客と対話して関係を構築し、コンテンツを公開して、広告を最大限に活用し、キャンペーンの成果を測定して、ソーシャルインサイトと顧客データを統合することができます。

新機能についての詳細は、[Salesforce Marketing Cloud Facebook ページ](#)を参照してください。